

# 盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅶ

—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡平成 19～21 年度発掘調査—

大宮北遺跡

小幡遺跡

宮沢遺跡

本宮熊堂B遺跡

台太郎遺跡

飯岡沢田遺跡

飯岡才川遺跡

細谷地遺跡

矢盛遺跡

夕覚遺跡

2015. 3

独立行政法人 都市再生機構  
盛岡市・盛岡市教育委員会

# 盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅶ

—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡平成 19～21 年度発掘調査—

大宮北遺跡

小幡遺跡

宮沢遺跡

本宮熊堂B遺跡

台太郎遺跡

飯岡沢田遺跡

飯岡才川遺跡

細谷地遺跡

矢盛遺跡

夕覚遺跡

2015. 3

独立行政法人 都市再生機構

盛岡市・盛岡市教育委員会



# 序

盛岡市は、東北地方の東部を南北に縦断する北上川と、その支流である雫石川・中津川が合流する地点に中心市街地が形成され、北に雄大な岩手山と姫神山を望む、岩手県の県庁所在地です。その都市骨格は、約400年前に戦国大名南部氏により築城された総石垣の盛岡城を中心とした城下町であり、藩政そして県政の中心として、また交通の要衝として栄えてきました。

近年の盛岡市は、平成4年4月に南に隣接する都南村と、平成18年1月に北に隣接する玉山村と合併し、人口約30万人、面積約886平方キロメートルという北東北の拠点都市となるとともに、平成20年4月には中核市へ移行しました。

この中心市街地の南西部、雫石川の南に広がる田園地帯に職住近接の新しい街地を形成しようというのが「盛南開発構想」で、全体計画の約7割にあたる313.5ヘクタールを整備するのが「盛岡南新都市開発整備事業」です。事業主体は独立行政法人都市再生機構（旧地域振興整備公団）で、平成3年12月に事業認可、土地区画整理事業の整備手法により平成7年11月より着工され、平成25年10月に事業が完了しました（愛称「ゆいとびあ盛南」）。

この事業に伴い、当該区域内に所在する埋蔵文化財包蔵地17遺跡、計約90ヘクタールのうち、整備工事によって消滅を余儀なくされる遺跡の発掘調査を、平成5年度から本市教育委員会と公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが行い、平成24年度に野外調査を完了したところであります。

本報告書は、本市教育委員会が平成19年度から21年度に実施した大宮北遺跡ほか計10遺跡の調査成果について報告するものです。市民の皆様をはじめ、各学校や教育機関・研究者等の方々に、当該地域の歴史を知るための資料としてご活用いただければ幸いと存じます。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり、多大なるご協力やご指導を賜りました都市再生機構岩手都市開発事務所ならびに岩手県教育委員会生涯学習文化課、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターに対し深く感謝申し述べると共に、発掘調査にご理解とご協力をいただきました地権者各位ならびに地元関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成27年3月

盛岡市教育委員会

教育長 千葉 仁一

# 例 言

1 本書は、岩手県盛岡市本宮・向中野・南仙北・飯岡新田に所在する盛南地区遺跡群において、「盛岡南新都市開発整備事業（通称：盛南開発）」及び関係事業に伴い平成19年度から21年度に実施した発掘調査の報告書である。なお、「盛南地区遺跡群」の名称については、事業区域内に所在する計17遺跡を包括する総称として使用し、本書ではそのうち大宮北遺跡・小幡遺跡・宮沢遺跡・本宮熊堂B遺跡・台太郎遺跡・飯岡沢田遺跡・飯岡才川遺跡・細谷地遺跡・矢盛遺跡・夕覚遺跡の調査成果を報告する。

2 本書の編集及び刊行事務は盛岡市遺跡の学び館が行い、編集・執筆作業を津嶋知弘が担当した。

3 遺構平面位置は、日本測地系 平面直角座標X系を座標変換した調査座標で表示した。

・調査座標軸は、日本測地系第X系に準じる

・調査座標原点

大宮北・小幡・宮沢・本宮熊堂B遺跡	X -35,000 Y +25,000	→ RX ±0 RY ±0
台太郎遺跡	X -35,500 Y +26,500	→ RX ±0 RY ±0
飯岡沢田遺跡	X -35,550 Y +25,750	→ RX ±0 RY ±0
飯岡才川・細谷地・夕覚遺跡	X -35,000 Y +26,000	→ RX ±0 RY ±0
矢盛遺跡	X -36,050 Y +26,000	→ RX ±0 RY ±0

4 高さは、標高値をそのまま使用した。

5 土層断面図は堆積のしかたを重視し、線の太さを使い分けた。層相の観察にあたっては「新版標準土色帖」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）を使用した。

層名の記号は次のとおりとした。

記号	
遺構堆積土	A～I層
竪穴建物カマド崩壊土	J層
竪穴建物カマド構築土	K層
床構築土	L層
地形形成堆積土（遺物包含層含む）	I（ローマ数字）～層

6 遺構記号は次のとおりとした。

記号			
竪穴建物跡	RA	溝跡・堀跡	RG
掘立柱建物跡	RB	配石・集石遺構	RH
掘立柱列跡	RC	井戸跡	RI
土坑	RD	土器埋設	RP
竪穴状遺構	RE	古墳・円形周溝ほか	RX
焼土遺構	RF	土坑墓ほか	RZ

7 「竪穴建物跡」は、従来「竪穴住居跡」と呼称されてきたものであるが、文化庁文化財部記念物課監修「発掘調査のてびき」（2010）での定義に従い、本書より名称変更する。

8 遺構番号は、県埋文センター調査遺構番号との整合を図りつつ、資料整理の便宜上から以下のとおりとした。

本調査精査遺構：3桁または4桁の遺跡内連続番号（基本的に県埋文センター調査遺構番号に連続）

9 遺構平面図の線種は次のとおりとした。

検出	実線 
推定	破線 
時期差	一点鎖点 

10 古代の竪穴建物跡のカマド方向は、カマド本体中心（炊き口）から煙道先端（煙出し）を結んだ線の方向の傾きとした。

11 古代の土器区分は、土師器・須恵器・あかやき土器に分類した。「あかやき土器」の名称は、ロクロ使用の酸化燻焼成土器（坏類、甕類、鉢、壺等）に使用し、ロクロ使用の内面黒色処理の坏類・鉢は土師器に分類した。

12 古代の土器の実測図作成については、坏類は口縁部残存1/4以上かつ底部まで残存するもの、甕類は口縁部残存1/4以上かつ体部まで残存するものを基本とし、必要に応じて破片実測も行った。また拓本は、須恵器甕類のタタキ目等器面調整が確認できるものとした。

13 出土遺物の実測図化・トレースは、(株)タックエンジニアリングに委託した。また、出土炭化材の放射性炭素年代測定は、(株)加速器分析研究所に委託し、その結果報告を附章に掲載した。

14 出土遺物の写真撮影は、津嶋知弘が行った。

15 発掘調査に伴う出土遺物及び諸記録は、盛岡市道跡の学び館で保管している。

16 当該調査の一部については、現地説明会資料等により報告しているものもあるが、本書の記載内容をもって訂正する。

「盛岡南新都市開発整備事業」及び関係事業に係る発掘調査報告書（平成25年度末現在）

〈公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（本報告）〉

- 1995年3月「本宮熊堂B遺跡第1次発掘調査報告書—盛岡開発事業関連遺跡発掘調査—」第226集
- 1996年3月「小幡遺跡第2次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業—」第244集
- 1996年3月「岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成7年度）」第246集〔小幡遺跡6次〕
- 1996年11月「小幡遺跡第4次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—」第265集
- 1997年3月「岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成8年度）」第266集〔宮沢遺跡4次、本宮熊堂A遺跡7次〕
- 1998年3月「小幡遺跡第5次・第7次発掘調査報告書—盛岡西バイパス建設事業関連遺跡発掘調査—」第267集
- 1998年3月「大宮北遺跡・本宮熊堂A遺跡発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—」第281集  
〔大宮北遺跡4次、本宮熊堂A遺跡6次〕
- 1998年3月「岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成9年度）」第282集〔稲荷遺跡3次、野古A遺跡9次・10次〕
- 1999年3月「熊堂B遺跡第5次・台太郎遺跡第16次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—」  
第293集
- 1999年1月「本宮熊堂B遺跡第4次・鬼柳A遺跡第4次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—」  
第308集
- 1999年3月「台太郎遺跡第15次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—」第309集
- 1999年3月「岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成10年度）」第311集〔飯岡才川遺跡2次〕
- 2000年1月「向中野館遺跡第3次・小幡遺跡第10次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—」  
第338集
- 2000年3月「向中野館遺跡第4次・小幡遺跡第11次・台太郎遺跡第19次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業  
関連遺跡発掘調査—」第321集
- 2000年3月「岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成11年度）」第340集〔小幡遺跡13次・14次〕
- 2001年3月「台太郎遺跡第22次発掘調査報告書—盛岡東警察署警察官待機宿舎建設事業関連遺跡発掘調査—」第365集
- 2001年3月「台太郎遺跡第18次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—」第369集
- 2002年11月「台太郎遺跡第26次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—」第416集
- 2002年3月「岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成12年度）」第370集〔鬼柳A遺跡7次、本宮熊堂B遺跡9次・11次、  
小幡遺跡15次・16次、飯岡才川遺跡4次〕
- 2002年2月「熊堂B遺跡第10次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—」第377集
- 2002年3月「飯岡才川遺跡第3次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—」第393集
- 2002年3月「岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成13年度）」第397集〔台太郎遺跡36次、細谷地遺跡6次〕
- 2003年3月「台太郎遺跡第23次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—」第415集
- 2003年3月「台太郎遺跡第35次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—」第417集
- 2003年3月「台太郎遺跡第44次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—」第422集
- 2003年3月「細谷地遺跡発掘調査報告書—第4・5次調査—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査」第414集
- 2003年3月「飯岡沢田遺跡第3次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—」第418集
- 2003年3月「飯岡沢田遺跡第5次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—」第419集
- 2003年3月「野古A遺跡第12次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—」第420集
- 2003年3月「野古A遺跡第15次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—」第421集
- 2003年3月「岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成14年度）」第423集〔矢盛遺跡4次、稲荷遺跡5次〕

- 2004年2月「矢盛道跡第3次・熊堂B道跡発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連道跡発掘調査—」第451集
- 2004年3月「本宮熊堂A道跡第17次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連道跡発掘調査—」第453集
- 2004年3月「細谷地遺跡第8次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連道跡発掘調査—」第454集
- 2004年3月「岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成15年度）」第455集〔稲荷道跡6次、本宮熊堂B道跡19次、台太郎50次・52次、野古A道跡19次・20次、飯岡才川道跡5次・6次、細谷地遺跡7次〕
- 2004年12月「本宮熊堂B道跡第13・15・20次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連道跡発掘調査—」第467集
- 2005年2月「本宮熊堂B道跡第18次発掘調査報告書—国道46号盛岡西バイパス建設事業関連道跡発掘調査—」第458集
- 2005年2月「台太郎道跡第51次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連道跡発掘調査—」第468集
- 2005年3月「岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成16年度）」第469集〔稲荷道跡8・9次、台太郎道跡53次、矢盛道跡5次〕
- 2005年12月「矢盛道跡第6次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連道跡発掘調査—」第488集
- 2006年2月「飯岡沢田道跡第9・10次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連道跡発掘調査—」第489集
- 2006年2月「本宮熊堂A道跡第24次・本宮熊堂B道跡第25次発掘調査報告書—一般国道46号盛岡西バイパス建設事業関連道跡発掘調査—」第470集
- 2006年3月「台太郎道跡第54次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連道跡発掘調査—」第486集
- 2006年3月「本宮熊堂B道跡第27次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連道跡発掘調査—」第487集
- 2006年3月「平成17年度発掘調査報告書」第490集〔宮沢道跡11次、本宮熊堂B道跡30次・31次〕
- 2007年2月「飯岡才川道跡第8・9次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連道跡発掘調査—」第494集
- 2007年3月「細谷地遺跡第9次・第10次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連道跡発掘調査—」第500集
- 2007年2月「野古A道跡第23・24・29次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連道跡発掘調査—」第501集
- 2007年3月「本宮熊堂A道跡第26・29次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連道跡発掘調査—」第502集
- 2007年3月「向中野館道跡第5・6次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連道跡発掘調査—」第503集
- 2007年2月「向中野館道跡第7・8次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連道跡発掘調査—」第504集
- 2008年1月「飯岡才川道跡第12次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連道跡発掘調査—」第515集
- 2008年1月「矢盛道跡第10・11次・向中野館道跡第9次、台太郎道跡第58次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連道跡発掘調査—」第516集
- 2008年2月「飯岡才川道跡第7・13次・細谷地遺跡第12次、矢盛道跡第9次発掘調査報告書—一般国道46号盛岡西バイパス建設事業関連道跡発掘調査—」第508集
- 2008年2月「細谷地遺跡第13次・第14次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連道跡発掘調査—」第513集
- 2008年2月「細谷地遺跡第15次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連道跡発掘調査—」第514集
- 2008年3月「平成19年度発掘調査報告書」第524集〔細谷地遺跡18次、矢盛道跡14次〕
- 2009年2月「矢盛道跡第12・13次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連道跡発掘調査—」第534集
- 2009年2月「細谷地遺跡第16・17次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連道跡発掘調査—」第535集
- 2009年3月「平成20年度発掘調査報告書」第546集〔飯岡才川道跡15次、矢盛道跡20次、焼野道跡1・2次〕
- 2009年12月「矢盛道跡第18・19次発掘調査報告書—盛岡南新都市土地区画整理事業関連道跡発掘調査—」第555集
- 2010年2月「細谷地遺跡第19・20次発掘調査報告書—盛岡南新都市土地区画整理事業関連道跡発掘調査—」第556集
- 2010年3月「向中野館道跡第10・11次発掘調査報告書—盛岡南新都市土地区画整理事業関連道跡発掘調査—」第557集
- 2010年3月「平成21年度発掘調査報告書」第571集〔矢盛道跡25・26次〕
- 2011年3月「細谷地遺跡第24・25次、向中野館道跡第12・13次発掘調査報告書—盛岡南新都市土地区画整理事業関連道跡発掘調査—」第577集



- 2011年2月「矢盛道跡第23・24次発掘調査報告書—盛岡南新都市土地区画整理事業関連道跡発掘調査—」第578集
- 2011年3月「台太郎道跡第66次発掘調査報告書—盛岡南新都市土地区画整理事業関連道跡発掘調査—」第579集
- 2011年2月「飯岡才川道跡第16次発掘調査報告書—盛岡南新都市土地区画整理事業関連道跡発掘調査—」第580集
- 2012年3月「矢盛道跡第27次・野古A道跡第30次発掘調査報告書—盛岡南新都市土地区画整理事業関連道跡発掘調査—」第594集
- 2012年3月「細谷地道跡第26次発掘調査報告書—盛岡南新都市土地区画整理事業関連道跡発掘調査—」第595集
- 2012年3月「平成23年度発掘調査報告書」第603集〔矢盛道跡29次〕
- 2013年3月「飯岡才川道跡第17～19次発掘調査報告書—盛岡南新都市土地区画整理事業関連道跡発掘調査—」第618集

### 〔盛岡市教育委員会〕

- 1998年3月「盛岡市埋蔵文化財調査年報—平成5・6年度—」〔南仙北道跡12・13・14次〕
- 2002年3月「盛岡市内道跡群—平成13年度発掘調査報告—」〔台太郎道跡40・41次〕
- 2005年3月「盛岡市内道跡群—平成15年度・16年度発掘調査報告—」〔台太郎道跡55次〕
- 2007年3月「盛南地区道跡群発掘調査報告書Ⅰ—盛岡南新都市開発整備事業平成5～12年度発掘調査①—大宮北道跡・小幡道跡・宮沢道跡・鬼柳A道跡—」〔大宮北道跡8・9次、小幡道跡8・12・17次、宮沢道跡5次、鬼柳A道跡5次〕
- 2008年3月「盛岡市内道跡群—平成18・19年度発掘調査報告—」〔大宮北道跡11・13次〕
- 2009年3月「盛南地区道跡群発掘調査報告書Ⅱ—盛岡南新都市開発整備事業平成5～12年度発掘調査②—稲荷道跡・本宮熊堂A道跡・本宮熊堂B道跡・野古A道跡・飯岡沢田道跡・飯岡才川道跡・向中野館道跡・細谷地道跡・矢盛道跡・南仙北道跡—」〔稲荷道跡1・1次補足、本宮熊堂A道跡2・2次補足、本宮熊堂B道跡3・3次補足・8・11次、飯岡沢田道跡1・2次、飯岡才川道跡1次、向中野館道跡1・2次、細谷地道跡2次、矢盛道跡2次、南仙北道跡15～17・22～24・27・28・30～32・35次〕
- 2010年11月「盛南地区道跡群発掘調査報告書Ⅲ—盛岡南新都市開発整備事業平成5～12年度発掘調査③—台太郎道跡—」〔台太郎道跡9～14・17・20・21・24・25・27～34次〕
- 2012年5月「台太郎道跡—「フローラルアベニュー向中野」宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書—」〔台太郎道跡73次〕
- 2012年9月「盛南地区道跡群発掘調査報告書Ⅳ—盛岡南新都市開発整備事業平成13～18年度発掘調査④—台太郎道跡—」〔台太郎道跡37～39・42・43・45～49・56・57次〕
- 2014年1月「盛南地区道跡群発掘調査報告書Ⅴ—盛岡南新都市開発整備事業平成13～18年度発掘調査⑤—大宮北道跡・小幡道跡・宮沢道跡・鬼柳A道跡・稲荷道跡・本宮熊堂A道跡・本宮熊堂B道跡・野古A道跡—」〔大宮北道跡10次、小幡道跡18・21・22次、宮沢道跡6～10・12次、鬼柳A道跡8次、稲荷道跡4・7・10～12次、本宮熊堂A道跡16・22次、本宮熊堂B道跡21・23・28次、野古A道跡13・14・16～18・21・22・25～28次〕
- 2014年3月「盛南地区道跡群発掘調査報告書Ⅵ—盛岡南新都市開発整備事業平成13～18年度発掘調査⑥—飯岡沢田道跡・飯岡才川道跡・細谷地道跡・矢盛道跡・南仙北道跡—」〔飯岡沢田道跡4・6～8・11次、飯岡才川道跡10・11次、細谷地道跡11次、矢盛道跡7・8次、南仙北道跡37～39次〕
- 2014年3月「台太郎道跡—株式会社クリナップ盛岡営業所建設工事に伴う緊急発掘調査報告書—」〔台太郎道跡77次〕

# 目次

第1章 経過	
第1節 調査の経過	1
第2節 発掘調査作業の経過	2
第3節 資料整理作業の経過	2
第4節 体制	3
第2章 遺跡群の位置と環境	
第1節 地理的環境	8
第2節 歴史的環境	9
第3章 調査成果	
第1節 大宮北遺跡 (第11～14・16調査)	13
第2節 小幡遺跡 (第23次調査)	15
第3節 宮沢遺跡 (第13次調査)	15
第4節 本宮熊堂B遺跡 (第32・33次調査)	16
第5節 台太郎遺跡 (第59～65・67～70次調査)	17
第6節 飯岡沢田遺跡 (第12次調査)	39
第7節 飯岡才川遺跡 (第14次調査)	40
第8節 細谷地遺跡 (第21～23次調査)	43
第9節 矢盛遺跡 (第15～17・21・22次調査)	46
第10節 夕覚遺跡 (第1・2・4・6次調査)	53
第4章 総括	
1 調査のまとめ	55

表

遺構図版

遺物図版

写真図版

## 附章

台太郎遺跡第 63 次調査における放射性炭素年代 (AMS 測定).....	299
台太郎遺跡第 70 次調査における放射性炭素年代 (AMS 測定).....	303
飯岡才川遺跡第 14 次調査における放射性炭素年代 (AMS 測定).....	307
台太郎遺跡第 63 次調査出土炭化材の放射性炭素年代 (AMS 測定) と ウィグルマッチングによる暦年代推定.....	311
台太郎遺跡第 70 次調査出土炭化材の放射性炭素年代 (AMS 測定) と ウィグルマッチングによる暦年代推定.....	317
飯岡才川遺跡第 14 次調査出土炭化材の放射性炭素年代 (AMS 測定) と ウィグルマッチングによる暦年代推定.....	325

## 報告書抄録

# 表 目 次

挿表1 盛南地区道跡群調査一覧表〔平成19～21年度〕(1)	第24表 台太郎道跡第63次調査遺構土層観察表(2)……75
……………6	第25表 台太郎道跡第67次調査遺構土層観察表……76
挿表2 盛南地区道跡群調査一覧表〔平成19～21年度〕(2)	第26表 台太郎道跡第68次調査遺構土層観察表(1)……77
……………7	第27表 台太郎道跡第68次調査遺構土層観察表(2)……78
挿表3 盛南地区道跡群所在地住居表示整備一覧表……10	第28表 台太郎道跡第68次調査遺構土層観察表(3)……79
挿表4 古代堅穴建物跡一覧表……54	第29表 台太郎道跡第68次調査遺構土層観察表(4)……80
第1表 台太郎道跡第59次調査掘立柱建物跡・	第30表 台太郎道跡第70次調査遺構土層観察表(1)……81
柱列跡掘方規模等一覧表……63	第31表 台太郎道跡第70次調査遺構土層観察表(2)……82
第2表 台太郎道跡第63次調査堅穴建物跡主柱穴・	第32表 飯岡沢田道跡第12次調査遺構土層観察表……83
掘立柱列跡掘方規模等一覧表……64	第33表 細谷地道跡第21次調査遺構土層観察表……83
第3表 台太郎道跡第67次調査堅穴建物跡主柱穴	第34表 細谷地道跡第22次調査遺構土層観察表……83
規模等一覧表……64	第35表 細谷地道跡第23次調査遺構土層観察表……83
第4表 台太郎道跡第68次調査堅穴建物跡主柱穴	第36表 飯岡才川道跡第14次調査遺構土層観察表(1) 84
規模等一覧表……64	第37表 飯岡才川道跡第14次調査遺構土層観察表(2) 85
第5表 飯岡才川道跡第14次調査堅穴建物跡主柱穴	第38表 矢盛道跡第15次調査遺構土層観察表(1)……86
規模等一覧表……64	第39表 矢盛道跡第15次調査遺構土層観察表(2)……87
第6表 矢盛道跡第15次調査掘立柱建物跡・	第40表 矢盛道跡第15次調査遺構土層観察表(3)……88
柱列跡掘方規模等一覧表(1)……65	第41表 矢盛道跡第17次調査遺構土層観察表……88
第7表 矢盛道跡第15次調査掘立柱建物跡・	第42表 矢盛道跡第22次調査遺構土層観察表……88
柱列跡掘方規模等一覧表(2)……66	第43表 大宮北道跡第11・13次調査出土土器観察表……89
第8表 台太郎道跡第59次調査ピット計測表……67	第44表 大宮北道跡第16次調査出土土器観察表……89
第9表 台太郎道跡第60次調査ピット計測表……67	第45表 台太郎道跡第59・63次調査出土土器・
第10表 台太郎道跡第61次調査ピット計測表……68	中世陶器観察表……90
第11表 台太郎道跡第62次調査ピット計測表……68	第46表 台太郎道跡第59・63次調査出土
第12表 台太郎道跡第63次調査ピット計測表……68	土製品・石製品観察表……90
第13表 台太郎道跡第68次調査ピット計測表……69	第47表 台太郎道跡第67次調査出土土器観察表……90
第14表 台太郎道跡第67次調査ピット計測表……70	第48表 台太郎道跡第68次調査出土土器観察表(1)……91
第15表 飯岡沢田道跡第12次調査ピット計測表……70	第49表 台太郎道跡第68次調査出土土器観察表(2)……92
第16表 矢盛道跡第15次調査ピット計測表……70	第50表 台太郎道跡第68次調査出土土製品観察表……92
第17表 矢盛道跡第17次調査ピット計測表……70	第51表 台太郎道跡第70次調査出土土器観察表(1)……92
第18表 矢盛道跡第21次調査ピット計測表……70	第52表 台太郎道跡第70次調査出土土器観察表(2)……93
第19表 本宮熊堂B道跡第32・33次調査	第53表 飯岡才川道跡第14次調査出土土器観察表……93
遺構土層観察表……71	第54表 台太郎道跡第59・67次調査出土
第20表 台太郎道跡第59次調査遺構土層観察表……71	弥生土器観察表……94
第21表 台太郎道跡第60次調査遺構土層観察表……72	第55表 台太郎道跡第59・62・63次調査出土
第22表 台太郎道跡第61次調査遺構土層観察表……73	古銭観察表……95
第23表 台太郎道跡第63次調査遺構土層観察表(1)……74	

# 目 次

挿図1 盛南地区遺跡群位置図……………	11	第26図 台太郎遺跡第62次調査区全体図……………	148
挿図2 遺跡位置図……………	12	第27図 台太郎遺跡第62次調査 RD2037 土坑、 ピット……………	149
第1図 大宮北遺跡全体図……………	99	第28図 台太郎遺跡第64次調査区全体図、RD2042 土坑……………	150
第2図 小幡遺跡・宮沢遺跡全体図……………	103	第29図 台太郎遺跡第67次調査区全体図……………	151
第3図 本宮熊堂B遺跡全体図……………	107	第30図 台太郎遺跡第67次調査 RA637 竪穴建物跡、 RD2125 土坑……………	152
第4図 台太郎遺跡全体図……………	111	第31図 台太郎遺跡第67次調査 RA638 竪穴建物跡…	153
第5図 飯岡沢田遺跡・飯岡才川遺跡全体図……………	115	第32図 台太郎遺跡第67次調査 RD2126 土坑、 RG596 溝跡、ピット……………	154
第6図 細谷地遺跡全体図……………	119	第33図 台太郎遺跡第63・68次調査区全体図……………	155
第7図 矢盛遺跡全体図……………	123	第34図 台太郎遺跡第63次調査西西部全体図……………	156
第8図 夕鏡遺跡全体図……………	127	第35図 台太郎遺跡第63次調査南東部全体図、 RD2039～2041 土坑……………	157
第9図 大宮北遺跡第11・13次調査区全体図、 RG015 溝跡……………	131	第36図 台太郎遺跡第63次調査 RA630 竪穴建物跡(1) ……………	158
第10図 本宮熊堂B遺跡第32・33次調査区全体図…	132	第37図 台太郎遺跡第63次調査 RA630 竪穴建物跡(2) ……………	159
第11図 本宮熊堂B遺跡第32次調査 RG145 溝跡、 第33次調査 RG146 溝跡……………	133	第38図 台太郎遺跡第63次調査 RA630 竪穴建物跡(3) ……………	160
第12図 台太郎遺跡第59次調査区全体図……………	134	第39図 台太郎遺跡第63次調査 RA631 竪穴建物跡…	161
第13図 台太郎遺跡第59次調査 RA308 竪穴建物跡…	135	第40図 台太郎遺跡第63次調査 RE074 竪穴状遺構、 RD2038 土坑、RC008 掘立柱列跡……………	162
第14図 台太郎遺跡第59次調査 RA629 竪穴建物跡…	136	第41図 台太郎遺跡第63次調査 RG264 溝跡……………	163
第15図 台太郎遺跡第59次調査 RB066・067 掘立 柱建物跡、RC008 掘立柱列跡……………	137	第42図 台太郎遺跡第63次調査 RG264 溝跡、ピット…	164
第16図 台太郎遺跡第59次調査 RD2027・2028 土坑…	138	第43図 台太郎遺跡第63次調査 RG195・551～553 溝跡、ピット……………	165
第17図 台太郎遺跡第59次調査 RG539～548 溝跡、ピット……………	139	第44図 台太郎遺跡第68次調査区全体図……………	166
第18図 台太郎遺跡第59次調査 RC009～011 掘立柱列跡、RG549 溝跡、ピット…	140	第45図 台太郎遺跡第68次調査 RA568 竪穴建物跡…	167
第19図 台太郎遺跡第59次調査 RG550 溝跡、 RG539～549 溝跡……………	141	第46図 台太郎遺跡第68次調査 RA573・577 竪穴建物跡……………	168
第20図 台太郎遺跡第59次調査 RC008～011 掘立柱列跡、ピット……………	142	第47図 台太郎遺跡第68次調査 RA574 竪穴建物跡…	169
第21図 台太郎遺跡第60次調査区全体図……………	143	第48図 台太郎遺跡第68次調査 RA639 竪穴建物跡…	170
第22図 台太郎遺跡第60次調査 RD2029～2032 土坑、ピット……………	144	第49図 台太郎遺跡第68次調査 RA640 竪穴建物跡…	171
第23図 台太郎遺跡第61次調査区全体図……………	145	第50図 台太郎遺跡第68次調査 RA641 竪穴建物跡、 RE079 竪穴状遺構……………	172
第24図 台太郎遺跡第61次調査 RA630 竪穴建物跡、 RD2033・2035・2036 土坑……………	146		
第25図 台太郎遺跡第61次調査 RD2034 土坑、ピット ……………	147		

第51図	台太郎遺跡第68次調査 RA642 竪穴建物跡…173	第79図	飯岡才川遺跡第14次調査Ⅱ区全体図…201
第52図	台太郎遺跡第68次調査 RA643・646 竪穴建物跡…174	第80図	飯岡才川遺跡第14次調査Ⅱ区 RD154～158 陥し穴…202
第53図	台太郎遺跡第68次調査 RA644・647 竪穴建物跡…175	第81図	飯岡才川遺跡第14次調査Ⅱ区 RG060～062 溝跡…203
第54図	台太郎遺跡第68次調査 RA645 竪穴建物跡…176	第82図	飯岡才川遺跡第14次調査Ⅱ区 RG062・063 溝跡…204
第55図	台太郎遺跡第68次調査 RE078・080 竪穴状遺構…177	第83図	細谷地遺跡第21次調査区全体図、 調査区東部全体図…205
第56図	台太郎遺跡第68次調査 RD2127～2132 土坑…178	第84図	細谷地遺跡第21次調査 RD467～473 土坑…206
第57図	台太郎遺跡第68次調査 RD2133～2136 土坑…179	第85図	細谷地遺跡第21次調査 RG081 溝跡…207
第58図	台太郎遺跡第68次調査 RG424 堀跡、 RG599 溝跡、ピット…180	第86図	細谷地遺跡第22次調査区全体図…208
第59図	台太郎遺跡第68次調査 RG042 堀跡…181	第87図	細谷地遺跡第22次調査 RG081 溝跡…209
第60図	台太郎遺跡第68次調査西部ピット…182	第88図	細谷地遺跡第23次調査区全体図…210
第61図	台太郎遺跡第68次調査中央部 RG597 方形周溝、RG598 溝跡、ピット…183	第89図	細谷地遺跡第23次調査 RD474～477 土坑、 RG082 溝跡…211
第62図	台太郎遺跡第68次調査東部 RG474 溝跡、ピット…184	第90図	矢盛遺跡第15次調査区全体図…212
第63図	台太郎遺跡第68次調査 RG042 堀跡、ピット…185	第91図	矢盛遺跡第15次調査西部全体図…213
第64図	台太郎遺跡第70次調査区全体図…186	第92図	矢盛遺跡第15次調査 RB046a 掘立柱建物跡…214
第65図	台太郎遺跡第70次調査 RA648 竪穴建物跡…187	第93図	矢盛遺跡第15次調査 RB046b 掘立柱建物跡、 RC007 掘立柱列跡…215
第66図	台太郎遺跡第70次調査 RA649 竪穴建物跡…188	第94図	矢盛遺跡第15次調査 RD146～152 土坑…216
第67図	台太郎遺跡第70次調査 RA650 竪穴建物跡…189	第95図	矢盛遺跡第15次調査 RG048～053 溝跡…217
第68図	台太郎遺跡第70次調査 RA651 竪穴建物跡…190	第96図	矢盛遺跡第15次調査 RI057～062 井戸跡…218
第69図	台太郎遺跡第70次調査 RE081 竪穴状遺構…191	第97図	矢盛遺跡第15次調査ピット…219
第70図	台太郎遺跡第70次調査 RE082・083 竪穴状遺構…192	第98図	矢盛遺跡第17次調査区全体図…220
第71図	台太郎遺跡第70次調査 RE084 竪穴状遺構…193	第99図	矢盛遺跡第17次調査 RD153 土坑、 RG054～058 溝跡、ピット…221
第72図	台太郎遺跡第70次調査 RG600・601 溝跡…194	第100図	矢盛遺跡第21次調査区全体図、 RG067 溝跡、ピット…222
第73図	飯岡沢田遺跡第12次調査区全体図…195	第101図	矢盛遺跡第22次調査区全体図…223
第74図	飯岡沢田遺跡第12次調査 RG020・021 溝跡、ピット…196	第102図	矢盛遺跡第22次調査 RD182～184 土坑…224
第75図	飯岡沢田遺跡第12次調査 RG020・022 溝跡、ピット…197	第103図	大宮北遺跡第11次調査 RG015 出土土器…227
第76図	飯岡才川遺跡第14次調査Ⅰ区全体図…198	第104図	大宮北遺跡第11・13次調査 RG015 出土土器…228
第77図	飯岡才川遺跡第14次調査Ⅰ区 RA043 竪穴建物跡…199	第105図	大宮北遺跡第16次調査出土土器…228
第78図	飯岡才川遺跡第14次調査Ⅰ区 RA044 竪穴建物跡…200	第106図	台太郎遺跡第59次調査出土土器・土製品…229
		第107図	台太郎遺跡第63次調査 RA630・631 出土土器…229

第108回	台太郎道跡第63次調査 RE074, RG264 出土土器・中世陶器……………230
第109回	台太郎道跡第63次調査出土土器製品……………230
第110回	台太郎道跡第67次調査 RA637・638 出土土器……………231
第111回	台太郎道跡第68次調査 RA573・574・577 出土土器……………232
第112回	台太郎道跡第68次調査 RA639・640 出土土器……………233
第113回	台太郎道跡第68次調査 RA641・642 出土土器……………234
第114回	台太郎道跡第68次調査 RA642 出土土器…235
第115回	台太郎道跡第68次調査 RA643・644・645 出土土器……………236
第116回	台太郎道跡第68次調査 RA646・647, RE080 出土土器……………237

第117回	台太郎道跡第68次調査 RG042・598 出土土器……………238
第118回	台太郎道跡第68次調査出土土器製品……………238
第119回	台太郎道跡第70次調査 RA648 出土土器…239
第120回	台太郎道跡第70次調査 RA649・650・651 出土土器……………240
第121回	台太郎道跡第70次調査 RE081・083・084, RG600, 遺構外出土土器……………241
第122回	飯岡才川道跡第14次調査 RA043・044 出土土器……………242
第123回	台太郎道跡第59次調査出土弥生土器……………243
第124回	台太郎道跡第67次調査出土弥生土器……………243
第125回	台太郎道跡第59次調査出土古銭……………244
第126回	台太郎道跡第62次調査出土古銭……………244
第127回	台太郎道跡第63次調査出土古銭……………244

## 写真図版目次

第1図版	盛南開発地区航空写真……………247
第2図版	大宮北道跡第11次調査……………248 RG015 溝跡 RG015 溝跡東ベルト土層断面 RG015 溝跡西ベルト土層断面
第3図版	本宮熊堂B道跡第32・33次調査……………249 第32次調査区全景 第33次調査区全景 RG146 溝跡
第4図版	台太郎道跡第59次調査……………250 調査区全景, 調査区南部全景 RA629 竪穴建物跡 RB067 掘立柱建物跡, RB066 掘立柱建物跡
第5図版	台太郎道跡第60次調査……………251 調査区全景 RD2029 土坑, RD2031 土坑
第6図版	台太郎道跡第61次調査……………252 調査区全景, RD2034 土坑, 土層断面 RD2033 土坑, RD2035 土坑, 2036 土坑

第7図版	台太郎道跡第62・64次調査……………253 第62次調査区全景, RD2037 土坑 第64次調査区全景, RD2024 土坑
第8図版	台太郎道跡第67次調査(1)……………254 調査区全景
第9図版	台太郎道跡第67次調査(2)……………255 RA637 竪穴建物跡, カマド・榎道 RA638 竪穴建物跡, 刀子出土状況 RD2015 土坑, 2016 土坑, RG596 溝跡
第10図版	台太郎道跡第63次調査(1)……………256 調査区全景
第11図版	台太郎道跡第63次調査(2)……………257 調査区全景
第12図版	台太郎道跡第63次調査(3)……………258 RA630 竪穴建物跡 カマド, 土器・炭化材出土状況, 勾玉出土状況

第13 図版	台太郎道跡第63次調査(4)……………259 RA631 竪穴建物跡、カマド カマド支脚、石製紡錘車出土状況 カマド付近土師器甕出土状況 土師器甕(鋸歯状沈線文)出土状況	第25 図版	飯岡才川道跡第14次調査(4)……………271 RD154 陥し穴、土層断面 RD155 陥し穴、土層断面 RD156 陥し穴、土層断面 RD157 陥し穴、土層断面 RD158 陥し穴、土層断面 RD062 溝跡、土層断面十和田a 火山灰
第14 図版	台太郎道跡第63次調査(5)……………260 RE074 竪穴状遺構、土師器坏出土状況 RG264 堀跡、土層断面 RD2041 土坑墓副葬品・人骨出土状況	第26 図版	飯岡才川道跡第14次調査(5)……………272 旧岩手県農事試験場円通遺構
第15 図版	台太郎道跡第68次調査(1)……………261 調査区全景	第27 図版	細谷地道跡第21次調査……………273 調査区全景 RG081 溝跡
第16 図版	台太郎道跡第68次調査(2)……………262 調査区全景	第28 図版	細谷地道跡第22・23次調査……………274 第22次調査本調査区全景 第23次調査区北部全景 第23次調査区南部全景
第17 図版	台太郎道跡第68次調査(3)……………263 RA574 竪穴建物跡 RA639 竪穴建物跡、土器出土状況 RA642 竪穴建物跡、土器出土状況	第29 図版	矢盛道跡第15・17次調査(1)……………275 第17次調査区全景 第15次調査区全景
第18 図版	台太郎道跡第68次調査(4)……………264 RG042 堀跡、土層断面 RR424 堀跡、土層断面	第30 図版	矢盛道跡第15・17次調査(2)……………276 第17次調査区全景 第15次調査区全景
第19 図版	台太郎道跡第70次調査(1)……………265 調査区全景	第31 図版	矢盛道跡第15次調査……………277 RI058 井戸跡 RI059 井戸跡 RI061・062 井戸跡
第20 図版	台太郎道跡第70次調査(2)……………266 RA648 竪穴建物跡、カマド付近土器出土状況 RA650 竪穴建物跡、埋土上層十和田a 火山灰 RE083 竪穴状遺構炭化材出土状況、 土器出土状況	第32 図版	矢盛道跡第17次調査……………278 RG054・055 溝跡 RG056 溝跡 RG057 溝跡
第21 図版	飯岡沢田道跡第12次調査……………267 調査区全景 RG020・021 溝跡、 RG020 溝跡土層断面	第33 図版	矢盛道跡第21・22次調査……………279 第21次調査 RG067 溝跡 第22次調査区(A区)全景 第22次調査 RD182~184 土坑
第22 図版	飯岡才川道跡第14次調査(1)……………268 調査区(A区)全景 調査区(B区)全景	第34 図版	矢盛道跡第15次調査 掘立柱建物跡復元想定……………280 RB046a 掘立柱建物跡平面概念図(新期) RB046b 掘立柱建物跡平面概念図(旧期) RB046 掘立柱建物跡立面想定図 建物イメージ
第23 図版	飯岡才川道跡第14次調査(2)……………269 RA043 竪穴建物跡 カマド、土師器甕出土状況		
第24 図版	飯岡才川道跡第14次調査(3)……………270 RA044 竪穴建物跡 カマド、炭化材出土状況		



第 35 図版	大宮北遺跡調査出土遺物(1)……………281 第 11・13 次調査 RG015 出土土器
第 36 図版	大宮北遺跡調査出土遺物(2)……………282
第 37 図版	台太郎遺跡出土遺物(1)……………283 第 67 次調査 RA637 出土土器
第 38 図版	台太郎遺跡出土遺物(2)……………284 第 70 次調査 RA648 出土土器
第 39 図版	台太郎遺跡出土遺物(3)……………285
第 40 図版	台太郎遺跡出土遺物(4)……………286 第 68 次調査 RA639 出土土器
第 41 図版	台太郎遺跡出土遺物(5)……………287 第 68 次調査 RA640 出土土器 第 68 次調査 RA642 出土土器
第 42 図版	台太郎遺跡出土遺物(6)……………288
第 43 図版	台太郎遺跡出土遺物(7)……………289
第 44 図版	台太郎遺跡出土遺物(8)……………290
第 45 図版	台太郎遺跡出土遺物(9)……………291
第 46 図版	台太郎遺跡出土遺物(10)……………292 石製品・土製品 鉄関連遺物
第 47 図版	台太郎遺跡出土遺物(11)……………293 第 68 次調査中世陶器 第 59 次調査近世磁器 第 63 次調査近世磁器
第 48 図版	台太郎遺跡出土遺物(12)……………294 第 68 次調査近世陶磁器 第 70 次調査近世陶磁器
第 49 図版	飯岡才川遺跡出土遺物(1)……………295 第 14 次調査 RA043 出土土器 第 14 次調査 RA044 出土土器
第 50 図版	飯岡才川遺跡出土遺物(2)……………296

# 第1章 経過

## 第1節 調査の経過

「盛岡南新都市開発整備事業」は、北東北の中核都市および岩手県の県都として担うべき都市機能の充実を図るため、旧城下町から発展して形成された既存の中心市街地南西部に新市街地を開発整備し、既成市街地・盛岡駅西口地区（旧国鉄跡地）・盛岡南地区を結ぶ「軸状都心」を形成することで、都市構造をよりよく改めようと策定された土地区画整理事業である。

平成2年9月に岩手県・盛岡市・都南村（現盛岡市、平成4年4月合併）の3者が、当時の地域振興整備公団（以下「公団」と呼ぶ、現在は独立行政法人都市再生機構）に対して事業申請を行い、公団は実施計画を作成、翌平成3年12月に当時の建設大臣および国土庁長官から実施許可が下り、事業が開始された。

埋蔵文化財の取り扱いについては、昭和50年の国土庁長官・建設省からの行政指導に則して、公団と岩手県・盛岡市・都南村は「覚書」、およびその「確認書」において以下のように文書を取り交わしている。

「盛岡南新都市開発整備事業に関する覚書」（平成3年12月11日） 記の7（3）

県、市及び村は、環境の保全及び文化財の保護につき、協力して所要の調整を行い、事業の推進を図るものとする。

「盛岡南新都市開発整備事業に関する覚書の確認書」（平成3年12月11日） 記の5

「覚書」の記の7の（3）の文化財保護における埋蔵文化財発掘調査について、国庫補助事業及び公共施設管理者負担金の対象となる都市計画道路に係る敷地の調査については、公団が県、市及び村に委託するものとし、その他の敷地については市及び村において調査するものとする。

このため、県、市及び村は、土地区画整理事業の認可までに、公団からの委託分を含めた埋蔵文化財発掘調査計画を立案し、これを県、市、村及び公団で確認の上、他機関への委託を含めた調査の実施に必要な体制を確保することにより、事業の円滑な推進を図るものとする。

なお、事業のスケジュールが調査実施者の都合により遅延した場合には、県、市及び村は、適切な方策を講ずるものとする。

上記に基づく協議の結果、遺跡の要調査範囲を確定する試掘確認調査を市教育委員会が実施し、その結果を受けての本調査を市及び公団から委託を受けて、現在の公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（以下「県埋文センター」と呼ぶ）が実施することとなった。しかし、本調査対象面積が広大であることから、平成10年度以降は市教育委員会も本調査を開始し、平成11年度以降は市教育委員会も公団（都市機構）と受委託契約を締結し、県埋文センターと市教育委員会の両者が調整を図りながら本調査を実施した。なお野外調査は、平成24年度の矢倉遺跡第31次調査をもって完了している。

## 第2節 発掘調査作業の経過

盛岡市新都市開発整備事業にともなう埋蔵文化財の発掘調査は、平成5年度から継続して実施された。土地区画整理の工事計画や進捗にあわせて、埋蔵文化財包蔵地の範囲確認や遺構密度を確認するための試掘確認調査を実施し、その成果を受けて効率的な本調査が実施できるよう調整を行った。

しかし、地権者との交渉や農地補償等の問題から、埋蔵文化財包蔵地範囲の全域について、試掘確認調査を実施することは現実的に不可能であり、状況に即した対応を行ってきた。

本書で報告の対象としている各遺跡の平成19～21年度の調査成果の概要は、挿表1・2のとおりである。

## 第3節 資料整理作業の経過

当市教育委員会が、当該事業の本調査を始めたのは、平成10年度からである。また平成11年度からは公団（都市機構）と発掘調査の受委託契約を締結し、公団（都市機構）事業範囲（都市計画道路分）の本調査も実施してきた。この際は、予算措置の問題や職員体制が十分でないことを考慮して、年度ごとの発掘調査報告書の刊行は断念することとし、報告書刊行は事業の進捗を見ながら順次まとめて行うものとし、年度内はその基礎となる資料整理作業のみを行っていた。

平成12年12月24日午前0時30分頃、市立厨川小学校敷地内にある文化財調査室にて火災が発生し、昭和30年建設の老朽化した木造2階建ての旧校舎は全焼した。市教育委員会では昭和57年度から文化財調査室として埋蔵文化財の資料整理・収蔵保管の拠点として使用してきた場所である。当然、本事業の発掘調査成果（図面・写真・出土資料の一部）も収蔵されており、罹災により調査成果の完全復元はきわめて難しい状況となった。市教育委員会は、文化庁の指導及び補助事業の採択を受け、埋蔵文化財の調査研究・収蔵管理・普及活用を目的として、新たな拠点となる埋蔵文化財センターとして、博物館施設が集積する本宮地区の「盛岡市中央公園」内に「盛岡市遺跡の学び館」を建設、平成16年6月に開館した。その間も、本事業にともなう発掘調査と資料整理作業、および罹災資料の復元作業を継続して行った。

本事業関連遺跡発掘調査報告書を刊行するにあたり、以下の指針をもって実施することとしている。

- ①平成5～12年度の発掘調査に係る罹災資料について、速やかに再整理と報告書刊行を行う。
- ②平成5～12年度発掘調査報告書は、膨大な量の資料が罹災したこともあり、1冊の報告書として報告することは現実的に困難なため、数遺跡ごとに分冊刊行することで年次計画を立て優先的に報告する。
- ③平成13年度以降事業終了年度までの調査成果は、上記報告書刊行の進捗状況を見ながら、数遺跡または数年度ずつをまとめて分冊とし、報告する。

上記のうち、指針①②については平成22年度までに計3分冊として刊行を終了し、指針③については計3分冊（平成13～18年度調査3分冊）の報告書を平成24・25年度に刊行している。本報告書は、指針③に基づく7分冊目（平成19～21年度調査）の報告書である。

## 第4節 体制

〔委託者〕 独立行政法人都市再生機構

〔調査主体〕 盛岡市教育委員会

〔事務局〕 盛岡市教育委員会事務局歴史文化課

〔調査〕 盛岡市遺跡の学び館

〔助言〕 文化庁、岩手県教育委員会、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〔協力〕 発掘調査、資料整理、報告書編集にあたり、盛岡市都市整備部盛岡南整備課、地権者・地元関係者の方々、そして多くの作業員・県内外文化財関係職員の方々より多大なる協力を得た。記して感謝申し上げます。

〔発掘調査担当者（本書掲載分）〕

大宮北遺跡	第11次調査（平成19年度）	菊地幸裕
	第12次調査（平成19年度）	室野秀文
	第13次調査（平成19年度）	今野公顕
	第14次調査（平成19年度）	室野秀文
	第16次調査（平成21年度）	今野公顕
小幡遺跡	第23次調査（平成20年度）	菊地幸裕・浅沼のぞみ
宮沢遺跡	第13次調査（平成19年度）	浅沼のぞみ
本宮熊堂B遺跡	第32次調査（平成19年度）	今野公顕
	第33次調査（平成21年度）	菊地幸裕・鈴木賢治
台太郎遺跡	第59次調査（平成19年度）	菊地幸裕・浅沼のぞみ
	第60次調査（平成19年度）	今野公顕・浅沼のぞみ
	第61次調査（平成19年度）	今野公顕・浅沼のぞみ
	第62次調査（平成20年度）	菊地幸裕・浅沼のぞみ
	第63次調査（平成20年度）	菊地幸裕・浅沼のぞみ
	第64次調査（平成20年度）	菊地幸裕・浅沼のぞみ
	第65次調査（平成21年度）	菊地幸裕・鈴木賢治
	第67次調査（平成21年度）	菊地幸裕・鈴木賢治
	第68次調査（平成21年度）	菊地幸裕・鈴木賢治
	第69次調査（平成21年度）	菊地幸裕・鈴木賢治
	第70次調査（平成21年度）	菊地幸裕・鈴木賢治

飯岡沢田道跡	第 12 次調査 (平成 20 年度)	菊地幸裕・浅沼のぞみ
飯岡才川道跡	第 14 次調査 (平成 19 年度)	菊地幸裕・今野公顕・浅沼のぞみ
細谷地道跡	第 21 次調査 (平成 20 年度)	菊地幸裕・浅沼のぞみ
	第 22 次調査 (平成 20 年度)	菊地幸裕・浅沼のぞみ
	第 23 次調査 (平成 20 年度)	菊地幸裕・浅沼のぞみ
矢盛道跡	第 15 次調査 (平成 19 年度)	菊地幸裕・今野公顕・浅沼のぞみ
	第 16 次調査 (平成 19 年度)	菊地幸裕・今野公顕・浅沼のぞみ
	第 17 次調査 (平成 19 年度)	菊地幸裕・今野公顕・浅沼のぞみ
	第 21 次調査 (平成 20 年度)	菊地幸裕・浅沼のぞみ
	第 22 次調査 (平成 20 年度)	菊地幸裕・浅沼のぞみ
夕覓道跡	第 1 次調査 (平成 7 年度)	似内啓邦・黒須靖之
	第 2 次調査 (平成 8 年度)	津嶋知弘
	第 3 次調査 (平成 20 年度)	菊地幸裕
	第 4 次調査 (平成 20 年度)	三浦陽一
	第 5 次調査 (平成 21 年度)	菊地幸裕
	第 6 次調査 (平成 21 年度)	菊地幸裕・鈴木賢治

盛岡市教育委員会文化財保護関係職員（平成 26 年度）

教育長 千葉 仁一

教育部長 鷹菊 徹

教育次長 豊岡 勝敏

歴史文化課（事務局）

〔記念物・文化財・博物館施設業務〕

課長	袖上 寛
課長補佐	
（埋蔵文化財担当、兼務）	北田 牧子
課長補佐	木村 英樹
副主幹（兼務）	菊地 幸裕
文化財主査（兼務）	室野 秀文
主査（兼務）	田山 淳一
文化財主査（兼務）	津嶋 知弘
文化財主査（兼務）	神原雄一郎
文化財主査	権頭 祐子
文化財主査	今野 公顕
学芸主査	岡 聡
学芸員〔再任〕	大沼 信忠
文化財主任（兼務）	花井 正香
文化財主任	佐々木亮二
文化財主任〔再任〕（兼務）	千田 和文
主事	寺島 幸子
主事	佐藤 美沙
文化財調査員	鳥取 邦美
文化財調査員	小林 真理
文化財調査員	千葉 茉耶
事務嘱託	齊藤 晃大

遺跡の学び館（施設）

〔埋蔵文化財業務〕

館長（兼務）	袖上 寛
館長補佐	北田 牧子
副主幹	菊地 幸裕
文化財主査	室野 秀文
主査	田山 淳一
文化財主査	津嶋 知弘
文化財主査	神原雄一郎
文化財主任	花井 正香
文化財主任〔再任〕	千田 和文
学芸調査員	山岸 佳澄
学芸調査員	山野 友海
文化財調査員	木幡 里美
文化財調査員	鈴木 俊輝
文化財調査員	樋下 理沙

挿表1 盛南地区遺跡群発掘調査一覧表(平成19~21年度)(1)

遺跡名	備考	次数	年度	調査方法	所在地	面積 (㎡)	調査期間	遺構・遺物	調査理由	調査主体	報告書
大宮北	OOK	11	H19	本調査	本宮字小福 5-1	1,009	2007.4.11~ 2007.4.24	古代溝跡1(一部トレンチ調査)	個人宅建築	市教委	遺跡群 H18、19 / 本書
		12	H19	試掘確認	本宮字大宮 60-19	213 (対象 842)	2007.5.24	なし(トレンチ調査)	個人宅建築	市教委	本書
		13	H19	本調査	本宮字大宮 98-4 地先地	16 (対象 264)	2007.5.28	古代溝跡1	公共上下水道敷設	市教委	遺跡群 H18、19 / 本書
		14	H19	試掘確認	本宮字大宮 153	126 (対象 970)	2007.7.17	なし(トレンチ調査)	農業施設建築	市教委	本書
		15	H21	本調査	本宮字小福 3-3 地	2,000	2009.6.1~ 2009.6.30	古代竪穴住居跡1・溝跡1	佛道通商和貿易繁栄	県埋文	研 571 集
		16	H21	試掘確認	本宮字小福 2-1	244 (対象 995)	2009.5.19	古代竪立柱建物跡・土坑・溝跡(トレンチ調査)	駐車場建設	市教委	本書
遺跡名	備考	次数	年度	調査方法	所在地	面積 (㎡)	調査期間	遺構・遺物	調査理由	調査主体	報告書
小福	OKH	23	H20	本調査	本宮字小福 79-7 地	403	2008.5.26	なし	土地区画整理(盛南開発)	市教委	本書
遺跡名	備考	次数	年度	調査方法	所在地	面積 (㎡)	調査期間	遺構・遺物	調査理由	調査主体	報告書
宮沢	OMZ	13	H19	本調査	本宮字宮沢字宮沢 44-1 地	147 (対象 3,270)	2007.9.12	なし(トレンチ調査)	土地区画整理(盛南開発)	市教委	本書
遺跡名	備考	次数	年度	調査方法	所在地	面積	期間	遺構・遺物	調査理由	調査主体	報告書
本宮熊堂B	OKO	32	H19	本調査	本宮字熊堂 51-2 地	404	2007.4.24~ 2007.4.28	古代以降溝跡1	土地区画整理(盛南開発)	市教委	本書
		33	H21	本調査	本宮字熊堂 55-1 地	648	2009.5.7~ 2009.5.31	古代以降溝跡1	土地区画整理(盛南開発)	市教委	本書
遺跡名	備考	次数	年度	調査方法	所在地	面積	期間	遺構・遺物	調査理由	調査主体	報告書
台北	ODT	59	H19	本調査	向中野字向中野 9 地	1,830	2007.7.5~ 2007.9.26	古代竪穴建物跡2, 古代以降竪立柱建物跡2・土坑2・溝跡14, ビット	土地区画整理(盛南開発)	市教委	本書
		60	H19	本調査	向中野字向中野 40-6 地	791 (対象 1,287)	2007.8.1~ 2007.9.6	古代以降土坑4, ビット	土地区画整理(盛南開発)	市教委	本書
		61	H19	本調査	向中野字向中野 17-4 地	610	2007.10.26~ 2007.11.16	古代竪穴建物跡1, 古代以降土坑4, ビット	土地区画整理(盛南開発)	市教委	本書
		62	H20	本調査	向中野字向中野 40-7 地	862 (対象 1,233)	2008.6.18~ 2008.7.9	古代以降土坑1, ビット	土地区画整理(盛南開発)	市教委	本書
		63	H20	本調査	向中野字向中野 17-1 地	1,412	2008.7.3~ 2008.10.31	古代竪穴建物跡2, 中世竪穴状溝跡1・大溝1, 近世土坑墓3, ビット	土地区画整理(盛南開発)	市教委	本書
		64	H20	本調査	向中野字向中野 21-2 地	621	2008.11.19~ 2008.12.12	古代以降土坑1	土地区画整理(盛南開発)	市教委	本書
		65	H21	本調査	向中野字向中野 40-16 地	330	2009.4.17	なし	土地区画整理(盛南開発)	市教委	本書
		66	H21	本調査	向中野字向中野 40-25 地	11,911	2009.6.1~ 2009.11.27	縄文時代土坑1, 古代竪穴建物跡5・土坑5・溝跡1, 中世竪立柱建物跡72・竪穴建物跡3・土坑3・堀跡2ほか	土地区画整理(盛南開発)	県埋文	研 570 集
		67	H21	本調査	向中野字八日市場 23-1 地	856	2009.5.7~ 2009.7.28	土地区画整理(盛南開発)	市教委	本書	
		68	H21	本調査	向中野字八日市場 30-1 地	1,234	2009.7.1~ 2009.11.6	古代竪穴建物跡12・土坑9, 中世堀跡2・溝跡2, ビット	土地区画整理(盛南開発)	市教委	本書
69	H21	本調査	向中野字向中野 18-4 地	76	2009.10.1	なし	土地区画整理(盛南開発)	市教委	本書		
70	H21	本調査	向中野字向中野 13-1 地	1,914	2009.10.21~ 2009.12.24	古代竪穴建物跡4・竪穴状溝跡4, 古代以降溝跡2	土地区画整理(盛南開発)	市教委	本書		
遺跡名	備考	次数	年度	調査方法	所在地	面積	期間	遺構・遺物	調査理由	調査主体	報告書
熊岡田	ISD	12	H20	本調査	熊岡新田1地割 46-2 地	1,242	2008.6.3~ 2008.6.16	古代以降溝跡3, ビット	土地区画整理(盛南開発)	市教委	本書
遺跡名	備考	次数	年度	調査方法	所在地	面積	期間	遺構・遺物	調査理由	調査主体	報告書
熊岡字川	ISW	14	H19	本調査	熊岡新田2地割 46-3 地	6,451	2007.4.24~ 2007.6.18	縄文時代掘し穴5, 古代竪穴建物跡2, 古代以降溝跡4	土地区画整理(盛南開発)	市教委	本書
		15	H20	本調査	熊岡新田2地割 110-1 地	410	2008.11.6~ 2008.11.14	古代土坑1	土地区画整理(盛南開発)	県埋文	研 546 集
		16	H21	本調査	熊岡新田2地割 39-3 地	5,921	2009.9.1~ 2009.12.4	縄文時代掘し穴10, 平安時代竪穴建物跡9・竪立柱建物跡3・土坑21・溝跡2	土地区画整理(盛南開発)	県埋文	研 580 集
遺跡名	備考	次数	年度	調査方法	所在地	面積	期間	遺構・遺物	調査理由	調査主体	報告書
向中野	OMN	10	H20	本調査	熊岡新田2地割 133-2 地	2,916	2008.5.1~ 2008.11.10	古墳時代末土坑1, 奈良時代竪穴建物跡1・土坑2, 平安時代竪穴建物跡15・竪立柱建物跡3・土坑16, 中世竪堀1・土型1, 堀跡2・竪穴建物跡1, 近世土坑墓10ほか	土地区画整理(盛南開発)	県埋文	研 557 集
		11	H20	本調査	熊岡新田2地割 133-2 地	615	2008.4.11~ 2008.11.10				
		12	H21	本調査	熊岡新田2地割 133-2 地	633	2008.6.16~ 2009.9.11	古代竪穴建物跡10・竪立柱建物跡1・土坑4・溝跡1, 中世竪立柱建物跡2・堀跡1・溝跡2ほか	土地区画整理(盛南開発)	県埋文	研 577 集
		13	H21	本調査	熊岡新田2地割 133-2 地	615	2009.6.16~ 2009.9.11				

挿表2 盛南地区遺跡群発掘調査一覧表(平成19~21年度)(2)

遺跡名	略号	次数	年度	調査方法	所在地	面積	期間	遺構・遺物	調査原因	調査主体	報告書		
船谷地	OHY	16	H19	本調査	向中野子野原 13-1 他	13,329	2007.5.1~ 2007.11.29	奈良時代竪穴建物跡 1・土坑 1、平安時代竪穴建物跡 17・竪立柱建物跡 3・竪立柱列跡 7・土坑 22・土坑墓 1・溝跡 1・竪穴溝溝 3、近世以降土坑 4・溝跡 1ほか	土地区画整理(盛南開発)	県埋文	県 535 集		
		17	H19	本調査		5,563	2007.4.11~ 2007.11.29	中世土坑墓 1、中世以降土坑 4	国道 46 号盛岡西バイパス建設	県埋文	県 524 集		
		18	H19	本調査	向中野子野原 42-6 他	1,875	2007.7.17~ 2007.8.24	平安時代竪穴建物跡 2・竪立柱建物跡 2・土坑 8、近世土坑 6、ピットほか	土地区画整理(盛南開発)	県埋文	県 556 集		
		19	H20	本調査	向中野子野原 9-6 他	1,946	2008.7.16~ 2008.10.7	平安時代竪穴建物跡 5・土坑 8・竪穴溝溝 3、近世土坑 7、ピットほか	土地区画整理(盛南開発)	市教委	本書		
		20	H20	本調査		856	2008.8.1~ 2008.10.7	平安時代竪穴建物跡 8・竪立柱建物跡 1・土坑 2、中近世瓦葺墓 1ほか	土地区画整理(盛南開発)	県埋文	県 577 集		
		21	H20	本調査	向中野子野原 31-3 他	6,759	2008.4.22~ 2008.5.19	古代以降土坑 7・溝跡 1	土地区画整理(盛南開発)	市教委	本書		
		22	H20	本調査	向中野子野原 20-13 他	22,084	2008.11.14~ 2008.11.20	古代以降溝跡 1(一部トレンチ調査)	土地区画整理(盛南開発)	市教委	本書		
		23	H20	本調査	向中野子野原 27-8 他	1,784	2008.11.5~ 2008.12.12	古代以降土坑 4・溝跡 1	土地区画整理(盛南開発)	市教委	本書		
		24	H21	本調査	向中野子野原 9-5 他	1,224	2009.5.16~ 2009.8.19	平安時代竪穴建物跡 8・竪立柱建物跡 1・土坑 2、中近世瓦葺墓 1ほか	土地区画整理(盛南開発)	県埋文	県 577 集		
		25	H21	本調査		946	2009.6.15~ 2009.9.11						
		矢張	IYM	12	H19	本調査	盛岡新田 4 地割 6-2 他	18,343	2007.5.1~ 2007.11.29	縄文時代土坑 3・陥し穴 1、平安時代溝跡 1、中近世竪穴建物跡 16・竪立柱建物跡 25・土坑 23・堀跡 2・溝跡 10・井戸跡 42 ほか	土地区画整理(盛南開発)	県埋文	県 534 集
				13	H19	本調査		1,040	2007.7.17~ 2007.10.5	縄文陥し穴 2、中近世竪立柱建物跡 1・土坑 2・溝跡 5 ほか	国道 46 号盛岡西バイパス建設	県埋文	県 524 集
14	H19			本調査	盛岡新田 4 地割 中 18-1 他	7,147	2007.10.22~ 2007.12.14	近世以降竪立柱建物跡 1・竪立柱列跡 1・土坑 7・溝跡 6、井戸跡 6、ピット	土地区画整理(盛南開発)	市教委	本書		
15	H19			本調査	盛岡新田 3 地割 65-2 他	5,704	2007.11.1~ 2007.11.22	なし(トレンチ調査)	土地区画整理(盛南開発)	市教委	本書		
16	H19			本調査	盛岡新田 4 地割 1-4	160	2007.11.9~ 2007.11.31	古代以降土坑 1・溝跡 5、ピット	土地区画整理(盛南開発)	市教委	本書		
17	H19			本調査	盛岡新田 2 地割 19-5 他	1,114	2008.5.16~ 2008.11.5	縄文時代土坑 1・陥し穴 1、平安時代竪穴建物跡 2・土坑 6、中近世竪立柱建物跡 1・土坑 1・溝跡 7・井戸跡 2、近世末土坑墓 19 ほか	土地区画整理(盛南開発)	県埋文	県 555 集		
18	H20			本調査	盛岡新田 4 地割 2 他	5,709	2008.4.16~ 2008.10.30	なし	土地区画整理(盛南開発)	市教委	本書		
19	H20			本調査		476	2008.6.16~ 2008.6.20	近世以降溝跡 2、ピット	土地区画整理(盛南開発)	市教委	本書		
20	H20			本調査	向中野子野原 41-3 他	1,404	2008.7.28~ 2008.8.1	近世以降土坑 3	土地区画整理(盛南開発)	市教委	本書		
21	H20			本調査	盛岡新田 4 地割 3 他	160	2008.7.1~ 2008.7.26	縄文時代陥し穴 4・土坑 2、近世以降竪立柱建物跡 15・土坑 34・土坑墓 21・溝跡 7・井戸跡 5 ほか	土地区画整理(盛南開発)	県埋文	県 578 集		
22	H20			本調査	盛岡新田 2 地割 24-3 他	1,720	2009.7.1~ 2009.11.26	なし(トレンチ調査)	土地区画整理(盛南開発)	県埋文	県 571 集		
23	H21			本調査	向中野子野原 49-3 他	5,720	2009.9.15~ 2009.9.17	なし(トレンチ調査)	土地区画整理(盛南開発)	県埋文	県 571 集		
24	H21			本調査		425	2009.9.15~ 2009.9.17	なし(トレンチ調査)	土地区画整理(盛南開発)	県埋文	県 571 集		
25	H21			本調査	盛岡新田 4 地割 47-1 他	1,234	2009.9.15~ 2009.9.17	なし(トレンチ調査)	土地区画整理(盛南開発)	県埋文	県 571 集		
26	H21			本調査	盛岡新田 4 地割 49-1 他	334	2009.9.15~ 2009.9.17	なし(トレンチ調査)	土地区画整理(盛南開発)	県埋文	県 571 集		
夕雲	IYK			1	H7	本調査	盛岡新田 5 地割 31-1 他	566 (対象 1,947)	1995.10.4~ 1995.10.6	なし(トレンチ調査)	土地区画整理(盛南開発)	市教委	本書
		2	H8	本調査	盛岡新田 5 地割 36 他	233 (対象 3,767)	1996.11.18~ 1996.11.19	なし(トレンチ調査)	土地区画整理(盛南開発)	市教委	本書		
		3	H20	本調査	盛岡新田 6 地割 69-1	181 (対象 1,063)	2008.10.23	なし(トレンチ調査)	土地区画整理(盛南開発)	市教委	本書		
		4	H20	本調査	盛岡新田 5 地割 38-2 地先他	264	2008.11.28~ 2009.1.15	なし(トレンチ調査)	土地区画整理(盛南開発)	市教委	本書		
		5	H21	本調査	盛岡新田 6 地割 14 他	3,453	2009.7.29	なし(トレンチ調査)	土地区画整理(盛南開発)	市教委	本書		
		6	H21	本調査	盛岡新田 5 地割 41 他	10,977	2009.9.3~ 2009.9.7	なし(トレンチ調査)	土地区画整理(盛南開発)	市教委	本書		
地野	IYE	1	H20	本調査	盛岡新田 4 地割 残野 53-1 他	1,161	2008.4.15~ 2008.5.15	近世以降竪立柱建物跡 7・土坑 2・溝跡 1・井戸跡 1、ピット	国道 46 号盛岡西バイパス建設	県埋文	県 546 集		
		2	H20	本調査	盛岡新田 4 地割 残野 53-3 他	5,019	2008.9.8~ 2008.11.6	近世以降竪立柱建物跡 12・土坑 13・溝跡 2・井戸跡 2、ピット	土地区画整理(盛南開発)	県埋文	県 546 集		



## 第2章 遺跡群の位置と環境

### 第1節 地理的環境

盛岡市は岩手県の中央部に位置する。平成4年4月に南に隣接する都南村と、平成18年1月に北に隣接する玉山村と合併し、人口298,572人（平成22年国勢調査）、面積886.47km<sup>2</sup>の県庁所在地である。平成20年4月には中核市へ移行している。

「盛岡市新都市開発整備事業」は、盛岡市の中心市街地南西部の313.5haを対象にした土地区画整理事業である。事業主体は独立行政法人都市再生機構（旧地域振興整備公団）で、平成3年12月に事業認可を受け、平成7年11月より着工、平成25年10月に事業完了している。この事業に伴い、区域内の埋蔵文化財発掘調査を平成5年度から県埋文センターと市教育委員会が実施し、平成24年度に野外調査が終了した。

「盛南地区遺跡群」は、盛岡市新都市開発整備事業区域内に所在する計17遺跡、大宮北遺跡・小幡遺跡・宮沢遺跡・鬼柳A遺跡・稲荷遺跡・本宮熊堂A遺跡・本宮熊堂B遺跡・野古A遺跡・飯岡沢田遺跡・飯岡才川遺跡・台太郎遺跡・向中野館遺跡・細谷地遺跡・矢盛遺跡・焼野遺跡・夕覚遺跡・南仙北遺跡が該当し、盛岡市本宮字大宮、本宮4丁目・6丁目・7丁目、向中野1丁目・2丁目・3丁目・5丁目、北飯岡1丁目、本宮字野古、下鹿妻字北、向中野字野原・字細谷地・字鶴子・字幅、飯岡新田2地割・3地割・4地割、南仙北2丁目に所在する（挿図1）。なお所在地名は、土地区画整理事業完了地区の住居表示整備により、平成23年2月、平成24年2月、平成25年2月に旧字名から変更となっており、その変遷は挿表3のとおりである。

盛岡は、岩手県から宮城県を南流する北上川に中津川・雫石川・築川といった支流の合流点である北上盆地の北端にあり、本遺跡群は、北上川の西岸とその支流である雫石川の南岸に広がる沖積段丘上に立地する。雫石川は奥羽山脈から東流し、烏泊山と箱ヶ森に挟まれた北の浦付近（市内上太田）で急激に流路を狭められ、その狭窄部を抜け北上盆地に入り、北上川と合流する。雫石川の北岸には岩手山を供給源とする火山砕石流堆積物と火山灰層がのる台地が発達していることにより、狭窄部以東の南岸に流路転換が顕著に見られ、沖積段丘（砂礫段丘）が発達している。

沖積段丘は、水成砂礫層を基底とし、その上に水成シルト層、そして土表が覆っている。基本層はおおむねこの3層に分類されるが、砂礫層の上面高をはじめ、それぞれの層相・層厚は地点によって大きく異なる。また、このシルト層は旧河道ばかりでなく、微高地などにも堆積している。このことは、この低位沖積段丘は、雫石川が周辺の山地から供給される砂礫やシルトによって堆積され、さらに河道の定まらない雫石川の下刻や堆積を繰り返されたことによるものと言える。雫石川の旧河道は幾箇所も確認されており、連続する大きなものは4条、そのほかにも網目状に細かな旧河道も確認されており、複雑な河道変遷を示す。それらに画された微高地に、古代を中心とした遺跡が分布している。

## 第2節 歴史的環境

本遺跡群の立地する沖積段丘上では、縄文時代～古墳時代にかけての遺構遺物の発見は少なく、遺跡のほとんどは7世紀中葉以降の集落遺跡といえる。

縄文・弥生時代の遺構遺物は、本宮熊堂A遺跡や台太郎遺跡で縄文時代晩期を中心とする竪穴住居跡や遺物包含層が検出されている。その他の各遺跡からは遺物が散見する程度であり、主体的なものではない。また、飯岡才川遺跡など多くの遺跡で縄文時代の陥し穴が確認されている。

古墳時代末、7世紀中葉の遺構遺物は、数は多くはないが台太郎遺跡などで確認されている。これ以降集落が継続的に営まれる。奈良時代、8世紀中葉以降竪穴住居跡を主体とした集落が増加する。この時期の集落は、大型竪穴住居を中心としてその周囲に中～小型の竪穴住居が数棟ずつまとまりをもって分布する傾向があり、血縁の一族が集落を構成したと考えられる。

平安時代初頭の延暦22年(803)、本遺跡群の西方に「志波城」(下太田方八丁他)が造営される。志波城は、東北地方統治のために律令政府が造営した古代城柵であり、当時「蝦夷(エミシ)」と呼ばれていた人々の社会に一定の影響を与えたと考えられる。『日本紀略』によると、坂上田村麻呂が「造志波城使」となり志波城は造営され、その規模は陸奥国最大級のものであった。しかし北を流れる現在の雫石川(当時としては北上川の本流)の度重なる洪水の被害を受け、およそ10年で征夷将軍室麻呂の建議により徳丹城(矢巾町西徳田)に移転したことが、『日本後紀』に見られる。その後、徳丹城は9世紀中葉までにはその機能を停止していることが発掘調査で確認されており、本地域を含む北上盆地一帯は、鎮守府胆沢城(奥州市水沢区九蔵田)による一城統治の体制となる。

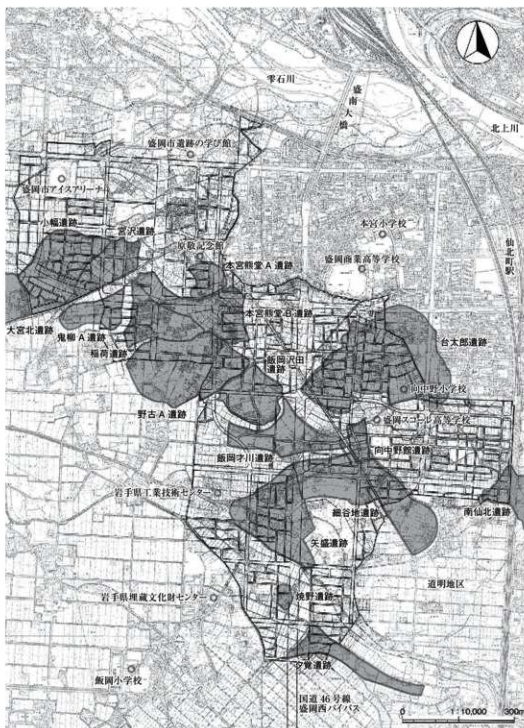
以降、9世紀中葉から本地域では竪穴住居を主体とした集落が増加していく。それにともない竪穴住居の規模の大小差は縮小するようになり、重複が著しく見られるようになる傾向がある。その中でも、向中野館遺跡の低湿地から古代の祭祀に関係すると考えられる遺物の出土や、飯岡沢田遺跡・飯岡才川の円形周溝墓群や火葬骨蔵器など、本地域内の集落機能の分化もみられる。また、9世紀後葉から10世紀中葉にかけては、各地区の拠点的な集落が形成されるようになり、カマドを何度も作り替える大型住居がみられるようになる。細谷地遺跡では、微高地の南斜面に沿うように2間×2間の総柱の掘立柱建物跡が東西に並立し、高床倉庫群が存在したと考えられる。また大宮北遺跡や、本地域の北西、志波城跡の北東に隣接する林崎遺跡で、官衛的な大型掘立柱建物を計画的に配置した集落も発見されており、新興在地有力者の拠点と考えられる。

11～12世紀にかけての様相ははっきりしないが、12世紀末～13世紀初頭頃のものと考えられるかわらけが、本地域の西側にある大宮遺跡の大溝跡から多量に出土している。13世紀後半には、台太郎遺跡で不整五角形の平面形となる居館が営まれ、地域を支配した豪族の存在が想定される。さらに同遺跡では、土坑墓群や宗教施設と考えられる遺構も検出されており、出土遺物から15世紀頃までの存続が考えられる。また向中野館遺跡や矢盛遺跡でも、堀跡が検出されており、出土遺物やその平面形から16世紀代を中心とする居館と考えられている。

江戸時代に入ると、雫石川は現在の流路となり、旧河道の東側には奥州道中(街道)や仙北組町が開かれ、本地域は水田地帯に農家が点在する農村地帯となる。各遺跡からは曲屋などの掘立柱建物跡や土坑墓、南仙北遺跡では道路跡など近世の遺構が発見されており、この姿は盛南開発事業が施工される直前の本地域の様子と大きく違いが無いものと考えられる。

挿表3 盛南地区遺跡群所在地住居表示整備一覧表

遺跡名	所在地			
	平成23年(2011)1月以前	平成23年(2011)2月住居表示整備	平成24年(2012)2月住居表示整備	平成25年(2013)2月住居表示整備
大宮北	本宮字大宮・字小幡	本宮字大宮、本宮6丁目	確定、変更なし	確定、変更なし
小幡	本宮字小幡	本宮6丁目	確定、変更なし	確定、変更なし
宮沢	本宮字宮沢	本宮6丁目	確定、変更なし	確定、変更なし
鬼柳A	本宮字鬼柳	本宮字鬼柳、本宮6丁目・7丁目	確定、変更なし	確定、変更なし
本宮熊堂A	本宮字熊堂	本宮4丁目	確定、変更なし	確定、変更なし
本宮熊堂B	本宮字熊堂・字稲荷、向中野字千刈田	本宮4丁目・6丁目、本宮字熊堂・字稲荷、向中野字千刈田	本宮4丁目・6丁目・7丁目、向中野3丁目	確定、変更なし
稲荷	本宮字稲荷	対象外、変更なし	本宮7丁目	確定、変更なし
野古A	本宮字野古、下鹿妻字北	対象外、変更なし	本宮7丁目、向中野3丁目、北飯岡1丁目、本宮字野古、下鹿妻字北	確定、変更なし
飯岡沢田	飯岡新田1地割	対象外、変更なし	向中野3丁目、北飯岡1丁目	確定、変更なし
飯岡才川	飯岡新田1地割・2地割	対象外、変更なし	北飯岡1丁目、向中野5丁目	確定、変更なし
台太郎	向中野字千刈田・字向中野・字台太郎、向中野1丁目・2丁目	対象外、変更なし	向中野1丁目・2丁目・5丁目	確定、変更なし
向中野館	飯岡新田2地割	対象外、変更なし	向中野5丁目	確定、変更なし
稲谷地	飯岡新田2地割、向中野字野原・字稲谷地	対象外、変更なし	向中野5丁目、向中野字野原・字稲谷地	向中野5丁目・7丁目、向中野字稲谷地
矢盛	飯岡新田2地割・3地割・4地割、向中野字野原	対象外、変更なし	北飯岡1丁目、飯岡新田2地割・3地割・4地割、向中野字野原	北飯岡1丁目・2丁目、向中野7丁目
焼野	飯岡新田4地割	対象外、変更なし	対象外、変更なし	北飯岡4丁目
夕覚	飯岡新田4地割・5地割	対象外、変更なし	対象外、変更なし	北飯岡3丁目・4丁目、飯岡新田5地割
南仙北	向中野字鶴子、南仙北2丁目	対象外、変更なし	向中野4丁目、向中野字鶴子、南仙北2丁目	向中野4丁目・6丁目、南仙北2丁目



挿図1 盛南地区遺跡群位置図  
 (新街区は盛岡南新都市開発整備事業)



## 第3章 調査成果

### 第1節 大宮北遺跡（第11～14・16次調査）

#### 1. 遺跡の立地

小幡遺跡は、803年に造営された古代城柵である志波城跡の外郭東辺から東約450mに位置し、北西に林崎遺跡、南西に大宮遺跡、北東に小幡遺跡、南東に鬼柳A遺跡が周囲に位置している。低位沖積段丘上にあり、遺跡の北部は半石川の旧河道と約2mの段差となっており、それ以外は1m弱の比高差がみられ他の遺跡と画される。遺跡の範囲は東西約500m、南北約250mをはかる（第1図）

#### 2. 調査内容

##### (1) 第11・13次調査（平成19年度）

今次調査区は、遺跡の中央部に位置し、個人住宅建築（第11次）と関連上下水道敷設工事（第13次）に伴う本調査として実施した（第1図）。調査面積は、第11次調査が1,009m<sup>2</sup>、第13次調査が16m<sup>2</sup>であり、重機により表土を除去し、表土下で遺構検出を行った。調査成果については、「盛岡市内遺跡群—平成18・19年度発掘調査報告—」（2008年3月）において報告済ではあるものの、出土土器の再実測図化を行い、その成果を追加掲載する。

##### a. 遺構と遺物

検出された遺構は、古代の溝跡1条（RG015）である（第9図）。

##### ・溝跡

**RG015**（第9図）〔※以下、遺物以外の記述内容については前掲報告書から引用〕

**位置** 調査区中央を東西に延びる。 **断面形** 箱堀状を呈する。

**規模** 検出された総延長10.3m、最大幅上端2.61m・下端1.95m、深さ0.83m

**壁の状態** 底面より直立きみに立ち上がる。 **底面** 平坦

**埋土** 自然堆積による。A・B層に大別され、A層は4層、B層は6層に細分される。

B6層とした層は砂質土・礫を主体とした水流によって形成された層と考えられる。しかし、B1～5層は周辺の地山である黄褐色土と暗褐色土、炭化物が混在することから人為的な混合土と考えられ、さらにその上面に完形土器を含む多量の土器等が廃棄されていることから人為による用水路的な機能の停止とそれに関わる儀式的な行為が想像された。

A層—黒色土を主体とし、粒状の黄褐色土の混入量により4層に細分され、全体的に礫が混入する。

B層—暗褐色土を主体とする。粒～塊状の黄褐色土の混入量により層が細分されるほか、B3層・B5層に微量の炭化物が含まれる。B6層は砂質の黄褐色シルトを主体とする層で多量の礫が混入する。

**遺物** (第103・104図, 第43表) あかやき土器坏 (002~009・011・012・019)・高台付坏 (015~017・020)・小型坏 (010)・小皿 (013・014), 土師器坏 (001), 須恵器壺 (018)

**時期** 10世紀中葉

#### (2) 第12次調査 (平成19年度)

今次調査区は、遺跡の南西部に位置し、個人住宅建業に伴う試掘確認調査として実施した(第1図)。調査対象面積842㎡について重機により、幅約2mの試掘トレンチを7本設定し(調査面積213㎡)、表土下で遺構・遺物の有無を確認した。その結果、遺構・遺物とも確認されなかったため、調査対象範囲について調査終了地区とした。

#### (3) 第14次調査 (平成19年度)

今次調査区は、遺跡の北端中央に位置し、農業施設建業に伴う試掘確認調査として実施した(第1図)。調査対象面積970㎡について重機により、幅約2mの試掘トレンチを3本設定し(調査面積126㎡)、表土下で遺構・遺物の有無を確認した。その結果、遺構は確認されず、磨滅した土師器・あかやき土器破片各1点が出土したのみであったため、調査対象範囲について調査終了地区とした。

#### (4) 第16次調査 (平成21年度)

今次調査区は、遺跡の北東部に位置し、駐車場建設に伴う試掘確認調査として実施した(第1図)。調査対象面積995㎡について重機により、幅約2mの試掘トレンチを6本設定し(調査面積244㎡)、表土下約0.15~0.2cmの褐色土で遺構・遺物の有無を確認した。その結果、古代の掘立柱建物跡掘方・土坑・溝跡など多くの遺構を検出した。また、遺構検出面よりあかやき土器・土師器破片が多数出土し、その概要は下記のとおりである。なお、検出した遺構については、地権者・施工者との協議により、本調査による精査は行わないこととし、設計変更で掘削深等を制限して保護を図ることとし、施工時に立会調査を実施した。

**遺物** (第105図, 第44表) あかやき土器坏 (022~027・029~031)・高台付坏 (028・032)・小皿 (021), 土師器坏 (033)

**時期** 10世紀中葉

## 第2節 小幡遺跡（第23次調査）

### 1. 遺跡の立地

小幡遺跡は、志波城跡の外郭東辺から東約800mに位置し、西に大宮北遺跡、南に鬼柳A遺跡、東に宮沢遺跡が周囲に位置している。低位沖積段丘上にあり、遺跡の北部は平石川の旧河道と約2mの段差となっており、それ以外は1m弱の比高差がみられ他の遺跡と画される。遺跡の範囲は、東西約550m、南北約250mをはかる（第2図）。

### 2. 調査内容

#### (1) 第23次調査（平成20年度）

今次調査区は、遺跡の南東部に位置し、盛岡南新都市開発整備事業に伴う試掘確認調査として実施した（第2図）。対象面積は403m<sup>2</sup>。重機により表土除去を試みたが、地表面下5～6mまで攪乱土が続き、遺構・遺物とも確認されなかった。このため調査対象範囲について調査終了地区とした。

## 第3節 宮沢遺跡（第13次調査）

### 1. 遺跡の立地

宮沢遺跡は、志波城跡の外郭東辺から東約1kmに位置し、西に小幡遺跡、南に鬼柳A遺跡、南東に本宮熊堂B遺跡が周囲に位置している。低位沖積段丘上にあり、遺跡の北部は平石川の旧河道と約2mの段差となっており、それ以外は1m弱の比高差がみられ他の遺跡と画されるが、中央部に谷地が入り込む。遺跡の範囲は、東西約200m、南北約230mをはかる（第2図）。

### 2. 調査内容

#### (1) 第13次調査（平成19年度）

今次調査区は、遺跡の北東部に位置し、盛岡南新都市開発整備事業に伴う試掘確認調査として実施した（第2図）。調査対象面積3,270m<sup>2</sup>について重機により、幅約2mの試掘トレンチを3本設定した（調査面積147m<sup>2</sup>）。表土下約0.9mが盛土、約0.4mが黒色粘土層であり、その下に灰色粘土層を検出した。その結果、遺構・遺物とも確認されなかったため、調査対象範囲について調査終了地区とした。



## 第4節 本宮熊堂B遺跡（第32・33次調査）

### 1. 遺跡の立地

本宮熊堂B遺跡は、志波城跡の南東約1.5kmに位置し、北に本宮熊堂A遺跡、南に野古A遺跡、西に稲荷遺跡が位置している。志波城跡や周囲の遺跡と同様に低位沖積段丘上にあり、その北東縁辺部にあたり、遺跡の東側は零石川旧河道に面している。遺跡範囲は東西約620m、南北約380mをはかる（第3図）。

### 2. 調査内容

#### (1) 第32次調査（平成19年度）

今次調査区は、遺跡の北東部に位置し、盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した（第3図）。調査面積は484m<sup>2</sup>（敷地面積560m<sup>2</sup>）。重機により表土を除去し、表土下で遺構検出を行った。調査区の南西隅には砂礫が広がり、自然堤防の一部と考えらる。その北東側には黒色～暗褐色土が大きく広がり、サブトレンチでの立ち上がりや土層の堆積状況から、旧河道と考えられ、磨滅した古代の土器片が数点出土した。

#### a. 遺構と遺物

検出された遺構は、古代以降の溝跡1条（RG145）である（第10図）。

##### ・溝跡

#### RG145（第11図）

位置 調査区東部 重複関係 なし

規模等 幅0.4～0.55m、延長4.7m以上、深さ0.14m、ほぼ南北に走る。

埋土 A1層、B1層（第19表） 出土遺物 なし 時期 古代以降

#### (2) 第33次調査（平成21年度）

今次調査区は、遺跡の北東部に位置し、盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した（第3図）。調査区は第32調査区の北側と西側に隣接し、調査面積は618m<sup>2</sup>。重機により表土を除去し、表土下で遺構検出を行った。表土下の土層の平面的な広がりは第32次調査区と類似しており、調査区の南西部には砂礫が広がり、自然堤防の一部と考えらる。その北東側には黒色～暗褐色土が大きく広がり、サブトレンチでの立ち上がりや土層の堆積状況から、旧河道と考えらる。

#### a. 遺構と遺物

検出された遺構は、古代以降の溝跡1条（RG146）である（第10図）。

##### ・溝跡

#### RG146（第11図）

位置 調査区中央部 重複関係 なし

規模等 幅0.45～0.7m、延長13.7m以上、深さ0.2～0.4m、ほぼ南北に走る。

埋土 A1～7層、B1・2層（第19表） 出土遺物 なし 時期 古代以降

## 第5節 台太郎遺跡（第59～65・67～70次調査）

### 1. 遺跡の立地

台太郎遺跡は、志波城跡の南東約1.2 kmに位置し、西方に飯岡沢田・飯岡才川遺跡、南方に向中野館遺跡が位置している。志波城跡からのびる低位沖積段丘が南に曲がる屈曲点にあたり、幅20～50 m、比高差1 m程度の細かな旧河道によって分断された微高地上に立地している。遺跡範囲は東西約800 m、南北約500 mをはかる（第4図）。

### 2. 調査内容

#### (1) 第59次調査（平成19年度）

今次調査区は、遺跡の西部に位置し、盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した（第4図）。平成11年度（1999）に市教委が実施した第24次調査A区の東側に隣接する。調査面積は1,830 m<sup>2</sup>。重機により表土を除去し、表土下で遺構検出を行った。

#### a. 遺構と遺物

検出された遺構は、古代の竪穴建物跡2棟（RA308・629）、古代以降の掘立柱建物跡2棟（RB066・067）・掘立柱列跡4基（RC008～011）・土坑2基（RD2027・2028）・溝跡12条（RG539～550）・ピットである（第12図）。

#### ・竪穴建物跡

##### RA308（第13図）

**位置** 調査区北西端、第24次調査で遺構西側の大部分を精査済 **平面形** 隅丸方形  
**重複関係** RA309（古、第24次調査） **規模** 東西3.6～4.0 m、南北4.2～4.3 m、深さ0.1～0.17 m  
**カマド方向**（第24次調査） E8.0°S、東カマド、長い煙道（1.2 m）  
**カマド**（第24次調査） 両袖残存、焚口の焼土面あり **埋土**（第59次調査） A1層、B1層（第20表）  
**床の状態**（第24次調査） 床構築土あり、硬化面あり **貯蔵穴**（第59次調査） 1基、土器多く出土  
**出土遺物**（第59次調査） 貯蔵穴より須恵器大甕、土師器甕（砂底）が出土 **時期** 9世紀中葉～後葉か

##### RA629（第14図）

**位置** 調査区北西部 **重複関係** RG539（新） **平面形** 隅丸長方形  
**規模** 南北4.0 m、東西2.95 m、深さ0.12 m **カマド方向** E17.0°N、東カマド、長い煙道（1.0 m）  
**カマド** 両袖なし **埋土** A1層、B1層（第20表） **床の状態** 床構築土なし **柱穴** なし  
**出土遺物**（第106図、第46表） 土師器杯・甕破片、あかやき土器杯・甕破片、土錘（035）、鉄製品（鉄釘）  
**時期** 9世紀中葉～後葉か

#### ・掘立柱建物跡

##### RB066（第15図）

**位置** 調査区北部、RB067の西側に棟方向を揃えて並ぶ **重複関係** RA629（古）、RG546

**構造** 南北桁行2間・東西梁行2間

**規模** 桁行-総長4.5m, 柱間北から2.1m+2.4m 梁行-総長3.6m, 柱間北から1.8m等間

**建物方向** N18.0°W, 南北棟 **掘方** 8基(第1表) **時期** 古代以降

#### RB067 (第15図)

**位置** 調査区北部, RB066の東側に棟方向を揃えて並ぶ **重複関係** なし

**構造** 南北桁行西側柱筋2間・東側柱筋4間, 東西梁行2間の主屋の内部に間仕切りが付く(馬屋か)

**規模** 南北桁行-西側柱筋:総長7.5m, 柱間3.75m等間

東側柱筋:総長7.5m, 柱間北から1.8m+1.95m+1.8m+1.95m

東西梁行-総長4.05m, 柱間西から1.95m+2.1m

**建物方向** N18.0°W, 南北棟 **掘方** 13基(第1表) **時期** 古代以降

#### ・掘立柱列跡

#### RC008 (第15図)

**位置** 調査区北部, RB066の北側にその棟方向に垂直となる桁方向で位置する

**重複関係** RG539 **構造** 東西桁行4間, 掘立柱塀(板塀)

**規模** 桁行-総長8.4m, 柱間西から2.7m+1.8m+1.8m+2.1m **桁方向** W18.0°S, 東西

**掘方** 5基(第1表) **時期** 古代以降

#### RC009 (第18図)

**位置** 調査区中央部 **重複関係** なし **構造** 南北桁行3間, 掘立柱塀(板塀)

**規模** 桁行-総長7.65m, 柱間北から2.4m+2.85m+2.4m **桁方向** N15°W, 南北

**掘方** 4基(第1表) **時期** 古代以降

#### RC010 (第18図)

**位置** 調査区中央部 **重複関係** RC011 **構造** 南北桁行3間, 掘立柱塀(板塀)

**規模** 桁行-総長6.15m, 柱間北から2.25m+2.1m+1.8m **桁方向** N6.5°W, 南北

**掘方** 4基(第1表) **時期** 古代以降

#### RC011 (第18図)

**位置** 調査区中央部 **重複関係** RC010 **構造** 東西桁行2間, 掘立柱塀(板塀)

**規模** 桁行-総長5.4m, 柱間2.7m等間 **桁方向** W9.5°S, 東西 **掘方** 3基(第1表)

**時期** 古代以降

#### ・土坑

#### RD2027 (第16図)

**位置** 調査区北西部 **重複関係** RG545(新) **規模** 長軸2.3m, 短軸2.0m, 深さ0.42m

**埋土** A1層, B1・2層, C1層(第20表)

**出土遺物** 土師器坏・甕破片, 須恵器甕破片, あかやき土器坏破片, 肥前染付磁器湯呑・大堀相馬陶器茶碗  
(18~19世紀)

**時期** 古代以降

#### RD2028 (第16図)

**位置** 調査区南部 **重複関係** なし **規模** 長軸0.95m, 短軸0.7m, 深さ0.32m

**埋土** A1層, B1・2層 (第20表) **出土遺物** なし **時期** 古代以降

・溝跡

#### RG539 (290) (第17・19図)

**位置** 調査区北西部, 第24次調査RG290と同一遺構

**重複関係** RA629 (古), RC008, RG542 (古)・543 (古)

**規模等** 幅0.8~0.9m, 延長22.0m以上, 深さ0.24~0.35m, 西南西から北東に走る。

**埋土** A1層, B1層, C1層, D1層, E1層, F1・2層, G1・2層, H1層 (第20表)

**出土遺物** 土師器坏・甕破片, 須恵器坏・甕破片, あかやき土器坏破片 **時期** 古代以降

#### RG540 (第17・19図)

**位置** 調査区北西部 **重複関係** なし

**規模等** 幅0.33~0.5m, 延長2.84m, 深さ0.1m, 西南西から東北東に走る。

**埋土** A1層, B1層 (第20表) **出土遺物** なし **時期** 古代以降

#### RG541 (第17・19図)

**位置** 調査区北西部 **重複関係** なし

**規模等** 幅0.3~0.48m, 延長3.50m, 深さ0.1m, 西南西から東北東に走る。

**埋土** A1層, B1層 (第20表) **出土遺物** 土師器坏・甕破片, 須恵器坏・甕破片, あかやき土器坏破片

**時期** 古代以降

#### RG542 (289) (第17・19図)

**位置** 調査区北西部, 第24次調査RG289と同一遺構 **重複関係** RG544

**規模等** 幅0.6~1.0m, 延長11.5m以上, 深さ0.15~0.3m, 南西から北東に走る。

**埋土** A1層, B1層, C1層 (第20表)

**出土遺物** 土師器坏・甕破片, 須恵器坏破片, あかやき土器坏破片

**時期** 古代以降

#### RG543 (第17・19図)

**位置** 調査区北西部 **重複関係** RG539 (新)

**規模等** 幅0.5~0.7m, 延長3.7m, 深さ0.15m, 西北西から東南東に走る。

**埋土** A1層 (第20表) **出土遺物** なし **時期** 古代以降

**RG544 (303)** (第17・19図)

**位置** 調査区北西部, 第24次調査RG303と同一遺構 **重複関係** RG542・548

**規模等** 幅0.5~0.7m, 延長7.4m以上, 深さ0.15m, 西北西から東南東に走る。

**埋土** A1層・B1層(第20表) **出土遺物** 須恵器甕破片 **時期** 古代以降

**RG545** (第17・19図)

**位置** 調査区北西部 **重複関係** RD2027(古), RG546・547・548

**規模等** 幅0.6~0.95m, 延長16.3m以上, 深さ0.1~0.2m, 西北西から東南東に走る。

**埋土** C1層・D1層(第20表)

**出土遺物** 土師器環・甕破片, 須恵器環・甕破片, あかやき土器環・高台付環破片, 肥前染付磁器皿・国産  
染付磁器碗(18~19世紀)

**時期** 古代以降

**RG546** (第17・19図)

**位置** 調査区北西部 **重複関係** RG545・547・548

**規模等** 幅0.6~0.9m, 延長14.8m, 深さ0.15~0.2m, 南西から北東に走る。

**埋土** A1層・B1層(第20表) **出土遺物** 土師器環・甕破片, 須恵器環・甕破片, あかやき土器環破片

**時期** 古代以降

**RG547** (第17・19図)

**位置** 調査区北西部 **重複関係** RG545・546

**規模等** 幅0.4~0.6m, 延長7.3m, 深さ0.12m, 北北西から南南東に走る。

**埋土** A1層・B1層(第20表) **出土遺物** 土師器環・あかやき土器環破片 **時期** 古代以降

**RG548** (第17・19図)

**位置** 調査区北西部 **重複関係** RG545・546

**規模等** 幅0.4~0.6m, 延長7.3m, 深さ0.12m, 北北西から南南東に走る。

**埋土** A1層・B1層(第20表) **出土遺物** あかやき土器環破片

**時期** 古代以降

**RG549** (第18・19図)

**位置** 調査区中央部 **重複関係** なし

**規模等** 幅0.35~0.6m, 延長7.2m, 深さ0.1m, ほぼ東西に走る。

**埋土** A1層(第20表) **出土遺物** なし **時期** 古代以降

**RG550** (第19図)

**位置** 調査区南部 **重複関係** なし

規模等 幅 0.5～0.8 m、延長 22.3 m 以上、深さ 0.2～0.35 m、ほぼ東西に湾曲しながら走る。

埋土 A1・2層・B1層 (第20表) 出土遺物 須恵器甕・あかやき土器破片 時期 古代以降

#### ・ピット

調査区内に古代以降のピット 30 口を検出した (第17・18・20図)。各ピットの規模は第8表のとおりである。一部のピットの埋土より、土師器・あかやき土器破片が少量出土している。

#### ・遺構外

遺構外の表土直下等より、下記の資料及び肥前京焼風陶器茶碗 (18～19世紀) が出土している。

弥生土器 (第123図、第54表)

高坏、甕の破片が出土しており、201～205が弥生前期・砂沢式期、207～209は附加条縄文が施されており弥生後期・赤穴式期の年代が考えられる。

古代土器 (第106図、第45表)

土師器坏・甕・鉢、須恵器坏・大甕・長頸瓶、あかやき土器坏 (034) の破片が出土している。

近世古銭 (第125図、第55表)

「寛永通寶」(301) が出土しており、背に11の波がある四文銭 (新寛永、明和六年 (1769) 以降) である。

### (2) 第60次調査 (平成19年度)

今次調査区は、遺跡の南東部に位置し、盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した (第4図)。調査面積は791 m<sup>2</sup> (対象面積1,287 m<sup>2</sup>)。重機により表土を除去し、表土下約1.3 mの褐色シルト層・砂礫層上面で遺構検出を行った。

#### a. 遺構と遺物

検出された遺構は、古代以降の土坑4基 (RD2029～2032)、ピットである (第21図)。出土遺物は、遺構外から土師器破片1点のみであった。

#### ・土坑

RD2029 (第21・22図)

位置 調査区北部 重複関係 なし 平面形 不整楕円形

規模 長軸4.1 m、短軸3.1 m、深さ0.68 m

埋土 A1・2層、B1～3層、C1・2層、D1層 (第21表) 出土遺物 なし 時期 古代以降

RD2030 (第21・22図)

位置 調査区中央部 重複関係 なし 平面形 溝状 規模 長さ2.1 m、幅0.6 m、深さ0.24 m

埋土 A1層、B1層、C1層 (第21表) 出土遺物 なし 時期 古代以降

RD2031 (第21・22図)

位置 調査区中央部 重複関係 なし 平面形 不整楕円形

規模 長軸 1.3 m, 短軸 0.9 m, 深さ 0.2 m

埋土 A1・2層 (第21表) 出土遺物 なし 時期 古代以降

#### RD2032 (第21・22図)

位置 調査区南部 重複関係 なし 平面形 不整楕円形

規模 長軸 1.7 m, 短軸 1.5 m, 深さ 0.95 m

埋土 A1～5層, B1～3層, C1～5層 (第21表) 出土遺物 なし 時期 古代以降

#### ・ピット

調査区内に古代以降のピット 64 口を検出した (第21・22図)。各ピットの規模は第9表のとおりである。

### (3) 第61次調査 (平成19年度)

今次調査区は、遺跡の中央部に位置し、盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した (第4図)。調査面積は 610 m<sup>2</sup>。重機により表土を除去し、表土下約 0.4～0.6 m の褐色シルト層・砂礫層上面で遺構検出を行った。

#### a. 遺構と遺物

検出された遺構は、古代の竪穴建物跡 1 棟 (RA630) の一部、古代以降の土坑 4 基 (RD2033～2036)・ピットである (第23図)。なお、調査区北西部に検出した RA630 は、平成20年度の第63次調査において竪穴建物跡の大部分を精査していることから、後述することとする。

#### ・土坑

#### RD2033 (第24図)

位置 調査区中央部 重複関係 なし 平面形 溝状

規模 長さ 2.0 m, 幅 0.35～0.45 m, 深さ 0.4 m

埋土 A1・2層, B1・2層 (第22表) 出土遺物 土師器甕破片 時期 古代以降

#### RD2034 (第25図)

位置 調査区南部 重複関係 なし 平面形 大型不整楕円形 (ため池状)

規模 長軸 10.8 m, 短軸 6.0 m, 深さ 0.8～1.0 m

埋土 新时期: A1～6層, B1～7層 古期: C1～8層, D1～8層 (第22表)

出土遺物 土師器坏・甕破片, あかやき土器坏破片, 鉄釘 時期 古代以降

#### RD2035 (第24図)

位置 調査区中央部 重複関係 なし 平面形 長楕円形

規模 長軸 1.63 m, 短軸 0.75 m, 深さ 0.5 m

埋土 A1層, B1層 (第22表) 出土遺物 土師器甕破片 時期 古代以降

#### RD2036 (第24図)

位置 調査区中央部 重複関係 なし 平面形 不整楕円形

規模 長軸2.6m, 短軸2.1m, 深さ0.2m

埋土 A1層, B1層(第22表) 出土遺物 土師器甕破片 時期 古代以降

##### ・ピット

調査区内に古代以降のピット2口を検出した(第25図)。各ピットの規模は第10表のとおりである。

#### (4) 第62次調査(平成20年度)

今次調査区は、遺跡の南東部に位置し、盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した(第4図)。調査面積は862m<sup>2</sup>。重機により表土を除去し、表土下約1.3~2.0mの粘土質層上面で遺構検出を行った。

##### a. 遺構と遺物

検出された遺構は、中世以降の土坑1基(RD2037)、ピットである(第26図)。

##### ・土坑

#### RD2037 (第27図)

位置 調査区北部 重複関係 なし 平面形 不整楕円形 出土遺物 なし

規模 長軸1.35m, 短軸1.05m, 深さ0.5m 埋土 A1層, B1層 時期 中世以降か

##### ・ピット

調査区内に中世以降のピット66口を検出した(第26・27図)。各ピットの規模は第11表のとおりである。2口のピットの埋土上層より古銭(第126図302・303, 第55表)が出土しており、北宋銭であることから中世以降の年代が考えられる。

#### (5) 第63次調査(平成20年度)

今次調査区は、遺跡の中央部に位置し、盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した(第4図)。後述する第68次調査区の西側に隣接する(第33図)。調査面積は1,830m<sup>2</sup>。重機により表土を除去し、表土下約1.3~2.0mの褐色シルト層上面で遺構検出を行った。

##### a. 遺構と遺物

検出された遺構は、古代の竪穴建物跡2棟(RA630・631)・竪穴状遺構1基(RE074)、中世の掘立柱列跡1基(RC008)・堀跡1条(RG264)・溝跡4条(RG551~553)、近世の土坑4基(RD2038~2041)、ピットである(第34・35図)。

##### ・竪穴建物跡

#### RA630 (第36・37・38図)

位置 調査区南西部, 第61次調査で遺構南端の一部を精査済み 重複関係 なし



**平面形** 隅丸方形 **規模** 北西-南東7.1m, 北東-南西8.05m, 深さ0.25~0.36m  
**カマド方向** N43.0°W, 北西カマド, 長い煙道(1.85m), 煙道底面が煙出しに向かって一段下がる  
**カマド** 両袖残存, 焚口の焼土面あり  
**埋土** A1~3層, A1・2層, B1~3層, C1~7層, D1~4層, E1・2層, F1層, J1~10層, K1・2層, L1層(第23表), A2・3層に十和田a火山灰が混じる  
**床面** 硬化面あり, カマド付近はより硬化した面あり, 硬化面東半部と重複して粘土の貼床あり, 四辺に周溝が巡る, 床面東部・北部・南部に炭化材の集中あり, 床面北部より土器がまとも出土  
**柱穴** 主柱穴4基(第2表), ビット4口  
**出土遺物**(第107・109図, 第45・46表) 土師器非ロクロ坏(036)・甕(037)・球胴甕(038), あかやき土器坏・甕破片, 勾玉(046)  
**時期** 8世紀後葉~9世紀前葉

#### RA631(第39図)

**位置** 調査区北西部 **重複関係** なし **平面形** 隅丸方形  
**規模** 東西3.65~3.75m, 南北4.05m, 深さ0.2~0.3m  
**カマド方向** E19.0°S, 東カマド, 長い煙道(トンネル状, 1.4m), 煙道底面が煙出しに向かってスロープ状に下がる  
**カマド** 両袖残存, 焚口の焼土面あり  
**埋土** A1~4層, B1・2層, C1~3層, D1層, J1~8層, J1~3層, K1・2層, L1・2層(第23・24表)  
**床面** 床構土あり **柱穴** ビット2口  
**出土遺物**(第107・109図, 第45・46表) 土師器非ロクロ坏破片・甕(040)・鋸歯状沈線文甕(039), 石製紡錘車(045)  
**時期** 8世紀中葉~後葉

#### ・竪穴状遺構

#### RE074(第40図)

**位置** 調査区南東部 **重複関係** なし **平面形** 隅丸方形か  
**規模** 東西2.9~3.0m, 東西2.7m以上, 深さ0.2~0.25m **埋土** A1・2層, B1~3層(第24表)  
**出土遺物**(第108図, 第45表) 土師器坏(041・042)・甕破片, 須恵器坏・大甕・長頸瓶破片, あかやき土器坏・甕破片, 鉄製品(釘・刀子)  
**時期** 9世紀中葉~後葉

#### ・掘立柱列跡

#### RC008(第40図)

**位置** 調査区南西部 **重複関係** なし **構造** 東西桁行2間  
**桁行方向** E13.0°N **掘方** 3基(第2表)  
**時期** 中世

・堀跡

**RG264** (第41・42図)

**位置** 調査区南西部 **重複関係** RD2039~2041 (新)

**規模等** 調査区東方の県埋文センター第23次調査区から連続する。幅3.9~4.8m, 延長35.7m以上(調査区外)。検出面からの深さ1.2~1.6m, 西端で北に屈曲しており西南西から東北東に走る。

**埋土** A層, B層, C層, D層

**出土遺物** (第108図, 第45表) 土師器坏破片・甕(043), 須恵器坏・大甕破片, あかやき土器坏・甕破片, 瓷器系陶器捏鉢(044, 中世), 肥前染付皿・碗・瓶子(18~19世紀), 古銭破片

**時期** 中世

・溝跡

**RG195** (第43図)

**位置** 調査区西部中央 **重複関係** なし

**規模等** 調査区西方の県埋文センター第18次調査区から連続する。幅0.35~0.55m, 延長8.55m以上, 検出面からの深さ0.08~0.12m, やや南へ湾曲しながら東西方向に走る。

**埋土** A1層(第24表) **出土遺物** なし **時期** 中世

**RG551** (第43図)

**位置** 調査区西部中央 **重複関係** なし

**規模等** 幅0.5~0.6m, 延長1.4m以上, 検出面からの深さ0.1m, 南西から北東に走る。

**埋土** B1層, C1層(第24表) **出土遺物** なし **時期** 中世

**RG552** (第43図)

**位置** 調査区西部中央 **重複関係** なし

**規模等** 幅0.42~0.6m, 延長2.05m以上, 検出面からの深さ0.12m, 東西方向に走る。

**埋土** D1層, E1層(第24表) **出土遺物** なし **時期** 中世

**RG553** (第43図)

**位置** 調査区西部中央 **重複関係** なし

**規模等** 幅0.45~0.6m, 延長2.5m以上, 深さ0.1~0.18m, 北西から南東に走る。

**埋土** F1層, G1・2層(第24表) **出土遺物** なし **時期** 中世

・土坑

**RD2038** (第40図)

**位置** 調査区西部中央 **重複関係** なし **平面形** 不整形円形

**規模** 長軸1.23m, 短軸1.0m, 深さ0.2~0.31m **埋土** A1層, B1層, C1層(第24表)

**出土遺物** 土師器甕破片 **時期** 近世

#### RD2039 (第35図)

**位置** 調査区南東端 **重複関係** RG264 (新) **平面形** 不整楕円形  
**規模** 長軸1.02m, 短軸0.7m, 深さ0.16m **埋土** A1・2層 (第24表), 人為堆積 (土坑墓)  
**出土遺物** (第127図, 第55表) 土師器坏破片, 古銭「寛永通寶」(304~318), 鉄製品 (釘), 人骨片  
**時期** 近世

#### RD2040 (第35図)

**位置** 調査区南東端 **重複関係** RG264 (新) **平面形** 不整楕円形  
**規模** 長軸0.93m, 短軸0.58m, 深さ0.15m **埋土** A1・2層 (第24表), 人為堆積 (土坑墓)  
**出土遺物** 古銭破片, 人骨片 **時期** 近世

#### RD2041 (第35図)

**位置** 調査区南東端 **重複関係** RG264 (新) **平面形** 不整楕円形  
**規模** 長軸0.7m, 短軸0.45m, 深さ0.15m **埋土** A1・2層 (第24表), 人為堆積 (土坑墓)  
**出土遺物** (第127図, 第55表) 古銭「寛永通寶」(319~323), キセル破片, 木片, 人骨片 **時期** 近世

#### ・ピット

調査区内に古代以降のピット24口を検出した(第42・43図)。各ピットの規模は第12表のとおりである。埋土より土師器坏・甕の破片, 肥前染付徳利の破片などが出土している。

#### ・遺構外

表土直下遺構外などより, 縄文時代晚期土器破片, 古代土器破片, 肥前染付皿・大皿の破片 (18~19世紀), 古銭「寛永通寶」(第127図324, 第55表) が出土している。

#### (6) 第64次調査 (平成20年度)

今次調査区は, 遺跡の中央部に位置し, 盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した (第4図)。調査面積は621m<sup>2</sup>。重機により表土を除去し, 表土下約1.5~2.0mの褐色シルト層上面で遺構検出を行った。

#### a. 遺構と遺物

検出された遺構は, 古代以降の土坑1基 (RD2042) である (第28図)。

#### ・土坑

#### RD2042 (第28図)

**位置** 調査区西部 **重複関係** なし **平面形** 不整楕円形  
**規模** 長軸1.1m, 短軸0.7m, 深さ0.15m  
**埋土** A1層 **出土遺物** 土師器甕破片 **時期** 古代以降

#### (7) 第65次調査(平成21年度)

今次調査区は、遺跡の南東部に位置し、盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した(第4図)。調査面積は330m<sup>2</sup>。重機により表土除去を試みたが、地表面下1.5~1.6mまで砂礫土と攪乱土が続き、遺構・遺物とも確認されなかった。このため調査対象範囲について調査終了地区とした。

#### (8) 第67次調査(平成21年度)

今次調査区は、遺跡の北西部に位置し、盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した(第4図)。調査面積は856m<sup>2</sup>。重機により表土を除去し、表土下で遺構検出を行った。

##### a. 遺構と遺物

検出された遺構は、古代の竪穴建物跡2棟(RA637・638)・土坑2基(RD2125・2126)・溝跡1条(RG596)、古代以降のピットである(第29図)。

##### ・竪穴建物跡

###### RA637(第30図)

位置 調査区北東部 重複関係 RA638(古) 平面形 隅丸方形

規模 南北4.65~4.8m, 東西4.05~4.5m, 深さ0.05m

カマド方向 S11.5°W, 南カマド, 長い煙道(1.37m), 煙道底面が煙出しに向かって下がるように傾斜

カマド 両袖残存, 焚口の焼土面あり, 付近に礫・土器が集中して出土

床の状態 南辺東部と西辺南部に周溝あり, 床構築土あり 貯蔵穴 1基(P1)

柱穴 ビット3口 埋土 A1層, B1層, C1~7層, D1層, K1~4層, L1層(第25表)

出土遺物(第110図, 第47表) 土師器坏(047~049)・甕, 須恵器坏, あかやき土器坏(050・051)・甕(052)

時期 9世紀中葉

###### RA638(第31図)

位置 調査区北東部 重複関係 RA637(新) 平面形 隅丸方形

規模 北西-南東3.7m, 南西-北東3.9~4.25m, 深さ0.3m

カマド方向 W40.0°N, 北西カマド, 長い煙道(0.85m), トンネル状, 煙道底面が煙出しに向かって傾斜

カマド 両袖なし, 焚口の焼土面あり 床の状態 床構築土なし

柱穴 主柱穴3基(第3表), ビット9口 埋土 A1~3層, B1~3層, C1~4層, J1~2層(第25表)

出土遺物(第110図, 第47表) 土師器坏(053)・甕, 須恵器坏・大甕破片, あかやき土器坏(054・055), 鉄製品(刀子)

時期 9世紀中葉

##### ・土坑

###### RD2125(第30図)

位置 調査区北東部 重複関係 なし 平面形 不整楕円形

規模 長軸1.3m, 短軸0.95m, 深さ0.3m 埋土 A1・2層, B1層(第25表)

出土遺物 なし 時期 古代

#### RD2126 (第32図)

位置 調査区西部 重複関係 なし 平面形 不整形円形

規模 長軸1.4m, 短軸1.2m, 深さ0.28m 埋土 A1~3層 (第25表)

出土遺物 あかやき土器破片 時期 古代

#### ・溝跡

#### RG596 (第32図)

位置 調査区中央部 重複関係 なし

規模等 幅0.2~0.55m, 延長6.75m, 深さ0.05~0.25m, 北西から南東に走る。

埋土 A1・2層, B1層 出土遺物 土師器環・甕破片, 須恵器環・大甕破片, あかやき土器破片

時期 古代

#### ・ピット

調査区内に古代以降のピット9口を検出した (第32図)。各ピットの規模は第14表のとおりである。

#### ・弥生土器

遺構埋土・遺構外から、甕の破片が比較的多く出土している (第124図, 第54表)。折返し口縁, 沈線文, 附加条縄文などの特徴から弥生後期・赤穴式期の年代が考えられる。

#### (9) 第68次調査 (平成21年度)

今次調査区は、遺跡の中央部に位置し、盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した (第4図)。調査面積は1,234 m<sup>2</sup>。重機により表土を除去し、表土下で遺構検出を行った。

#### a. 遺構と遺物

検出された遺構は、古代の竪穴建物跡13棟 (RA568・573・574・577・639~647)・竪穴状遺構3基 (RE078~080)・土坑10基 (RD2127~2136)・方形周溝1基 (RG597)・溝跡3条 (RG475・598・599)・中世の堀跡2条 (RG042・424)、ピットである (第44図)。

#### ・竪穴建物跡

#### RA568 (第45図)

位置 調査区北東端, 第45次調査で北側約2/3を精査済 重複関係 なし

平面形 隅丸方形 規模 東西3.7m, 南北4.25m, 深さ0.05m

カマド方向 (第45次) W4.0°N, 西カマド, 長い煙道 (1.4m)

カマド (第45次) 両袖残存, 焚口の焼土面あり

床の状態 (第45次) 北西部に硬化面あり, 床構築土あり 柱穴 ピット1口

埋土 A1層, L1層 (第26表) 出土遺物 土師器甕破片 時期 9世紀代

#### RA573 (第46図)

**位置** 調査区南東部, 第45次調査で東側約2/3を精査済

**重複関係** RA574(古), RD1091(新)・1092(新)・1097(新), RG477(新)

**平面形** 少し歪んだ隅丸方形 **規模** 北東-南西3.6m, 北西-南東3.15m, 深さ0.2m

**カマド方向** 不明, 袖・焼土面なし(北東カマドか?) **床の状態** 床構築土あり **柱穴** ビット4口

**埋土**(第45次調査) 3層に大別される

A層: 黒褐色・暗褐色土主体。褐色・黄褐色シルトを粉～粒状に含む。A1層に十和田a火山灰が少し混じり, A2層に炭化物が少し混じる。

B層: 黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含み, 炭化物・焼土が少し混じる。

L層: 床構築土。黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含み, 炭化物・焼土が少し混じる。

**出土遺物**(第68次, 第111図, 第48表) 土師器坏破片・甕(064), 須恵器坏・壺破片, あかやき土器坏破片

**時期** 9世紀中葉～後葉

#### RA574 (第47図)

**位置** 調査区南東部, 第45次調査で東側の一部を精査済 **重複関係** RA573(新)

**平面形** 少し歪んだ隅丸方形 **規模** 北西-南東4.0m, 北東-南西4.7m, 深さ0.23～0.3m

**カマド方向** カマドa(新): S26.5°W, 南西カマド, 長い煙道(トンネル状, 1.32m), 煙道底面が煙出しに向かってスロープ状に下がる

カマドb(古): W29.5°N, 北西カマド, 長い煙道(1.43m), 煙道底面が煙出しに向かってスロープ状に下がる

**カマド** カマドa(新): 袖残存せず, 焚口の焼土面あり, 焼土面付近より礫がまとまって出土(袖芯材か)  
カマドb(古): 左袖の一部が残存, 焼土面なし

**床の状態** 床構築土なし **柱穴** ビット1口

**埋土** A1～3層, J1～11層, J'1～12層, K1～3層(第26表), J2層に十和田a火山灰が少し混じる

**出土遺物**(第111図, 第48表) 土師器坏(056)・甕(062・063), 須恵器坏(057～060)・壺(061)・甕破片, あかやき坏破片, 鉄滓

**時期** 9世紀前葉～中葉

#### RA577 (第46図)

**位置** 調査区南東部, 第45次調査で煙道部分を精査済 **重複関係** なし

**平面形** 隅丸方形 **規模** 東西2.3m, 南北2.95m, 深さ0.1～0.2m

**カマド方向**(第45次) E25°S, 東カマド, 長い煙道(1.05m) **柱穴** なし

**埋土**(第68次) A1～2層, B1～3層, C1～3層(第26表), A1層に十和田a火山灰が多く混じる

**出土遺物**(第111図, 第48表) 土師器坏(065)・甕破片, 須恵器坏・長頸瓶破片, あかやき土器坏(066, 刻書土器「×」)・甕破片

**時期** 10世紀前葉

**RA639** (第48図)

**位置** 調査区南東部 **重複関係** RA640(古), RA574, RE078(古)

**平面形** 隅丸方形 **規模** 北東-南西3.54~3.73m, 北西-南東2.95~3.1m, 深さ0.15m

**カマド方向** W25.0°S, 南西カマド, 長い煙道(トンネル状, 1.25m), 煙道底面が煙出しに向かってスロープ状に大きく下がる

**カマド** 袖残存せず, 焚口の焼土面あり **床の状態** 床構築土なし **柱穴** ビット3口

**埋土** A1・2層, B1~3層, C1~7層, J1層(第26表)

**出土遺物**(第112図, 第48表) 土師器坏破片・甕(071), 須恵器坏(067~069)・壺(070)・長頸瓶破片, あかやき土器坏破片, 墨書土器「子?」(069)

**時期** 9世紀中葉

**RA640** (第49図)

**位置** 調査区南東部 **重複関係** RA639(新) **平面形** 少し歪んだ隅丸方形

**規模** 北西-南東3.1m, 北東-南西3.4~3.7m, 深さ0.15~0.25m

**カマド方向** N39.0°W, 北西カマド, 長い煙道(トンネル状, 1.45m), 煙道底面が一段低くなっている

**カマド** 袖残存せず, 焚口の焼土面あり, 煙道付近より礫が出土(芯材か) **床の状態** 床構築土なし

**柱穴** ビット1口 **埋土** A1層, B1・2層, C1・2層, D1・2層, J1~10層(第27表)

**出土遺物**(第112図, 第48表) 土師器坏(074~077)・甕破片, 須恵器坏(072・073), あかやき土器坏・甕破片, 墨書土器「木?」(072)

**時期** 9世紀中葉

**RA641** (第50図)

**位置** 調査区西部中央 **重複関係** RE079(古) **平面形** 隅丸長方形

**規模** 東西3.05~3.2m, 南北3.6~3.8m, 深さ0.1~0.15m

**カマド方向** E19.5°N, 東カマド, 長い煙道(1.37m), 煙道底面が煙出しに向かって少し下がる

**カマド** 袖残存せず, 焼土面なし **床の状態** 床構築土なし **柱穴** なし

**埋土** A1・2層, B1・2層, C1層, D1・2層(第27表), A1層に十和田a火山灰が少し混じる

**出土遺物**(第113図, 第48表) 土師器坏(078)・甕破片, 須恵器坏破片, あかやき土器坏(079)・甕破片, 土製品(フイゴ羽口)破片

**時期** 10世紀前葉

**RA642** (第51図)

**位置** 調査区中央部 **重複関係** なし **平面形** 隅丸方形

**規模** 北東-南西3.5~3.6m, 北西-南東3.6m, 深さ0.25~0.3m

**カマド方向** N28.0°E, 北東カマド, 長い煙道(1.13m), 煙道底面が一段下がる

**カマド** 両袖残存, 焚口の焼土面あり

**床の状態** 床構築土なし, カマド袖付近より土器が多く出土

**柱穴** ビット2口 **埋土** A1層, B1~3層, D1~10層, J1~5層, K1~3層(第27表)

**出土遺物** (第113・114・118図, 第48・50表) 土師器非口クロ環(080~082)・甕(086~089)・小型甕(083)・球胴甕(084・085), 須恵器環・甕・壺破片, あかやき土器破片, 土製品(紡錘車:111), 石製品(基石)

**時期** 8世紀後葉~9世紀前葉

#### RA643 (第52図)

**位置** 調査区南西部 **重複関係** なし **平面形** 隅丸方形か

**規模** 3.9m以上, 南北0.5m以上, 深さ0.1m

**カマド方向** W35°S, 西カマド, 長い煙道(1.15m), 煙道底面が一段低い

**カマド** 袖残存せず, 焼土面なし **床の状態** 床構築土なし **柱穴** なし

**埋土** A1・2層, B1層, C1~3層, J1~3層(第28表)

**出土遺物** (第115図, 第48表) 土師器環・甕破片, 須恵器壺(091)・大甕破片, あかやき土器環(090)・甕破片

**時期** 9世紀中葉~後葉

#### RA644 (第53図)

**位置** 調査区南西部 **重複関係** RA645(古) **平面形** 不整隅丸方形

**規模** 東西3.1~3.25m, 南北3.0m, 深さ0.13~0.17m

**カマド方向** E110°S, 東カマド, 長い煙道(1.15m), 煙道底面が煙出しに向かって下がる

**カマド** 袖残存せず, 焼土面なし **床の状態** 床構築土なし, 2箇所に焼土面(地焼印か)あり

**埋土** A1・2層, B1・2層, C1・2層, D1~10層(第28表), A1・2層に十和田a火山灰が混じる

**出土遺物** (第115図, 第48表) 土師器環・甕破片・高台付坏(092, 灯明皿か), 須恵器環(093, 094)・壺・大甕破片, あかやき土器環・甕破片

**時期** 9世紀中葉~後葉

#### RA645 (第54図)

**位置** 調査区南西部 **重複関係** RA644(新) **平面形** 隅丸方形か

**規模** 南北約4.4m, 東西4.5m, 深さ0.1~0.15m

**カマド方向** N150°E, 北カマド, 長い煙道(0.8m) **カマド** 袖残存せず, 焚口の焼土面あり

**床の状態** 床構築土なし **柱穴** 主柱穴2基, ビット1口 **埋土** A1層, B1層, J1~3層(第28表)

**出土遺物** (第115図, 第48表) 土師器環(095~097)・鉢(098)・甕破片, 須恵器環破片, あかやき土器環・甕破片

**時期** 9世紀中葉

#### RA646 (第52図)

**位置** 調査区南西部 **重複関係** RG264(新) **平面形** 隅丸方形か

**規模** 南北4.17m, 東西2.1m以上, 深さ0.35~0.38m

**カマド方向** 不明 **床の状態** 床構築土なし



柱穴 なし 埋土 A1・2層, B1層(第28表), A1層に十和田a火山灰が混じる

出土遺物(第116図, 第48表) 土師器環(099・100)・甕(102)・鉢(103), 須恵器環・壺・甕破片, あかやき土器環(101)・甕破片, 墨書土器「|」(099)

時期 9世紀中葉

#### RA647(第53図)

位置 調査区南西部 重複関係 RG264(新) 平面形 隅丸方形か

規模 北西-南東2.5m以上, 北東-南西2.4m以上, 深さ0.15m

カマド方向 不明 床の状態 床構築土なし

柱穴 なし 埋土 A1・2層(第28表)

出土遺物(第116図, 第48表) 土師器環・甕破片, あかやき土器環(104)

時期 9世紀中葉~後葉

#### ・竪穴状遺構

#### RE078(第55図)

位置 調査区南東部 重複関係 RA639 平面形 不整隅丸長方形

規模 東西2.1~2.4m, 南北1.65~0.75m, 深さ0.1m 埋土 A1・2層(第28表)

出土遺物 土師器非ロクロ環・球胴甕破片, 土師器環・甕破片, 須恵器環破片, あかやき土器環破片

時期 古代

#### RE079(第50図)

位置 調査区西部中央 重複関係 RA641(新) 平面形 隅丸方形

規模 東西1.9m, 南北2.05m 深さ0.1m 埋土 A1層(第28表)

出土遺物 土師器甕破片, 須恵器環破片, あかやき土器環破片 時期 古代

#### RE080(第55図)

位置 調査区南部中央 重複関係 RD2134(古) 平面形 隅丸方形

規模 東西2.2m, 南北1.95m, 深さ0.06~0.1m 埋土 A1層(第28表)

出土遺物(第116図, 第49表) 土師器非ロクロ環破片, 土師器高台付環(105)・環・甕破片, 須恵器大甕(106)・甕破片, あかやき土器環・甕破片

時期 9世紀中葉~後葉

#### ・土坑

#### RD2127(第56図)

位置 調査区北東部 重複関係 なし 平面形 隅丸長方形

規模 北東-南西1.4m, 北西-南東0.6m, 深さ0.1m 埋土 A1層(第28表)

出土遺物 土師器非ロクロ環・球胴甕破片, 土師器ロクロ環破片, 須恵器環破片, あかやき土器環破片

時期 古代

**RD2128** (第56図)

**位置** 調査区北東部 **重複関係** ビット **平面形** 不整楕円形  
**規模** 長軸1.35 m, 短軸0.85 m, 深さ0.1 m **埋土** A1層(第28表)  
**出土遺物** 土師器甕破片 **時期** 古代

**RD2129** (第56図)

**位置** 調査区北東部 **重複関係** なし **平面形** 不整楕円形  
**規模** 長軸1.4 m, 短軸0.85 m, 深さ0.57 m **埋土** A1層, B1・2層(第28表)  
**出土遺物** なし **時期** 古代

**RD2130** (第56図)

**位置** 調査区東部中央 **重複関係** なし **平面形** 隅丸長方形  
**規模** 北西-南東2.0 m, 北東-南西1.2~1.4 m, 深さ0.24~0.3 m  
**埋土** A1・2層, B1層, C1・2層, D1層(第28表)  
**出土遺物** 土師器甕・球刷甕破片, あかやき土器坏破片 **時期** 古代

**RD2131** (第56図)

**位置** 調査区南東部 **重複関係** なし **平面形** 不整円形  
**規模** 径1.55~1.7 m, 深さ0.63 m **埋土** A1・2層, B1~3層, C1・2層(第29表)  
**出土遺物** 土師器坏・甕破片, 須恵器坏・壺破片, あかやき土器坏破片 **時期** 古代

**RD2132** (第56図)

**位置** 調査区西部中央 **重複関係** なし **平面形** 小判形  
**規模** 長軸1.5 m, 短軸0.9 m, 深さ1.2 m **埋土** A1・2層(第29表)  
**出土遺物** なし **時期** 古代

**RD2133** (第57図)

**位置** 調査区南西部 **重複関係** なし **平面形** 不整方形か  
**規模** 一辺2.2~2.3 m, 深さ0.38 m **埋土** A1~3層, B1層, C1層(第29表)  
**出土遺物** 土師器甕破片, 須恵器坏・大甕破片, あかやき土器坏破片 **時期** 古代

**RD2134** (第57図)

**位置** 調査区南部中央 **重複関係** RE080(新) **平面形** 不整方形  
**規模** 一辺2.5~2.6 m, 深さ0.3~0.35 m **埋土** A1・2層, B1・2層(第29表)  
**出土遺物** 土師器坏・甕破片, 須恵器坏破片, あかやき土器坏・甕破片  
**時期** 古代

**RD2135** (第57図)

**位置** 調査区南西部 **重複関係** なし **平面形** 不整円形

**規模** 径1.5~1.7 m, 深さ0.45 m **埋土** A1~3層

**出土遺物** 土師器坏・甕破片, あかやき土器坏破片, 鉄製品(刀子か) **時期** 古代

**RD2136** (第57図)

**位置** 調査区南西部 **重複関係** なし **平面形** 不整楕円形

**規模** 長軸1.95 m, 短軸0.85 m以上, 深さ0.06~0.1 m

**埋土** A1層, B1層, C1・2層(第29表)

**出土遺物** なし **時期** 古代

・方形周溝

**RG597** (第61図)

**位置** 調査区中央部 **重複関係** なし

**規模等** 東西9.0~10.5 m, 南北7.1 m以上, 溝幅1.0~1.8 m, 深さ0.2~0.35 m

**埋土** A1層, B1・2層(第29表)

**出土遺物** 土師器非ロクロ坏破片, 土師器ロクロ坏・高台付坏破片, 土師器甕破片, 須恵器坏・壺・大甕破片, あかやき土器坏破片, 甕器系陶器(13~14世紀)

**時期** 古代

・溝跡

**RG474** (第62図)

**位置** 調査区西部中央 **重複関係** RG424(新)

**規模等** 調査区東に隣接する第45次調査区から連続する。幅0.7~0.8 m, 延長8.0 m, 深さ0.15~0.2 m, 北西から南東に走る

**埋土** A1・2層 **出土遺物** 土師器坏・甕破片, あかやき土器坏破片 **時期** 古代

**RG598** (第61図)

**位置** 調査区南西部 **重複関係** ビット

**規模等** 幅0.45~1.2 m, 延長4.5 m, 深さ0.1 m, ほほ東西に走る **埋土** A1層

**出土遺物**(第117図, 第49表) 土師器坏(108)・甕破片, 須恵器壺(109・110)・坏・甕・大甕破片, あかやき土器坏・高台付坏・甕破片ほか

**時期** 古代

**RG599** (第58図)

**位置** 調査区南西部 **重複関係** RG264(新)

**規模等** 幅0.8 m, 延長3.7 m以上, 深さ0.1~0.15 m, 北東から南西に走る

**埋土** A1層(第29表) **出土遺物** なし **時期** 古代

#### ・堀跡

##### RG042 (第59・63図)

**位置** 調査区西部 **重複関係** RA645 (古)・646 (古)・647 (古), RG599 (古)

**規模等** 調査区北に隣接の第45次調査区から連続し、南の第63次調査区で屈曲してRG264堀跡に続く。

幅4.2～5.2m, 延長44.0m以上, 深さ1.5～1.75m, 北北西から南南東に走る。

**埋土** A1・2層, B1～6層, C1～8層, D1～6層

**出土遺物** (第117図, 第49表) 土師器鉢(107)・坏・甕破片, 須恵器坏・壺・大甕破片, あかやき土器坏破片, 越前甕・瓷器系陶器(13～14世紀), 瀬戸美濃摺鉢・肥前染付皿(18～19世紀)

**時期** 中世(13～14世紀)

##### RG424 (第58図)

**位置** 調査区北東部 **重複関係** RG474 (古)

**規模等** 調査区東に隣接の第45次調査区から連続する。幅3.6～3.9m, 延長6.5m以上, 深さ0.93m, 東北東から西南西に走る。

**埋土** A1・2層, B1・2層, C1層, D1～4層, E1～3層, F1層(第29表)

**出土遺物** なし **時期** 中世(13～14世紀)

#### ・ピット

調査区内に古代以降のピット112口を検出した(第58・60～63図)。各ピットの規模は第13表のとおりである。

#### ・遺構外

遺構外表土直下などから、縄文時代晩期土器破片・石器剥片、古代土器破片のほか、下記の資料が出土している。

##### 中世陶器

瓷器系陶器甕(または壺)常滑摺鉢, 越前甕の破片が出土しており, 13～14世紀の年代が考えられる。

##### 近世陶磁器

肥前染付(蛸唐草文)皿, 大瀬相馬系土瓶, 鉄軸徳利・小型壺の破片が出土しており, 18～19世紀の年代が考えられる。

#### (10) 第70次調査(平成21年度)

今次調査区は、遺跡の西部に位置し、盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した(第4図)。調査面積は1,914㎡。重機により表土を除去し、表土下で遺構検出を行ったが、既存建物の基礎や配管工事、畑等の耕作による削平と攪乱が多く、遺構の残存状況は良くなかった。

##### a. 遺構と遺物

検出された遺構は、古代の堅穴建物跡4棟(RA648～651)・堅穴状遺構4基(RE081～084)・溝跡2条(RG600・601)である(第64図)。

・竪穴建物跡

RA648 (第65図)

位置 調査区北東部 重複関係 なし 平面形 隅丸方形か

規模 南東-北西3.35m以上、南西-北東3.95m、深さ0.05~0.15m、北西辺が攪乱により壊されている

カマド方向 E23.5°S、南東カマド、長い煙道(1.3m)、煙道底面が煙出しに向かって下がるように傾斜し、煙出し底面がピット状に一段さらに深い

カマド 袖残存しない、カマドの手前に焼土面あり

床の状態 床構築土なし、床面北東部より土器がまとまって出土 柱穴 ビット3口

埋土 A1・2層、B1層、C1層、J1~10層、J1~13層(第30表)

出土遺物(第119図、第51表) 土師器環(112~114)・高台付杯(115)・小型甕(121)・甕破片、須恵器環・壺破片、あかやき土器環(117~120、119は灯明皿)・小型甕(122)・小皿(116)・小型壺・甕破片

時期 10~11世紀

RA649 (第66図)

位置 調査区北東部 重複関係 なし 平面形 隅丸長方形

規模 北西-南東3.5~3.55m、北東-南西2.9~3.25m、深さ0.07~0.18m

カマド方向 N43.0°W、北西カマド、長い煙道(1.3m)、煙道底面が煙出しに向かってスロープ状に上がる

カマド 袖残存しない 床の状態 床構築土なし、北西辺付近より土器がまとまって出土

柱穴 なし 埋土 A1層、B1・2層、C1層、J1~8層(第30表)

出土遺物(第120図、第51表) 土師器環(123)・甕破片、須恵器環(126)・大甕破片、あかやき土器環(124・125)・甕破片

時期 9世紀後葉

RA650 (第67図)

位置 調査区中央部 重複関係 なし 平面形 隅丸方形

規模 北東-南西2.55m、北西-南東2.8m、深さ0.15~0.2m

カマド方向 E26.0°N、北東カマド、長い煙道(約1.3m)、煙道底面が床面より一段高くなり煙出しに向かつてほぼ水平となる

カマド 袖付近は攪乱により壊され残存しない

床の状態 床構築土なし、床面東部より土器がまとまって出土 柱穴 なし

埋土 A1・2層、B1・2層、C1層、J1~3層(第30表)、A1層に十和田A火山灰が多く混じる

出土遺物(第120図、第51表) 土師器環(127~131)・小型甕(132)・大型環・甕破片、須恵器環・大甕破片、あかやき土器環・甕破片

時期 9世紀中葉

RA651 (第68図)

位置 調査区中央部 重複関係 RG601(新) 平面形 隅丸方形

規模 北東-南西4.2~4.55m、北西-南東3.85~4.2m、深さ0.15m

カマド方向 E33.5°N, 北東カマド, 長い煙道(約1.5m), 煙道底面が煙出しに向かって下に傾斜

カマド 袖残存しない 床の状態 床構築土なし, カマド付近より土器が多く出土

柱穴 2口 埋土 A1・2層, B1層, J1~9層(第30表)

出土遺物(第120図, 第51表) 土師器杯(133)・甕破片, 須恵器杯・大甕・甕破片, あかやき土器杯(134~137)・甕(138)

時期 10世紀前葉

#### ・竪穴状遺構

RE081(第69図)

位置 調査区南部 重複関係 なし 平面形 隅丸長方形

規模 南北5.0m, 東西3.5~3.85m, 深さ0.1~0.15m 床の状態 床面中央に焼土の広がりあり

柱穴 ビット3口 埋土 A1・2層, B1層, C1・2層, D1・2層(第31表)

出土遺物(第121図, 第52表) 土師器ロクロ杯(139・140)・球胴甕(143)・甕・鉢破片, 須恵器杯・大甕破片, あかやき土器杯(141・142)・甕破片

時期 9世紀中葉

RE082(第70図)

位置 調査区西部 重複関係 RG600(新) 平面形 隅丸方形か

規模 南西-北東2.2m, 北西-南東1.75m以上, 深さ0.1~0.14m

床の状態 床面施設なし 柱穴 なし 埋土 A1層, B1層, C1層(第31表)

出土遺物 なし 時期 9世紀代

RE083(第70図)

位置 調査区西部 重複関係 RG600(新) 平面形 隅丸方形か

規模 南西-北東3.9~4.0m, 北西-南東3.55m以上, 深さ0.1~0.15m, 南西辺は削平により下端のみ検出

床の状態 床面東部に土器がまともって出土, 西部から炭化材が多く出土

柱穴 なし 埋土 A1層, B1層, C1層(第31表)

出土遺物(第121図, 第52表) 土師器甕(148)・杯破片, 須恵器杯破片, あかやき土器杯(145・146)・甕(147)

時期 9世紀中葉~後葉

RE084(第71図)

位置 調査区南東部 重複関係 RG601(新) 平面形 隅丸不整形長方形

規模 北西-南東2.25m以上, 南西-北東2.0m, 深さ0.15m, 南東辺は攪乱により壊されている

床の状態 床面施設なし 柱穴 なし 埋土 A1層, B1層(第31表)

出土遺物(第121図, 第52表) 土師器杯・甕破片, 須恵器杯・甕破片, あかやき土器杯(144)

時期 9世紀後葉

・溝跡

**RG600** (第72図)

**位置** 調査区北部 **重複関係** RE082 (古)・083 (古), RG601 (古)

**規模等** 幅0.9~1.2m, 延長60.0m以上, 深さ0.26~0.42m, 南西から北東にやや蛇行しながら走る。

**埋土** A1・2層, B1・2層, C1層 (第31表)

**出土遺物** (第121図, 第52表) 土師器坏 (149)・甕破片, 須恵器坏破片, あかやき土器坏・甕破片, ミニチュア土器 (手づくね)

**時期** 9世紀中葉~後葉

**RG601** (第72図)

**位置** 調査区南部 **重複関係** RA651 (古), RE084 (古), RG600 (新)

**規模等** 幅0.7~0.9m, 延長41.2m以上, 深さ0.1~0.32m, 西から東に直線的に走る。

**埋土** A1・2層, B1層, C1層 (第31表)

**出土遺物** 土師器非ロクロ坏・ロクロ坏破片, 土師器甕破片, 須恵器坏破片, あかやき土器坏破片

**時期** 9世紀代か

・遺構外

遺構外表土直下等から, 下記の資料及び縄文土器破片 (中期中葉深鉢, 晩期後葉鉢), 古代以降の鉄釘が出土している。

**古代土器** (第121図, 第52表)

土師器高台付坏 (150)・坏・甕破片, 須恵器坏・壺・大甕破片, あかやき土器坏・甕破片が出土している。

**近世陶磁器**

相馬灰軸茶碗, 瀬戸美濃系搦鉢, 国産鉄軸甕の破片が出土しており, 18~19世紀の年代が考えられる。

## 第6節 飯岡沢田遺跡（第12次調査）

### 1. 遺跡の立地

飯岡沢田遺跡は、志波城跡の南東約1.8 kmに位置し、北西に野古A遺跡、東に台太郎遺跡、南に飯岡才川遺跡が囲んでいる。なお、前述のとおり本遺跡と野古A遺跡は、現在は近世に開削された農業用水路である鹿妻新堰により分断されているものの、本来の地形的には一連の集落遺跡であったと考えられる。志波城跡や周囲の遺跡と同様に低位沖積段丘上にあり、その北東部にあたり、遺跡の東側は旧河道に面している。遺跡範囲は東西約340 m、南北約310 mをはかる（第5図）。

### 2. 調査内容

#### (1) 第12次調査（平成20年度）

今次調査区は、遺跡の西部に位置し、盛岡南都市開発整備事業に伴う本調査として実施した（第5図）。平成16年度の第11次調査本調査区の南東に隣接し、調査面積は1,242 m<sup>2</sup>。重機により表土を除去し、地表下約0.6～1.0 mの褐色シルト層上面で遺構検出を行った。旧地形は、調査区中央をほぼ東西に走る溝跡に沿うように低みがあり、それが東側に向かってさらに落ち込む沢状となっている。

#### a. 遺構と遺物

検出された遺構は、古代以降の溝跡3条（RG020～022）、ピットである（第73図）。

#### ・溝跡

##### RG020（第74・75図）

位置 調査区中央部 重複関係 なし

規模等 幅0.2～0.4 m、延長36.1 m、深さ0.1～0.3 m、ほぼ東西にやや蛇行しながら走る。

埋土 A1層、B1・2層、C1～3層（第32表） 出土遺物 なし 時期 古代以降

##### RG021（第74図）

位置 調査区中央南部 重複関係 なし

規模等 幅0.2～0.3 m、延長6.65 m、深さ0.14～0.22 m、ほぼ南北にやや蛇行しながら走る。

埋土 A1層、B1層（第32表） 出土遺物 なし 時期 古代以降

##### RG022（第75図）

位置 調査区北東部 重複関係 なし

規模等 幅0.2～0.3 m、延長14.2 m、深さ0.05～0.15 m、東北東から西南西に走る。

埋土 A1層、B1層（第32表） 出土遺物 なし 時期 古代以降

#### ・ピット

調査区内に古代以降のピット10口を検出した（第74・75図）。各ピットの規模は第15表のとおりである。



## 第7節 飯岡才川遺跡（第14次調査）

### 1. 遺跡の立地

飯岡才川遺跡は、志波城跡の南東約2.1kmに位置し、北西に飯岡沢田遺跡、北に台太郎遺跡、南東に向中野館遺跡・細谷地遺跡、南西に矢盛遺跡が囲んでいる。志波城跡や周囲の遺跡と同様に低位沖積段丘上にあり、その南東部にあたり、遺跡の北東側は旧河道に面している。遺跡範囲は東西約610m、南北約300mをはかる（第5図）。

### 2. 調査内容

#### (1) 第14次調査（平成19年度）

今次調査区は、北側のⅠ区が遺跡の北端に、南側のⅡ区が遺跡の中央部に位置し、盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した（第5図）。Ⅱ区は平成17年度実施の第10次調査の東に隣接している。調査面積は6,451㎡。重機により表土を除去し、遺構検出を行った。

#### a. 遺構と遺物

検出された遺構は、縄文時代の陥し穴5基（RD154～158）、古代の竪穴建物跡2棟（RA043・044）、古代以降の溝跡4条（RG060～063）である（第76・79図）。また、Ⅰ区に近現代の施設跡が確認された。

#### ・竪穴建物跡

##### RA043（第77図）

位置 A区中央部 重複関係 なし 平面形 隅丸方形

規模 北西-南東4.95～5.15m、北東-南西4.60m、深さ0.2～0.5m

カマド方向 N45.0°W、北西カマド、長い煙道（1.0m）

カマド 左袖残存、焚口の焼土面あり

埋土 A1層、B1・2層、C1～3層、D1・2層、E1層、F1層、G1層、H1層、II層、M1層、N1層、J1・2層、K1～8層、L層（第36表）、A1・B1層に十和田a火山灰が混じる

床の状態 床構築土あり 柱穴 なし

出土遺物（第122図、第53表） 土師器非ロクロ坏（151）・甕（152～154）・球胴甕（155）、あかやき土器坏破片、ミニチュア土器（手づくね）

時期 8世紀中葉

##### RA044（第78図）

位置 A区中央部 重複関係 なし 平面形 隅丸方形

規模 東西2.7～2.8m、南北2.8～2.85m、深さ0.12～0.17m

カマド方向 W8.5°N、西カマド、長い煙道（1.3m）、煙道底面が煙出しに向かってやや下がる

カマド 両袖残存、焚口の焼土面あり

**埋土** A1・2層, B1層, C1・2層, D1・2層, E1層, F1~3層, J1~3層, J'1~4層, K1~4層, L層 (第36表)

**床の状態** 床構築土あり, 床面付近に多数の炭化材 **柱穴** 主柱穴1口 (第5表), ビット3口

**出土遺物** (第122図, 第53表) 土師器非ロクロ環 (156)・ロクロ環 (157)・鉢 (158)・瓦破片, あかやき土器坏破片, ミニチュア土器 (手づくね)

**時期** 8世紀中葉

・陥し穴

**RD154** (第80図)

**位置** B区西部 **重複関係** なし **平面形** 溝状 **規模** 長さ3.4m, 幅0.6m, 深さ0.7m

**埋土** A1層, B1層, C1~3層 (第37表) **出土遺物** なし **時期** 縄文時代

**RD155** (第80図)

**位置** B区西部 **重複関係** なし **平面形** 溝状 **規模** 長さ4.05m, 幅1.1m, 深さ1.15m

**埋土** A1層, B1・2層, C1~5層 (第37表) **出土遺物** なし **時期** 縄文時代

**RD156** (第80図)

**位置** B区西部 **重複関係** なし **平面形** 溝状 **規模** 長さ3.85m, 幅0.7m, 深さ1.18m

**埋土** A1層, B1層, C1~4層 (第37表) **出土遺物** なし **時期** 縄文時代

**RD157** (第80図)

**位置** B区南西端 **重複関係** なし **平面形** 溝状 **規模** 長さ4.25m, 幅0.85m, 深さ0.75m

**埋土** A1・2層, B1・2層, C1層 (第37表) **出土遺物** なし **時期** 縄文時代

**RD158** (第80図)

**位置** B区南西端 **重複関係** なし **平面形** 溝状 **規模** 長さ3.75m, 幅0.75m, 深さ1.1m

**埋土** A1層, B1・2層, C1~5層 (第37表) **出土遺物** なし **時期** 縄文時代

・溝跡

**RG060** (第81・82図)

**位置** B区西部 **重複関係** RG062

**規模等** 幅0.4~0.8m, 延長75.8m以上, 深さ0.1~0.2m, 北西から南東に走り, RG061と並行。

**出土遺物** 砥石 (泥岩) **時期** 古代以降

**RG061** (第81・82図)

**位置** B区西部 **重複関係** なし

**規模等** 幅0.3~0.5m, 延長64.8m以上, 深さ0.1~0.2m, 北西から南東に途切れながら走り, RG060とは並行。

**出土遺物** なし **時期** 古代以降

**RG062 (050) W** (第81・82図)

**位置** B区南西部, 第10次調査RG050と同一遺構 **重複関係** なし

**規模等** 幅0.7~0.85m, 延長24.2m以上, 深さ0.25~0.3m, 西北西から東南東に走り, 調査区を越えてSD062Eへと続く。

**出土遺物** なし **時期** 古代以降

**RG062 (050) E** (第81・82図)

**位置** B区南部, 第10次調査RG050と同一遺構 **重複関係** RG060

**規模等** 幅0.5~0.8m, 延長10.8m以上, 深さ0.3m, 東南東から西北西に走り, 調査区を越えてSD062Wへと続く。

**出土遺物** なし **時期** 古代以降

**RG063** (第82図)

**位置** B区北部 **重複関係** なし

**規模等** 幅0.6~1.1m, 延長30.0m以上, 深さ0.2~0.3m, 一部途切れながらほぼ東西に走り, 底面に鋤痕跡とみられる小柱穴が並ぶ。

**出土遺物** 土師器・須恵器・あかやき土器破片 **時期** 古代以降

・近現代施設跡

I区において, 近現代の施設基礎・配管・石柱等を検出した(写真第26図版)。これらは, 明治34年(1901)に当時の本宮村大字向中野に開設された旧岩手県農事試験場の施設の一部と考えられ(1964『岩手県史第九巻 近代篇4』), 施設が移転したのは昭和38年(1963)であった。付近からは, 当時の陶磁器類やガラス瓶などが多く出土しており, 特にガラス瓶の検討からは明治・大正・昭和期の地域研究資料としての価値が見いだされている(神原雄一郎 2011「盛岡の地中から発見されたガラス瓶—明治から昭和にかけてのガラス瓶—」平成23年度遺跡の学び館学芸講座資料(盛岡市ホームページ))。

## 第8節 細谷地遺跡（第21～23次調査）

### 1. 遺跡の立地

細谷地遺跡は、志波城跡の南東約2.5kmに位置し、北に向中野館遺跡が隣接、北西に飯岡才川遺跡、南西に矢盛遺跡、南東に南仙北遺跡が開んでいいる。なお、志波城跡や周囲の遺跡と同様に低位沖積段丘にあり、その南端縁辺部にあたり、遺跡の東側は北上川旧河道に面している。遺跡範囲は東西約600m、南北約280mをはかる（第6図）。

### 2. 調査内容

#### (1) 第21次調査（平成20年度）

今次調査区は、遺跡の西部に位置し、盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した（第6図）。平成17年度の第11次調査区の南に隣接し、調査面積は6,759m<sup>2</sup>。重機により表土を除去し、地表下約0.3～0.5mの褐色シルト層上面で遺構検出を行った。調査区は東西約150mと細長く、その東端約30mの範囲に遺構が検出された。

#### a. 遺構と遺物

検出された遺構は、古代以降の土坑7基（RD467～473）、溝跡1条（RG081）、ピットである（第83図）。

#### ・土坑

##### RD467（第84図）

位置 調査区東端 重複関係 なし 平面形 不整楕円形

規模 長軸1.05m、短軸0.8m、深さ0.17m 埋土 A1層、B1層（第33表）

出土遺物 なし 時期 古代以降

##### RD468（第84図）

位置 調査区東端 重複関係 なし 平面形 不整楕円形

規模 長軸0.7m、短軸0.55m、深さ0.2m 埋土 A1層、B1層（第33表）

出土遺物 なし 時期 古代以降

##### RD469（第84図）

位置 調査区東端 重複関係 なし 平面形 不整楕円形

規模 長軸0.77m、短軸0.55m、深さ0.25m 埋土 A1層、B1層（第33表）

出土遺物 なし 時期 古代以降

##### RD470（第84図）

位置 調査区東端 重複関係 なし 平面形 不整楕円形

規模 長軸 1.28 m、短軸 0.95 m、深さ 0.54 m 埋土 A1・2層、B1層（第33表）

出土遺物 なし 時期 古代以降

#### RD471（第84図）

位置 調査区東端 重複関係 なし 平面形 不整楕円形

規模 長軸 1.15 m、短軸 0.6 m、深さ 0.22 m 埋土 A1層、B1層（第33表）

出土遺物 なし 時期 古代以降

#### RD472（第84図）

位置 調査区東端 重複関係 なし 平面形 不整円形

規模 径 1.7～1.8 m、深さ 0.15 m 埋土 A1層（第33表） 出土遺物 なし 時期 古代以降

#### RD473（第84図）

位置 調査区東端 重複関係 なし 平面形 不整楕円形

規模 長軸 2.5 m、短軸 1.75 m、深さ 0.1 m 埋土 A1層（第33表）

出土遺物 なし 時期 古代以降

#### ・溝跡

#### RG081（第85図）

位置 調査区東端 重複関係 なし

規模等 幅 0.55～0.7 m、延長 9.7 m以上、深さ 0.2 m、ほぼ南北に走る。

埋土 A1層、B1層（第33表） 出土遺物 なし 時期 古代以降

#### (2) 第22次調査（平成20年度）

今次調査区は、遺跡の西部に位置し、盛岡南新都市開発整備事業に伴う試掘調査及び本調査として実施した（第6図）。先の第21次調査区の南に隣接し、調査対象面積は22,084 m<sup>2</sup>。調査区全体に幅約2.0 mのトレンチを10本設定し、地表下約0.5～0.7 mの礫層上面で遺構・遺物の有無を確認した。その結果、調査区北東部に第21次調査RG081の延長と考えられる溝跡が確認されたため、その範囲を拡張して本調査区とし、その他の範囲については調査終了地区とした。試掘トレンチを含めた調査面積は2,982 m<sup>2</sup>。

#### a. 遺構と遺物

検出された遺構は、古代以降の溝跡1条（RG081）である（第86図）。

#### ・溝跡

#### RG081（第87図）

位置 調査区北東部 重複関係 なし

規模等 幅 0.5～0.7 m、延長 27.5 m以上、深さ 0.1～0.2 m、ほぼ南北に走る。

埋土 A1層、B1層（第34表） 出土遺物 なし 時期 古代以降

### (3) 第23次調査（平成20年度）

今次調査区は、遺跡の西部に位置し、盛岡市新都市開発整備事業に伴う試掘調査及び本調査として実施した（第6図）。先の第22次調査区の東方に位置し、調査面積は1,784 m<sup>2</sup>。重機により表土を除去し、地表下約1.0～2.0 mの褐色シルト層上面で遺構検出を行った。

#### a. 遺構と遺物

検出された遺構は、古代以降の土坑4基（RD474～477）、溝跡1条（RG082）である（第88図）。

#### ・土坑

##### RD474（第89図）

位置 調査区南西端 重複関係 なし 平面形 不整形  
規模 径3.2～3.3 m、深さ0.30～0.32 m 埋土 A1層、B1～3層（第35表）  
出土遺物 なし 時期 古代以降

##### RD475（第89図）

位置 調査区中央部 重複関係 なし 平面形 不整形 規模 径0.9～1.0 m、深さ0.2 m  
埋土 A1層、B1層（第35表） 出土遺物 なし 時期 古代以降

##### RD476（第89図）

位置 調査区北東部 重複関係 なし 平面形 不整形 規模 径0.9～1.2 m、深さ0.35 m  
埋土 A1層、B1層（第35表） 出土遺物 なし 時期 古代以降

##### RD477（第89図）

位置 調査区北東部 重複関係 なし 平面形 不整形 規模 径1.3 m、深さ0.15～0.20 m  
埋土 A1層、B1層（第35表） 出土遺物 なし 時期 古代以降

#### ・溝跡

##### RG082（第89図）

位置 調査区北東部 重複関係 なし  
規模等 幅0.25～0.4 m、延長4.7 m、深さ0.15～0.2 m、北西から南東に走る。  
埋土 A1層、B1層（第35表） 出土遺物 なし 時期 古代以降

## 第9節 矢盛遺跡（第15～17・21・22次調査）

### 1. 遺跡の立地

矢盛遺跡は、志波城跡の南東約2.2kmに位置し、北に飯岡才川遺跡、北東に細谷地遺跡が囲み、南東やや離れた位置に夕覚遺跡がある。志波城跡や周囲の遺跡と同様に低位沖積段丘上であり、その南東部にあたり、遺跡の周囲は旧河道に面している。遺跡範囲は東西約450m、南北約500mをはかる（第7図）。

### 2. 調査内容

#### (1) 第15次調査（平成19年度）

今次調査区は、遺跡の西部に位置し、盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した（第7図）。調査面積は5,704㎡。重機により表土を除去し、地表下約0.5～1.5mの褐色シルト層上面で遺構検出を行った。調査区は広大であるが、調査区西端に近世以降の掘立柱建物跡・土坑・井戸跡などが、東端に溝跡がまわって確認された。

#### a. 遺構と遺物

検出された遺構は、近世以降の掘立柱建物跡1棟（RB046a・b）、掘立柱列跡1基（RC007）、土坑7基（RD146～152）、溝跡6条（RG048～053）、井戸跡6基（RI057～062）、ピットである（第90・91図）。

#### ・掘立柱建物跡

##### RB046a（第92図）

**位置** 調査区南西部 **重複関係** RB046bの母屋を北に拡張し、馬屋も北に移築

**構造** 南北棟の母屋の北東部に東西棟の馬屋が付属する「曲り屋」で、北にさらに下屋が付属か

母屋：南北桁行5間・東西梁行2間の身舎に三面廂（下屋）が付く

馬屋：東西桁行2間・南北梁行2間

下屋：東西桁行5間・梁行1間

**規模** 母屋：桁行総長13.0m・梁行総長5.8m（身舎11.8m×4.35m）

馬屋：桁行総長3.95m・梁行総長4.15m

下屋：桁行総長7.35m・梁行1.3m

**建物方向** 母屋：N23.0°E、南北棟 **掘方** 55基（第6・7表）

**時期** 近世以降

##### RB046b（第93図）

**位置** 調査区南西部 **重複関係** RB046aの拡張前

**構造** 南北棟の母屋の北東部に東西棟の馬屋が付属する「曲り屋」

母屋：南北桁行3間・東西梁行1間の身舎に三面廂（下屋）が付く

馬屋：東西桁行2間・南北梁行2間

**規模** 母屋：桁行総長8.1m・梁行総長5.8m（身舎6.85m×4.35m）

馬屋：桁行総長4.05m・梁行総長3.85m

**建物方向** 母屋：N23.0°E、南北棟 **掘方** 34基（第7表）

**時期** 近世以降

#### ・掘立柱列跡

**RC007**（第92・93図）

**位置** 調査区西南部 **重複関係** なし、RB046とセットとなる板扉か

**構造** 南北桁行3間 **規模** 総長6.9m、柱間北から2.4m+2.1m+2.4m

**桁行方向** N19.0°E **掘方** 4基（第7表） **時期** 近世以降

#### ・土坑

**RD146**（第94図）

**位置** 調査区西端 **重複関係** なし **平面形** 不整形円形 **規模** 径1.3~1.5m、深さ0.3m

**埋土** A1層、B1・2層（第38表） **出土遺物** なし **時期** 近世以降

**RD147**（第94図）

**位置** 調査区西端 **重複関係** なし **平面形** 不整形円形 **規模** 径1.05m、深さ0.6m

**埋土** A1層、B1・2層、C1~3層（第38表） **出土遺物** なし **時期** 近世以降

**RD148**（第94図）

**位置** 調査区西端 **重複関係** なし **平面形** 不整形円形 **規模** 径1.15~1.4m、深さ0.55m

**埋土** A1・2層、B1・2層（第38表） **出土遺物** なし **時期** 近世以降

**RD149**（第94図）

**位置** 調査区西端 **重複関係** なし **平面形** 不整形楕円形

**規模** 長軸1.05m、短軸0.85m、深さ0.38m **埋土** A1・2層、B1層（第38表）

**出土遺物** なし **時期** 近世以降

**RD150**（第94図）

**位置** 調査区西端 **重複関係** なし **平面形** 不整形楕円形

**規模** 長軸1.3m、短軸0.95m、深さ0.38m **埋土** A1・2層、B1層（第38表）

**出土遺物** なし **時期** 近世以降

**RD151**（第94図）

**位置** 調査区西端 **重複関係** なし **平面形** 不整形楕円形

**規模** 長軸0.92m、短軸0.65m、深さ0.68m **埋土** A1・2層、B1・2層、C1~3層（第38表）

**出土遺物** なし **時期** 近世以降



**RD152** (第94図)

**位置** 調査区西端 **重複関係** なし **平面形** 不整形円形

**規模** 長軸1.65 m, 短軸1.2 m, 深さ0.15 m

**埋土** A1層, B1層 (第38表)

**出土遺物** なし **時期** 近世以降

・溝跡

**RG048** (第95図)

**位置** 調査区南東部 **重複関係** RG052

**規模等** 幅0.3~0.45 m, 延長35.4 m以上, 深さ0.22~0.3 m, 南西から北東に走る。

**埋土** A1層, B1層 (第38表) **出土遺物** なし **時期** 近世以降

**RG049** (第95図)

**位置** 調査区南東部 **重複関係** なし

**規模等** 幅0.25~0.7 m, 延長24.3 m, 深さ0.1~0.2 m, 南西から北東に走る。

**埋土** A1層, B1層 (第38表) **出土遺物** なし **時期** 近世以降

**RG050a・b** (第95図)

**位置** 調査区南東部 **重複関係** なし

**規模等** 幅0.3~0.5 m, 延長23.6 m, 深さ0.1~0.2 m, 南西から北東に途切れながら走る。

**埋土** A1層, B1層 (第38表) **出土遺物** なし **時期** 近世以降

**RG051** (第95図)

**位置** 調査区南東部 **重複関係** なし

**規模等** 幅0.5~0.6 m, 延長13.7 m以上, 深さ0.15~0.3 m, 北北東から南南西に走る。

**埋土** A1層, B1層 (第38表) **出土遺物** なし **時期** 近世以降

**RG052a・b** (第95図)

**位置** 調査区南東部 **重複関係** RG048

**規模等** 幅0.3~0.65 m, 延長22.8 m以上, 深さ0.1~0.2 m, 南西から北東に途切れながら走る。

**埋土** C1層, D1層 (第38表) **出土遺物** なし **時期** 近世以降

**RG053** (第95図)

**位置** 調査区南東部 **重複関係** なし

**規模等** 幅0.2~0.5 m, 延長11.3 m, 深さ0.1~0.2 m, 北北東から南南西に走る。

**埋土** A1層, B1層, C1層 **出土遺物** なし **時期** 近世以降

・井戸跡

**R1057** (第96図)

**位置** 調査区西部 **重複関係** なし **平面形** 不整形円形 **構造** 素掘り井戸  
**規模** 上端径2.25~2.55m, 下端径0.6~0.7m, 深さ1.15m  
**埋土** A1~4層, B1~5層, C1~9層, D1~4層 (第38表)  
**出土遺物** なし **時期** 近世以降

**R1058** (第96図)

**位置** 調査区西部 **重複関係** なし **平面形** 不整形円形 **構造** 素掘り井戸  
**規模** 上端径1.15~1.25m, 下端径0.75~0.9m, 深さ1.25m  
**埋土** A1~3層, B1~3層, C1~6層, D1~2層, E1~2層 (第39表)  
**出土遺物** なし **時期** 近世以降

**R1059** (第96図)

**位置** 調査区西部 **重複関係** なし **平面形** 不整形円形 **構造** 素掘り井戸  
**規模** 上端径2.1~2.2m, 下端径0.95~1.2m, 深さ1.3m  
**埋土** A1~4層, B1~5層, C1~3層, D1~2層, E1層 (第39表), A・B層は人為堆積  
**出土遺物** なし **時期** 近世以降

**R1060** (第96図)

**位置** 調査区西部 **重複関係** なし **平面形** 不整形円形か **構造** 素掘り井戸  
**規模** 上端径1.65m以上, 下端径不明(調査区外), 深さ0.75m以上  
**埋土** A1~2層, B1~4層, C1~3層 (第39表)  
**出土遺物** なし **時期** 近世以降

**R1061** (第96図)

**位置** 調査区西部 **重複関係** なし **平面形** 不整形円形 **構造** 素掘り井戸  
**規模** 上端径1.8m, 下端径0.85m, 深さ1.28m  
**埋土** A1~8層, B1~4層, C1~6層, D1~2層 (第39表) **出土遺物** なし **時期** 近世以降

**R1062** (第96図)

**位置** 調査区西部 **重複関係** なし **平面形** 不整形円形 **構造** 素掘り井戸  
**規模** 上端径1.75m, 下端径1.05~1.3m, 深さ1.15m  
**埋土** A1~4層, B1~3層, C1~5層, D1層 (第40表) **出土遺物** なし **時期** 近世以降

・ピット

調査区西部, 掘立柱建物跡周辺に近世以降のピット38口を検出した(第97図)。各ピットの規模は第16表のとおりである。

## (2) 第16次調査（平成19年度）

今次調査区は、遺跡の中央部に位置し、盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した（第7図）。調査面積は160㎡。重機により表土を除去し、地表下約2mの褐色シルト層・砂礫層上面で遺構検出を行った。その結果、遺構・遺物とも確認されなかった。

## (3) 第17次調査（平成19年度）

今次調査区は、遺跡の北西部に位置し、盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した（第7図）。調査面積は1,114㎡。重機により表土を除去し、地表下約1.5mの褐色シルト層上面で遺構検出を行った。その結果、調査区北部に古代以降の土坑・溝跡などがまとまって確認された。

### a. 遺構と遺物

検出された遺構は、古代以降の土坑1基（RD153）、溝跡5条（RG054～058）、ピットである（第98図）。

#### ・土坑

##### RD153（第99図）

位置 調査区北部 重複関係 なし 平面形 不整形円形

規模 長軸1.5m以上、短軸1.0m、深さ0.25m 埋土 A1・2層（第41表） 時期 古代以降

#### ・溝跡

##### RG054（第99図）

位置 調査区北部 重複関係 RG055（古）

規模等 幅0.4～0.5m、延長3.35m以上、深さ0.1m、東西に走る。 埋土 B1層（第41表）

出土遺物 なし 時期 古代以降

##### RG055（第99図）

位置 調査区北部 重複関係 RG056（新）

規模等 幅0.7m、延長10.3m以上、深さ0.2～0.25m、北西から南東に走る。

埋土 A1・2層（第41表） 出土遺物 なし 時期 古代以降

##### RG056a・b（第99図）

位置 調査区北部 重複関係 RG055（古）・057（古）・058（古）

規模等 幅0.5～0.7m、延長27.4m以上、深さ0.1～0.2m、途切れながら南北に走る。

埋土 C1～4層（第41表） 出土遺物 なし 時期 古代以降

##### RG057（第99図）

位置 調査区北部 重複関係 RG056（新）

規模等 幅0.8～1.2m、延長3.3m以上、深さ0.22～0.36m、北北西から南南東に走る。

埋土 D1～3層（第41表） 出土遺物 なし 時期 古代以降

#### RG058（第99図）

位置 調査区北部 重複関係 RG056（新）

規模等 幅0.5～0.6m、延長2.1m以上、深さ0.15～0.18m、北北西から南南東に走る。

埋土 E1・2層（第41表） 出土遺物 なし 時期 古代以降

#### ・ピット

調査区北部、RG056付近に古代以降のピット3口を検出した（第99図）。各ピットの規模は第17表のとおりである。

#### (4) 第21次調査（平成20年度）

今次調査区は、遺跡の中央部に位置し、盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した（第7図）。調査面積は160m<sup>2</sup>。重機により表土を除去し、地表下0.5～0.6mの褐色シルト層上面で遺構検出を行った。その結果、近世以降の溝跡などが確認された。

#### a. 遺構と遺物

検出された遺構は、近世以降の溝跡2条（RG066・067）、ピットである（第100図）。

#### ・溝跡

#### RG066（第100図）

位置 調査区西部 重複関係 なし 規模等 幅約1.0m、延長約1.2m以上、南北に走る（削平）。

時期 近世以降

#### RG067（第100図）

位置 調査区東部 重複関係 なし

規模等 幅0.8～0.85m、延長1.9m以上、深さ0.45m、南北に走る。

埋土 A1層、B1層、C1層 出土遺物 なし 時期 近世以降

#### ・ピット

調査区東部、RG067の東方に近世以降のピット11口を検出した（第100図）。各ピットの規模は第18表のとおりである。出土遺物はない。

#### (5) 第22次調査（平成20年度）

今次調査区は、遺跡の北部に位置し、盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した（第7図）。調査区は北西部のA区と南東部のB区に分かれ、調査面積は計1,720m<sup>2</sup>。重機により表土を除去し、地表下0.5～0.6mの褐色シルト層上面で遺構検出を行った。その結果、A区で近世以降の土坑を確認したが、B区では遺構・遺物が確認されなかった。

a. 遺構と遺物

検出された遺構は、近世以降の土坑3基（RD182～184）である（第101図）。

・土坑

RD182（第102図）

位置 A区北部 重複関係 なし 平面形 不整楕円形

規模 長軸1.1m、短軸0.74m、深さ0.14m 埋土 A1層、B1層（第42表）

出土遺物 なし 時期 近世以降

RD183（第102図）

位置 A区南部 重複関係 なし 平面形 不整円形 規模 径1.05m、深さ0.12m

埋土 A1層、B1層（第42表） 出土遺物 なし 時期 近世以降

RD184（第102図）

位置 A区中央部 重複関係 なし 平面形 不整円形 規模 径3.0～3.15m、深さ0.1m

埋土 A1層 出土遺物 なし 時期 近世以降

## 第10節 夕覚遺跡（第1～6次調査）

### 1. 遺跡の立地

夕覚遺跡は、志波城跡の南東約3kmに位置し、北西方約100mの位置に焼野遺跡がある。低位沖積段丘上にあるが、周囲を小規模な旧河道に囲まれており、東西に細長い中洲状となっている。遺跡の西側約1/3が盛岡南新都市開発整備事業区域（都市再生機構施工）、中央北半約1/3が盛岡南地区都市開発整備事業（都市再生整備計画事業）区域（盛岡市施工、通称「道明地区土地区画整理事業」）となっている。遺跡面積は東西約750m、南北の幅約60～150mをはかる（第8図）。なお、「道明地区土地区画整理事業」に伴い実施した第3次調査（平成20年度）・第5次調査（平成21年度）の調査成果は別途報告予定である。

### 2. 調査内容

#### (1) 第1次調査（平成7年度）

今次調査区は、遺跡の西部に位置し、盛岡南新都市開発整備事業に伴う試掘調査として実施した。調査対象面積1,947㎡について、重機により幅約2mの試掘トレンチ8本を設定し（調査面積566㎡）、表土下0.2～0.3mで遺構・遺物の有無を確認した（第8図）。その結果、近現代の新しい溝跡1条と旧河道跡のみが確認され、遺物の出土がなかったため、調査対象範囲について調査終了地区とした。

#### (2) 第2次調査（平成8年度）

今次調査区は、遺跡の西部に位置し、盛岡南新都市開発整備事業に伴う試掘調査として実施した。第1次調査区の北方1箇所、西方2箇所の計3地点・調査対象面積3,767㎡について、重機により幅約1.5mの試掘トレンチ11本を設定し（調査面積233㎡）、表土下で遺構・遺物の有無を確認した（第8図）。その結果、遺構は確認されず、平安時代の土器片1点と近世古銭「寛永通寶」1点が出土したのみであったため、調査対象範囲について調査終了地区とした。

#### (3) 第4次調査（平成20年度）

今次調査区は、遺跡の西部に位置し、盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した。第1次調査区の西方となる区画道路整備用地、調査対象面積264㎡について、重機により幅約2mの試掘トレンチ4本を設定し、地表下約0.2～1.0mの褐色シルト及び暗褐色土層上面で遺構・遺物の有無を確認した（第8図）。その結果、遺構・遺物とも確認されなかったため、調査対象範囲について調査終了地区とした。

#### (4) 第6次調査（平成20年度）

今次調査区は、遺跡の西部に位置し、盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した。第4次調査区であった区画道路及び第1次調査区周囲の宅地整備用地、調査対象面積10,977㎡について、重機により幅約2mの試掘トレンチ23本を設定し、表土下で遺構・遺物の有無を確認した（第8図）。その結果、遺構・遺物とも確認されなかったため、調査対象範囲について調査終了地区とした。

挿表4 古代竪穴建物跡一覧表

遺跡名	次数	遺構名	カマド方向	煙道	カマド袖	一辺長 (m)	貯蔵穴	床硬化面	主柱穴	周溝	灰白色火山灰 (十和田 a)	時期	
台太郎	59	RA308	E8.0°S 東	長い煙道	両袖残存	3.6~4.3	1基	硬化面あり	なし	なし	なし	9世紀中葉~ 後葉か	
		RA629	E17.0°N 東	長い煙道	なし	2.95~4.0	なし	なし	なし	なし	なし	9世紀中葉~ 後葉か	
	63	RA630	N43.0°W 北西	長い煙道	両袖残存	7.1~8.05	なし	硬化面あり	4基	周溝あり	埋土上層	8世紀後葉~ 9世紀前葉	
		RA631	E19.0°S 東	長い煙道 (トンネル状)	両袖残存	3.65~4.05	なし	なし	なし	なし	なし	8世紀中葉~ 後葉	
	67	RA637	S11.5°W 南	長い煙道	両袖残存	4.05~4.8	1基	なし	なし	一部周溝あり	なし	9世紀中葉	
		RA638	W40.0°N 北西	長い煙道 (トンネル状)	なし	3.7~4.25	なし	なし	3基	なし	なし	9世紀中葉	
	68	RA568	W4.0°N 西	長い煙道	両袖残存	3.7~4.25	なし	硬化面あり	なし	なし	なし	なし	9世紀
		RA573	不明(北東か)	不明	不明	3.15~3.6	なし	なし	なし	なし	なし	埋土上層	9世紀前葉~ 中葉
		RA574a	S26.5°W 南西	長い煙道 (トンネル状)	なし	4.0~4.7	なし	なし	なし	なし	なし	なし	9世紀前葉~ 中葉
		RA574b	W29.5°N 北西	長い煙道	左袖一部残存	4.0~4.7	なし	なし	なし	なし	なし	埋土上層	9世紀前葉~ 中葉
		RA577	E2.5°S 東	長い煙道	なし	2.3~2.95	なし	なし	なし	なし	なし	埋土上層	10世紀前葉
		RA639	W25.0°S 南西	長い煙道 (トンネル状)	なし	2.95~3.73	なし	なし	なし	なし	なし	なし	9世紀中葉
		RA640	N39.0°W 北西	長い煙道 (トンネル状)	なし	3.1~3.7	なし	なし	なし	なし	なし	なし	9世紀中葉
		RA641	E19.5°N 東	長い煙道	なし	3.05~3.8	なし	なし	なし	なし	なし	埋土上層	10世紀前葉
		RA642	N28.0°E 北東	長い煙道	両袖残存	3.5~3.6	なし	なし	なし	なし	なし	なし	8世紀後葉~ 9世紀前葉
		RA643	W3.5°S 西	長い煙道	なし	3.9以上	なし	なし	なし	なし	なし	なし	9世紀中葉~ 後葉
		RA644	E11.0°S 東	長い煙道	なし	3.0~3.25	なし	なし	なし	なし	なし	埋土上層	9世紀中葉~ 後葉
		RA645	N15.0°E 北	長い煙道	なし	4.4~4.5	なし	なし	なし	なし	なし	なし	9世紀中葉
	RA646	不明	不明	不明	4.17	なし	なし	なし	なし	なし	埋土上層	9世紀中葉	
	RA647	不明	不明	不明	2.5以上	なし	なし	なし	なし	なし	なし	9世紀中葉~ 後葉	
70	RA648	E23.5°S 南東	長い煙道	なし	3.95	なし	なし	なし	なし	なし	なし	10~11世紀	
	RA649	N43.0°W 北西	長い煙道	なし	2.9~3.55	なし	なし	なし	なし	なし	なし	9世紀後葉	
	RA650	E26.0°N 北東	長い煙道	なし	2.55~2.8	なし	なし	なし	なし	なし	埋土上層	9世紀中葉	
	RA651	E33.5°N 北東	長い煙道	なし	3.85~4.55	なし	なし	なし	なし	なし	なし	10世紀前葉	
遺跡名	次数	遺構名	カマド方向	煙道	カマド袖	一辺長 (m)	貯蔵穴	床硬化面	主柱穴	周溝	灰白色火山灰 (十和田 a)	時期	
藤岡才川	14	RA043	N45.0°W 北西	長い煙道	左袖残存	4.6~5.15	なし	なし	なし	なし	埋土上層	8世紀中葉	
		RA044	W8.5°N 西	長い煙道	両袖残存	2.7~2.85	なし	なし	なし	なし	なし	8世紀中葉	

## 第4章 総括

### 1. 調査のまとめ

盛岡市教育委員会で行った平成19～21年度の大宮北遺跡・小幡遺跡・宮沢遺跡・本宮熊堂B遺跡・台太郎遺跡・飯岡沢田遺跡・飯岡才川遺跡・細谷地遺跡・矢盛遺跡・夕覚遺跡の発掘調査により、第3章に記載した内容の成果を得ることができた。

以下、遺構の精査を行った各遺跡本調査の内容のまとめを行い、総括とする。なお、精査を行った古代の堅穴建物跡（住居）の一覧は挿表4のとおりである。また、古代土器群の年代観は、津嶋2013に従った。

#### 大宮北遺跡第11・13次調査

大宮北遺跡の中央部で実施した第11・13次調査では、古代の溝跡1条（RG015）を検出した。

箱掘状の溝跡であるRG015は、第11・13次調査区の東方約50mに位置する県埋文センター第15次調査区でも検出されており、総延長115m以上を測る東西溝である。このRG015溝跡の北方にある第1・8・16・17次調査区において10世紀代の遺構・遺物が多数検出されており、大宮北集落の中心部を区画する特別な溝と考えられる。出土土器は、ロクロ成形の酸化炎焼成であるあかやき土器を主体とし、底径の小さい坏（002～009・011・012）、小型坏（010）、小皿（013・014）、高い高台部など特徴的な高台付坏（015～017）がある一方、内黒ロクロ土師器坏（001）とやや粗雑な器面調整の須恵器壺（018）があり、10世紀中葉頃の年代が考えられる。

#### 本宮熊堂B遺跡第32次調査・第33次調査

本宮熊堂B遺跡の北東部で実施した第32次調査及び第33次調査は隣接する調査区であり、それぞれの調査区で古代以降の溝跡（RG145、RG146）を検出した。ともに小規模な溝跡で出土遺物がなく、その年代や性格は不明である。

#### 台太郎遺跡第59次調査

台太郎遺跡の西部で実施した第59次調査では、古代の堅穴建物跡2棟（RA308・629）、古代以降の掘立柱建物跡2棟（RB066・067）、掘立柱列跡4基（RC008～011）、土坑2基（RD2027・2028）、溝跡12条（RG539～550）・ピットを検出した。

調査区内で新たに検出された古代の堅穴建物跡RA629は、東カマドの煙道がのびる一辺2.95～4.0mの中型住居であり、埋土より土錘（漁舟に使用する網の重り、035）が出土している。調査区北部では、古代以降の掘立柱建物跡RB066とRB067が棟方向を平行に東西に並んでおり、その北側に掘立柱列跡RC008が、桁方向を掘立柱建物跡の棟方向と垂直にして検出された。これらは、その計画的な配置からセットで機能していたと考えられる。RB066は2間×2間の欄柱建物、RB067は4間×2間で内部に間仕切り状の柱があり、西側柱の本数が少ないなどの特徴があり、馬屋の可能性が考えられる。RB066はその番屋的なもの、RC008



は目隠しの板塼と考えられるが、それら機能を直接的に示す遺構や出土遺物は確認されなかった。

遺構外ではあるが弥生土器の破片が出土しており、前期の砂沢式期、後期の赤穴式期の年代が考えられる。また、同じく遺構外から出土した「寛永通寶」(301, 新寛永)は、背に11の波紋がある四文銭(明和六年(1769)以降に铸造)である。

#### 台太郎遺跡第60次調査

台太郎遺跡の南東部で実施した第60次調査では、古代以降の土坑4基(RD2029~2032)、ピットを検出した。

土坑はそれぞれ広い調査区の北部、中央部、南部に離れて検出され、出土遺物もなく、その年代や性格は不明である。ピット群も小規模で、掘立柱建物等を構成するような並びは確認されなかった。

#### 台太郎遺跡第61次調査

台太郎遺跡の中央部で実施した第61次調査では、古代の堅穴建物跡1棟(RA630)の一部、古代以降の土坑4基(RD2033~2036)・ピットを検出した。

4基の土坑のうち、RD2034は長軸10.8m・短軸6.0m・深さ0.8~1.0mを測る大型の土坑であり、土層観察から2時期の変遷があり、ため池状の遺構と想定される。出土遺物はいづれも土師器・あかやき土器の破片ばかりであり、詳細な年代は不明である。

#### 台太郎遺跡第62次調査

台太郎遺跡の南東部で実施した第62次調査では、中世以降の土坑1基(RD2037)、ピットを検出した。調査区からの出土遺物は北宋銭(302・303)のみであり、遺構は中世以降の年代が考えられる。

#### 台太郎遺跡第63次調査・第68次調査

台太郎遺跡の中央部で実施した第63次調査及び第68次調査区は隣接した調査区である。第63次調査区では、古代の堅穴建物跡2棟(RA630・631)・堅穴状遺構1基(RE074)、中世の掘立柱列跡1基(RC008)・堀跡1条(RG264)・溝跡4条(RG551~553)、近世の土坑4基(RD2038~2041)、ピットを検出した。また、第68次調査区では、古代の堅穴建物跡13棟(RA568・573・574・577・639~647)・堅穴状遺構3基(RE078~080)・土坑10基(RD2127~2136)・方形周溝1基(RG597)・溝跡3条(RG475・598・599)、中世の堀跡2条(RG042・424)、ピットを検出した。

古代の堅穴建物跡(住居)は点在しながらも重複がみられ、RA573とRA574・RA577、RA639とRA640、RA644とRA645が重複している。複数の煙道があり、建て替えが認められるのはRA574のみである。

8世紀~9世紀前葉の年代が考えられる堅穴建物跡は3棟(RA630・631・642)あり、その規模は、一辺5m以上の大型住居が1棟(RA630)、一辺3m以上・5m未満の中型住居が2棟(RA631・642)である。カマド方向は、北西カマドがRA630、北東カマドがRA642、東カマドがRA631である。煙道はすべて在地型の長い煙道であり、RA631はトンネル状となっている。カマドの袖は3棟とも両袖が残存する。貯蔵穴のある住居はない。床の硬化面・主柱穴・周溝を持つのは大型住居のRA630のみであり、一辺7~8mの突出した規模からみて、エミシ集団の家父長クラスの住まいと考えられる。また、検出面からの深さが0.25~

0.36 mと深い RA630 では、埋土上層 A 層に十和田 a 火山灰 (915 年降下) と考えられる灰白色火山灰が混じる。出土土器は、非ロクロ成形で丸底・内黒の土師器杯 (063・080~082)、長胴甕 (037・040・086~089)、球胴甕 (038・084・085)、頸部に鋸歯状沈線文のある甕 (039) などであり、RA631 が 8 世紀中葉~後葉、RA630・642 が 8 世紀後葉~9 世紀前葉の年代が考えられる。このほか、大型住居の RA630 からはメノウ製の勾玉 (046)、RA631 からは白色泥岩製の紡錘車 (045)、RA642 からは土製紡錘車 (111) が出土している。RA630 は出土炭化材の放射性炭素 (<sup>14</sup>C) 年代測定とウィグルマッチングを行っており、炭化材 4 の最外年輪の暦年代範囲の中で 602 cal AD 頃が確率分布の最も高い値となっており、土器の年代観より 170~230 年程古い結果となっている。

9 世紀~10 世紀の年代が考えられる竪穴建物跡は、12 棟 (RA568・573・574・577・639・640・641・643・644・645・646・647) ある。その規模は、一辺 5 m 以上の大型住居はなく、一辺 3 m 以上・5 m 未満の中型住居が 9 棟 (RA568・573・574・639・640・641・644・645・646) とほとんどを占め、一辺 3 m 未満の小型住居は 1 棟 (RA577) のみ、RA643・647 は規模不明である。カマド方向は、東カマドが 3 棟 (RA577・641・644)、南西カマドが 2 棟 (RA574a・739)、西カマドが 2 棟 (RA568・643)、北西カマドが 2 棟 (RA574b・640)、北カマドが 1 棟 (RA645)、カマド方向不明が 3 棟 (RA573・646・647) であり、東~南方向が 5 棟、北~西方向が 5 棟と一定のまとまりは示さない。煙道は、11 棟すべてに在地型の長い煙道であり、うちトンネル状となっているのは 3 棟 (RA574a・639・640) である。カマドの輪が残存するのは RA568・574a のみ。また、床の硬化面は RA568 のみを持ち、すべての住居に貯蔵穴・支柱穴・周溝がない。6 棟 (RA573・574b・577・641・644・646) の埋土上層または煙道埋土上層に十和田 a 火山灰と考えられる灰白色火山灰が混じる。出土土器は、ロクロ成形の内黒土師器杯 (056・074~078・095・099・100)・内外黒色土師器杯 (065)、土師器甕 (062・063・064・071・102)、須恵器杯 (057~060、067・068・069・072・073・093・094)、須恵器壺 (061・070・091)、あかやき土器杯 (066・079・090・101・104) であり、墨書土器「子?」(069)・「木?」(072)・「|」(099)、刻書土器「×」(066・095) がみられる。年代としては、出土遺物の少ない RA568 は 9 世紀代、RA573・574 は 9 世紀前葉~中葉、RA639・640 は 9 世紀中葉、RA643・644・647 は 9 世紀中葉~後葉、RA577・641 は 10 世紀前葉と考えられる。

第 63 次調査では、近世の土坑墓 3 基 (RD2039・2040・2041) が確認され、副葬品として多くの古銭「寛永通寶」(304~323) が出土している。その種類をみると、古寛永が 8 枚 (304~309・319・320)、新寛永が 12 枚 (310~318・321~323) であり、また新寛永 12 枚のうち 9 枚が背文銭であった。

#### 台太郎遺跡第 64 次調査

台太郎遺跡の中央部で実施した第 64 次調査では、古代以降の土坑 1 基 (RD2042) を検出した。

土坑からは土師器甕の破片が出土していることから古代以降の年代と考えられるが、検出面からの深さが 0.15 m と浅く、性格等は不明である。

#### 台太郎遺跡第 67 次調査

台太郎遺跡の北西部で実施した第 67 次調査では、古代の竪穴建物跡 2 棟 (RA637・638)・土坑 2 基 (RD2125・2126)・溝跡 1 条 (RG596)、古代以降のピットを検出した。

古代の竪穴建物跡 2 棟は重複して検出され、新しい RA637 は南カマドと長い煙道を持つ一辺 4.05~4.8 m の中型住居であり、カマドの付く南辺と西辺の一部に周溝がめぐる。その下に確認された RA638 は北西カ

マドとトンネル状の長い煙道を持つ一辺3.7～4.25 mの中型住居であり、床面に3基の主柱穴を検出した。出土土器は、内黒ロクロ土師器環(047・049・053)、土師器甕、須恵器環・甕、あかやき土器環(050・051・054・055)、あかやき土器甕(052)が組成し、環の底部径が小型化していないことから、ともに9世紀中葉頃の年代が考えられる。

また、遺構埋土・遺構外から弥生土器の破片が比較的多く出土しており、折返し口縁や沈線文、附加条縄文などの特徴から、後期の赤穴式期の年代が考えられる。

#### 台太郎遺跡第70次調査

台太郎遺跡の西部で実施した第70次調査では、古代の竪穴建物跡4棟(RA648～651)・竪穴状遺構4基(RE081～084)・溝跡2条(RG600・601)を検出した。

古代の竪穴建物跡4棟は、調査区内に点在して検出され、重複はなかった。RA650は、北東カマドで一辺2.55～2.8 mの小型住居であり、出土土器は内黒ロクロ土師器環(127～131)が多いことから、後述するRA649より古い9世紀中葉の年代が考えられる。RA649は北西カマドで一辺2.9～3.55 mの中型住居であり、出土土器は、内黒ロクロ土師器環(123)・須恵器環(126)・あかやき土器環(124・125)が組成していることから9世紀後葉の年代が考えられる。RA651は北東カマドで一辺3.85～4.55 mの中型住居であり、出土土器はあかやき土器が主体で、環底部の小型化がみられる(134・135)ことから、10世紀前葉の年代が考えられる。RA648は南カマドで一辺3.95 mの中型住居であり、煙道先端の煙出しが柱穴状に深く掘り込まれている。出土土器は、あかやき土器小皿(116)が床面ビットより出土し、あかやき土器環(117～120)・甕(122)が多い一方、内黒ロクロ土師器環(112～114)・高台付環(115)もあることから、年代としては10～11世紀とやや幅広く考えられる。

竪穴状遺構4基のうち、RE083は床面から土器と炭化材がそれぞれまとまって出土した。出土土器の中に球胴甕(143)があるものの、環の様相から9世紀中葉の年代が考えられる。RE083は出土炭化材の放射性炭素(<sup>14</sup>C)年代測定とウィグルマッチングを行っており、炭化材10の最外年輪の暦年代範囲の中で892 cal AD頃が確率分布の最も高い値となっており、土器の年代観より30年前後新しい結果となっている。

#### 飯岡沢田遺跡第12次調査

飯岡沢田遺跡の西部で実施した第12次調査では、古代以降の溝跡3条(RG020～022)、ビットを検出した。RG020・022溝跡が調査区の中央部を東西に走る沢状地形に沿って走る一方、RG021溝跡はRG020に直交するように南北に走っている。いずれも出土遺物がなく、年代や性格は不明である。

#### 飯岡才川遺跡第14次調査

飯岡才川遺跡の北端と中央部で実施した第14次調査では、北のⅠ区で古代の竪穴建物跡2棟(RA043・044)、近現代の施設跡、南のⅡ区で縄文時代の陥穴5基(RD154～158)、古代以降の溝跡4条(RG060～063)を検出した。

Ⅰ区で検出された古代の竪穴建物跡は、RA043が北西カマドで一辺4.6～5.15 mの大型住居、RA044が西カマドで一辺2.7～2.85 mの小型住居であり、貯蔵穴・床硬化面・主柱穴・周溝はない。ともに非ロクロ成形・有段丸底の内黒土師器環(151・156)や球胴甕(155)が出土しており、環のプロポーシオンから8世紀中葉頃の年代が考えられる。このうちRA044は出土炭化材の放射性炭素(<sup>14</sup>C)年代測定とウィグルマッ

チングを行っており、炭化材 14 の最外年輪の暦年代が 738~768 cal AD (2 $\sigma$ ) の範囲で示されており、土器の年代観と一致する結果となっている。

また、近現代の施設跡は、明治 34 年 (1901) に開設された旧岩手県農事試験場の一部 (昭和 38 年 (1963) 移転) と考えられ (写真第 26 図版)、付近から当時の陶磁器類やガラス瓶などが多く出土した (盛岡市遺跡の学び館 2007)。

Ⅱ区では、縄文時代の深い溝状の陥し穴 5 基が南西部にまとまって検出された。飯岡才川遺跡では、全域から同様の形状の陥し穴が多数検出されており、縄文時代の良好な狩猟場であったことが伺われる。また、RG062 (050) 溝跡は、遺跡の中央部を西北西から東南東に直線的に走り、その延長は約 200 m を測る。検出面での溝幅 0.5~1.3 m、深さ 0.2~0.4 m であり、平成 17 年度 (2005) 第 10 次調査区、第 14 次調査区内で埋土上層に十和田 A 火山灰と考えられる灰白色火山灰が多く混じる (写真第 25 図版) ことから、9 世紀後葉から 10 世紀初頭の年代が考えられる。

#### 細谷地遺跡第 21 次調査

細谷地遺跡の西部で実施した第 21 次調査では、古代以降の土坑 7 基 (RD467~473)、溝跡 1 条 (RG081)、ピットを検出した。土坑及び溝跡からは出土遺物がなく、年代や性格は不明である。

#### 細谷地遺跡第 22 次調査

細谷地遺跡の西部で実施した第 22 次調査では、古代以降の溝跡 1 条 (RG081) を検出した。溝跡からは出土遺物がなく、年代や性格は不明である。

#### 細谷地遺跡第 23 次調査

細谷地遺跡の西部で実施した第 23 次調査では、古代以降の土坑 4 基 (RD474~477)、溝跡 1 条 (RG082) を検出した。土坑及び溝跡からは出土遺物がなく、年代や性格は不明である。

#### 矢盛遺跡第 15 次調査

矢盛遺跡の西部で実施した第 15 次調査では、近世以降の掘立柱建物跡 1 棟 (RB046a・b)、掘立柱列跡 1 基 (RC007)、土坑 7 基 (RD146~152)、溝跡 6 条 (RG048~053)、井戸跡 6 基 (RI057~062)、ピットを検出した。掘立柱建物である RB046 は、2 時期の変遷がある「曲り屋」と考えられ、南北棟の母屋の北東部に東西棟の馬屋があり、屋根が 2 つの建物を L 字形に結合していたと想定される (写真第 34 図版)。新期である RB046a は、旧期 RA046b の母屋 (桁行 3 間) を残しながら北側に 2 間分増築し、それに合わせて馬屋を北側に移築したと考えられ、既存井戸 (RI058) を避けるように馬屋北東隅の柱位置を西にややずらしている。建物西側の掘立柱壁 (板塀、RC007) は、目隠し、または風よけと推定される。建物の北東方と南西方に検出された 6 基の井戸は、掘り直しを繰り返しながら飲料水や生活用水を供給していたと考えられる。

#### 矢盛遺跡第 17 次調査

矢盛遺跡の北西部で実施した第 17 次調査では、古代以降の土坑 1 基 (RD153)、溝跡 5 条 (RG054~058)、ピットを検出した。土坑及び溝跡からは出土遺物がなく、年代や性格は不明である。

#### 矢盛遺跡第 21 次調査

矢盛遺跡の中央部で実施した第 21 次調査では、近世以降の溝跡 2 条（RG066・067）、ピットを検出した。溝跡からは出土遺物がなく、年代や性格は不明である。

#### 矢盛遺跡第 22 次調査

矢盛遺跡の北部で実施した第 22 次調査では、近世以降の土坑 3 基（RD182～184）を検出した。土坑からは出土遺物がなく、年代や性格は不明である。

#### 【引用・参考文献】

- 津嶋知弘 2004 「志波城と蝦夷社会」『古代蝦夷と律令国家』蝦夷研究会編 高志書院
- 津嶋知弘 2013 「古代「斯波（志波）」郡北部の土器群変遷（その 1）—平石川南岸所在遺跡の盛岡市教育委員会発掘調査資料を中心に—」盛岡市遺跡の学び館学芸レポート Vol.002（盛岡市ホームページ）
- 盛岡市遺跡の学び館 2007 「まちづくりと考古学—盛南開発と遺跡発掘調査—」第 6 回企画展図録

表



第1表 台太郎遺跡第59次調査掘立柱建物跡・柱列跡掘方規模等一覧表

遺構	掘方	径(m)	深さ(m)	平面形	柱痕跡
RB066 掘立柱建物跡	掘方1	0.30	0.12	不整円形	なし
	掘方2	0.40	0.20	不整円形	なし
	掘方3	0.42	0.50	不整円形	なし
	掘方4	0.35	0.14	不整円形	なし
	掘方5	0.40	0.55	不整円形	なし
	掘方6	0.58	0.50	不整円形	なし
	掘方7	0.45	0.45	不整円形	なし
	掘方8	0.45	0.20	不整円形	なし
RB067 掘立柱建物跡	掘方1	0.40	0.35	不整円形	なし
	掘方2	0.40	0.22	不整円形	なし
	掘方3	0.45	0.28	不整円形	なし
	掘方4	0.35	0.30	不整円形	なし
	掘方5	0.35	0.10	不整円形	なし
	掘方6	0.30	0.15	不整円形	なし
	掘方7	0.33	0.14	不整円形	なし
	掘方8	0.30~0.40	0.08	不整楕円形	なし
	掘方9	0.47	0.37	不整円形	なし
	掘方10	0.54	0.35	不整円形	なし
	掘方11	0.37	0.14	不整円形	なし
	掘方12	0.42	0.16	不整円形	なし
	掘方13	0.40	0.18	不整円形	なし
遺構	掘方	径(m)	深さ(m)	平面形	柱痕跡
RC008 掘立柱列跡	掘方1	0.45	0.35	不整円形	なし
	掘方2	0.40	0.45	不整円形	なし
	掘方3	0.35	0.22	不整円形	なし
	掘方4	0.40~0.52	—	不整楕円形	なし
	掘方5	0.42	0.25	不整円形	なし
RC009 掘立柱列跡	掘方1	0.45	0.36	不整円形	なし
	掘方2	0.30	0.22	不整円形	なし
	掘方3	0.25	0.26	不整円形	なし
	掘方4	0.20	0.14	不整円形	なし
RC010 掘立柱列跡	掘方1	0.40	0.10	不整円形	なし
	掘方2	0.48	0.15	不整円形	なし
	掘方3	0.36	0.20	不整円形	なし
	掘方4	0.35	0.20	不整円形	なし
RC011 掘立柱列跡	掘方1	0.38	0.12	不整円形	なし
	掘方2	0.38	0.18	不整円形	なし
	掘方3	0.46	0.30	不整円形	なし



第2表 台太郎遺跡第63次調査竪穴建物跡主柱穴、掘立柱列跡掘方規模等一覧表

遺構	柱穴	径(m)	深さ(m)	平面形	柱痕跡
RA630 竪穴住居跡	P1	0.4	0.23	不整円形	なし
	P2	0.41	0.45	不整円形	あり
	P3	0.28	0.33	不整円形	なし
	P4	0.32	0.13	不整円形	なし
遺構	掘方	径(m)	深さ(m)	平面形	柱痕跡
RC008 掘立柱列跡	掘方1	0.63	0.44	不整円形	なし
	掘方2	0.58	0.54	不整円形	なし
	掘方3	0.62	0.58	不整円形	なし

第3表 台太郎遺跡第67次調査竪穴建物跡主柱穴規模等一覧表

遺構	柱穴	径(m)	深さ(m)	平面形	柱痕跡
RA638 竪穴住居跡	P1	0.2	0.38	不整円形	なし
	P2	0.23	0.38	不整円形	なし
	P3	0.23	0.33	不整円形	なし

第4表 台太郎遺跡第68次調査竪穴建物跡主柱穴規模等一覧表

遺構	柱穴	径(m)	深さ(m)	平面形	柱痕跡
RA645 竪穴住居跡	P1	0.32	0.4	不整円形	なし
	P2	0.43	0.38	不整円形	なし

第5表 飯岡才川遺跡第14次調査竪穴建物跡主柱穴規模等一覧表

遺構	柱穴	径(m)	深さ(m)	平面形	柱痕跡
RA044 竪穴住居跡	P1	0.32	0.35	不整円形	あり

第6表 矢盛遺跡第15次調査掘立柱建物跡・柱列跡掘方規模等一覧表(1)

遺構	掘方	径(m)	深さ(m)	平面形	柱痕跡
RB046a 掘立柱建物跡①	掘方 1	0.35	0.40	不整円形	なし
	掘方 2	0.26	0.22	不整円形	なし
	掘方 4	0.32	0.42	不整円形	あり
	掘方 5	0.30	0.32	不整円形	あり
	掘方 8	0.32	0.30	不整円形	あり
	掘方 9	0.28	0.34	不整円形	あり
	掘方 10	0.34	0.46	不整円形	あり
	掘方 11	0.35	0.38	不整円形	あり
	掘方 12	0.35	0.50	不整円形	あり
	掘方 13	0.40	0.32	不整円形	あり
	掘方 14	0.35	0.36	不整円形	あり
	掘方 15	0.40	0.38	不整円形	あり
	掘方 16	0.35	0.32	不整円形	あり
	掘方 17	0.32	0.34	不整円形	あり
	掘方 18	0.30	0.30	不整円形	あり
	掘方 19	0.30	0.30	不整円形	なし
	掘方 20	0.25	0.22	不整円形	あり
	掘方 21	0.28	0.30	不整円形	あり
	掘方 22	0.35	0.10	不整円形	なし
	掘方 23	0.40	0.12	不整円形	なし
	掘方 24	0.30	0.18	不整円形	あり
	掘方 25	0.28	0.14	不整円形	あり
	掘方 26	0.32	0.50	不整円形	あり
	掘方 27	0.35	0.28	不整円形	あり
	掘方 28	0.35	0.30	不整円形	あり
	掘方 30	0.40	0.40	不整円形	あり
	掘方 31	0.42	0.32	不整円形	なし
	掘方 32	0.38	0.45	不整円形	あり
	掘方 34	0.38	0.52	不整円形	あり
	掘方 35	0.44	0.40	不整円形	あり
	掘方 36	0.30	0.20	不整円形	なし
	掘方 37	0.35	0.24	不整円形	あり
	掘方 38	0.30	0.24	不整円形	あり
	掘方 39	0.38	0.42	不整円形	あり
	掘方 41	0.32	0.45	不整円形	あり
	掘方 42	0.40	0.50	不整円形	あり
	掘方 43	0.30	0.16	不整円形	なし
	掘方 44	0.32	0.30	不整円形	なし
	掘方 45	0.34	0.28	不整円形	なし
	掘方 46	0.30	0.20	不整円形	あり
	掘方 47	0.28	0.22	不整円形	あり

第7表 矢盛遺跡第15次調査掘立柱建物跡・柱列跡掘方規模等一覧表(2)

遺構	掘方	径(m)	深さ(m)	平面形	柱痕跡
RB046a 掘立柱建物跡②	掘方 48	0.32	0.50	不整円形	あり
	掘方 49	0.30	0.35	不整円形	あり
	掘方 50	0.35	0.20	不整円形	あり
	掘方 52	0.30	0.20	不整円形	なし
	掘方 53	0.36	0.25	不整円形	なし
	掘方 54	0.34	0.45	不整円形	なし
	掘方 55	0.26	0.24	不整円形	あり
	掘方 56	0.34	0.22	不整円形	あり
	掘方 57	0.30	0.36	不整円形	あり
	掘方 58	0.30	0.30	不整円形	あり
	掘方 60	0.25	0.15	不整円形	なし
	掘方 61	0.26	0.18	不整円形	あり
	掘方 62	0.30	0.15	不整円形	なし
掘方 63	0.34	0.14	不整円形	あり	
RB046b 掘立柱建物跡	掘方 65	0.30	0.30	不整円形	あり
	掘方 66	0.36	0.22	不整円形	なし
	掘方 67	0.38	0.44	不整円形	あり
	掘方 68	0.30	0.28	不整楕円形	あり
	掘方 69	0.34	0.22	不整円形	あり
	掘方 70	0.38	0.25	不整円形	あり
遺構	掘方	径(m)	深さ(m)	平面形	柱痕跡
RC007 掘立柱列跡	掘方 1	0.30	0.44	不整円形	あり
	掘方 2	0.34	0.36	不整円形	あり
	掘方 3	0.30	0.35	不整円形	なし
	掘方 4	0.36	0.30	不整円形	あり

第8表 台太郎遺跡第59次調査ビット計測表

No.	径(m)	深さ(m)	No.	径(m)	深さ(m)	No.	径(m)	深さ(m)
1	0.34	0.50	11	0.30	0.18	21	0.30	0.14
2	0.42	0.26	12	0.50	0.25	22	0.42	0.16
3	0.32	0.20	13	0.40	0.30	23	0.32	0.10
4	0.44	0.20	14	0.35	0.18	24	0.46	0.30
5	0.54	0.30	15	0.30	0.12	25	0.28	0.14
6	0.40	0.32	16	0.32	0.18	26	0.28	0.12
7	0.35	0.15	17	0.40	0.28	27	0.28	0.20
8	0.38	0.16	18	0.36	0.18	28	0.44	0.30
9	0.52	0.30	19	0.44	0.14	29	0.38	0.20
10	0.28	0.15	20	0.34	0.14	30	0.32	0.20

第9表 台太郎遺跡第60次調査ビット計測表

No.	径(m)	深さ(m)	No.	径(m)	深さ(m)	No.	径(m)	深さ(m)
1	0.22	0.15	23	0.35	0.25	45	0.35	0.30
2	0.35	0.28	24	0.34	0.10	46	0.25	0.24
3	0.24	0.15	25	0.44	0.08	47	0.26	0.30
4	0.38	0.12	26	0.20	0.08	48	0.24	0.30
5	0.22	0.32	27	0.40	0.35	49	0.30	0.30
6	0.23	0.08	28	0.24	0.20	50	0.30	0.15
7	0.25	0.40	29	0.18	0.25	51	0.25	0.20
8	0.26	0.24	30	0.32	0.25	52	0.25	0.10
9	0.20	0.14	31	0.24	0.15	53	0.20	0.10
10	0.25	0.14	32	0.24	0.14	54	0.28	0.20
11	0.42	0.28	33	0.25	0.15	55	0.20	0.10
12	0.22	0.20	34	0.30	0.20	56	0.20	0.20
13	0.32	0.26	35	0.30	0.34	57	0.26	0.10
14	0.25	0.18	36	0.22	0.15	58	0.22	0.20
15	0.25	0.15	37	0.34	0.28	59	0.48	0.22
16	0.20	0.24	38	0.20	0.15	60	0.20	0.14
17	0.34	0.30	39	0.42	0.22	61	0.43	0.20
18	0.28	0.20	40	0.20	0.30	62	0.18	0.14
19	0.32	0.16	41	0.30	0.12	63	0.25	0.14
20	0.30	0.30	42	0.24	0.10	64	0.30	0.15
21	0.24	0.22	43	0.28	0.15			
22	0.40	0.42	44	0.20	0.32			

第 10 表 台太郎遺跡第 61 次調査ビット計測表

No.	径(m)	深さ(m)	No.	径(m)	深さ(m)	No.	径(m)	深さ(m)
1	0.50	0.38	2	0.50	0.18			

第 11 表 台太郎遺跡第 62 次調査ビット計測表

No.	径(m)	深さ(m)	No.	径(m)	深さ(m)	No.	径(m)	深さ(m)
1	0.25	0.20	23	0.29	0.26	45	0.30	0.27
2	0.30	0.25	24	0.30	0.25	46	0.42	0.28
3	0.25	0.15	25	0.36	0.17	47	0.19	0.18
4	0.30	0.20	26	0.34	0.20	48	0.40	0.17
5	0.25	0.20	27	0.27	0.22	49	0.30	0.30
6	0.25	0.15	28	0.26	0.19	50	0.30	0.50
7	0.30	0.30	29	0.25	0.12	51	0.31	0.37
8	0.25	0.22	30	0.41	0.17	52	0.22	0.48
9	0.38	0.32	31	0.36	0.30	53	0.45	0.30
10	0.27	0.14	32	0.27	0.22	54	0.41	0.29
11	0.37	0.21	33	0.43	0.25	55	0.24	0.24
12	0.25	0.17	34	0.30	0.20	56	0.35	0.18
13	0.30	0.32	35	0.40	0.20	57	0.25	0.20
14	0.32	0.32	36	0.30	0.28	58	0.30	0.18
15	0.26	0.36	37	0.20	0.12	59	0.30	0.27
16	0.43	0.30	38	0.20	0.32	60	0.39	0.40
17	0.36	0.17	39	0.18	0.15	61	0.34	0.30
18	0.37	0.32	40	0.40	0.28	62	0.28	0.22
19	0.42	0.30	41	0.24	0.16	63	0.34	0.24
20	0.35	0.42	42	0.30	0.30	64	0.38	0.18
21	0.32	0.25	43	0.50	0.21	65	0.34	0.20
22	0.30	0.20	44	0.20	0.27	66	0.32	0.19

第 12 表 台太郎遺跡第 63 次調査ビット計測表

No.	径(m)	深さ(m)	No.	径(m)	深さ(m)	No.	径(m)	深さ(m)
1	0.30	0.22	9	0.34	0.22	17	0.25	0.12
2	0.24	0.16	10	0.32	0.18	18	0.38	0.24
3	0.25	0.12	11	0.30	0.22	19	0.38	0.12
4	0.22	0.12	12	0.30	0.20	20	0.33	0.33
5	0.23	0.20	13	0.40	0.14	21	0.40	0.32
6	0.22	0.20	14	0.36	0.10	22	0.32	0.30
7	0.22	0.20	15	0.38	0.12	23	0.33	0.10
8	0.38	0.12	16	0.26	0.18	24	0.34	0.18

第 13 表 台太郎遺跡第 68 次調査ビット計測表

No.	径(m)	深さ(m)	No.	径(m)	深さ(m)	No.	径(m)	深さ(m)
1	0.25	0.20	39	0.35	0.25	77	0.25	0.30
2	0.30	0.22	40	0.58	0.25	78	0.30	0.16
3	0.30	0.20	41	0.50	0.13	79	0.38	0.10
4	0.48	0.30	42	0.52	0.18	80	0.30	0.38
5	0.30	0.22	43	0.50	0.28	81	0.36	0.18
6	0.44	0.35	44	0.35	0.32	82	0.38	0.18
7	0.40	0.35	45	0.30	0.12	83	0.42	0.25
8	0.38	0.25	46	0.35	0.20	84	0.30	0.32
9	0.35	0.28	47	0.24	0.08	85	0.40	0.18
10	0.30	0.23	48	0.30	0.28	86	0.40	0.25
11	0.40	0.32	49	0.26	0.30	87	0.30	0.26
12	0.52	0.40	50	0.30	0.20	88	0.34	0.25
13	0.44	0.23	51	0.30	0.12	89	0.35	0.16
14	0.30	0.20	52	0.30	0.22	90	0.50	0.42
15	0.38	0.22	53	0.28	0.12	91	0.44	0.12
16	0.35	0.10	54	0.42	0.15	92	0.42	0.24
17	0.44	0.40	55	0.38	0.30	93	0.28	0.15
18	0.40	0.20	56	0.35	0.36	94	0.28	0.08
19	0.45	0.18	57	0.38	0.18	95	0.22	0.26
20	0.42	0.15	58	0.35	0.30	96	0.28	0.10
21	0.35	0.20	59	0.52	0.32	97	0.28	0.28
22	0.22	0.05	60	0.22	0.13	98	0.36	0.41
23	0.40	0.12	61	0.26	0.13	99	0.30	0.15
24	0.38	0.15	62	0.56	0.26	100	0.32	0.25
25	0.22	0.15	63	0.54	0.20	101	0.22	0.10
26	0.30	0.30	64	0.32	0.33	102	0.26	0.08
27	0.50	0.30	65	0.26	0.15	103	0.28	0.10
28	0.35	0.15	66	0.20	0.24	104	0.30	0.10
29	0.40	0.13	67	0.30	0.25	105	0.20	0.10
30	0.38	0.26	68	0.50	0.20	106	0.22	0.08
31	0.40	0.15	69	0.50	0.24	107	0.32	0.12
32	0.30	0.20	70	0.42	0.14	108	0.30	0.31
33	0.32	0.22	71	0.46	0.15	109	0.39	0.20
34	0.20	0.10	72	0.28	0.22	110	0.22	0.22
35	0.40	0.15	73	0.20	0.08	111	0.25	0.14
36	0.43	0.15	74	0.45	0.20	112	0.30	0.15
37	0.30	0.20	75	0.20	0.25			
38	0.23	0.14	76	0.26	0.20			

第14表 台太郎遺跡第67次調査ビット計測表

No.	径(m)	深さ(m)	No.	径(m)	深さ(m)	No.	径(m)	深さ(m)
1	0.35	0.42	4	0.32	0.43	7	0.33	0.20
2	0.31	0.43	5	0.37	0.43	8	0.40	0.34
3	0.34	0.18	6	0.30	0.25	9	0.35	0.33

第15表 飯岡沢田遺跡第12次調査ビット計測表

No.	径(m)	深さ(m)	No.	径(m)	深さ(m)	No.	径(m)	深さ(m)
1	0.30	0.12	5	0.25	0.18	9	0.30	0.14
2	0.48	0.20	6	0.28	0.16	10	0.30	0.14
3	0.26	0.18	7	0.34	0.16			
4	0.42	0.25	8	0.28	0.20			

第16表 矢盛遺跡第15次調査ビット計測表

No.	径(m)	深さ(m)	No.	径(m)	深さ(m)	No.	径(m)	深さ(m)
1	0.34	0.25	14	0.30	0.50	27	0.15	0.15
2	0.55	0.12	15	0.20	0.20	28	0.35	0.22
3	0.34	0.35	16	0.25	0.23	29	0.38	0.40
4	0.35	0.45	17	0.30	0.60	30	0.40	0.12
5	0.25	0.25	18	0.30	0.13	31	0.30	0.45
6	0.30	0.32	19	0.20	0.12	32	0.40	0.30
7	0.30	0.32	20	0.45	0.30	33	0.25	0.25
8	0.25	0.35	21	0.35	0.35	34	0.30	0.18
9	0.28	0.30	22	0.20	0.36	35	0.40	0.10
10	0.20	0.14	23	0.30	0.50	36	0.26	0.12
11	0.24	0.22	24	0.30	0.18	37	0.36	0.18
12	0.20	0.20	25	0.38	0.14	38	0.26	0.22
13	0.25	0.22	26	0.34	0.20			

第17表 矢盛遺跡第17次調査ビット計測表

No.	径(m)	深さ(m)	No.	径(m)	深さ(m)	No.	径(m)	深さ(m)
1	0.60	0.28	2	0.70	0.20	3	0.50	0.30

第18表 矢盛遺跡第21次調査ビット計測表

No.	径(m)	深さ(m)	No.	径(m)	深さ(m)	No.	径(m)	深さ(m)
1	0.26	0.20	5	0.33	0.22	9	0.30	0.28
2	0.35	0.25	6	0.33	0.23	10	0.33	0.40
3	0.33	0.30	7	0.32	0.15	11	0.28	0.38
4	0.35	0.45	8	0.35	0.26			

第19表 本宮熊堂日遺跡第32・33次調査遺構土層観察表

遺構名	層名	主要土		含有土		状態	%	硬軟	湿度	その他	
		土色(L&S)	土質(備考)	土色(L&S)	土質(備考)						
RG145 溝跡	A1	10YR2/2-2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR2/3-4 暗褐色	—	粒状	5	中	中	中～密	
	B1	10YR3/4-3 暗緑～C 土黄褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR2/2-2 黒褐色	—	粒～塊状	50	中～硬	中	中～密	
RG146 溝跡	A1	10YR2/2-2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR5/6-5 黄褐色	SCL シルト質硬砂土	粒～塊状	5	中	中	中～密	
	A2	10YR2/2-2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR3/2 暗褐色	SCL シルト質硬砂土	粒～塊状	20	中	中	中	
	A3	10YR2/2-2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR3/2 暗褐色	SCL シルト質硬砂土	粒～塊状	30	中	中	中	
	A4	10YR2/2-2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質硬砂土	粒～塊状	5	—	—	—	—
	A5	10YR2/2-2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR3/2 暗褐色	SCL シルト質硬砂土	粒～塊状	10	中	中	中	中
	A6	10YR2/2-2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR3/2 暗褐色	SCL シルト質硬砂土	粒～塊状	10	中	中	中	中
	A8	10YR2/2-2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR5/6-5 黄褐色	SCL シルト質硬砂土	粒～塊状	20	中	中	中	中
	B1	10YR2/2-2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR5/6-5 黄褐色	SCL シルト質硬砂土	粒～塊状	20	中	中	中	中
	B2	10YR4/4-4 褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR6/6 褐色	SCL シルト質硬砂土	粒～塊状	10	中	中	中	中

第20表 台北遺跡第59次調査遺構土層観察表

遺構名	層名	主要土		含有土		状態	%	硬軟	湿度	その他
		土色(L&S)	土質(備考)	土色(L&S)	土質(備考)					
RA308 壁状建物跡	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質硬砂土	—	10-15	中	中	—
	B1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質硬砂土	—	15-20	中	中	—
	C1	10YR4/4 褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質硬砂土	—	15-20	中	中	—
RA308 貯穴	A	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR4/6 褐色	—	—	1-3	中	中	壁少し湿しめる
	B	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR4/6 褐色	—	—	1-3	中	中	壁 a1-5cm が湿しめる
	C	10YR2/3 に近い黄褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR4/6 褐色	—	—	10-15	中	中	壁傘大が湿しめる
RA297 壁状建物跡	A1	10YR2/1-2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR2/3-4 暗褐色～暗褐色	SCL シルト質硬砂土	—	10	中	中	—
	B1	10YR2/3-4 暗褐色～暗褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	—	10-15	中	中	—
RD007 土坑	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	土色(L&S)	土質(備考)	状態	%	硬軟	湿度	その他
	B1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質硬砂土	粒～塊状	1-3	中	—	—
	B2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質硬砂土	粒～塊状	10-15	中	中	—
	C1	10YR4/4 褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR2/2 黒褐色	—	粒～塊状	10-15	中	中	—
RD038 土坑	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質硬砂土	粒～塊状	1-3	中	—	—
	B1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質硬砂土	粒～塊状	3-5	中	—	—
	B2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質硬砂土	粒～塊状	3-5	中	—	—
RG339(7) 溝跡	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質硬砂土	—	10-15	中	中	—
	B1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質硬砂土	—	7-10	中	中	—
	C1	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質硬砂土	—	3-5	中	中	—
	D1	10YR3/4 暗褐色	SCL シルト質硬砂土	5YR5/6 暗黄褐色	SCL シルト質硬砂土	—	20-25	中	中	—
	E1	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質硬砂土	—	5-7	中	中	—
	F1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	5YR5/6 暗黄褐色	SCL シルト質硬砂土	—	10-15	中	中	—
	F2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質硬砂土	—	3-5	中	中	—
	G1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	7.5YR4/6 褐色	SCL シルト質硬砂土	—	5-7	中	中	—
	G2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	7.5YR4/6 褐色	SCL シルト質硬砂土	—	5-7	中	中	—
	H1	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質硬砂土	7.5YR4/6 褐色	SCL シルト質硬砂土	—	5-7	中	中	—
	H2	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質硬砂土	7.5YR4/6 褐色	SCL シルト質硬砂土	—	5-7	中	中	—
	RG407 溝跡	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質硬砂土	粒～塊状	20-25	中	中
B1		10YR3/4 暗褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質硬砂土	粒～塊状	5-7	中	中	—
RG541 溝跡	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR2/1 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	粒～塊状	15-20	中	中	—
	B1	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR2/1 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	粒～塊状	10	中	中	—
RG542(2) 溝跡	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質硬砂土	粒～塊状	10	中	中	—
	B1	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質硬砂土	粒～塊状	20-30	中	中	—
	C1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR2/1 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	粒～塊状	5-7	中	中	—
RG543 溝跡	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質硬砂土	粒～塊状	2-3	中	中	—
	B1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	7.5YR4/6 褐色	SCL シルト質硬砂土	—	5-7	中	中	—
RG544 溝跡	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質硬砂土	粒～塊状	5-7	中	中	—
	B1	10YR3/4 暗褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質硬砂土	粒～塊状	10-15	中	中	—
RG545 溝跡	A1	10YR3/4 暗褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質硬砂土	粒～塊状	5-7	中	中	—
	D1	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR4/2 に近い黄褐色	SCL シルト質硬砂土	粒～塊状	7-10	中	中	—
RG546 溝跡	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質硬砂土	粒～塊状	10	中	中	—
	B1	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質硬砂土	粒～塊状	3-5	中	中	—
RG547 溝跡	A1	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質硬砂土	—	5-7	中	中	—
	B1	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質硬砂土	粒～塊状	5-7	中	中	—
RG548 溝跡	E1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質硬砂土	—	10-15	中	中	—
	F1	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	粒～塊状	10-15	中	中	—
RG549 溝跡	A1	10YR2/3-3 暗褐色～暗褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR2/1-2 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	—	20-25	中	中	—
	B1	10YR3/5 暗黄褐色～暗黄褐色	—	—	—	—	—	—	—	—
RG550 溝跡	A1	10YR2/1 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質硬砂土	粒～塊状	1-3	中	中	—
	A2	10YR2/1 黒褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質硬砂土	粒～塊状	1-3	中	中	—
	B1	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質硬砂土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質硬砂土	粒～塊状	10-15	中	中	—



第 21 表 台太郎遺跡第 60 次調査構土层観察表

遺構名	層名	主要土		自然土				硬軟	湿度	その他	
		土色(層別)	土質(層別)	土色(層別)	土質(層別)	状態	%				
RD0029 土坑	A1	10YR2/3 黒褐色	S/C L シルト質凝結土	10YR4/4-6 褐色	S/C L シルト質凝結土	粉～粒状	5	硬	泥	炭化物粒 1% 混じる	
				2.5YR6/9 明赤褐色	凝土	粒状	3				
	A2	10YR2/3 黒褐色	S/C L シルト質凝結土	10YR4/4-6 褐色	S/C L シルト質凝結土	粉～粒状	10	硬	泥	炭化物粒 5% 混じる	
					2.5YR6/9 明赤褐色	凝土	粒状	5			
	B1	10YR2/1-2 黒褐色	S/C L シルト質凝結土	10YR4/4-6 褐色	S/C L シルト質凝結土	粉～塊状	50	硬	泥		
					—	炭化物・塊土	粒状	3			
	B2	10YR2/3-3 黒褐色～暗褐色	S/C L シルト質凝結土	10YR4/4-6 褐色	S/C L シルト質凝結土	粉～塊状	30	硬	泥		
					—	炭化物・塊土	粒状	3			
	B3	10YR2/3-3 黒褐色～暗褐色	S/C L シルト質凝結土	10YR4/4-6 褐色	S/C L シルト質凝結土	粉～塊状	50	硬	泥		
					—	炭化物・塊土	粒状	1			
	C1	10YR4/4-6 褐色	S/C L シルト質凝結土	10YR2/2-2/2 黒褐色	S/C L シルト質凝結土	粉～粒状	40	硬	泥		
					—	炭化物・塊土	粒状	1			
	C2	10YR4/4-6 褐色	S/C L シルト質凝結土	10YR2/2-2/2 黒褐色	S/C L シルト質凝結土	粉～塊状	20	硬	泥		
				—	炭化物・塊土	粒状	1				
D1	10YR2/3 黒褐色	S/C L シルト質凝結土	10YR4/4-6 褐色	S/C L シルト質凝結土	粉～粒状	20	硬	泥	砂まじり		
				—	炭化物・塊土	粒状	5				
RD0030 土坑	A1	10YR2/3-2/2 黒褐色	S/C L シルト質凝結土	10YR4/4-6 褐色	S/C L シルト質凝結土	粉～塊状	30	中～硬	中～泥		
	B1	10YR2/3-3 黒褐色～暗褐色	S/C L シルト質凝結土	10YR4/4-6 褐色	S/C L シルト質凝結土	粉～塊状	50	中～硬	中～泥		
	C1	10YR4/4-6 褐色	S/C L シルト質凝結土	10YR2/2-2/2 黒褐色	S/C L シルト質凝結土	粉～粒状	30	中～硬	中～泥		
RD0031 土坑	A1	10YR3/3-3/4 暗褐色	S/C L シルト質凝結土	10YR4/4 褐色	S/C L シルト質凝結土	粉状	10	—	—		
				10YR2/3-3/2 黒褐色	S/C L シルト質凝結土	粉～粒状	20				
				—	酸化鉄	粉～塊状	50				
	A2	10YR2/3-3/3 黒褐色～暗褐色	S/C L シルト質凝結土	10YR4/4 褐色	S/C L シルト質凝結土	粒状	20	中～硬	中～泥		
					10YR2/2-3/4 暗褐色	S/C L シルト質凝結土	粒状	10			
				—	酸化鉄	粒状	5				
RD0032 土坑	A1	10YR2/3 黒褐色	S/L シルト質凝土	—	酸化鉄砂	粉状	50	硬	中～泥	グライ化粘土	
	A2	10YR2/3-2/2 黒褐色	S/L シルト質凝土	—	酸化鉄砂	粉状	50	硬	中～泥	グライ化粘土	
	A3	5YR6/9 赤褐色	S/L シルト質凝土	10YR2/3 黒褐色	S/L シルト質凝土	粉状	30	硬	中～泥	酸化鉄	
	A4	10YR2/3-2/2 黒褐色	S/L シルト質凝土	10YR4/4-6 褐色	S/L シルト質凝土	粉状	5	中～硬	中～泥		
	A5	10YR4/6 褐色	S/L シルト質凝土	10YR2/3 黒褐色	S/L シルト質凝土	—	30	中～硬	中～泥	グライ化粘土	
	B1	10YR2/3 黒褐色	S/C L シルト質凝結土	—	酸化鉄砂	—	10	—	—	グライ化粘土～砂	
	B2	10YR2/3 黒褐色	S/C L シルト質凝結土	—	酸化鉄砂	—	50	—	—	グライ化粘土～砂	
	B3	10YR2/3 黒褐色	S/C L シルト質凝結土	—	酸化鉄砂	—	30	—	—	グライ化粘土～砂	
	C1	10YR2/3-2/2 黒褐色	S/L シルト質凝土	—	砂礫・グライ化土	粉状	5	—	—		
	C2	10YR3/4-3 暗赤～C/L 暗褐色	S/C L シルト質凝結土	10YR4/4 褐色	—	粉状	5	—	—		
					—	砂礫・酸化鉄	粉状	5	—		
	C3	10YR4/4-3 暗赤～C/L 暗褐色	S/C L シルト質凝結土	—	砂	—	—	—	—		
	C4	10YR4/4-3 暗赤～C/L 暗褐色	S/L 砂凝土	—	砂・グライ化粘土	—	5	—	—		
C5	10YR3/3-3/3 暗赤～暗褐色	S/L 砂凝土	—	酸化鉄	粉状	5	—	—	砂礫		

第22表 台太郎遺跡第61次調査遺構土層観察表

遺構名	層名	主要土		自然土				観察	厚さ	その他
		土色(約)	土質(概略)	土色(約)	土質(概略)	状態	%			
RD033 土坑	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質硬粘土	粒状	40	中-硬	中-密	
	A2	10YR2/2-2/3 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質硬粘土	粒-塊状	30	中-硬	中-密	
	B1	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR2/3-2/3 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	粒-塊状	40	中-硬	中-密	
	B2	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR2/3-2/3 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	粒-塊状	50	中-硬	中-密	
	A1	10YR2/2-2/3 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質硬粘土	粒-塊状	20	中-硬	中-密	
RD034 土坑(ため池畔)新築硬土	A2	10YR2/2-2/3 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質硬粘土	粒-塊状	20	中-硬	中-密	
					融化鉄					
						融化鉄	10			
	A3	10YR2/2-2/1 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質硬粘土	粒-塊状	—	中-硬	中-密	
	A4	10YR2/2-2/3 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質硬粘土	粒状	3	中-硬	中-密	
	A5	10YR2/2-2/3 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR2/1 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	粒-塊状	30	中-硬	中-密	
	A6	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質硬粘土	粒-塊状	40	中-硬	中-密	人為堆積か
	B1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質硬粘土	塊状	—	硬	密	グライ化土程度らしい
	B2	10YR2/2-2/3 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質硬粘土	粒-塊状	30	硬	密	グライ化土
						融化鉄	10			
						層状	—			
	B3	10YR2/2-2/1 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質硬粘土	粒-塊状	50	硬	密	
B4	10YR2/2-2/3 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質硬粘土	粒-塊状	50	硬	密		
B5	10YR2/3-2/3 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	—	融化鉄	層状	30	硬	密	グライ化粘土層	
B6	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR2/2-2/3 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	粒-塊状	20	中-硬	中-密		
					塊	40-5cm				
B7	10YR2/1-2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	—	10YR4/4 褐色	SCL シルト質硬粘土	粒-塊状	30	中-硬	中-密	
					グライ化土	粒-塊状	5			
RD034 土坑(ため池畔)古築硬土	C1	10YR2/2-2/3 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質硬粘土	粒状	50	中-硬	中-密	人為堆積か
	C2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質硬粘土	粒状	10	硬	密	グライ化粘土層、土間に融化鉄が2cm層状に堆積
	C3	10YR4/6-4/4 褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR2/3 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	粒-塊状	30	硬	密	層 40-10cm 深じり
						融化鉄	—	5		
	C4	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質硬粘土	粒-塊状	30	硬	密	層 40-5cm 深じり
						グライ化土	—	30		
						融化鉄	—	3		
	C5	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質硬粘土	粒状	20	中-硬	中-密	
	C6	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質硬粘土	粒-塊状	40	中-硬	中-密	
	C7	10YR2/2-2/1 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質硬粘土	粒-塊状	30	中-硬	中-密	
	C8	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質硬粘土	粒-塊状	30	中-硬	中-密	
	D1	10YR2/2-2/3 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	—	グライ化土	—	30	硬	密	層 40-5cm 深じり
					融化鉄	粒-塊状	30			
D2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR2/2 黒褐色	砂礫	—	50	硬	密	層 40-5cm 深じり	
					グライ化砂~土	—	10			
D3	10YR2/1-2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR2/1-2/2 黒褐色	グライ化粘土	—	—	硬	密		
					融化鉄	層状	30			
D4	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR2/2-2/3 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	—	—	中	密		
					10YR2/1 黒褐色	砂	層状	10		
D5	10YR2/2-2/3 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質硬粘土	—	30	硬	密	砂礫混じる	
					融化鉄	—	30			
					グライ化土	—	50			
D6	10YR3/3-4 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR2/2-2/3 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	—	30	硬	密		
					融化鉄	粒状	5			
					—	—	30			
D7	10YR2/3 黒褐色	SL 砂礫土	—	グライ化土	粒状	5	硬	中	層 40-15cm 深じり、砂礫土	
D8	10YR2/3-2/3 黒褐色	SL 砂礫土	10YR2/1-2/2 黒褐色	—	粒状	5	硬	中	層 40-5cm 深じり、砂礫土	
RD035 土坑	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質硬粘土	粒状	10	中	中	
	B1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質硬粘土	粒状	20	中	中	
RD036 土坑	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬土	10YR4/4-6 褐色	SL シルト質硬土	粒-塊状	5	中	中	
	A2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬土	10YR2/2 黒褐色	SL シルト質硬土	粒-塊状	10	中	中	融化鉄が少し混じる

第 23 表 台太郎遺跡第 63 次調査遺構土層観察表(1)

遺構名	層名	主要土		自然土		状態	%	硬軟	湿度	その他
		土色(45°)	土質(層厚)	土色(45°)	土質(層厚)					
RA63 壁穴遺構跡	A1	10YR2/2-2 灰褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6-5 黄褐色 10YR2/1-2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土 SCL シルト質凝結土	状態	10	中	中	一部酸化跡見られる
	A2	10YR2/3-2 灰褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6-5 黄褐色 10YR2/1-5/2 灰白色	SCL シルト質凝結土 層状パミス	層状	5-7	中	中	千粒目 a 火山灰
	A3	10YR2/3-2 灰褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/3-1 暗褐色 10YR2/1-5/2 灰白色	SCL シルト質凝結土 層状パミス	状態	15-20	中	中	千粒目 a 火山灰
	A4	10YR4/6-5 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 灰色	SCL シルト質凝結土	層状	1-2	中	中	標準
	B1	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6-5 黄褐色	SCL シルト質凝結土	層状	10-15	中	中	標準
	B2	10YR2/2-3/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	7.5YR5/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	層状	3-5	中	中	炭化物混入
	B3	10YR4/6-5 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 灰色	SCL シルト質凝結土	層状	2-3	中	中	炭化物混入
	C1	10YR2/1-3/2 灰褐色	SCL シルト質凝結土	7.5YR6/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	層状	15-20	中	中	
	C2	10YR5/6-5 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1-2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	層状	30	中	中	
	C3	10YR4/6-5 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 灰色	SCL シルト質凝結土	層状	1-2	中	中	
	C4	10YR4/6-5 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1-2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	層状	5-7	中	中	
	C5	10YR5/6-5 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2-2/3 黄褐色	SCL シルト質凝結土	層状	20-25	中	中	
	C6	10YR2/2-2/2 灰褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6-5 黄褐色	SCL シルト質凝結土	層状	10-15	中	中	
	C7	10YR4/6-5 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2-2/3 黄褐色	SCL シルト質凝結土	層状	20-25	中	中	
	D1	10YR2/2-2/2 灰褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6-5 黄褐色	SCL シルト質凝結土	層状	3-5	中	中	
	D2	10YR2/2-2/2 灰褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6-5 黄褐色	SCL シルト質凝結土	層状	10-15	中	中	
	D3	10YR2/3-1/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6-5 黄褐色	SCL シルト質凝結土	層状	7-10	中	中	
	D4	10YR4/6-5 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	層状	2-3	中	中	
	E1	10YR2/2-2/2 灰褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6-5 黄褐色	SCL シルト質凝結土	層状	15-20	中	中	
	E2	10YR2/3-3/3 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色 10YR2/1 灰色	SCL シルト質凝結土 SCL シルト質凝結土	層状 層状	10-15 5-7	中	中	
	F1	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	層状	15-20	中	中	表面腐食跡
J1	10YR2/3-1/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	2.5YR5/3 暗赤褐色 10YR6/6-5 黄褐色	凝土 SCL シルト質凝結土	層状 層状	20-25 7-10	中	中	炭化物少し混入。カマド跡	
J2	10YR2/1-3/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 黄褐色 5YR5/3 暗赤褐色	SCL シルト質凝結土 凝土	層状 層状	2-3 5-7	中	中	カマド跡	
J3	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	5YR5/6 黄褐色 5YR6/3 暗褐色	凝土 凝土	層状 層状	10-15 2-3	中	中	炭化物少し混入。カマド跡	
J4	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	5YR5/6 黄褐色 2.5YR5/3 暗赤褐色	凝土 凝土	層状 層状	7-10 15-20	中	中	炭化物少し混入。カマド跡	
J5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
J6	10YR2/3-3/3 黄褐色	SCL シルト質凝結土	2.5YR5/3 暗赤褐色	凝土	層状	2-3	中	中	炭化物わずかに混入。カマド跡	
J7	10YR5/6-5 黄褐色	SCL シルト質凝結土	2.5YR5/3 暗赤褐色 5YR5/6 黄褐色	凝土 凝土	層状 層状	1-2 2-3	中	中	炭化物わずかに混入。カマド跡	
J8	10YR3-4/3 暗赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1-2/2 黄褐色 2.5YR5/3 暗赤褐色	SCL シルト質凝結土 凝土	層状 層状	15-20 5-7	中	中	カマド跡	
J9	5YR4/6 赤褐色	凝土	2.5YR5/3 暗赤褐色 10YR2/1-2/2 黄褐色 10YR5/6-5 黄褐色	凝土 SCL シルト質凝結土 SCL シルト質凝結土	層状 層状 層状	15-20 2-3 2-3	中	中	カマド跡	
J10	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1-2/2 黄褐色 2.5YR5/3 暗赤褐色	SCL シルト質凝結土 凝土	層状 層状	3-5 —	中	中	カマド跡	
K1	10YR2/1-2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	層状	—	中	中	カマド跡	
K2	10YR2/2-2/3 黄褐色	SCL シルト質凝結土	5YR5/3 暗赤褐色	凝土	層状	2-3	中	中	カマド跡	
L1	10YR3/1-2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	層状	25-30	中	中	炭積土	
RA63I 壁穴遺構跡	A1	10YR2/1-1/1 灰色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6-5 黄褐色 5YR4/4 暗赤褐色	SCL シルト質凝結土 SCL シルト質凝結土	層状	7-10	中	中	
	A2	10YR2/1 灰色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6-5 黄褐色	SCL シルト質凝結土	層状	3-5	中	中	
	A3	10YR3/3/2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6-5 黄褐色	SCL シルト質凝結土	層状	10-15	中	中	
	B4	10YR4/6-5 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	層状	15-20	中	中	
	B1	10YR2-4/3 暗赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2-2/3 黄褐色 10YR4/6-5 黄褐色	SCL シルト質凝結土 SCL シルト質凝結土	層状 層状	7-10 3-5	中	中	
	B2	10YR2/1 灰色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6-5 黄褐色	SCL シルト質凝結土	層状	25-30	中	中	
	C1	10YR2/3-4 黄褐色	SCL シルト質凝結土	5YR5/3 暗赤褐色	凝土	層状	1-2	中	中	炭化物混入
	C2	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	5YR5/3 暗赤褐色 10YR7/5 黄褐色	凝土 SCL シルト質凝結土	層状 層状	15-20 1-3	中	中	
	C3	10YR2/3-3/3 黄褐色	SCL シルト質凝結土	5YR5/3 暗赤褐色 10YR6/6-5 黄褐色	凝土 SCL シルト質凝結土	層状 層状	5-7 7-10	中	中	
	D1	10YR2/3-3/3 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4-6 褐色 7.5YR5/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土 SCL シルト質凝結土	層状 層状	3-5 —	中	中	

第 24 表 台太郎遺跡第 63 次調査遺構土層観察表(2)

遺構名	層名	主要土		含有土		状態	%	硬軟	程度	その他														
		土色(L/S)	土質(備考)	土色(L/S)	土質(備考)																			
RA51 惣穴遺構跡①	J1	2.5YR5/7 明赤褐色	礫土	5YR5/3 明赤褐色	礫土	—	7-10	中	中～密	カマド跡(礫土)														
		—	—	7.5YR5/3 明赤褐色	SCL シルト質礫層土	—	7-10																	
	J2	10YR2/2-3/3 黄緑～黄褐色	SCL シルト質礫層土	—	5YR5/3 明赤褐色	礫土	—	5-7	中	中	カマド跡(礫土)													
					10YR6/3-1 明黄緑～黄褐色	SCL シルト質礫層土	粒状	7-10																
	J3	10YR2/2-3/3 黄緑～黄褐色	SCL シルト質礫層土	—	5YR5/3 明赤褐色	礫土	—	7-10	中	中	カマド跡(礫土)													
					10YR4/4-4/6 黄褐色	SCL シルト質礫層土	—	10-15																
	J4	10YR2/2-3/3 黄褐色	SCL シルト質礫層土	—	5YR5/3 明赤褐色	礫土	—	7-10	中	中	カマド跡(礫土)													
					10YR4/4-4/6 黄褐色	SCL シルト質礫層土	粒状	15-20																
	J5	10YR2/1-3/1 黄～黄褐色	SCL シルト質礫層土	—	5YR5/3 明赤褐色	礫土	—	7-10	中	中	カマド跡(礫土)													
					10YR6/3-5/5 黄褐色	SCL シルト質礫層土	粒状	10-15																
	J6	10YR2/1-3/1 黄～黄褐色	SCL シルト質礫層土	—	5YR5/3 明赤褐色	礫土	—	3-5	中	中	カマド跡(礫土)													
					10YR6/3-5/5 黄褐色	SCL シルト質礫層土	粒状	3-5																
	J7	10YR2/1-3/1 黄～黄褐色	SCL シルト質礫層土	—	5YR5/3 明赤褐色	礫土	—	1-3	中	中	カマド跡(礫土)													
10YR6/3-5/5 黄褐色					SCL シルト質礫層土	粒状	15-20																	
J8	10YR2/1-3/1 黄～黄褐色	SCL シルト質礫層土	—	5YR5/3 明赤褐色	礫土	—	10-15	中	中	カマド跡(礫土)														
				10YR6/3-5/5 黄褐色	SCL シルト質礫層土	粒状	10-20																	
J7	10YR3/3-4/4 暗褐色	SCL シルト質礫層土	—	10YR5/3 黄褐色	SCL シルト質礫層土	粒状	10-15	中	中	カマド跡(礫土)														
				10YR6/3-5/5 黄褐色	SCL シルト質礫層土	粒状	10-20																	
J7	10YR3/3-4/4 暗褐色	SCL シルト質礫層土	—	10YR5/3 黄褐色	SCL シルト質礫層土	粒状	10-15	中	中	カマド跡(礫土)														
				10YR6/3-5/5 黄褐色	SCL シルト質礫層土	粒状	10-20																	
K1	10YR5/5-6/5 黄褐色	SCL シルト質礫層土	—	10YR2/1-2/2 黄～黄褐色	SCL シルト質礫層土	—	2-3	中～硬	中～密	カマド跡(礫土)														
				10YR6/3-5/5 黄褐色	SCL シルト質礫層土	—	2-3																	
K2	10YR5/5-6/5 黄褐色	SCL シルト質礫層土	—	10YR2/1-2/2 黄～黄褐色	SCL シルト質礫層土	—	3-5	中～硬	中～密	カマド跡(礫土)														
				10YR6/3-5/5 黄褐色	SCL シルト質礫層土	—	20-25																	
L1	10YR4/5-5/5 黄褐色	SCL シルト質礫層土	—	10YR3/1-2/2 黄褐色	SCL 礫層土	—	3-5	—	—	黄褐色土、φ5-10 cm の礫が混入する														
L2	10YR4/5-5/5 黄褐色	SCL 礫層土	—	10YR3/1-2/2 黄褐色	SCL 礫層土	—	3-5	—	—	黄褐色土、φ5-10 cm の礫が混入する														
RE074 惣穴状遺構		主要土		含有土		状態	%	硬軟	程度	その他														
		土色(L/S)		土質(備考)																				
		A1	10YR2/1-1/1 黄褐色	SCL シルト質礫層土	10YR4/6-4/4 褐色						SCL シルト質礫層土	—	1-2	中	中									
		A2	10YR2/1-2/2 黄褐色	CL 礫層土	10YR4/6-4/4 褐色						SCL シルト質礫層土	—	1-2	中	中		炭化物少量混入							
		B1	10YR2/2-2/3 黄褐色	CL 礫層土	10YR4/6-4/4 褐色						SCL シルト質礫層土	—	2-3	中	中		炭化物少量混入							
		B2	10YR2/2-3/3 黄緑～黄褐色	CL 礫層土	—						10YR5/6/3 黄緑～黄褐色	SCL シルト質礫層土	—	7-10	中		中	炭化物少量混入						
											10YR4/6-5/6 黄褐色	SCL シルト質礫層土	—	10-15										
		B2	10YR2/2-3/3 黄緑～黄褐色	CL 礫層土	—						10YR4/6-5/6 黄褐色	SCL シルト質礫層土	—	7-10	中		中	炭化物少量混入						
											10YR5/6/3 黄緑～黄褐色	SCL シルト質礫層土	—	7-10										
		RG156 溝跡		主要土							含有土		状態	%	硬軟		程度	その他						
				土色(L/S)							土質(備考)													
				A1	10YR2/3 黄褐色						SCL シルト質礫層土	10YR4/4 褐色							SCL シルト質礫層土	粒状	15-20	中	中	
				—	—						—	10YR2/1 黄褐色							SCL シルト質礫層土	粒状	3-5	中	中	
10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質礫層土					粒状	微量																	
B1	10YR2/3 黄褐色			SCL シルト質礫層土	—	10YR4/4-6/6 褐色	SCL シルト質礫層土	—	10-15	中	中													
						10YR6/4-4/4 褐色	SCL シルト質礫層土	—	7-10															
C1	10YR4/6-4/4 褐色			SCL シルト質礫層土	—	10YR2/3 黄褐色	SCL シルト質礫層土	—	7-10	中	中	炭化物少量混入												
						10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質礫層土	—	5-7															
E1	10YR2/3 黄褐色			SCL シルト質礫層土	—	10YR5/6-4/6 黄緑～黄褐色	SCL シルト質礫層土	—	5-7	中	中	炭化物少量混入												
						10YR4/4-6/6 褐色	SCL シルト質礫層土	—	3-5															
G1	10YR4/6-4/4 褐色			SCL シルト質礫層土	—	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質礫層土	—	7-10	中	中	炭化物少量混入												
						10YR4/4-6/6 褐色	SCL シルト質礫層土	—	10-15															
G2	10YR1/2-2/1 黄～黄褐色	SCL シルト質礫層土	—	10YR4/4-6/6 褐色	SCL シルト質礫層土	—	10-15	中	中	炭化物少量混入														
				—	—	—	—																	
RD038 土坑		主要土		含有土		状態	%	硬軟	程度	その他														
		土色(L/S)		土質(備考)																				
		A1	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質礫層土	5YR4/4 黄～黄褐色						SCL シルト質礫層土	粒状	10-15	中	中									
		—	—	—	5YR5/3 明赤褐色						礫化鉄	粒状	7-10	中	中									
					10YR5/6-4/6 黄緑～黄褐色						SCL シルト質礫層土	粒状	20-25											
		B1	10YR2/1-2/2 黄～黄褐色	SCL シルト質礫層土	—						5YR5/3 明赤褐色	礫化鉄	粒状	2-3	中		中	炭化物少量混入						
											10YR5/6-4/6 黄緑～黄褐色	SCL シルト質礫層土	粒状	7-10										
		C1	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質礫層土	—						5YR5/3 明赤褐色	礫化鉄	粒状	2-3	中		中	炭化物少量混入						
											10YR5/6-4/6 黄緑～黄褐色	SCL シルト質礫層土	粒状	7-10										
		—	—	—	—						5YR5/3 明赤褐色	礫化鉄	粒状	微量	中～硬		中～密	人為堆積、人骨出土						
											10YR5/6-4/6 黄緑～黄褐色	SCL シルト質礫層土	粒状	微量										
		A2	10YR2/2-2/1 黄～黄褐色	SCL シルト質礫層土	—						10YR4/4 褐色	—	粒状	微量	中～硬		中～密	人為堆積						
											—	—	—	—										

第 25 表 台太郎遺跡第 67 次調査遺構土層観察表

遺構名	層名	主要土		含有土		採取	%	硬軟	湿度	その他
		土色(4B)	土質(階層)	土色(4B)	土質(階層)					
RA637 竪穴建物跡	A1	10YR3/2-3/4 暗褐色	SIL シルト質礫土	10YR4/4-6/6 褐色	SIL シルト質礫土	層～粒状	—	中	中	
	B1	—	—	—	—	—	—	—	—	
	C1	2.5YR6/6 黄褐色	焼土	10YR2/3 黄褐色	SIL シルト質礫土	粒～塊状	5	中～硬	中～密	
		2.5YR3/4-6 黄赤褐色～赤褐色	焼土	—	—	—	—	—	—	—
	C2	2.5YR3/4-6 黄赤褐色～赤褐色	焼土	10YR2/3 黄褐色	SIL シルト質礫土	粒～塊状	2	中～硬	中～密	
		5YR4/6 赤褐色	焼土	—	—	—	—	—	—	—
	C3	2.5YR3/4-6 黄赤褐色～赤褐色	焼土	10YR2/3 黄褐色	SIL シルト質礫土	粒～塊状	10	中～硬	中～密	
		2.5YR4/6 赤褐色	焼土	—	—	—	—	—	—	—
	C4	2.5YR3/4-6 黄赤褐色～赤褐色	焼土	2.5YR5/6-5/6 明赤褐色	SIL シルト質礫土	粒～塊状	—	中～硬	中～密	
	C5	2.5YR3/4-6 黄赤褐色～赤褐色	焼土	10YR2/3 黄褐色	SIL シルト質礫土	粒～塊状	10	中～硬	中～密	
		2.5YR5/6-5/6 明赤褐色	SIL シルト質礫土	—	—	—	—	—	—	—
	C6	10YR2/2-3/4 黄褐色～暗褐色	SIL シルト質礫土	10YR4/6 褐色	SIL シルト質礫土	粒～粒状	30	中～硬	中～密	
	C7	—	—	—	—	—	—	—	—	
	D1	10YR3/2-3/4 暗褐色	SIL シルト質礫土	10YR4/6 褐色	SIL シルト質礫土	粒～粒状	10	軟～中	中	陶瓦片土
K1	10YR3/2-3/4 暗褐色	SIL シルト質礫土	2.5YR4/4 に近い赤褐色	焼土	粒～粒状	5	軟～中	中	カマド構築土	
K2	10YR4/4-6 に近い赤褐色	焼土	10YR2/3 黄褐色	SIL シルト質礫土	粒～粒状	1	中	中	カマド構築土	
K3	10YR3/2 暗褐色	SIL シルト質礫土	2.5YR3/4-6 に近い赤褐色	焼土	粒～粒状	—	軟～中	中	カマド構築土	
K4	—	—	—	—	—	—	—	—	カマド構築土	
RA638 竪穴建物跡	A1	5YR4/6-4/6 赤褐色	焼土	10YR2/2 黄褐色	SIL シルト質礫土	粒～塊状	3	中	中	
		2.5YR4/6 赤褐色	—	—	—	—	—	—	—	
	A2	10YR2/2-3/4 暗褐色	SIL シルト質礫土	10YR5/6-5/6 黄褐色	SIL シルト質礫土	粒～粒状	20	中	中	
	A3	10YR2/2-3/4 暗褐色	SIL シルト質礫土	10YR5/6-5/6 黄褐色	SIL シルト質礫土	粒～粒状	30	中	中	
	B1	10YR2/2-3/4 暗褐色	SIL シルト質礫土	5YR5/6-5/6 明赤褐色	焼土	粒～粒状	30	中	中	炭化物少し混じる
	B2	—	—	—	—	—	—	—	—	
	B3	—	—	—	—	—	—	—	—	
	C1	—	—	—	—	—	—	—	—	
	C2	—	—	—	—	—	—	—	—	
	C3	10YR5/6-5/6 黄褐色	SIL シルト質礫土	10YR4/3 に近い黄褐色	SIL シルト質礫土	粒～粒状	5	中	中～密	
	C4	10YR3/2 暗褐色	SIL シルト質礫土	10YR6/6 黄褐色	SIL シルト質礫土	粒～塊状	5	中	中～密	焼土塊まじる
J1	10YR2/2-3/4 暗褐色	SIL シルト質礫土	10YR6/6 明黄褐色	SIL シルト質礫土	粒～粒状	10	中	中	カマド跡土	
J2	10YR5/6-5/6 黄褐色	SIL シルト質礫土	10YR2/2 暗褐色	SIL シルト質礫土	粒～粒状	10	中	中	カマド跡土	
遺構名	層名	主要土	含有土		採取	%	硬軟	湿度	その他	
RD0125 土坑	A1	10YR2/2-3/4 暗褐色	SIL シルト質礫土	10YR5/6-4/6 黄褐色～褐色	SIL シルト質礫土	粒～粒状	20	中～硬	中～密	
	A2	10YR2/2-3/4 暗褐色	SIL シルト質礫土	10YR5/6-4/6 黄褐色～褐色	SIL シルト質礫土	粒～粒状	30	中～硬	中～密	
	B1	10YR5/6-4/6 黄褐色～褐色	SIL シルト質礫土	10YR2/2 暗褐色	SIL シルト質礫土	粒～粒状	10	中～硬	中～密	
RD0126 土坑	A1	10YR3/2-3/4 暗褐色	SIL シルト質礫土	10YR6/6 黄褐色～明黄褐色	SIL シルト質礫土	粒～粒状	1	中～硬	中～密	
	A2	10YR3/2-3/4 暗褐色	SIL シルト質礫土	10YR6/6 明黄褐色	SIL シルト質礫土	粒～粒状	5	中～硬	中～密	炭化物が混じる
	A3	10YR3/2-3/4 暗褐色	SIL シルト質礫土	10YR6/6-7/6 明黄褐色	SIL シルト質礫土	粒～粒状	20	中～硬	中～密	

第 26 表 台太郎遺跡第 68 次調査遺構土層観察表(1)

遺構名	層名	主要土		自然土		状態	%	硬軟	湿度	その他	
		土色(4区)	土質(層厚)	土色(4区)	土質(層厚)						
RA565 壁状建物跡	A1	10YR3/2-3/4 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/6 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	層一枚状	10	中	中		
	L1	10YR2/2 黒褐色	SIL シルト質硬土	10YR4/6 暗褐色	SIL シルト質硬土	層一枚状	5	中	中		
RA574 壁状建物跡	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質硬粘土	層一枚状	1	中	中		
	A2	10YR3/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質硬粘土	層一枚状	1	中	中		
カマド a	A3	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質硬粘土	層一枚状	1-3	中	中		
	J1	10YR6/6-8 明黄褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質硬粘土	層一枚状	5	中-硬	中-密		
	J2	10YR4/6 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR6/6 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	層一枚状	5	中-硬	中-密	焼土粒少し混じる	
	J3	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/6 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	層一枚状	5	中-硬	中-密		
	J4	10YR3/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質硬粘土	層一枚状	10	中	中		
	J5	10YR3/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質硬粘土	層一枚状	2	中	中		
	J6	10YR3/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 明黄褐色	SCL シルト質硬粘土	層一枚状	20	中	中		
	J7	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/6 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	層一枚状	10	中-密	中-密	焼土粒少し混じる	
	J8	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	J9	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	J10	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	J11	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	カマド b	J1	10YR1/7/1 黒色	SCL シルト質硬粘土	5YR5/6 暗赤褐色	SCL シルト質硬粘土	層一枚状	10	中-硬	中	焼土少し混じる
J2		10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/6 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	層一枚状	3	中-硬	中	灰白色火山灰少し混じる	
J3		10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR2/1 黒色	SCL シルト質硬粘土	層一枚状	20	中-硬	中		
J4		10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/6 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	層一枚状	3	中	中		
J5		10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR2/1 黒色	SCL シルト質硬粘土	層一枚状	20	中	中	焼土少し混じる	
J6		10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR1/7/1 黒色	SCL シルト質硬粘土	層一枚状	10	中	中	焼土粒少し混じる	
J7		10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/6 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	層一枚状	10	中	中		
J8		10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR1/7/1 黒色	SCL シルト質硬粘土	層一枚状	5	中	中		
J9		10YR3/2 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/6 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	層一枚状	5	中	中		
J9		10YR3/2 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/6 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	層一枚状	40	中	中	焼土・炭化物少し混じる	
J9		10YR3/2 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	5YR5/6 暗赤褐色	SCL シルト質硬粘土	層一枚状	10	中	中		
J9		10YR3/2 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR2/4 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	層一枚状	15	中	中		
J10		10YR4/4 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR2/2 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	層一枚状	30	中	中-密		
J11		10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	7.5YR5/6 暗赤褐色	SCL シルト質硬粘土	層一枚状	10	中	中	焼土・炭化物少し混じる	
J12		10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR1/7/1 黒色	SCL シルト質硬粘土	層一枚状	30	中	中-密	焼土少し混じる	
K1		10YR5/6-8 黄褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/6 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	層一枚状	10	中-硬	中-密	カマド焼成土	
K2		10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/6 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	層一枚状	30	中-硬	中-密	カマド焼成土	
K3		10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/6 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	層一枚状	15	中	中-密	カマド焼成土	
RA577 壁状建物跡		A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 黄褐色	---	層一枚状	1	中	中	
	A2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 黄褐色	---	層一枚状	1	中	中		
	B1	10YR3/1 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 黄褐色	---	層一枚状	3-5	中	中		
	B2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 黄褐色	---	層一枚状	3-5	中	中	焼が少し混じる	
	B3	10YR3/1 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 黄褐色	---	層一枚状	1-3	中	中		
	C1	10YR3/4 暗褐色	SIL シルト質硬土	5YR4/6 暗赤褐色	焼土	粒状	少量				
	C1	10YR3/4 暗褐色	SIL シルト質硬土	10YR5/6 黄褐色	焼土	粒状	1-3	中	中		
	C2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 黄褐色	---	層一枚状	1-3	中	中		
	C2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	5YR5/6 暗赤褐色	焼土	---	3-5				
	C3	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 黄褐色	---	層一枚状	5-7	中	中		
RA578 壁状建物跡	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 黄褐色	SIL シルト質硬土	層一枚状	1	硬	密		
	A2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 黄褐色	SIL シルト質硬土	層一枚状	1	硬	密		
	B1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 黄褐色	SIL シルト質硬土	層一枚状	1	硬	密		
	B2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 黄褐色	SIL シルト質硬土	層一枚状	10-15	中-硬	中-密		
	B3	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬土	層一枚状	3-5	中-硬	中-密		
	C1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 黄褐色	SIL シルト質硬土	層一枚状	3-5	中-硬	中-密		
	C2	10YR3/2-3/4 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6-8 黄褐色	SCL シルト質硬土	層一枚状	15	中-硬	中-密	焼土塊・炭化物少し混じる	
	C3	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 黄褐色	SIL シルト質硬土	層一枚状	40	中-硬	中-密	焼土塊・炭化物少し混じる	
	C4	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 黄褐色	SIL シルト質硬土	層一枚状	10	中	中		
	C5	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	C6	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	C7	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 黄褐色	SIL シルト質硬土	層一枚状	5	中	中		
J1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 黄褐色	SIL シルト質硬土	層一枚状	1	中	中	カマド焼成土		
J1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	5YR4/6 暗赤褐色	SIL シルト質硬土	層一枚状	10-15					

第 27 表 台太郎遺跡第 68 次調査遺構土層観察表 (2)

遺構名	層名	主要土		自然土		硬軟	湿度	その他	
		土色(土質)	土質(層厚)	土色(土質)	土質(層厚)				
RA640 壁穴建物跡	A1	75YR6/7 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粉状	30	中 硬	
	B1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	2	中 中	
	B2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	30	中 中	
	C1	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	5	中 中	
				10YR4/4 褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	7	中 中	
	C2	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	7.5YR3/4 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	3	中 中	
				10YR6/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	2	中 中	
	D1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	15	中 中	炭化物少し混入
	D2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	10	中 中	—
	J1	—	—	—	—	—	—	—	—
	J2	10YR2/2 3/4 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 6/6 明黄褐色	SCL シルト質凝結土	粉～塊状	30	中 中	—
	J3	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 明黄褐色	SCL シルト質凝結土	粉～塊状	20	中 中	炭化物少し混入
	J4	10YR2/2 2/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	5	中 中	炭化物少し混入
	J5	10YR4/4 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	粉状	20	中 中	—
				10YR3/4 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粉状	40	中 中	—
	J6	10YR4/4 4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	10	中 中	—
				10YR2/2 2/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	7.5YR2/3 3/4 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	40
	J7	—	—	—	—	—	—	—	—
	J8	—	—	—	—	—	—	—	—
	J9	—	—	—	—	—	—	—	—
J10	—	—	—	—	—	—	—	—	
RA641 壁穴建物跡	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	5-7	中 中	黄白色粉状パリス(十粒程度)を混入 認め少し混入
	A2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	3-5	中 中	塵多量混入
	B1	—	—	—	—	—	—	—	—
	B2	7.5YR4/4 褐色	SIL シルト質凝結土	10YR4/6 黄褐色	SIL シルト質凝結土	粉～粒状	10-15	中 中	—
				2YR4/6 赤褐色	SIL シルト質凝結土	粉～粒状	1-3	中 中	—
	C1	10YR2/2 3/4 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 2/3 暗褐色	SIL シルト質凝結土	粉～粒状	3-5	中 中	—
				10YR4/6 黄褐色	SIL シルト質凝結土	粉～粒状	7-10	中 中	炭化物物混入。塵少し混入
	D1	10YR2/2 2/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	5	中 中	—
	D2	10YR2/2 2/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	7	中 中	小塵混入
	A1	10YR2/2 2/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	1	中 中	—
B1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	1	中 中	—	
B2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	1-3	中 中	—	
B3	—	—	—	—	—	—	—	—	
RA642 壁穴建物跡	D1	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 7/6 明黄褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	40	中 中	—
	D2	10YR2/2 2/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 明黄褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	10	中 中	—
	D3	10YR2/1 2/2 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	20	中 中	—
	D4	10YR3/3 3/4 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 5/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粉～塊状	5	中 中	—
	D5	10YR6/6 6/6 明黄褐色	SIL シルト質凝結土	10YR2/2 2/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	10	中 中	—
	D6	10YR4/4 褐色	SIL シルト質凝結土	—	—	—	—	—	—
	D7	10YR6/6 6/6 明黄褐色	SIL シルト質凝結土	10YR2/2 2/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	10	中 中	—
	D8	10YR2/2 2/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粉～塊状	20	中 中	—
	D9	10YR4/4 4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 2/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	10	中 中	—
	D10	10YR4/4 4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 2/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	15	中 中	—
	J1	10YR4/4 4/6 褐色	SIL シルト質凝結土	10YR3/3 3/4 暗褐色	SIL シルト質凝結土	粉～粒状	30	中 中	塵土粒少し混入。カマド跡疑
	J2	10YR2/2 2/3 暗褐色	SIL シルト質凝結土	10YR4/4 褐色	SIL シルト質凝結土	粉～粒状	20	中 中	塵土粒少し混入。カマド跡疑
	J3	10YR2/2 2/3 暗褐色	SIL シルト質凝結土	10YR4/4 4/6 褐色	SIL シルト質凝結土	粉～粒状	10	中 中	塵土粒多量混入。カマド跡疑
	J4	10YR4/4 4/6 褐色	SIL シルト質凝結土	5YR3/4 3/6 暗赤褐色	SIL シルト質凝結土	粉～粒状	20	中 中	塵土粒・炭化物少し混入。カマド跡疑
	J5	10YR3/3 3/4 暗褐色	SIL シルト質凝結土	5YR2/4 3/6 暗赤褐色	SIL シルト質凝結土	粉～粒状	10	中 中	塵土粒・炭化物少し混入。カマド跡疑
K1	10YR2/2 2/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 5/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	10	中 中	カマド構造土	
K2	10YR2/2 2/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	30	中 中	カマド構造土	
K3	10YR6/6 5/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 2/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	20	中 中	カマド構造土	





第 29 表 台太郎遺跡第 68 次調査遺構土層観察表(4)

遺構名	層名	主要土		自然土		状態	%	硬軟	湿度	その他
		土色(L&S)	土性(備考)	土色(L&S)	土性(備考)					
RQ2131 土坑	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	5-7	中～硬	中～密	
		10YR2/3 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	1-3	中～硬	中～密	
	A2	10YR2/3 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	3-5	中～硬	中～密	
		10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	1-3	中～硬	中～密	
	B1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	10-15	軟～中	中～中	
		10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	1-3	中～硬	中～密	
	B2	10YR3/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	5-7	中～硬	中～中	
	B3	10YR2/3 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	3-5	中～硬	中～中	酸化物質混入
	C1	10YR5/6 黄褐色	SIL シルト質凝結土	10YR2/3 黒褐色	SIL シルト質凝結土	粉～粒状	15-20	軟～中	中～中	
	C2	10YR4/1 黄褐色	SIL シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色	SIL シルト質凝結土	粉～粒状	1	軟～中	中～中	
RQ2132 土坑	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	1-3	中～硬	中～中	
	A2	10YR2/3 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	3-7	中～硬	中～密	
RQ2133 土坑	A1	10YR2/2-3 黒褐色	SIL シルト質凝結土	10YR4/1 黄褐色	SIL シルト質凝結土	粒～塊状	5	中～硬	中	減少し混入
	A2	10YR2/3 黒褐色	SIL シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色	SIL シルト質凝結土	粒～塊状	13	中～硬	中	減少し混入
	A3	10YR2/3 黒褐色	SIL シルト質凝結土	10YR4/1 黄褐色	SIL シルト質凝結土	粒～塊状	20	中	中	小塊多く混入
RQ2134 土坑	B1	10YR4/4-4 緑褐色～褐色	SIL シルト質凝結土	10YR4/1 黄褐色	SIL シルト質凝結土	粒～塊状	30	軟～中	中	小塊混入
	C1	10YR2/3 黒褐色	SIL シルト質凝結土	10YR5/6-5/5 黄褐色	SIL シルト質凝結土	粒～塊状	20	中	中	小塊混入
RQ2135 土坑	A1	10YR2/3 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	1	軟～中	中～中	
	A2	10YR2/3 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	1-3	軟～中	中～中	
	B1	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	1	軟～中	中～中	
	B2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	1-3	軟～中	中～中	
RQ2136 土坑	A1	10YR2/2-3 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	5	軟～中	中～中	
	B1	10YR5/6-5/5 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	30	中	中	
	C1	10YR3/3-4 緑褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	5	中	中	
C2	10YR3/3 緑褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	40	中	中		
遺構名	層名	主要土		自然土		状態	%	硬軟	湿度	その他
土色(L&S)	土性(備考)	土色(L&S)	土性(備考)							
RQ297 方形溝	A1	10YR2/2-3 黒褐色	SIL シルト質凝結土	10YR4/4-4 緑褐色	SIL シルト質凝結土	粉～粒状	5	軟～中	中	
	B1	10YR3/3-4 緑褐色	SIL シルト質凝結土	10YR5/6-5/5 黄褐色	SIL シルト質凝結土	粒～塊状	30	軟～中	中	
	B2	10YR5/6 黄褐色	SIL シルト質凝結土	10YR3/4 緑褐色	SIL シルト質凝結土	粒～塊状	10	中	中	
RQ474 溝跡	A1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	A2	—	—	—	—	—	—	—	—	—
RQ590 溝跡	A1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
RQ590 溝跡	A1	10YR2/2-3 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR3/4-4 緑褐色～褐色	SCL シルト質凝結土	—	20	中～硬	中～中	酸化鉄が混入
遺構名	層名	主要土		自然土		状態	%	硬軟	湿度	その他
土色(L&S)	土性(備考)	土色(L&S)	土性(備考)							
RQ42 竪溝	A1-2	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	B1-6	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	C1-5	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	D1-6	—	—	—	—	—	—	—	—	—
RQ424 竪溝	A1	10YR2/2-3 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	15	軟～中	中～中	
	A2	10YR3/3 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粉～粒状	5	軟～中	中～中	減少し混入
	B1	10YR3/3 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	10	中	中	小塊少し混入
	B2	10YR2/2-3 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR5/6-5/5 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	5	中	中	小塊少し混入
	C1	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 明黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	5	中	中	
	D1	10YR3/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 明黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	5	中	中	
	D2	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	10	中	中	
	D3	10YR2/2-3 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR3/4-4 緑褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	40	中	中	小塊少し混入
	D4	10YR3/3 緑褐色	SCL シルト質凝結土	10YR3/4 緑褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	2	中	中	
				10YR6/6 明黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	10	中	中	
	E1	10YR5/6-5/5 黄褐色	SIL 砂凝結土	10YR4/1 黄褐色	SIL 砂凝結土	粉～粒状	20	軟～中	中～中	小塊多く混入
	E2	10YR3/3 緑褐色	SIL 砂凝結土	10YR4/1 黄褐色	SIL 砂凝結土	粉～粒状	20	軟～中	中～中	減少し混入
	E3	10YR3/3-4 緑褐色	SIL シルト質凝結土	10YR5/6-5/5 黄褐色	SIL シルト質凝結土	粉～粒状	40	中	中	減少し混入
F1	10YR4/4 緑褐色	SIL 砂凝結土	10YR2/2 黒褐色	SIL 砂凝結土	粉～粒状	5	軟～中	中～中	小塊混入	

第 30 表 台太郎遺跡第 70 次調査遺構土層観察表(1)

遺構名	層名	主要土		自然土		状態	%	硬軟	湿度	その他	
		土色(45)	土質(層厚)	土色(45)	土質(層厚)						
RA448 壁穴建物跡	A1	10YR2/2-3 赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	—	—	中～密	—	
	A2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	B1	10YR2/3 赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	30	中	中	—	
	C1	5YR3/2-3 緑赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR3/4 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	20	中	中	—	
	J1	10YR2/2-3 赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	30	中	中	砂質、カマド層凝土	
	J2	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6-6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	30	中	中～密	—	
	J3	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	10	中	中	—	
	J4	10YR3/2-3 赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	10	中	中～密	—	
	J5	10YR2/2-3 赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	15	中	中	砂質、塊土貯まじる	
	J6	10YR2/2-3 赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6-6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	10	中	中～密	砂質、塊土貯まじる	
	J7	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	15	中	中	—	
	J8	10YR3/2-3 赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊状	5	中	中	塊土少し混じる	
	J9	5YR2/2 緑赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊状	30	中	中	塊土少し混じる	
	J7	10YR3/2-3 赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊状	5	中	中～密	—	
	J2	10YR3/2 赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊状	30	中	中	—	
	J3	10YR2/2 赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊状	5	中	中～密	—	
	J4	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊状	10	中	中～密	—	
	J5	10YR2/2-3 赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊状	5	中	中～密	—	
	J6	10YR2/2-3 赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊状	10	中	中	—	
	J7	10YR6/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	30	中	中	炭化物少し混じる	
J8	10YR6/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	10	中	中	—		
J9	10YR2/2-3 赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊状	5	中	中～密	—		
J10	10YR3/2-3 赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊状	10	中	中～密	—		
J11	5YR2/2 緑赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊状	10	中	中～密	—		
J12	5YR2/2 緑赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊状	20	中	中	—		
J13	5YR6/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊状	10	中	中	—		
RA648 壁穴建物跡	A1	10YR2/2-3 赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR3/2-3 赤褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	20	中	中	—	
	B1	10YR2/2-3 赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	30	中	中	—	
	B2	10YR3/2 赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6-6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊状	20	中	中	—	
	C1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	J1	10YR2/2-3 赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	10	中	中	—	
	J2	10YR6/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR3/2 赤褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	15	中	中	—	
	J3	5YR4/4-6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	20	中	中	炭化物少し混じる	
	J4	10YR2/2 赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	10	中	中	炭化物混じる	
	J5	5YR2/2 緑赤褐色	SCL シルト質凝結土	5YR4/6 赤褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	10	中	中	炭化物混じる	
	J6	5YR2/2 緑赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	15	中	中	炭化物混じる	
	J7	5YR2/2 緑赤褐色	SCL シルト質凝結土	5YR4/6 赤褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊状	10	中	中	炭化物混じる	
	J8	5YR3/2-3 緑赤褐色	SCL シルト質凝結土	5YR4/4-6 赤褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊状	15	中	中	炭化物混じる	
RA650 壁穴建物跡	A1	10YR2/2-3 赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	20	中	中	炭白粉層(ハニシ)10層位 a 火山灰)多く混じる	
	A2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	B1	10YR2/2-3 赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	20	中	中	—	
	B2	10YR3/2 赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	10	中	中	—	
	C1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	J1	10YR2/2-3 赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	15	中	中	—	
	J2	10YR2/2 赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	20	中	中	—	
	J3	10YR4/4 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	10	中	中	—	
	RA651 壁穴建物跡	A1	10YR2/2-3 赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR3/2-3 赤褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	—	中	中～密	—
		A2	10YR2/2-3 赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	—	中	中～密	—
		B1	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	10	中	中	—
		J1	10YR3/2-3 赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	40	中	中～密	中～密
J2		10YR3/2 赤褐色	SCL シルト質凝結土	5YR4/6 赤褐色	SCL シルト質凝結土	粒状	—	—	—	—	
J3		10YR2/2 赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	20	中	中～密	塊土、炭化材少し混じる	
J4		10YR2/2 赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	5	中	中	—	
J4		10YR2/2 赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	10	中	中	—	
J5		10YR4/4 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	5	中	中	—	
J6	10YR4/4 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	10	中	中	塊土多く混じる		
J7	10YR3/2 赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	5	中	中	—		
J8	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
J9	10YR2/2 赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	10	中	中	塊土、炭化材混じる		

第 31 表 台太郎遺跡第 70 次調査遺構土層観察表(2)

遺構名	層名	主要土		含有土		状態	%	硬軟	湿度	その他
		土色(L&S)	土性(階等)	土色(L&S)	土性(階等)					
RE381 壁穴状遺構	A1	10YR2/2-3 黒褐色	SCL シルト質凝結土	5YR5-6-8 赤褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	20	中～中	中	
	A2	10YR2/2-3 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR5-6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	10	中	中	
	B1	10YR4/4-6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	15	中	中～密	
	C1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	D1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	D2	—	—	—	—	—	—	—	—	—
RE382 壁穴状遺構	A1	10YR3/3-4 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR5-6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	30	中	中	
	B1	10YR5-6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	10	中	中	
	C1	5YR4/4 に近い黄褐色	SCL シルト質凝結土	5YR4-6-8 赤褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	20	中～硬	中～密	
RE383 壁穴状遺構	A1	10YR2/2-3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR5-6-8 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	30	中	中	炭化物少し混じる
	B1	10YR2/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	20	中	中	腐土塊多く混じる。炭化物混じる
	C1	10YR5-6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	40	中	中～密	
RE384 壁穴状遺構	A1	10YR2/2-3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR3/3-4 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	20	中	中	
	B1	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4-6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	5	中	中	小礫が多く混じる
遺構名	層名	主要土		含有土		状態	%	硬軟	湿度	その他
		土色(L&S)	土性(階等)	土色(L&S)	土性(階等)					
RG600 溝跡	A1	10YR4/3-5 に近い黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6-8 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊状	1	中	中～中	
	A2	10YR4/3 に近い黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/8 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊状	3	中	中	
	B1	10YR2/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/2 に近い黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	40	中	中～密	
	B2	10YR2/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4-6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	10	中	中～密	
	C1	10YR2/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6-8 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊状	5	中～中	中～中	小礫と砂礫が少し混じる
RG601 溝跡	A1	10YR2/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4-6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	5	中～中	中	
	A2	10YR2/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	30	中	中	
	B1	10YR5-6-8 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	20	中	中～密	
	C1	10YR5-6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4-6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊状	10	中	中	

第 32 表 飯岡沢田遺跡第 12 次調査遺構土層観察表

遺構名	層名	主要土		含礫土		硬軟	湿度	その他	
		土色(L&D)	土質(備考)	土色(L&D)	土質(備考)				状態
RQ200 溝跡	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質硬粘土	粒状	10	中	
	B1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質硬粘土	粒状	15-20	中	
	B2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR3/3-3/4 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	粒状	15-20	中	
	C1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質硬粘土	粒状	5-10	中	
	C2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR3/3-3/4 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	粒状	濃縮	中	
	C3	10YR4/3 にし黄褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR2/1 黒色	SCL シルト質硬粘土	粒状	5-7	中	
RQ201 溝跡	A1	10YR1.7/1-2/1 黒色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 黄褐色	—	粒状	—	中	
	B1	—	—	—	—	—	—	—	
RQ202 溝跡	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質硬粘土	粒状	5-7	中	
	B1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質硬粘土	粒状	25-30	中	

第 33 表 細谷地遺跡第 21 次調査遺構土層観察表

遺構名	層名	主要土		含礫土		硬軟	湿度	その他
		土色(L&D)	土質(備考)	土色(L&D)	土質(備考)			
RD467 土坑	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/4 褐色	—	1-3	—	
	B1	10YR4/4 褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR2/2 黒褐色	—	3-5	—	
RD468 土坑	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/4 褐色	—	3-5	—	
	B1	10YR4/4 褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR2/2 黒褐色	—	10-15	—	
RD469 土坑	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/4 褐色	—	1-3	—	
	B1	10YR4/4 褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR2/2 黒褐色	—	5-10	—	
RD470 土坑	A1	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質硬粘土	—	1-3	
	A2	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質硬粘土	—	3-5	
RD471 土坑	B1	10YR4/4 褐色	—	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	—	7-10	
	A1	10YR2/2 黒褐色	—	10YR4/4 褐色	—	1-3	—	
RD472 土坑	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/4 褐色	—	10-15	—	
	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/4 褐色	—	3-5	—	
遺構名	層名	主要土		含礫土		硬軟	湿度	その他
		土色(L&D)	土質(備考)	土色(L&D)	土質(備考)			
RQ201 溝跡	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/4 褐色	—	1-3	—	減少し流じる
	B1	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/4 褐色	—	1-3	—	減少し流じる

第 34 表 細谷地遺跡第 22 次調査遺構土層観察表

遺構名	層名	主要土		含礫土		硬軟	湿度	その他	
		土色(L&D)	土質(備考)	土色(L&D)	土質(備考)				状態
RQ201 溝跡	A1	10YR2/1 黒色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/2 黄褐色	SCL シルト質硬粘土	粒状	5-7	中	φ3-5 cm 減少し流じる
	B1	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR1/1 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	—	2-3	中	φ1-2 cm 減少し流じる

第 35 表 細谷地遺跡第 23 次調査遺構土層観察表

遺構名	層名	主要土		含礫土		硬軟	湿度	その他	
		土色(L&D)	土質(備考)	土色(L&D)	土質(備考)				状態
RD474 土坑	A1	10YR2/1 黒色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質硬粘土	—	5-7	中	
	B1	10YR2/1 黒色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質硬粘土	—	5-7	中	
	B2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質硬粘土	—	7-10	中	
RD475 土坑	B3	10YR2/1-3/2 黄～黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質硬粘土	—	5-7	中	
	A1	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質硬粘土	—	5-7	中	
	B1	10YR4/6 褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR2/1 黒色	SCL シルト質硬粘土	粒状	15-20	中	粗
RD476・477 土坑	A1	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質硬粘土	—	5-7	中	
	B1	10YR2/1 にし～黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質硬粘土	粒状	10-15	中	
	B1	10YR2/1 にし～黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質硬粘土	粒状	10-15	中	
遺構名	層名	主要土		含礫土		硬軟	湿度	その他	
		土色(L&D)	土質(備考)	土色(L&D)	土質(備考)				状態
RQ202 溝跡	A1	10YR2/1 黒色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/6 褐色	SCL 砂質硬粘土	粒状	3-5	中	
	B1	10YR2/1 黒色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/6 褐色	SCL 砂質硬粘土	粒状	7-10	中	

第36表 飯岡才川遺跡第14次調査遺構土層観察表(1)

遺構名	層名	主要土		含有土		状態	%	観察	調査	その他			
		土色(L&D)	土質(備考)	土色(L&D)	土質(備考)								
RA04 壁穴建物跡	A1	10YR3/2 黒色	SIL シルト質礫土	10YR2/1 黒色	灰白色	粉状	6%	中	中	十和田 a 火成岩			
	B1	10YR3/2 黒褐色	SIL シルト質礫土	10YR6/6 黄褐色	灰白色	粉状	1-3	中	中	中	十和田 a 火成岩		
	B2	10YR3/2 黒褐色	SICL シルト質礫土	10YR6/6 黄褐色	10YR2/3 黒褐色	灰白色	粉状	5-7	中	中	灰化物わずかに混じる		
	B3	10YR2/2 黒褐色	SIC シルト質礫土	10YR6/6 黄褐色	10YR2/3 黒褐色	灰白色	粉状	5-7	中	中	灰化物わずかに混じる		
	C1	10YR2/2 黒褐色	SICL シルト質礫土	10YR6/6 黄褐色	10YR2/3 黒褐色	灰白色	粉状	10-15	中	中	中	灰化物わずかに混じる	
	D1	10YR3/2 黒褐色	SICL シルト質礫土	10YR2/1 黒色	10YR6/6 黄褐色	10YR2/3 黒褐色	灰白色	10-15	中	中	中	中	
	D2	10YR3/2 黒褐色	SICL シルト質礫土	10YR6/6 黄褐色	10YR2/1 黒色	10YR2/3 黒褐色	灰白色	7-10	中	中	中	中	
	E1	10YR2/2 黒褐色	SIL シルト質礫土	10YR6/6 黄褐色	10YR2/1 黒色	10YR2/3 黒褐色	灰白色	10-15	中	中	中	中	
	F1	10YR4/4 褐色	SICL シルト質礫土	10YR2/2 黒褐色	10YR6/6 黄褐色	10YR2/3 黒褐色	灰白色	7-8	中	中	中	中	
	G1	10YR4/6 褐色	SICL シルト質礫土	10YR2/2 黒褐色	10YR6/6 黄褐色	10YR2/3 黒褐色	灰白色	30-40	中	中	中	中	
	H1	10YR4/6 褐色	SIC シルト質礫土	10YR2/2 黒褐色	10YR6/6 黄褐色	10YR2/3 黒褐色	灰白色	25-30	中	中	中	中	
	I1	10YR2/2 黒褐色	SIC シルト質礫土	10YR4/6 褐色	10YR6/6 黄褐色	10YR2/3 黒褐色	灰白色	30-40	中	中	中	中	
	M1	10YR4/6 褐色	SIC シルト質礫土	10YR2/1 黒色	10YR6/6 黄褐色	10YR2/3 黒褐色	灰白色	10-15	中	中	中	中	
	N1	10YR3/2 黒褐色	SIC シルト質礫土	10YR2/1 黒色	10YR6/6 黄褐色	10YR2/3 黒褐色	塊状	30-40	中	中	中	中	
	J1	7.5R4/6 赤褐色	SIC シルト質礫土	10YR2/2 黒褐色	10YR6/6 黄褐色	10YR2/3 黒褐色	塊状	10-15	中	中	中	カマド跡	
	J2	7.5R4/6 赤褐色	SIC シルト質礫土	10YR2/2 黒褐色	7.5YR2/2 暗褐色	10YR6/6 黄褐色	塊状	10-15	中	中	中	カマド跡	
	J3	10YR4/6 褐色	SIC シルト質礫土	7.5YR2/2 暗褐色	10YR6/6 黄褐色	10YR2/3 黒褐色	塊状	10	中	中	中	カマド跡	
	K1	10YR6/6 黄褐色	SIL シルト質礫土	10YR2/2 黒褐色	10YR6/6 黄褐色	10YR2/3 黒褐色	塊状	5-7	中	中	中	カマド跡	
	K2	10YR6/6 黄褐色	SIL シルト質礫土	10YR2/2 黒褐色	10YR6/6 黄褐色	10YR2/3 黒褐色	塊状	7-10	中	中	中	カマド跡	
	K3	10YR6/6 黄褐色	SIL シルト質礫土	10YR2/2 黒褐色	10YR6/6 黄褐色	10YR2/3 黒褐色	塊状	30-40	中	中	中	カマド跡	
	K4	10YR4/6 褐色	SIL シルト質礫土	10YR2/2 黒褐色	10YR6/6 黄褐色	10YR2/3 黒褐色	塊状	15-20	中	中	中	カマド跡	
	K5	10YR6/6 黄褐色	SIL シルト質礫土	10YR2/2 黒褐色	10YR6/6 黄褐色	10YR2/3 黒褐色	塊状	15-20	中	中	中	カマド跡	
	K6	10YR4/6 褐色	SIL シルト質礫土	10YR2/2 黒褐色	10YR6/6 黄褐色	10YR2/3 黒褐色	塊状	15-20	中	中	中	カマド跡	
	K7	10YR4/6 褐色	SICL シルト質礫土	10YR6/6 黄褐色	10YR2/3 黒褐色	10YR6/6 黄褐色	塊状	10-15	中	中	中	カマド跡	
	K8	10YR4/6 褐色	SICL シルト質礫土	10YR6/6 黄褐色	10YR2/3 黒褐色	10YR6/6 黄褐色	塊状	2-3	中	中	中	カマド跡	
	RA04 壁穴建物跡	A1	10YR3/2 黒褐色	SICL シルト質礫土	10YR4/6 褐色	10YR4/6 褐色	塊状	1	—	—	—	—	
		A2	10YR3/2 黒褐色	SICL シルト質礫土	10YR4/6 褐色	10YR4/6 褐色	塊状	30	—	—	—	—	
B1		10YR2/2 黒褐色	SICL シルト質礫土	10YR4/6 褐色	10YR4/6 褐色	塊状	5	—	—	—	—		
C1		10YR2/1 黒色	SICL シルト質礫土	10YR4/6 褐色	10YR4/6 褐色	塊状	7	—	—	—	—		
C2		10YR1/1 黒色	SICL シルト質礫土	10YR4/6 褐色	10YR4/6 褐色	塊状	7	—	—	—	—		
D1		10YR3/2 黒褐色	SIL シルト質礫土	10YR4/6 褐色	10YR4/6 褐色	塊状	—	3-5	中	中	中	中	
D2		10YR2/2 黒褐色	SICL シルト質礫土	10YR4/6 褐色	10YR4/6 褐色	塊状	—	1-3	中	中	中	中	
E1		10YR3/2 黒褐色	SICL シルト質礫土	10YR2/2 黒褐色	10YR4/6 褐色	10YR4/6 褐色	塊状	3-5	中	中	中	中	
F1		10YR2/2 黒褐色	SIC シルト質礫土	10YR4/6 褐色	10YR4/6 褐色	塊状	—	10-15	中	中	中	中	
F2		10YR2/2 黒褐色	SIC シルト質礫土	10YR4/6 褐色	10YR4/6 褐色	塊状	—	1	中	中	中	中	
F3		10YR3/2 黒褐色	SICL シルト質礫土	10YR4/6 褐色	10YR4/6 褐色	塊状	—	1	中	中	中	中	
J1		7.5R4/6 赤褐色	SICL シルト質礫土	10YR2/2 黒褐色	10YR4/6 褐色	10YR4/6 褐色	塊状	15-20	中	中	中	中	
J2		5YR6/6 暗赤褐色	SIC シルト質礫土	10YR4/6 褐色	10YR4/6 褐色	10YR4/6 褐色	塊状	15-20	中	中	中	中	
J3		5YR6/6 暗赤褐色	SIC シルト質礫土	10YR4/6 褐色	10YR4/6 褐色	10YR4/6 褐色	塊状	7-10	中	中	中	中	
J4		5YR6/6 暗赤褐色	SICL シルト質礫土	10YR4/6 褐色	10YR4/6 褐色	10YR4/6 褐色	塊状	5-7	中	中	中	中	
J5		5YR6/6 暗赤褐色	SICL シルト質礫土	10YR4/6 褐色	10YR4/6 褐色	10YR4/6 褐色	塊状	10-15	中	中	中	中	
J6		5YR6/6 暗赤褐色	SICL シルト質礫土	10YR4/6 褐色	10YR4/6 褐色	10YR4/6 褐色	塊状	7-10	中	中	中	中	
J7		10YR4/6 褐色	SIL シルト質礫土	10YR2/2 黒褐色	10YR4/6 褐色	10YR4/6 褐色	塊状	—	3-5	中	中	中	中
J8		10YR4/6 褐色	SIL シルト質礫土	10YR2/2 黒褐色	10YR4/6 褐色	10YR4/6 褐色	塊状	—	2-8	中	中	中	中
J9		10YR4/6 褐色	SIL シルト質礫土	10YR2/2 黒褐色	10YR4/6 褐色	10YR4/6 褐色	塊状	—	10-15	中	中	中	中
J3		10YR4/6 褐色	SIL シルト質礫土	10YR2/2 黒褐色	10YR4/6 褐色	10YR4/6 褐色	塊状	—	25-30	中	中	中	中
J4		10YR4/6 褐色	SIL シルト質礫土	10YR2/2 黒褐色	10YR4/6 褐色	10YR4/6 褐色	塊状	—	5-7	中	中	中	中
K1		2.5R4/6 赤褐色	SICL シルト質礫土	10YR2/2 黒褐色	10YR2/2 黒褐色	10YR4/6 褐色	塊状	7-10	中	中	中	中	
K2		2.5R4/6 赤褐色	SICL シルト質礫土	10YR2/2 黒褐色	10YR4/6 褐色	10YR4/6 褐色	塊状	7-10	中	中	中	中	
K3		10YR4/6 褐色	SIC シルト質礫土	10YR2/2 黒褐色	10YR4/6 褐色	10YR4/6 褐色	塊状	25	中	中	中	中	
K3		10YR4/6 褐色	SIC シルト質礫土	10YR2/2 黒褐色	10YR4/6 褐色	10YR4/6 褐色	塊状	5-7	中	中	中	中	
K4		10YR6/6 黄褐色	SIC シルト質礫土	10YR2/2 黒褐色	10YR4/6 褐色	10YR4/6 褐色	塊状	30	中	中	中	中	
K4	10YR6/6 黄褐色	SIC シルト質礫土	10YR2/2 黒褐色	10YR4/6 褐色	10YR4/6 褐色	塊状	1-2	中	中	中	中		
L	—	—	—	—	—	塊状	—	—	—	—	中	中	

第37表 飯岡才川遺跡第14次調査遺構土層観察表(2)

遺構名	層名	黒土		白土		粒径	%	硬軟	湿度	その他
		土色(45)	土質(層厚)	土色(45)	土質(層厚)					
RD154 堀シ穴	A1	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	2-3	中	中	
	B1	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	20-40	中	中	
	C1	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	20-25	中	中	
	C2	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	7-10	中	中	
	C3	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	15-20	中	中	
RD155 堀シ穴	A1	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	2-3	中	中	
	B1	10YR3/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	10-15	中	中	
				10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	10-15			
	B2	10YR3/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	20-30	中	中	
				10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	15-20			
	C1	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	5-7	中	中	
	C2	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	30-40	中	中	
	C3	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	15-20	中	中	
	C4	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	15-20	中	中	
C5	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	10-15	中	中		
RD156 堀シ穴	A1	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	2-3	中	中	
	B1	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	7-10	中	中	
	C1	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	15-20	中	中	
	C2	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	7-10	中	中	
	C3	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	20-25	中	中	
RD157 堀シ穴	C4	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	10-15	中	中	
	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	3-5	中	中	
	A2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	15-20	中	中	
	B1	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	15-20	中	中	
	B2	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	3-5	中	中	
RD158 堀シ穴	C1	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	1-2	中	中	
	A1	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	3-5	中	中	
	B1	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	20-25	中	中	
	B2	10YR1.7/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	25-30	中	中	
	C1	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR1.7/1 黒色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	10-15	中	中	
	C2	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR1.7/1 黒色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	7-10	中	中	
	C3	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR1.7/1 黒色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	1-2	中	中	
C4	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR1.7/1 黒色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	2-3	中	中		
C5	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR1.7/1 黒色	SCL シルト質凝結土	砂～粒状	微量	中	中		

第38表 矢盛遺跡第15次調査遺構土層観察表(1)

遺構名	層名	主要土		白骨土		状態	%	破壊	程度	その他
		土物(LBS)		土物(備考)						
		土物(LBS)	土物(備考)	土物(LBS)	土物(備考)					
RD146 土坑	A1	10YR4/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	微塵	中	中	
	B1	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	5-7	中	中	
	B2	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	15-20	中	中	
RD147 土坑	A1	10YR3/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	3-5	中	中	
	B1	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	7-10	中	中	
	B2	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	5-7	中	中	
RD148 土坑	A1	10YR2/2-3/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	3-5	中	中	
	A2	10YR2/2-3/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	微塵	中	中	
	B1	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	5-7	中	中	
RD149 土坑	A1	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	3-5	中	中	
	A2	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	5-7	中	中	
	B1	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	5-7	中	中	
RD150 土坑	A1	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	5-7	中	中	
	A2	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	10-15	中	中	
	B1	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	30-40	中	中	
RD151 土坑	A1	10YR3/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	5-7	中	中	
	A2	10YR3/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	20-25	中	中	
	B1	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	3-5	中	中	
RD152 土坑	A1	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	1-2	中	中	
	C1	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	7-10	中	中	
	C2	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	10-15	中	中	
RD153 土坑	A1	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	3-5	中	中	
	B1	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	微塵	中	中	
	C1	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	20-25	中	中	
RD248 溝跡	A1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	B1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
RD249 溝跡	A1	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	5-7	中	中	
	B1	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	15-20	中	中	
RD250 溝跡	A1	10YR3/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	15-20	中	中	
	B1	10YR3/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	25-30	中	中	
RD251 溝跡	A1	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	7-10	中	中	
	B1	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	10-15	中	中	
RD252 溝跡	C1	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	7-10	中	中	
	D1	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	15-20	中	中	
RD253 溝跡	B1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	C1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
RD57 井戸跡	A1	10YR2/2-3/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	10	中-中	中	溝 62-3cm 少し浅じる
	A2	10YR2/2-3/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	10	中-中	中	溝 62cm 少し浅じる
RD58 溝跡	A1	10YR2/2-3/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2-1/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	10	中-中	中	溝 65-5cm 少し浅じる
	A2	10YR2/2-3/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	程-程	中	中	
	A3	10YR2/2-3/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1-1/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	程-程	中	中	
RD59 溝跡	A1	10YR2/2-3/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	5	中-中	中	
	A2	10YR2/2-3/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1-1/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	程	中	中	溝 65-10cm 少し浅じる
	A3	10YR2/2-3/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	20	中-中	中	
RD60 溝跡	B1	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	程-程	中	中	
	B2	10YR2/2-3/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	程-程	中	中	
	B3	10YR2/2-3/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	程-程	中	中	溝 65-10cm 浅じる
RD61 溝跡	B4	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	程-程	中	中	
	B5	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	程-程	中	中	
	C1	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	程-程	中	中	
RD62 溝跡	C2	10YR2/2-3/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	程-程	中	中	
	C3	10YR2/2-3/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	程-程	中	中	
	C4	10YR2/2-3/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	程-程	中	中	
RD63 溝跡	C5	10YR2/2-3/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	程-程	中	中	
	C6	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	程	中	中	
	C7	10YR2/1-1/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	程-程	中	中	
RD64 溝跡	C8	10YR2/2-3/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	程-程	中	中	
	C9	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	程-程	中	中	
	C10	10YR2/2-3/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	程	中	中	
RD65 溝跡	D1	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	程	中	中	
	D2	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	程	中	中	
	D3	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	程	中	中	
RD66 溝跡	D4	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	程-程	中	中	
	D5	10YR4/4-6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	—	程-程	中	中	





第40表 矢盛遺跡第15次調査遺構土層観察表(3)

遺構名	層名	主要土		查骨土		状態	%	層数	深度	その他
		土色(L&S)	土性(備考)	土色(L&S)	土性(備考)					
R02 井戸跡	A1	10YR2/2-2/3 黒褐色	S/L シルト質礫土	10YR4/4-6 褐色	S/L シルト質礫土	粉～粒状	10	中～下	中～下	
				10YR2/3 黒褐色	S/L 礫土	粒状	30			
	A2	10YR2/2-2/3 黒褐色	S/L シルト質礫土	10YR4/4-6 褐色	S/L シルト質礫土	粉～粒状	20	中～下	中～下	
				10YR2/1-1.7/1 黒色	S/L 礫土	粒状	10			
	A3	10YR2/1-1.7/1 黒色	S/L シルト質礫土	10YR2/3 黒褐色	S/L シルト質礫土	粉～粒状	30	中～下	中～下	
				10YR4/4-6 褐色	S/L 礫土	粉～粒状	30			
	A4	10YR2/2-2/3 黒褐色	S/L シルト質礫土	10YR4/4-6 褐色	S/L シルト質礫土	粉状	40	中～下	中～下	
				10YR2/3 黒褐色	S/L シルト質礫土	粉～塊状	30			
	B1	10YR2/3 黒褐色	S/L シルト質礫土	10YR4/4-6 褐色	S/L シルト質礫土	粉～塊状	50	中～下	中～下	
				10YR2/3 黒褐色	S/L シルト質礫土	粉状	10			
	B2	10YR4/4-6 褐色	S/L シルト質礫土	10YR2/3 黒褐色	S/L シルト質礫土	粉～塊状	40	中～下	中～下	
				—	白粉粘土	—	20			
	C1	10YR2/1-2/2 黒褐色	S/L シルト質礫土	10YR4/4-6 褐色	S/L シルト質礫土	粉～塊状	30	中～下	中～下	
				10YR2/2-2/3 黒褐色	S/L シルト質礫土	粉～塊状	30			
	C2	10YR2/2-2/3 黒褐色	S/L シルト質礫土	10YR4/4-6 褐色	S/L シルト質礫土	粉～塊状	30	中～下	中～下	
			10YR2/1-1.7/1 黒色	S/L シルト質礫土	粒状	10				
C3	10YR2/1-1.7/1 黒色	S/L シルト質礫土	10YR4/4-6 褐色	S/L シルト質礫土	粒状	20	中～下	中～下		
			10YR2/2-2/3 黒褐色	S/L シルト質礫土	粉～塊状	20				
C4	10YR2/2-2/3 黒褐色	S/L シルト質礫土	10YR4/4-6 褐色	S/L シルト質礫土	粉～塊状	30	中～下	中～下		
			—	白粉粘土	—	30				
C5	10YR2/2-2/3 黒褐色	S/L シルト質礫土	10YR4/4-6 褐色	S/L シルト質礫土	粒状	10	中～下	中～下	砂遺しる	
			10YR2/1-2/2 黒褐色	S/L シルト質礫土	粉～塊状	30				
D1	10YR3/4-4.5 黄赤～C(赤褐色)	S/L シルト質礫土	10YR2/1-2/2 黒褐色	S/L シルト質礫土	粉～塊状	30	中～下	中～下	砂遺し、肥化散見する	

第41表 矢盛遺跡第17次調査遺構土層観察表

遺構名	層名	主要土		查骨土		状態	%	層数	深度	その他
		土色(L&S)	土性(備考)	土色(L&S)	土性(備考)					
RD153 土坑	A1	10YR2/1-2/2 黒褐色	S/L シルト質礫土	10YR4/4-6 褐色	S/L シルト質礫土	粉～粒状	5	中～下	中～下	
				10YR2/1-2/2 黒褐色	S/L シルト質礫土	粉～塊状	30			
R054 溝跡	B1	10YR2/3 黒褐色	S/L シルト質礫土	10YR4/4 褐色	S/L シルト質礫土	粉～粒状	10	中～下	中～下	
				10YR2/2-2/3 黒褐色	S/L シルト質礫土	粉～塊状	10			
R055 溝跡	A1	10YR2/2-2/3 黒褐色	S/L シルト質礫土	10YR4/4-6 褐色	S/L シルト質礫土	粉～塊状	30	中～下	中～下	
				10YR2/2-2/3 黒褐色	S/L シルト質礫土	粉～塊状	30			
R056 溝跡	C1	10YR2/1-1.7/1 黒色	S/L シルト質礫土	10YR4/4 褐色	S/L シルト質礫土	粉～粒状	3	中～下	中～下	
				10YR2/1-1.7/1 黒色	S/L シルト質礫土	粉～塊状	20			
	C2	10YR2/1-1.7/1 黒色	S/L シルト質礫土	10YR4/4 褐色	S/L シルト質礫土	粉～塊状	20	中～下	中～下	
				10YR2/1-1.7/1 黒色	S/L シルト質礫土	粉～塊状	30			
R057 溝跡	D1	10YR2/3-3/3 黒褐色～暗褐色	S/L シルト質礫土	10YR2/1-1.7/1 黒色	S/L シルト質礫土	粉～粒状	10	中	中	
				10YR4/4-6 褐色	S/L シルト質礫土	粉状	1			
	D2	10YR2/1-1.7/1 黒色	S/L シルト質礫土	10YR4/4-6 褐色	S/L シルト質礫土	粉～塊状	5	中	中	
				10YR2/3 黒褐色	S/L シルト質礫土	粉～塊状	30			
D3	10YR2/3 黒褐色	S/L シルト質礫土	10YR4/4-6 褐色	S/L シルト質礫土	粉～塊状	5	中	中		
			10YR2/1 黒色	S/L シルト質礫土	粉状	5				
R058 溝跡	E1	10YR2/3 黒褐色	S/L シルト質礫土	10YR2/1-1.7/1 黒色	S/L シルト質礫土	粉状	20	中	中	
E2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

第42表 矢盛遺跡第22次調査遺構土層観察表

遺構名	層名	主要土		查骨土		状態	%	層数	深度	その他
		土色(L&S)	土性(備考)	土色(L&S)	土性(備考)					
RD182 土坑	A1	10YR2/3 黒褐色	S/L シルト質礫土	10YR4/4 褐色	—	粉～粒状	1-3	中	中	
				10YR2/4 褐色	S/L シルト質礫土	—	粉～粒状			
RD183 土坑	A1	10YR2/3 黒褐色	S/L シルト質礫土	10YR4/4 褐色	—	—	1-3	—	—	
				—	—	—	—			
RD184 土坑	A1	—	—	—	—	—	—	—	—	
				—	—	—	—			

第 43 表 大宮北遺跡第 11・13 次調査出土土器観察表

No.	発掘年度	発掘区画	発掘層	発掘位置	形質		胎土		可塑性(%) 可塑性(%) 可塑性(%)				胎土の産地	調査時期		調査者・調査		
					形状	用途	厚さ	底径	口径	口径	口径	口径		内径	内径			
935	1971	大宮北	DKK	111	PG115	46	丸底甕	赤	QT	A	4.0	13.0	—	5.7	2.3	—	—	ベトナム産、胎土不明
936	1971	大宮北	DKK	111	PG115	46	丸底甕	赤	QT	B	4.2	13.0	—	5.7	2.3	—	—	ベトナム産
937	1971	大宮北	DKK	111	PG115	47	丸底甕	赤	QT	A	4.0	13.7	—	5.8	2.4	—	—	胎土に磨粉した見出し
938	1971	大宮北	DKK	111	PG115	48	丸底甕	赤	QT	B	4.5	13.7	—	6.8	2.8	—	—	胎土に磨粉した見出し
939	1971	大宮北	DKK	111	PG115	48	丸底甕	赤	ベトナム産	A	4.2	13.8	—	5.7	2.3	—	—	胎土に磨粉した見出し
940	1971	大宮北	DKK	111	PG115	48	丸底甕	赤	QT	A	4.4	13.9	—	5.4	2.4	—	—	胎土に磨粉した見出し
941	1971	大宮北	DKK	111	PG115	49	丸底甕	赤	ベトナム産	B	3.9	13.0	—	5.4	—	—	—	胎土に磨粉した見出し
942	1971	大宮北	DKK	111	PG115	49	丸底甕	赤	ベトナム産	B	5.2	14.4	—	5.2	2.7	—	—	胎土に磨粉した見出し
943	1971	大宮北	DKK	111	PG115	50	丸底甕	赤	ベトナム産	B	5.8	14.8	—	5.2	2.7	—	—	胎土に磨粉した見出し
944	1971	大宮北	DKK	111	PG115	50	丸底甕	赤	QT	A	3.9	8.8	—	6.8	1.8	—	—	胎土に磨粉した見出し
945	1971	大宮北	DKK	111	PG115	50	丸底甕	赤	QT	B	3.8	12.7	—	5.2	2.3	—	—	胎土に磨粉した見出し
946	1971	大宮北	DKK	111	PG115	49	丸底甕	赤	ベトナム産	B	3.7	12.6	—	5.9	2.3	—	—	胎土に磨粉した見出し
947	1971	大宮北	DKK	111	PG115	50	丸底甕	赤	QT	A	12.0	11.3	—	—	—	—	—	胎土に磨粉した見出し
948	1971	大宮北	DKK	111	PG115	50	丸底甕	赤	QT	A	11.7	11.5	—	—	—	—	—	胎土に磨粉した見出し
949	1971	大宮北	DKK	111	PG115	50	丸底甕	赤	QT	A	5.8	14.1	—	5.4	—	—	—	胎土に磨粉した見出し、胎土不明
950	1971	大宮北	DKK	111	PG115	51	丸底甕	赤	QT	B	5.8	15.2	—	5.2	—	—	—	胎土に磨粉した見出し
951	1971	大宮北	DKK	111	PG115	52	丸底甕	赤	QT	B	14.1	—	—	8.4	—	—	—	胎土に磨粉した見出し
952	1971	大宮北	DKK	111	PG115	54	丸底甕	赤	QT	B	14.7	—	—	12.7	—	—	—	胎土に磨粉した見出し

第 44 表 大宮北遺跡第 16 次調査出土土器観察表

No.	発掘年度	発掘区画	発掘層	発掘位置	形質		胎土		可塑性(%) 可塑性(%) 可塑性(%)				胎土の産地	調査時期		調査者・調査		
					形状	用途	厚さ	底径	口径	口径	口径	口径		口径	口径			
953	1971	大宮北	DKK	116	FD	2	丸底甕	赤	トレンチ	焼出	11.8	12.1	—	—	—	—	—	胎土に磨粉した見出し
954	1971	大宮北	DKK	116	FD	4	丸底甕	赤	トレンチ	焼出	12.7	12.2	—	—	—	—	—	胎土に磨粉した見出し
955	1971	大宮北	DKK	116	FD	7	丸底甕	赤	トレンチ	焼出	13.1	12.4	—	—	—	—	—	胎土に磨粉した見出し
956	1971	大宮北	DKK	116	FD	8	丸底甕	赤	トレンチ	焼出	13.7	—	—	4.7	—	—	—	胎土に磨粉した見出し
957	1971	大宮北	DKK	116	FD	7	丸底甕	赤	トレンチ	焼出	11.0	—	—	6.3	—	—	—	胎土に磨粉した見出し
958	1971	大宮北	DKK	116	FD	5	丸底甕	赤	トレンチ	焼出	11.2	—	—	6.8	—	—	—	胎土に磨粉した見出し
959	1971	大宮北	DKK	116	FD	2	丸底甕	赤	トレンチ	焼出	11.0	—	—	5.8	—	—	—	胎土に磨粉した見出し
960	1971	大宮北	DKK	116	FD	8	丸底甕	赤	トレンチ	焼出	11.0	—	—	—	—	—	—	胎土に磨粉した見出し
961	1971	大宮北	DKK	116	FD	11	丸底甕	赤	トレンチ No.4	焼出	13.1	13.8	—	—	—	—	—	胎土に磨粉した見出し
962	1971	大宮北	DKK	116	FD	4	丸底甕	赤	トレンチ No.2	焼出	13.1	13.8	—	—	—	—	—	胎土に磨粉した見出し
963	1971	大宮北	DKK	116	FD	5	丸底甕	赤	トレンチ No.2	焼出	12.1	—	—	5.8	—	—	—	胎土に磨粉した見出し
964	1971	大宮北	DKK	116	FD	10	丸底甕	赤	トレンチ No.8	焼出	13.1	—	—	7.8	—	—	—	胎土に磨粉した見出し
965	1971	大宮北	DKK	116	FD	13	丸底甕	赤	トレンチ No.8	焼出	13.1	—	—	5.4	—	—	—	胎土に磨粉した見出し、ベトナム産、胎土不明



第 48 表 台太郎遺跡第 68 次調査出土土器観察表(1)

器種	器名	器種名	形状	器種別	器種別	器種別	器種別					器種別	器種別	器種別	器種別	
							器種別	器種別	器種別	器種別	器種別					
器種	器名	器種名	形状	器種別	器種別	器種別	器種別	器種別	器種別	器種別	器種別	器種別	器種別	器種別	器種別	器種別
501	501	501	501	501	501	501	501	501	501	501	501	501	501	501	501	501



第 52 表 台太郎遺跡第 70 次調査出土土器観察表(2)

図	番号	発掘時期	遺跡名	地号	土器	遺物名	検体 No.	形状		成立				可塑性(土質別) 炭化率		観察設備	観察時期		調査者・検査者		
								器形	用途	年代	産地	高さ	口径	体高	口径		体高	厚		口縁-底縁	底-口縁縁部
52	135	表土層	ODT	015	PE301	45	土師器	片	914-124, 919-270	奈良	5.5	13.7	—	5.4	2.3	3.2	陶板(内面観察)	—	—	—	内面に黒色付土(黒土)の痕跡あり
52	140	表土層	ODT	015	PE301	10	土師器	片	主産No.5	奈良	4.8	13.4	—	5.2	2.2	3.2	陶板(内面観察)	陶板	—	—	内面に黒色付土(黒土)の痕跡あり
52	141	表土層	ODT	015	PE301	31	土師器	片	914-124, 919-270	奈良	4.9	14.7	—	5.4	2.7	3.3	陶板(内面観察)	—	—	—	内面に黒色付土(黒土)の痕跡あり
52	142	表土層	ODT	015	PE301	10	土師器	片	914-124, 919-270	奈良	5.5	14.8	—	5.3	2.3	2.7	陶板(内面観察)	—	—	—	内面に黒色付土(黒土)の痕跡あり
52	143	表土層	ODT	015	PE301	1	土師器	片	主産No.7	奈良	18.7	—	12.4	7.2	—	—	—	—	—	—	内面に黒色付土(黒土)の痕跡あり
形状																					
52	144	表土層	ODT	015	PE304	2	土師器	片	914-124, 919-270	奈良	4.2	16.4	—	5.3	2.7	3.4	陶板(内面観察)	—	—	—	—
形状																					
52	145	表土層	ODT	015	PE303	11	土師器	片	914-124, 919-270	奈良	5.4	13.3	—	5.3	2.3	3.4	陶板(内面観察)	—	—	—	内面に黒色付土(黒土)の痕跡あり
52	146	表土層	ODT	015	PE303	10	土師器	片	主産No.17	奈良	5.2	14.7	—	5.4	2.3	2.8	陶板(内面観察)	—	—	—	内面に黒色付土(黒土)の痕跡あり
52	147	表土層	ODT	015	PE303	7	土師器	片	主産No.7	奈良	12.4	14.3	—	6.4	2.2	3.1	陶板(内面観察)	—	—	—	内面に黒色付土(黒土)の痕跡あり
52	148	表土層	ODT	015	PE303	4	土師器	片	主産No.5	奈良	17.3	17.3	—	—	—	—	—	—	—	—	内面に黒色付土(黒土)の痕跡あり
形状																					
52	149	表土層	ODT	015	PE303	4	土師器	片	914-124, 919-270	奈良	4.3	14.2	—	5.3	2.3	3.7	陶板(内面観察)	—	—	—	内面に黒色付土(黒土)の痕跡あり
形状																					
52	150	表土層	ODT	015	PE303	10	土師器	片	914-124, 919-270	奈良	4.1	14.3	—	5.1	—	—	—	—	—	—	内面に黒色付土(黒土)の痕跡あり

第 53 表 飯岡才川遺跡第 14 次調査出土土器観察表

図	番号	発掘時期	遺跡名	地号	土器	遺物名	検体 No.	形状		成立				可塑性(土質別) 炭化率		観察設備	観察時期		調査者・検査者		
								器形	用途	年代	産地	高さ	口径	体高	口径		体高	厚		口縁-底縁	底-口縁縁部
53	151	表土層	OH	014	FI401	10	土師器	片	509-25	A	5.3	23.1	—	—	—	4.2	OH0-210, 有田, 丸瀬	—	—	—	内面に黒色付土(黒土)の痕跡あり
53	152	表土層	OH	014	FI401	8	土師器	片	主産No.12	奈良	21.5	18.2	18.5	2.2	1.1	1.8	—	—	—	—	内面に黒色付土(黒土)の痕跡あり
53	153	表土層	OH	014	FI401	4	土師器	片	主産No.6	奈良	22.4	21.3	20.2	5.3	1.5	2.4	—	—	—	—	内面に黒色付土(黒土)の痕跡あり
53	154	表土層	OH	014	FI401	3	土師器	片	主産No.8	奈良	13.8	17.3	16.3	—	1.1	—	—	—	—	—	内面に黒色付土(黒土)の痕跡あり
53	155	表土層	OH	014	FI401	1	土師器	片	主産No.7	奈良	14.2	16.4	16.1	—	1.0	—	—	—	—	—	内面に黒色付土(黒土)の痕跡あり
形状																					
53	156	表土層	OH	014	FI401	14	土師器	片	509-25	奈良	4.5	17.4	—	—	—	3.8	OH0-210, 有田, 中瀬, 丸瀬	—	—	—	内面に黒色付土(黒土)の痕跡あり
53	157	表土層	OH	014	FI401	10	土師器	片	509-25	A	4.9	12.3	—	5.3	2.3	3.3	陶板(内面観察)	—	—	—	内面に黒色付土(黒土)の痕跡あり
53	158	表土層	OH	014	FI401	5	土師器	片	主産No.7	奈良	10.9	13.2	14.0	6.4	1.0	1.0	—	—	—	—	内面に黒色付土(黒土)の痕跡あり

第 54 表 台太郎遺跡第 59・67 次調査出土弥生土器觀察表

調査番号	発見時期	遺跡名	坑号	次期	遺物名	台帳 No.	形制			出土		特徴
							近小	器種	平置位置	層位		
103-201	弥生前期	弥生前期	OOT 058	遺構H4	3	弥生土器	高平	-	-	-	口縁部：突起(人字状口縁)。口部：流溝。種類：弥生前期	
103-202	弥生前期	弥生前期	OOT 059	遺構H4	4.1	弥生土器	高平	-	-	-	口縁部：平行口縁。突起(人字状口縁)。口部：流溝。種類：弥生前期	
103-203	弥生前期	弥生前期	OOT 058	遺構H4	4.2	弥生土器	高平	-	-	-	口縁部：平行口縁。内底流溝。種類：弥生前期	
103-204	弥生前期	弥生前期	OOT 059	FIG247	2	弥生土器	高平	-	-	基本	体部：平行口縁。L片流溝。種類：弥生前期	
103-205	弥生前期	弥生前期	OOT 059	遺構H4	5.0	弥生土器	高平	-	-	-	体部：平行口縁。L片流溝。種類：弥生前期	
103-206	弥生前期	弥生前期	OOT 059	遺構H4	5.4	弥生土器	高平	-	-	-	体部：平行口縁。L片流溝。種類：弥生前期	
103-207	弥生前期	弥生前期	OOT 059	遺構H4	5.5	弥生土器	高平	-	-	-	体部：平行口縁。L片流溝。種類：弥生前期	
103-209	弥生前期	弥生前期	OOT 058	遺構H4	5.2	弥生土器	高平	-	-	-	体部：平行口縁。L片流溝。種類：弥生前期	
103-209	弥生前期	弥生前期	OOT 059	遺構H4	5.1	弥生土器	高平	-	-	-	体部：平行口縁。L片流溝。種類：弥生前期	
調査番号	発見時期	遺跡名	坑号	次期	遺物名	台帳 No.	形制			出土		特徴
							近小	器種	平置位置	層位		
104-210	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA09	20	弥生土器	高平	-	-	A1	口縁部：小突起。底文等。種類：弥生前期	
104-211	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA07	6	弥生土器	高平	SE区	L	体部	内底流溝。種類：弥生前期	
104-212	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA07	14	弥生土器	高平	-	-	-	体部：内底流溝。種類：弥生前期	
104-213	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA07	3	弥生土器	高平	NE区	L	体部	流溝。内底流溝。種類：弥生前期	
104-214	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA07	10	弥生土器	高平	-	-	横出溝	体部：流溝。種類：弥生前期	
104-215	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA07	2	弥生土器	高平	シット1	-	体部	流溝。内底流溝。種類：弥生前期	
104-216	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA07	7.0	弥生土器	高平	NE区	L	体部	流溝。種類：弥生前期	
104-217	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA07	5.1	弥生土器	高平	NE区	C	口縁部	突起(L口縁。附加流溝。種類：弥生前期)	
104-218	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA07	5.1	弥生土器	高平	SE区	L	口縁部	附加流溝。種類：弥生前期	
104-219	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA07	5.2	弥生土器	高平	SE区	L	口縁部	附加流溝。種類：弥生前期	
104-220	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA07	9.0	弥生土器	高平	NE区	C	口縁部	附加流溝。種類：弥生前期	
104-221	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA07	10	弥生土器	高平	-	-	横出溝	体部：附加流溝。種類：弥生前期	
104-222	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA07	10	弥生土器	高平	-	-	横出溝	体部：附加流溝。種類：弥生前期	
104-223	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA07	8.0	弥生土器	高平	NE区	C	体部	附加流溝。種類：弥生前期	
104-224	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA07	8.4	弥生土器	高平	NE区	C	体部	附加流溝。種類：弥生前期	
104-225	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA07	1.1	弥生土器	高平	シット1	-	体部	附加流溝。底文等。種類：弥生前期	
104-226	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA07	1.2	弥生土器	高平	シット1	-	体部	附加流溝。種類：弥生前期	
104-227	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA07	10.2	弥生土器	高平	-	-	横出溝	体部：附加流溝。種類：弥生前期	
104-228	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA07	10.1	弥生土器	高平	-	-	横出溝	体部：附加流溝。種類：弥生前期	
104-229	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA07	10	弥生土器	高平	NE区	A1	体部	附加流溝。種類：弥生前期	
104-230	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA07	14	弥生土器	高平	底面ヘルト①	A1	体部	附加流溝。種類：弥生前期	
104-231	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RG06	20	弥生土器	高平	ヘルト①	-	体部	附加流溝。種類：弥生前期	
104-232	弥生前期	弥生前期	OOT 067	遺構H4	20.2	弥生土器	高平	-	-	体部	附加流溝。種類：弥生前期	
104-233	弥生前期	弥生前期	OOT 067	遺構H4	20.4	弥生土器	高平	-	-	体部	附加流溝。種類：弥生前期	
104-234	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA08	19	弥生土器	高平	裏面ヘルト①	A1	体部	附加流溝。種類：弥生前期	
104-235	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA07	4	弥生土器	高平	NE区	L	体部	附加流溝。種類：弥生前期	
104-236	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA07	5.0	弥生土器	高平	SE区	L	体部	附加流溝。種類：弥生前期	
104-237	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA07	7.0	弥生土器	高平	NE区	L	体部	附加流溝。底文等。種類：弥生前期	
104-238	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA07	7.2	弥生土器	高平	NE区	L	体部	附加流溝。種類：弥生前期	
104-239	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA07	9.1	弥生土器	高平	NE区	C	体部	附加流溝。種類：弥生前期	
104-240	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA07	9.2	弥生土器	高平	NE区	C	体部	附加流溝。種類：弥生前期	
104-241	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA07	14.2	弥生土器	高平	底面ヘルト①	A1	体部	附加流溝。底文等。種類：弥生前期	
104-242	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA09	19.1	弥生土器	高平	底面ヘルト①	A2	体部	附加流溝。種類：弥生前期	
104-243	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA08	19.2	弥生土器	高平	底面ヘルト①	A2	体部	附加流溝。種類：弥生前期	
104-244	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA07	19.0	弥生土器	高平	-	-	横出溝	体部：附加流溝。種類：弥生前期	
104-245	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA07	12	弥生土器	高平	SW区	A1	体部	附加流溝。種類：弥生前期	
104-246	弥生前期	弥生前期	OOT 067	RA07	10	弥生土器	高平	NE区	C	体部	附加流溝。種類：弥生前期	

第 55 表 台太郎遺跡第 59・62・63 次調査出土古銭観察表

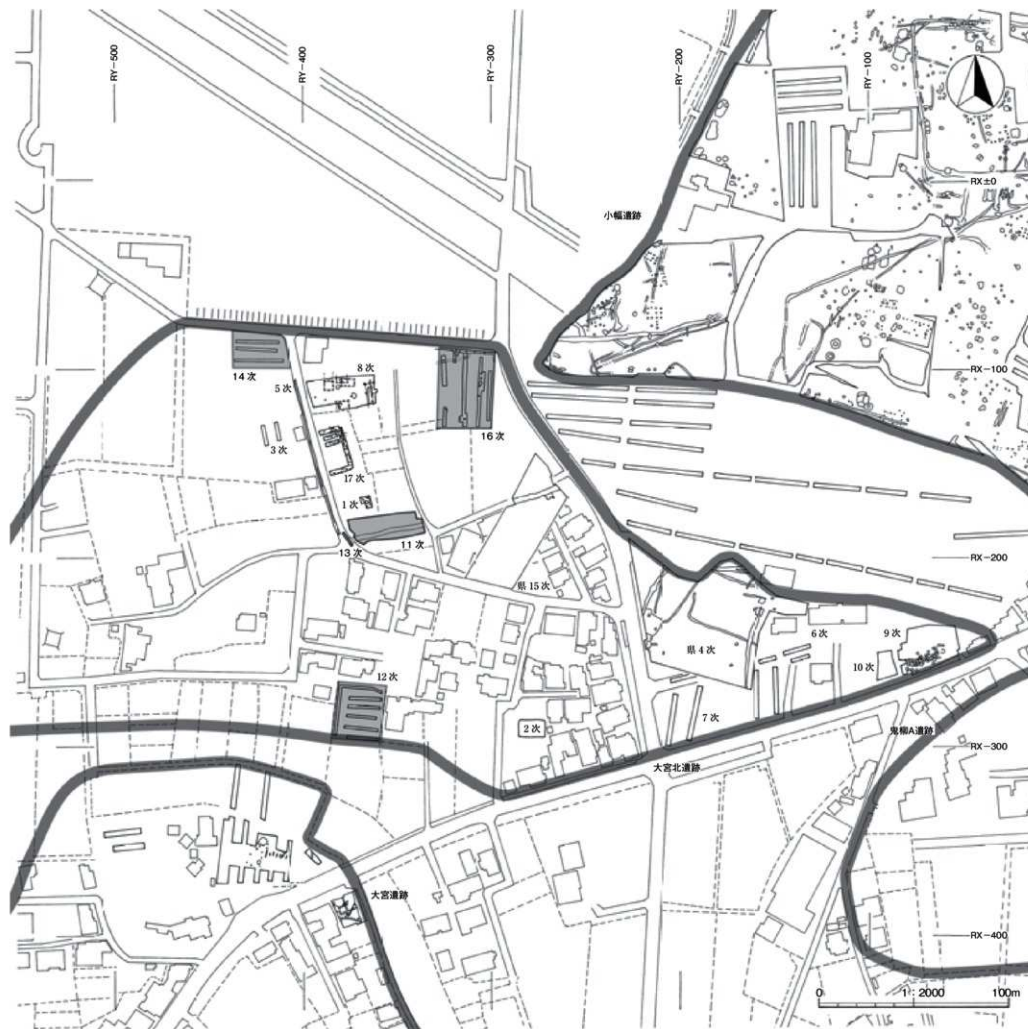
						新編		出土		付録(種)		特記事項	
探出 番号	発見 時期	遺跡名	検号	次期	遺跡名	付録No.	区分	種別	平造り数	副造	種		
105	301	台太郎	OOT	59	遺跡H	1	古銭	真水清原	—	—	2.8	新編表(4文銭、背に11の漢)	
						新編		出土		付録(種)		特記事項	
探出 番号	発見 時期	遺跡名	検号	次期	遺跡名	付録No.	区分	種別	平造り数	副造	種		
106	302	台太郎	OOT	62	㊦ト 57	1	古銭	真水清原	—	—	2.4	北支那、1075 年以降	
106	303	台太郎	OOT	62	㊦ト 41	2	古銭	伴村清原?	—	—	1.9	(北支那、1000 年以降)	
						新編		出土		付録(種)		特記事項	
探出 番号	発見 時期	遺跡名	検号	次期	遺跡名	付録No.	区分	種別	平造り数	副造	種		
107	304	台太郎	OOT	63	RC039	1-4	古銭	真水清原	—	—	2.4	古銭表	
107	305	台太郎	OOT	63	RC039	1-13	古銭	真水清原	—	—	2.4	古銭表	
107	306	台太郎	OOT	63	RC039	1-14	古銭	真水清原	—	—	2.4	古銭表	
107	307	台太郎	OOT	63	RC039	1-15	古銭	真水清原	—	—	2.3	古銭表	
107	308	台太郎	OOT	63	RC039	1-9	古銭	真水清原	—	—	2.3	古銭表	
107	309	台太郎	OOT	63	RC039	1-10	古銭	真水清原	—	—	2.4	古銭表	
107	310	台太郎	OOT	63	RC039	1-11	古銭	真水清原	—	—	2.5	新編表(背文漢)	
107	311	台太郎	OOT	63	RC039	1-10	古銭	真水清原	—	—	2.5	新編表(背文漢)	
107	312	台太郎	OOT	63	RC039	1-12	古銭	真水清原	—	—	2.5	新編表(背文漢)	
107	313	台太郎	OOT	63	RC039	1-7	古銭	真水清原	—	—	2.5	新編表(背文漢)	
107	314	台太郎	OOT	63	RC039	1-3	古銭	真水清原	—	—	2.5	新編表(背文漢)	
107	315	台太郎	OOT	63	RC039	1-6	古銭	真水清原	—	—	2.5	新編表(背文漢)	
107	316	台太郎	OOT	63	RC039	1-11	古銭	真水清原	—	—	2.2	新編表	
107	317	台太郎	OOT	63	RC039	1-6	古銭	真水清原	—	—	2.2	新編表	
107	318	台太郎	OOT	63	RC039	1-5	古銭	真水清原	—	—	2.2	新編表	
107	319	台太郎	OOT	63	RC040	6-2	古銭	真水清原	No.4	—	2.4	古銭表	
107	320	台太郎	OOT	63	RC040	9	古銭	真水清原	No.7	—	2.4	古銭表	
107	321	台太郎	OOT	63	RC040	7-1	古銭	真水清原	No.5	—	2.5	新編表(背文漢)	
107	322	台太郎	OOT	63	RC040	7-2	古銭	真水清原	No.5	—	2.5	新編表(背文漢)	
107	323	台太郎	OOT	63	RC040	6-1	古銭	真水清原	No.4	—	2.5	新編表(背文漢)	
107	324	台太郎	OOT	63	遺跡H	10	古銭	真水清原	—	—	2.2	新編表	





# 遺 構 図 版

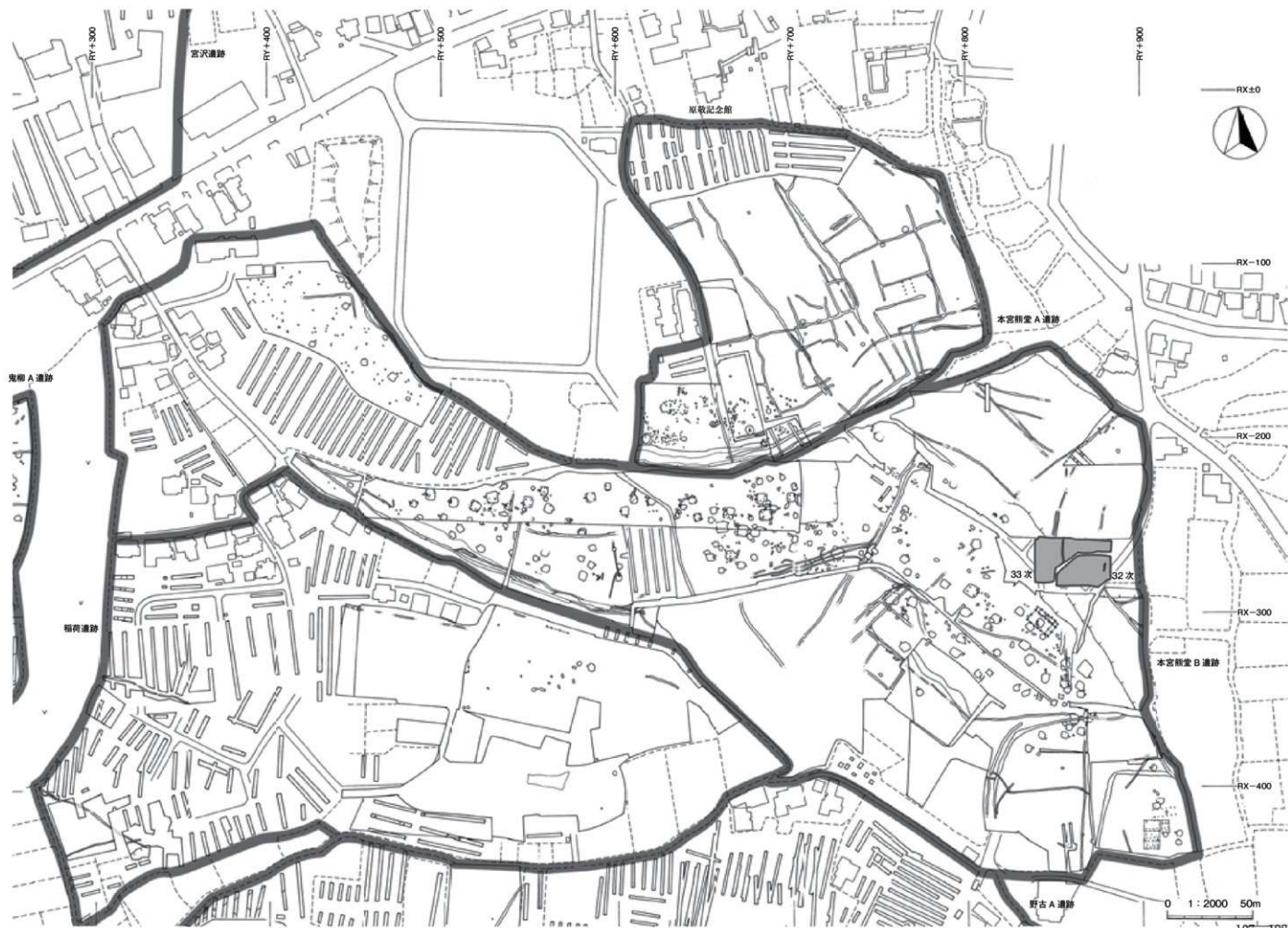




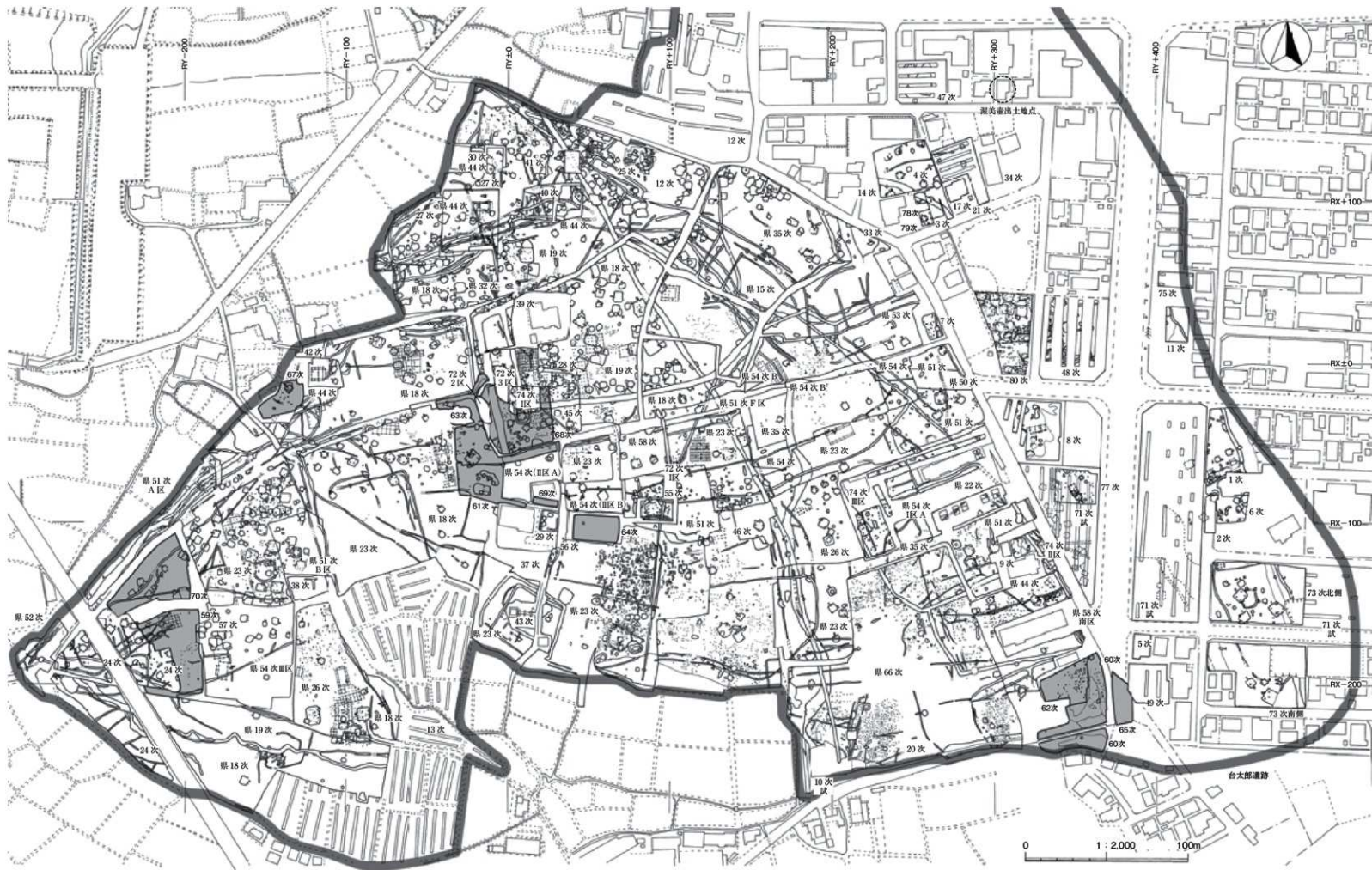
第1図 大宮北遺跡全体図



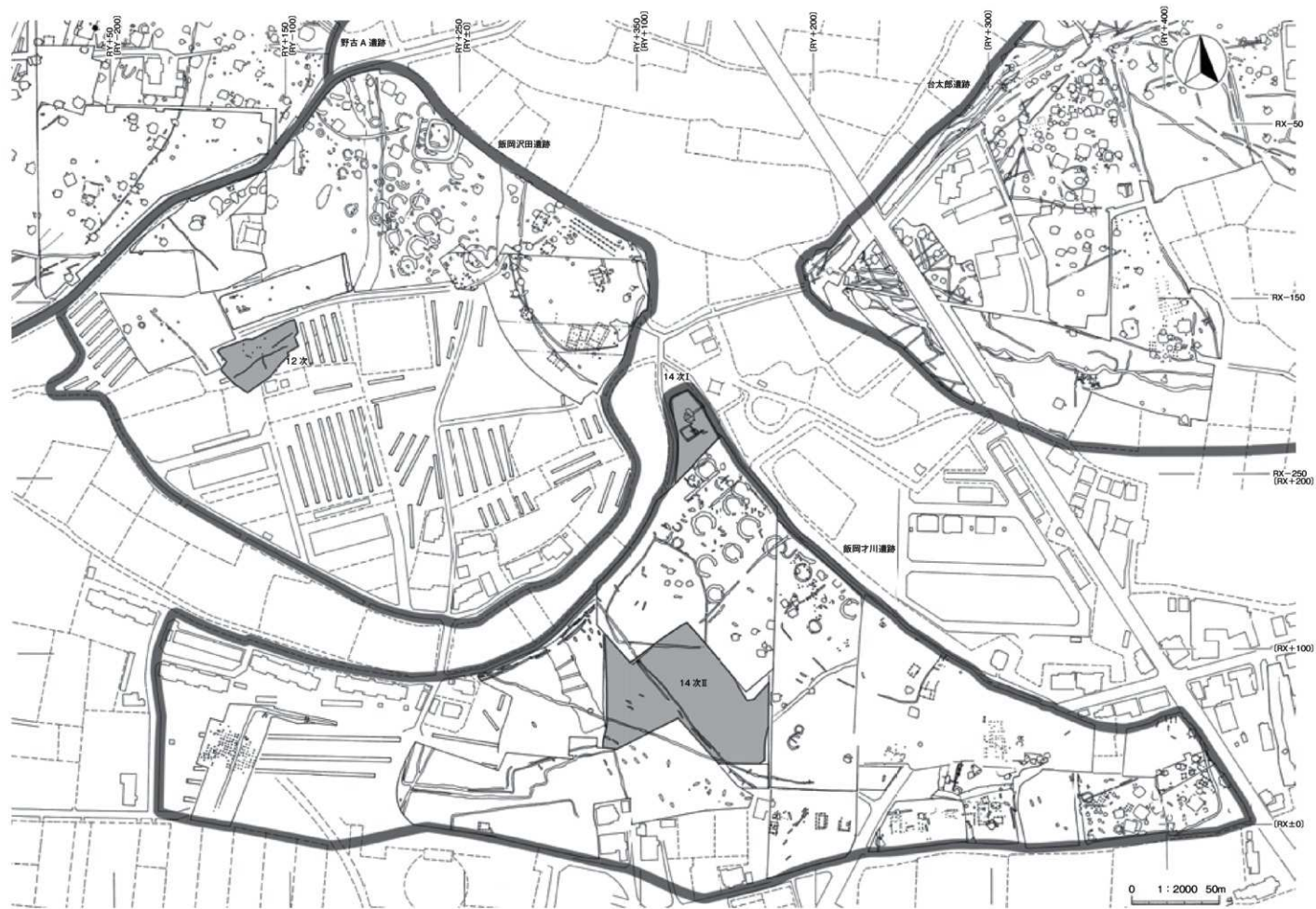
第2図 小幡遺跡・宮沢遺跡全体図



第3図 本宮熊堂 B 遺跡全体図



第4图 台太郎遺跡全体图

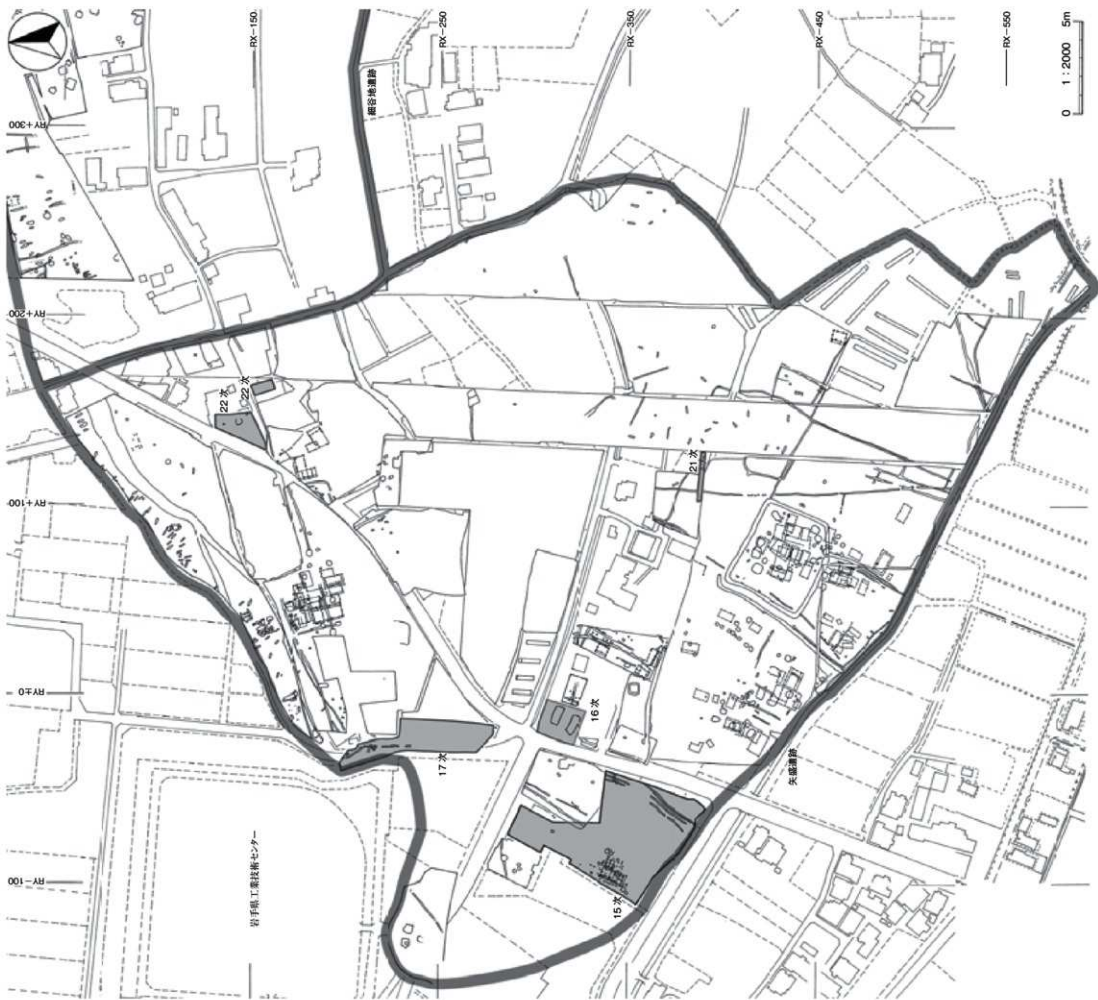


第5図 飯岡沢田遺跡・飯岡才川遺跡全体図 (C)内は飯岡才川遺跡調査座標値

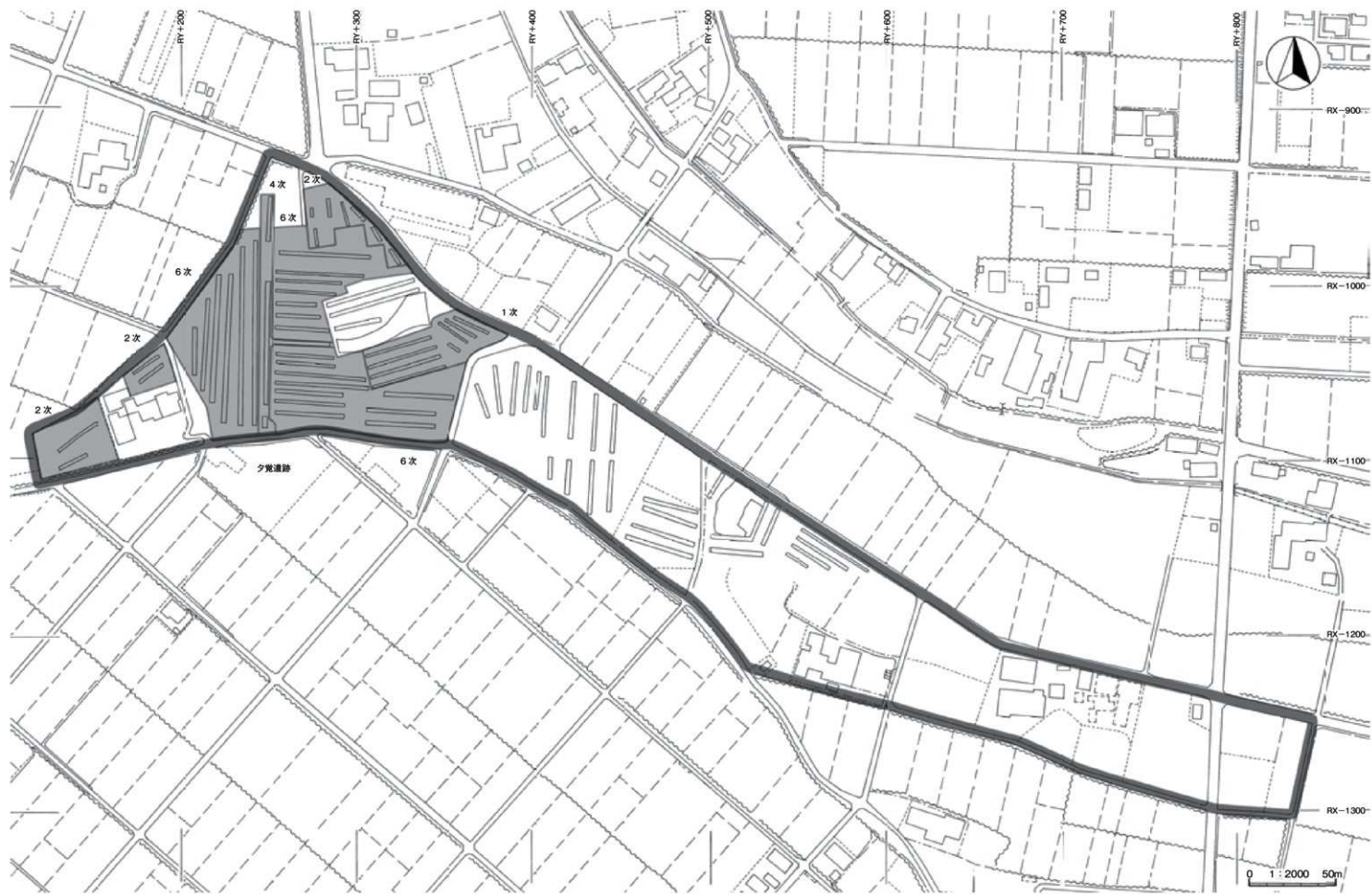




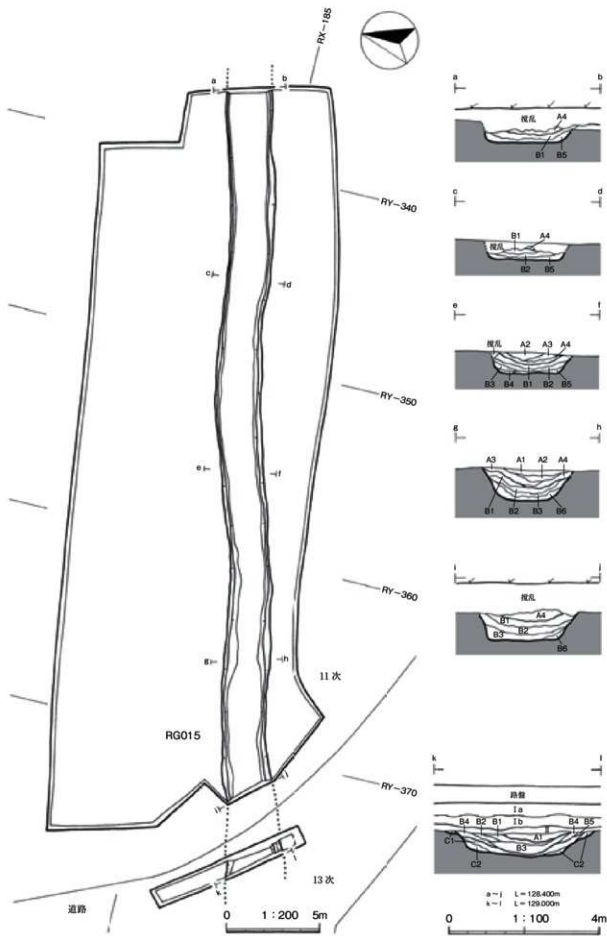
第 6 図 細谷地遺跡全体図



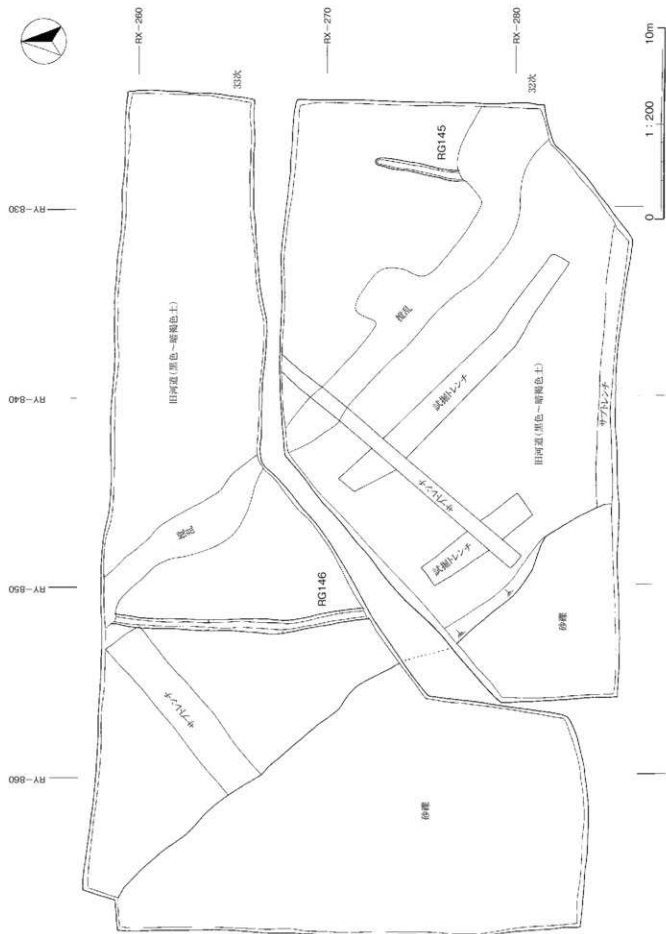
第7図 矢盛通跡全体図

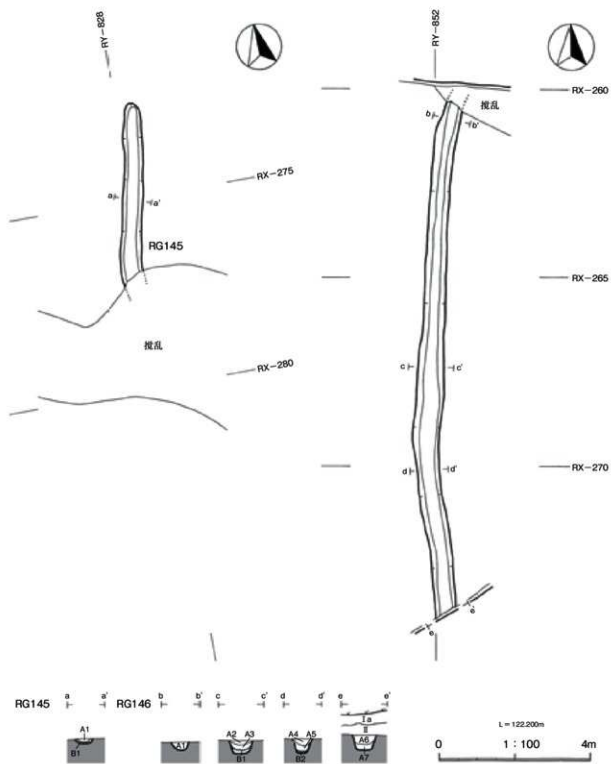


第8図 夕覚遺跡全体図

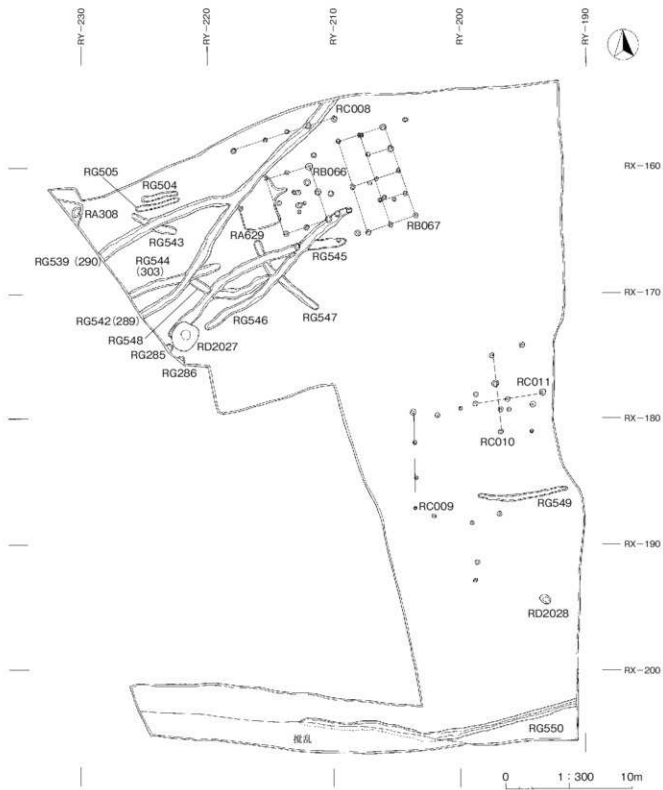


第9图 大宮北遺跡第11・13次調査区全体図，RG015 溝跡

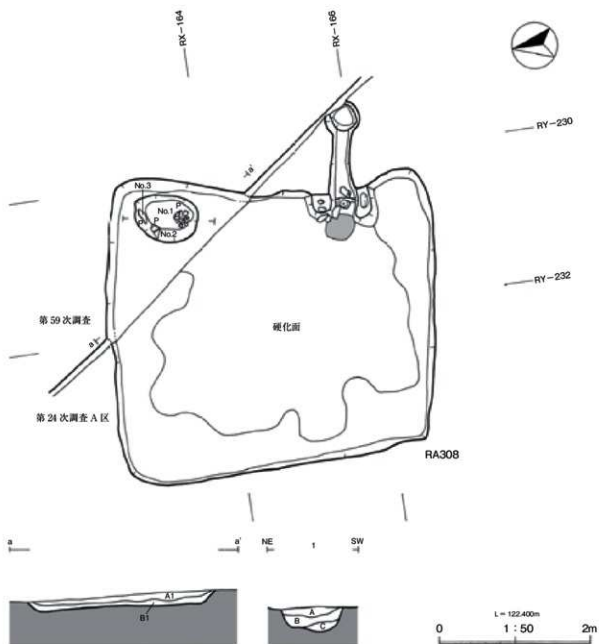




第 11 図 本宮熊堂 B 遺跡第 32 次調査 RG145 溝跡, 第 33 次調査 RG146 溝跡

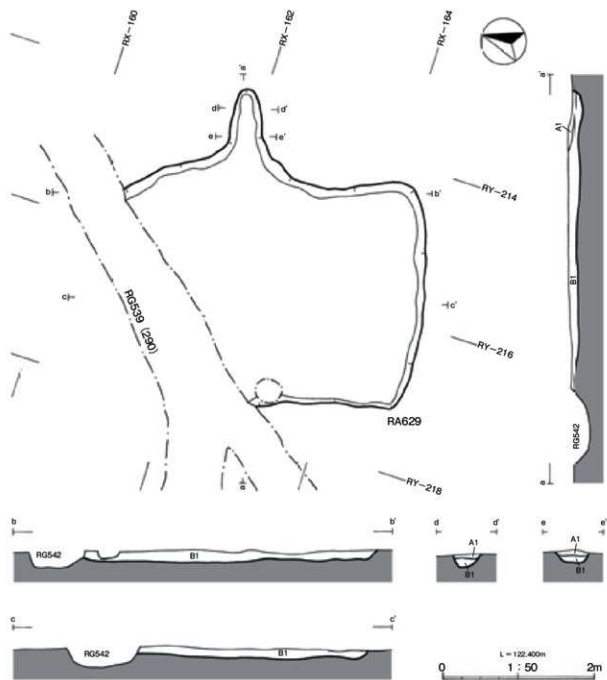


第12図 台太郎遺跡第59次調査区全体図

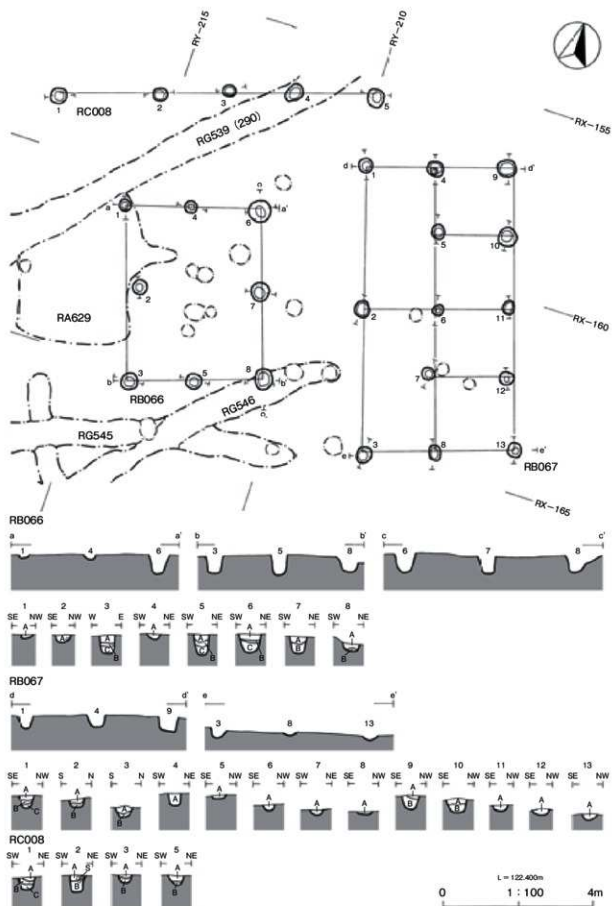


第13图 台太郎遺跡第59次調査 RA308 竖穴建物跡

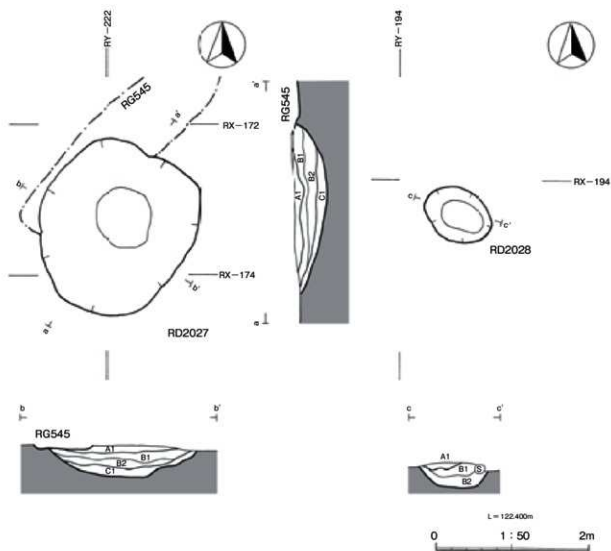




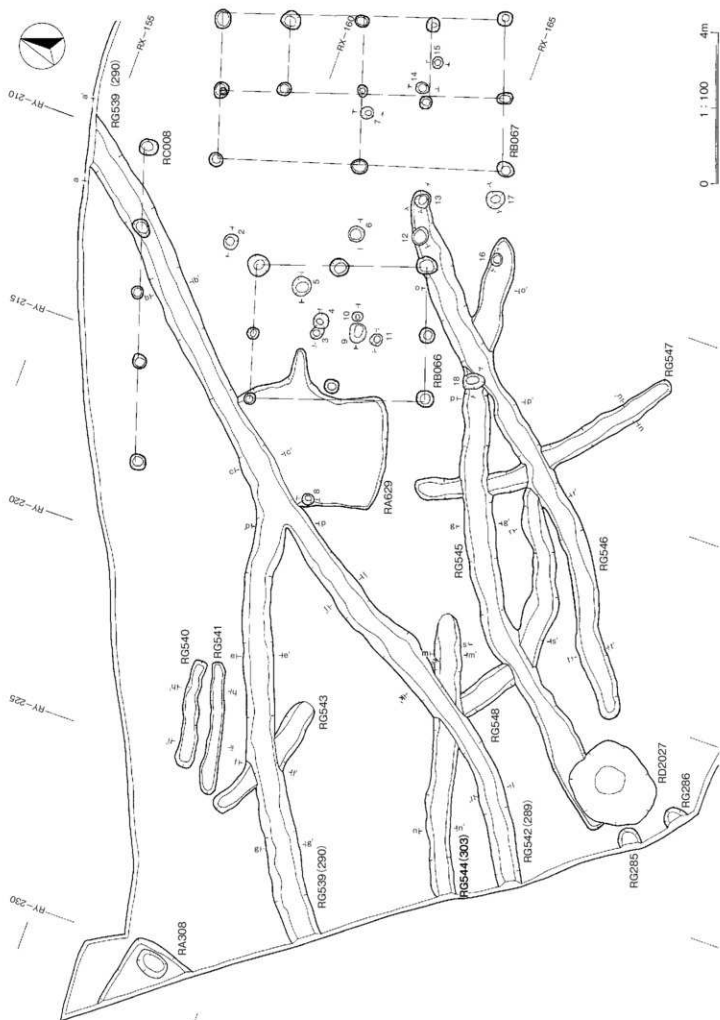
第 14 図 台太郎遺跡第 59 次調査 RA629 竪穴建物跡



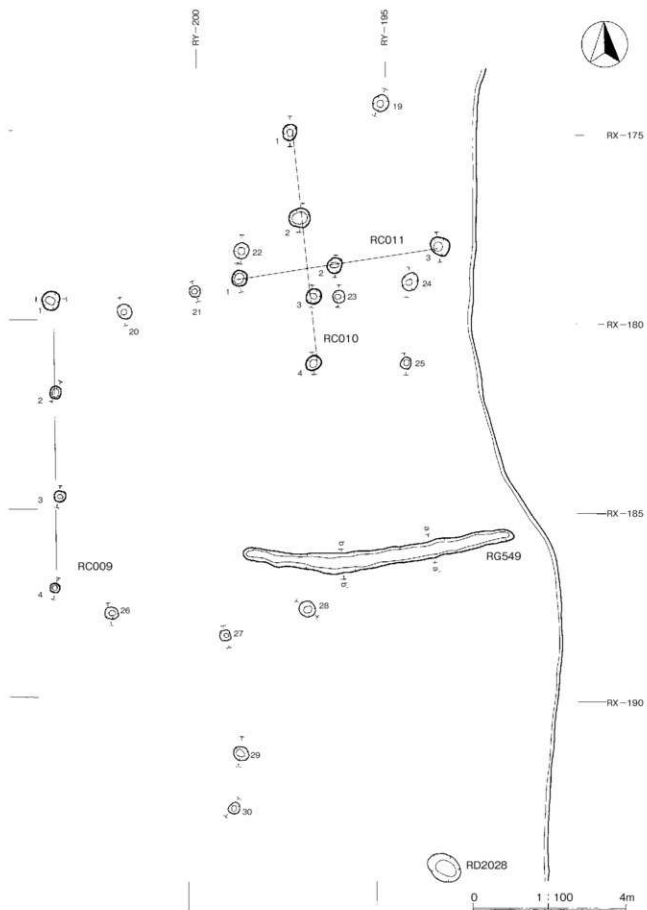
第 15 图 台太郎遺跡第 59 次調査 RB066・067 獨立柱建物跡, RC008 獨立柱列跡



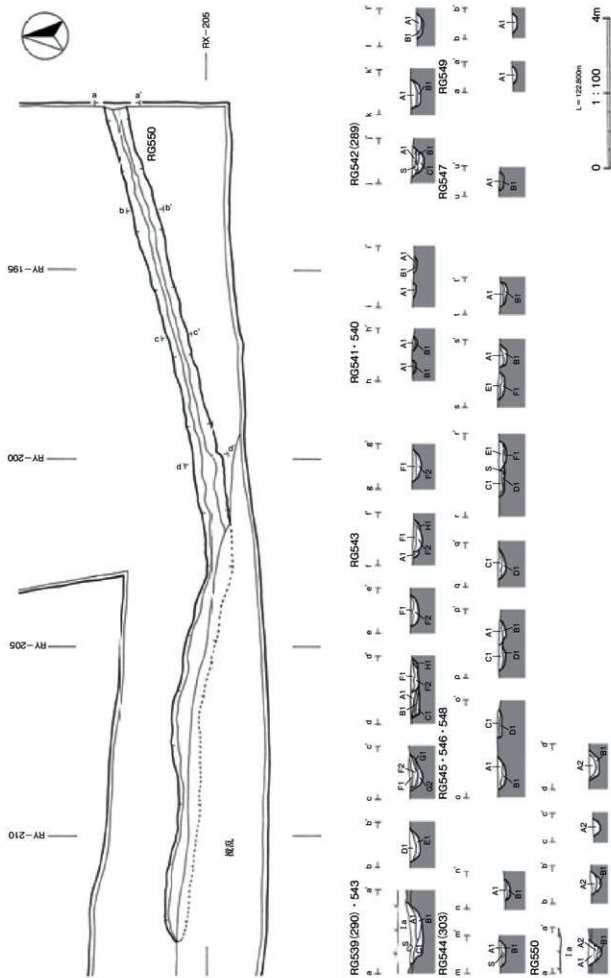
第 16 回 台太郎遺跡第 59 次調査 RD2027・2028 土坑



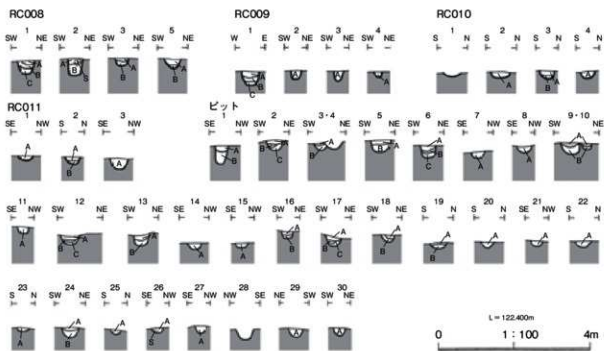
第17図 台太郎遺跡第59次調査RG539~548溝跡、ビット



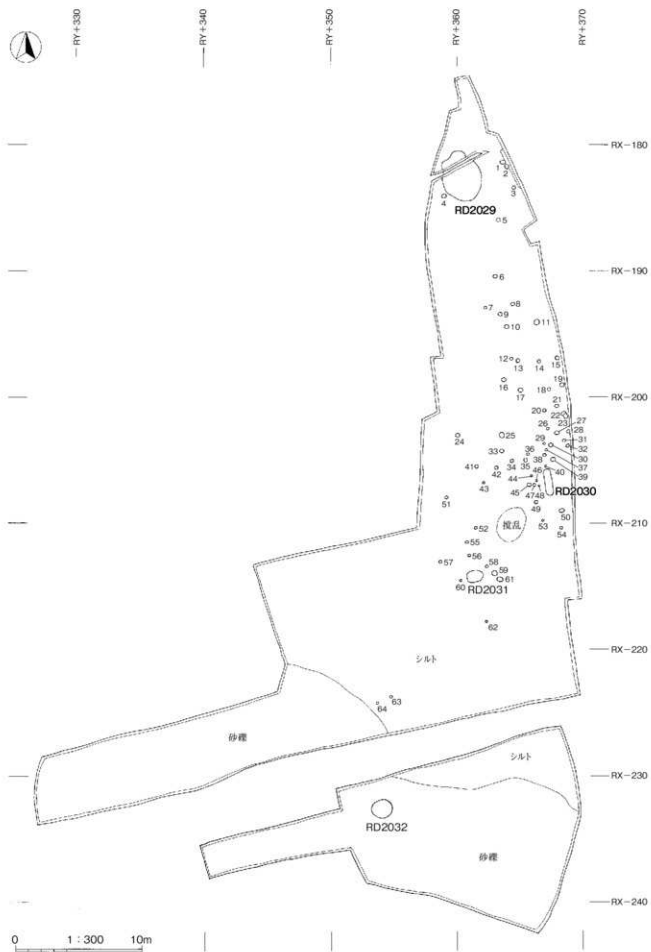
第18図 台太郎遺跡第59次調査RC009~011掘立柱列跡，RG549溝跡，ビット



第 19 図 台太郎遺跡第 59 次調査 RG550 溝跡, RG539 ~ 549 溝跡

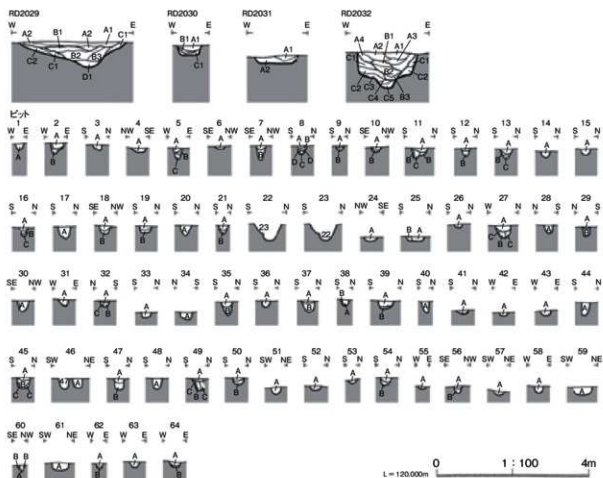


第20図 台太郎遺跡第59次調査 RC008~011 掘立柱列跡、ピット

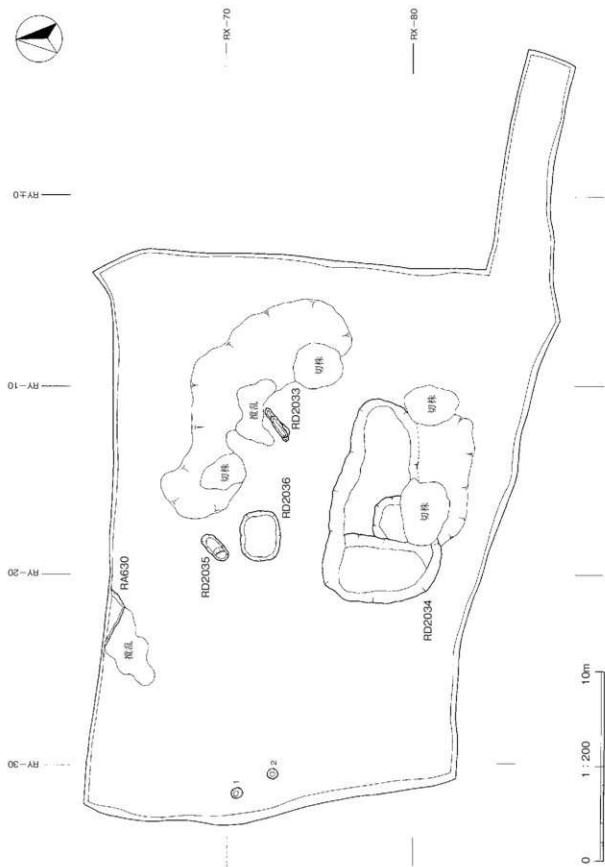


第 21 図 台太郎遺跡第 60 次調査区全体図

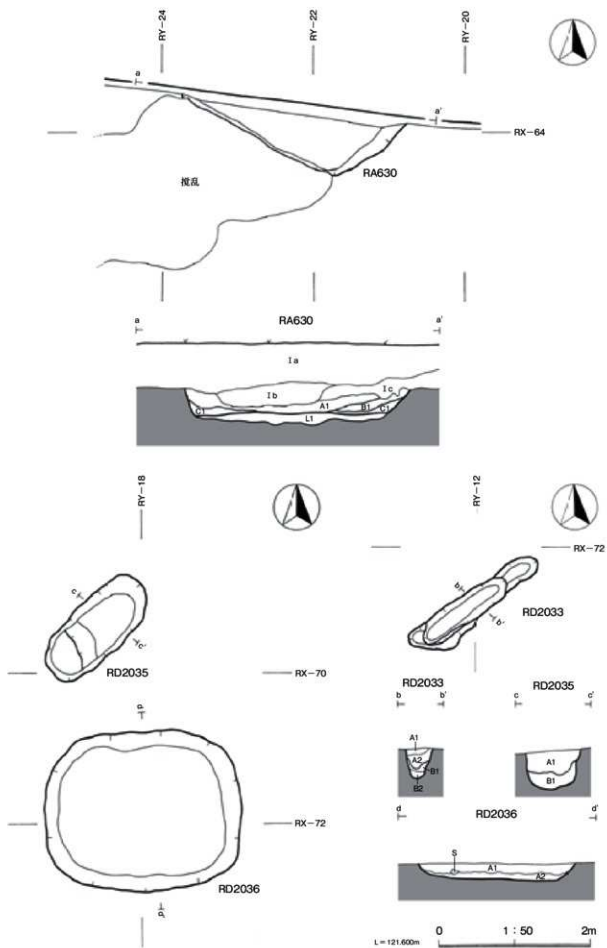




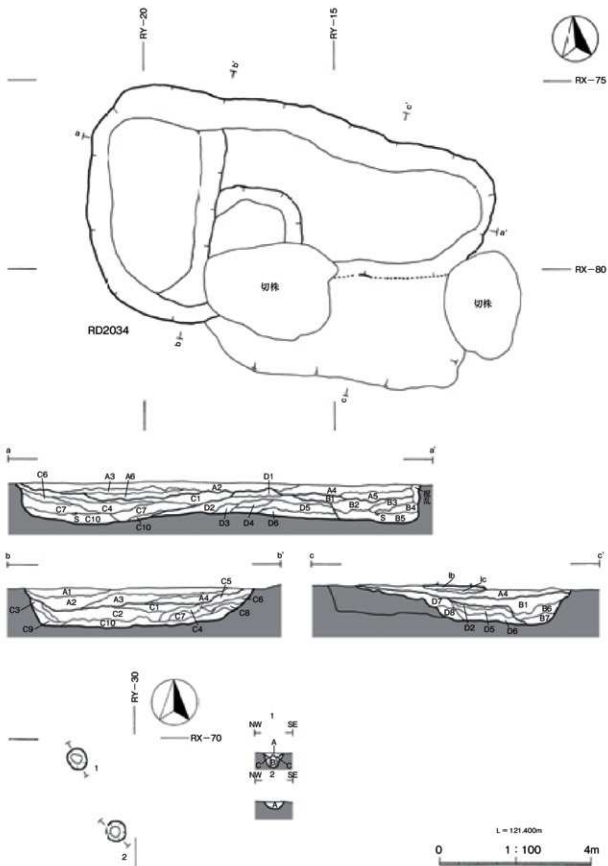
第 22 図 台太郎遺跡第 60 次調査 RD2029~2032 土坑、ピット



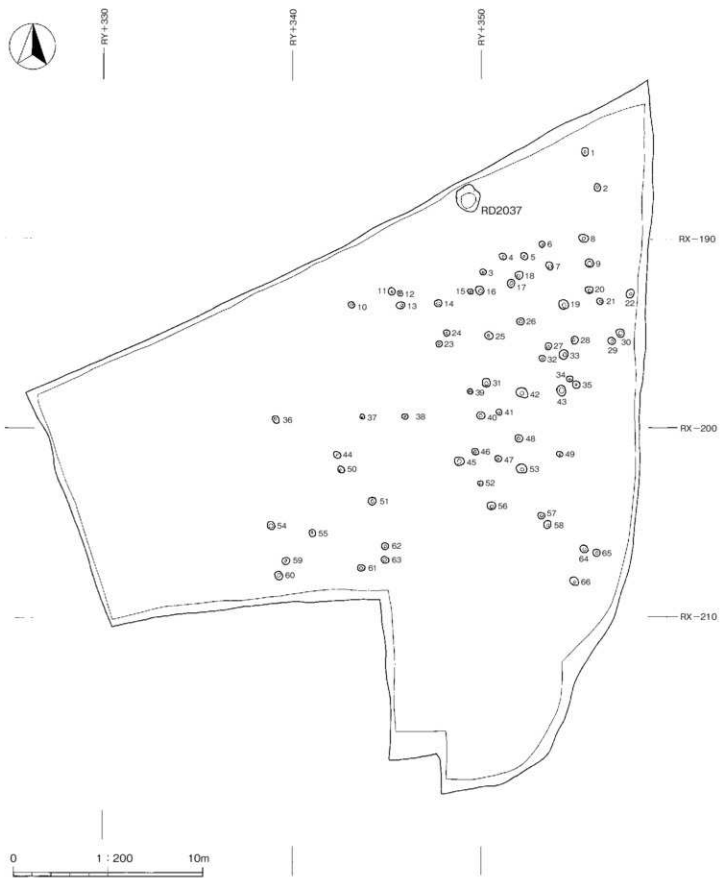
第 23 図 台太郎遺跡第 61 次調査区全体図



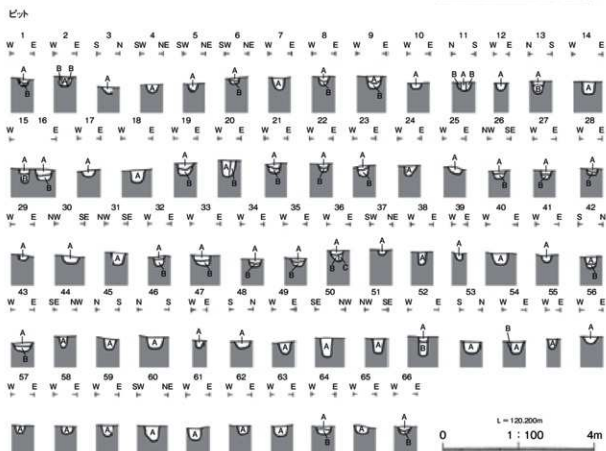
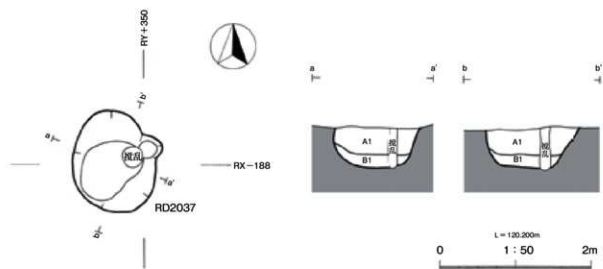
第 24 图 台太郎遺跡第 61 次調査 RA630 竪穴建物跡, RD2033・2035・2036 土坑



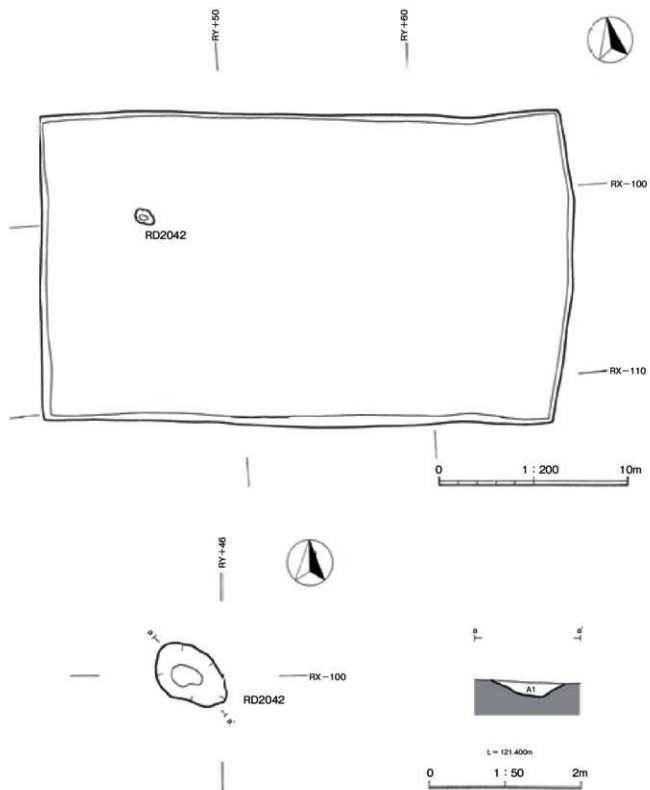
第25図 台太郎遺跡第61次調査RD2034土坑、ビット



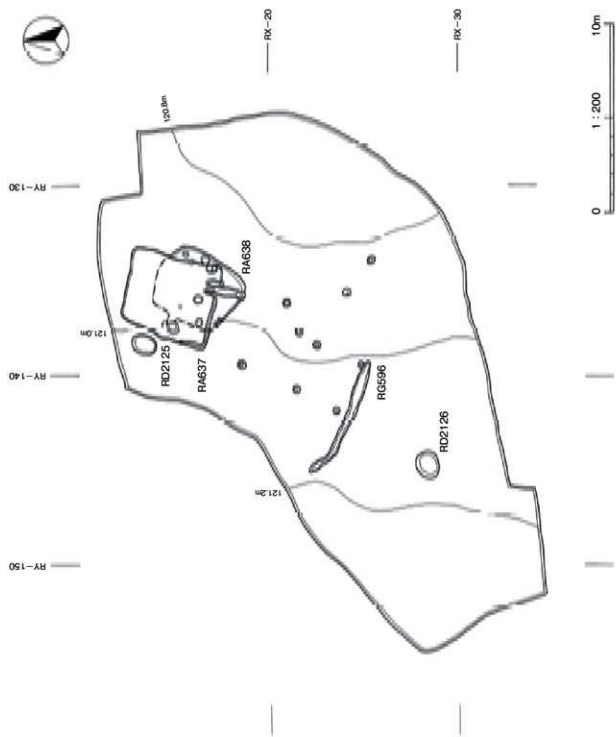
第 26 图 台太郎遺跡第 62 次調査区全体図



第 27 図 台太郎遺跡第 62 次調査 RD2037 土坑、ピット

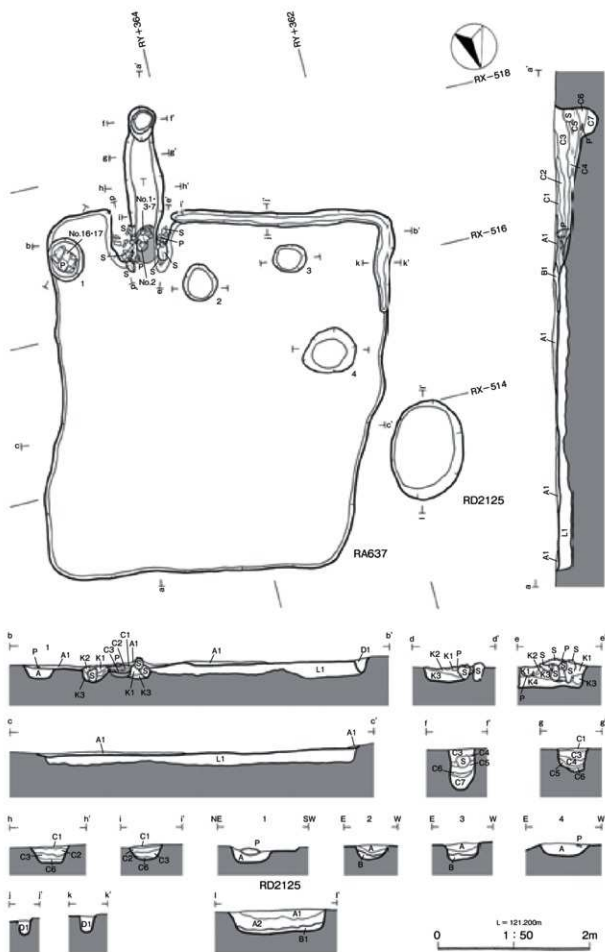


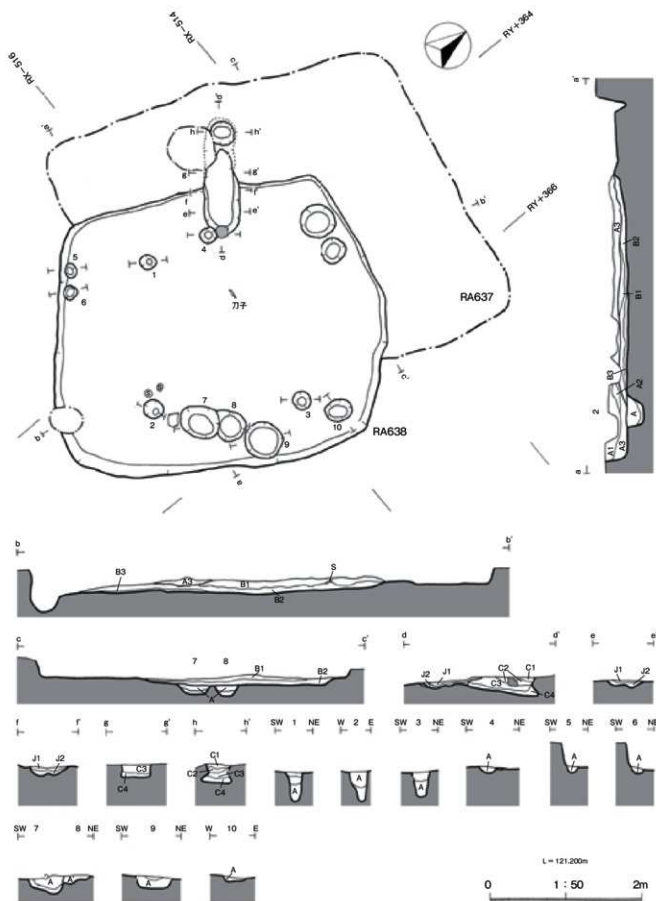
第 28 图 台太郎遺跡第 64 次調査区全体図、RD2042 土坑



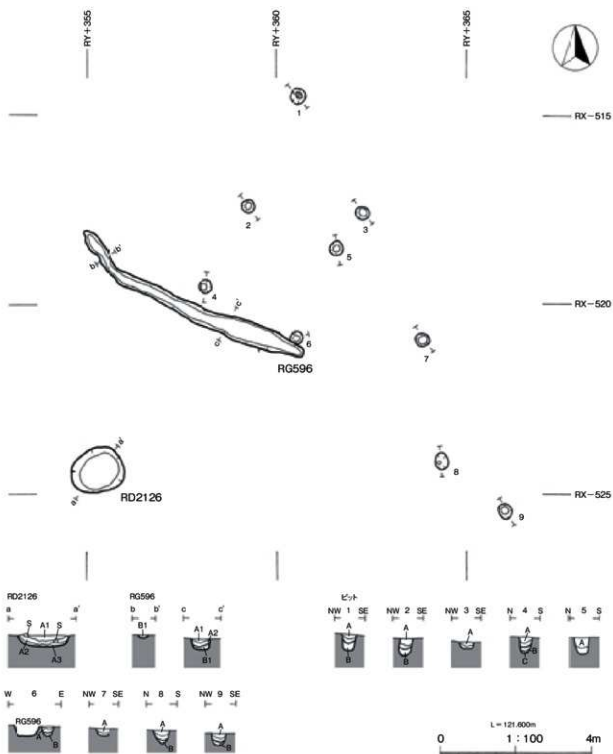
第 29 图 台太郎遺跡第 67 次調査区全体図



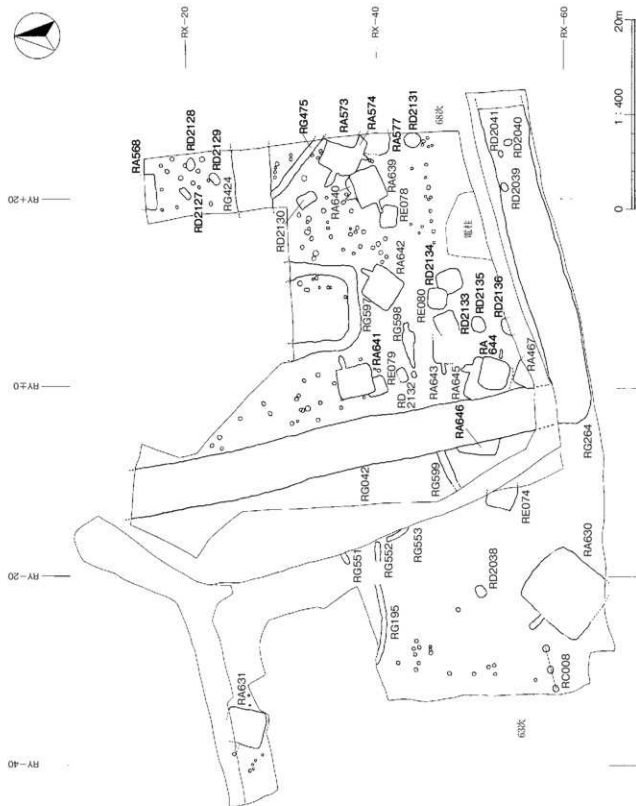




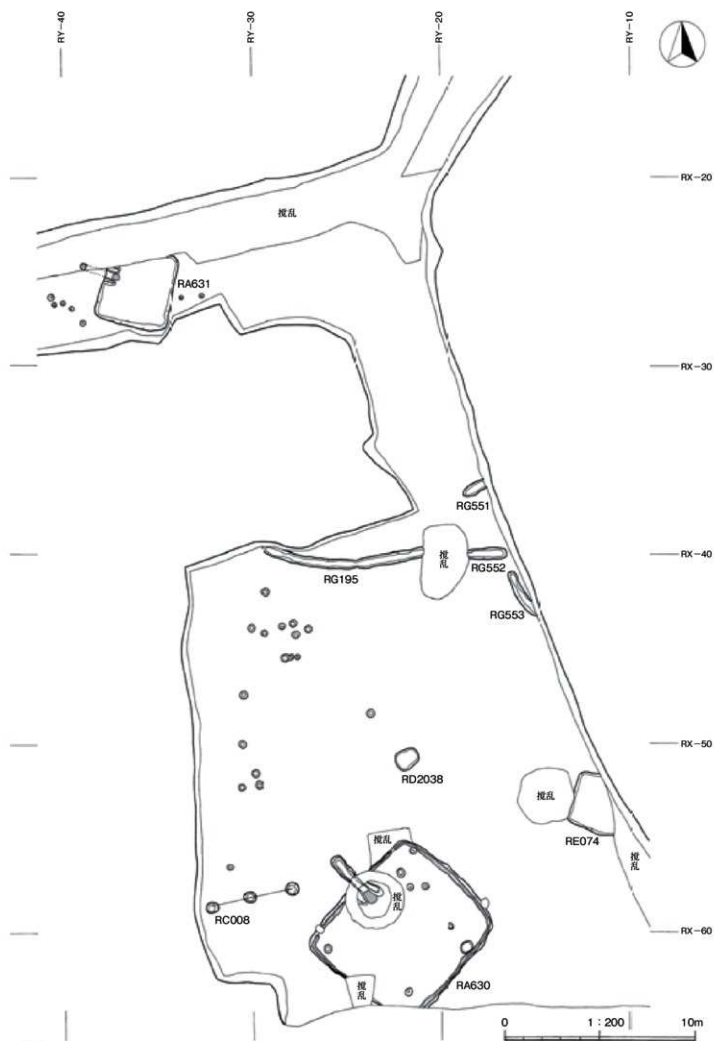
第 31 图 台太郎遺跡第 67 次調査 RA638 竖穴建物跡



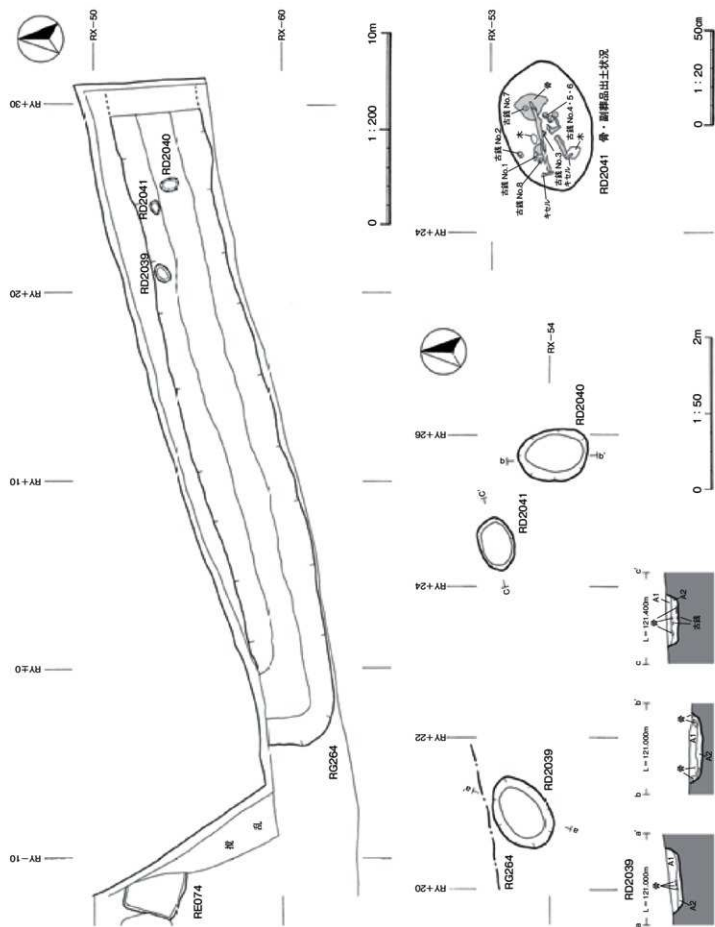
第 32 図 台太郎遺跡第 67 次調査 RD2126 土坑, RG596 溝跡, ピット



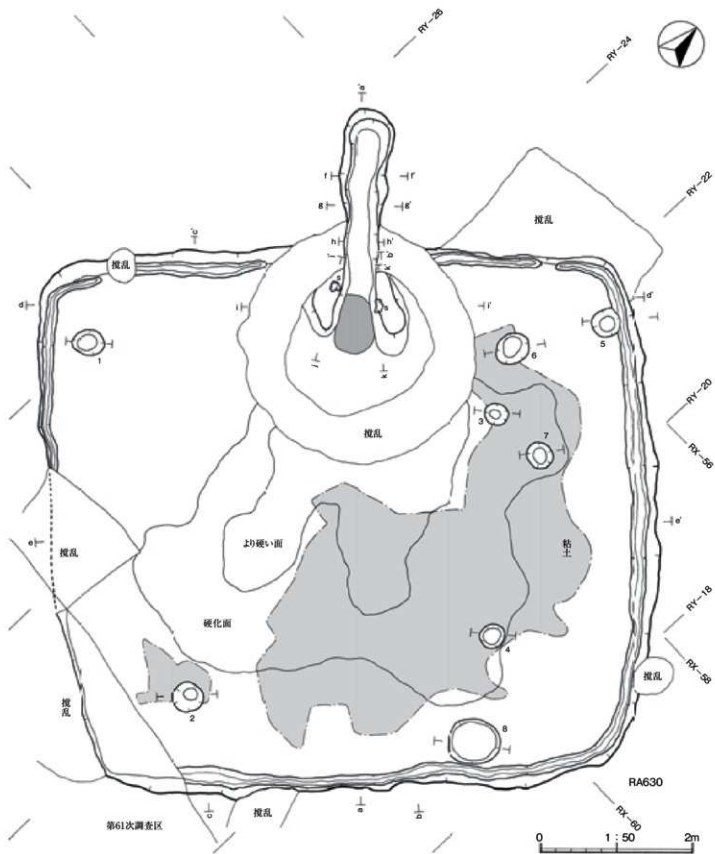
第33图 台太郎遺跡第63・68次調査区全体図



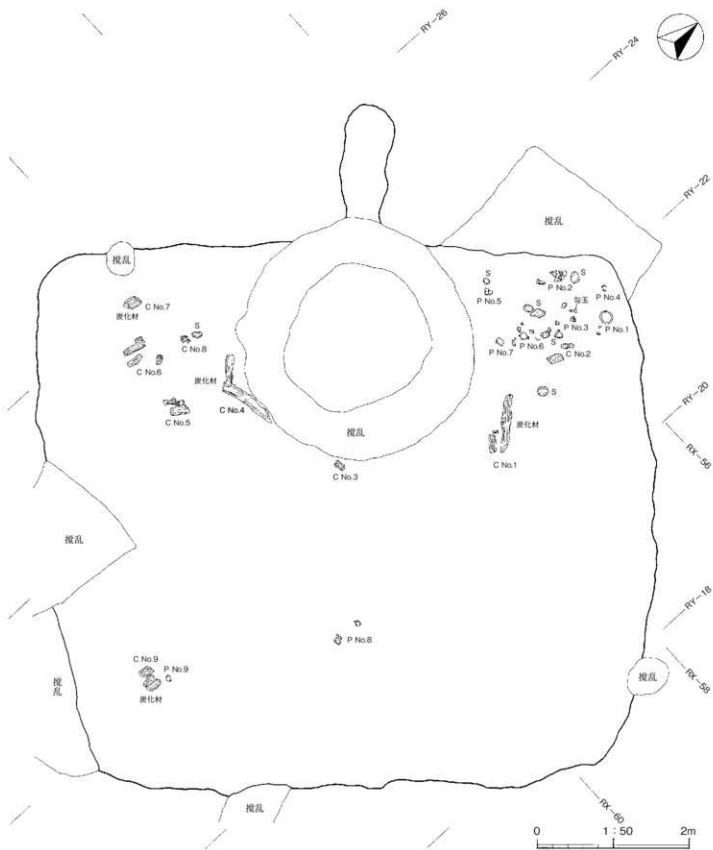
第34图 台太郎遺跡第63次調査西部全体図



第35図 台太郎遺跡第63次調査南東部全体図。RD2039~2041土坑

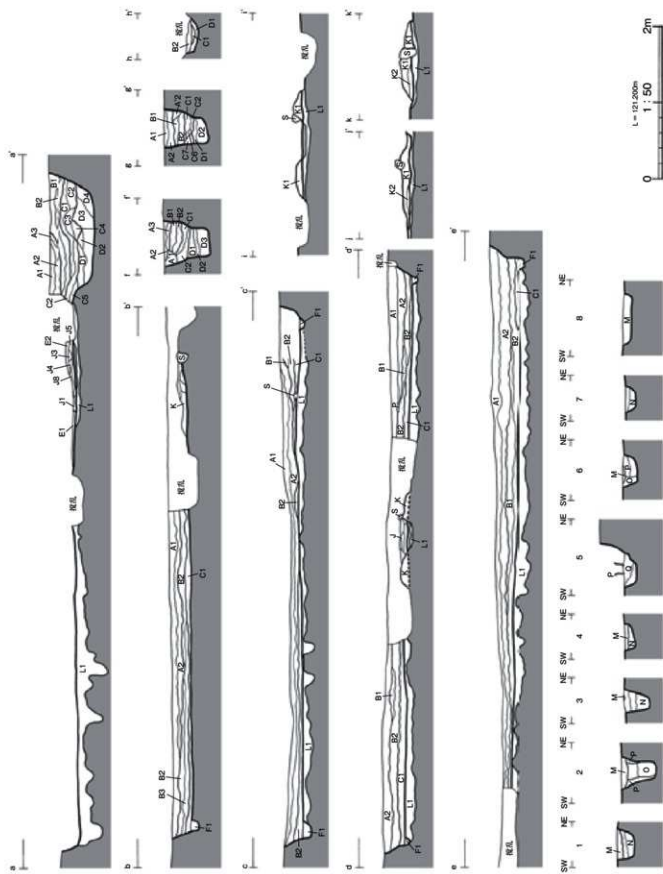


第36图 台太郎遺跡第63次調査 RA630 竪穴建物跡(1)

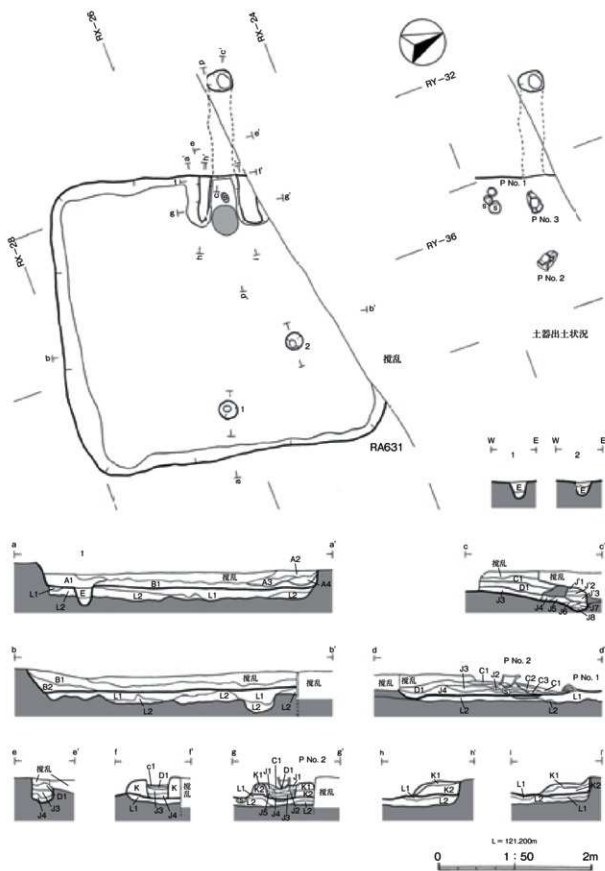


第 37 図 台太郎遺跡第 63 次調査 RA630 竪穴建物跡 (2)

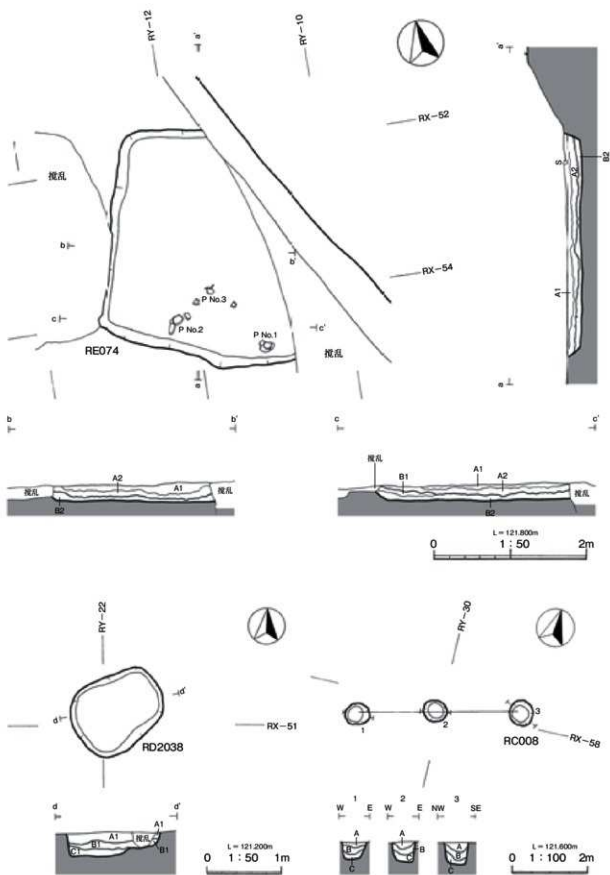




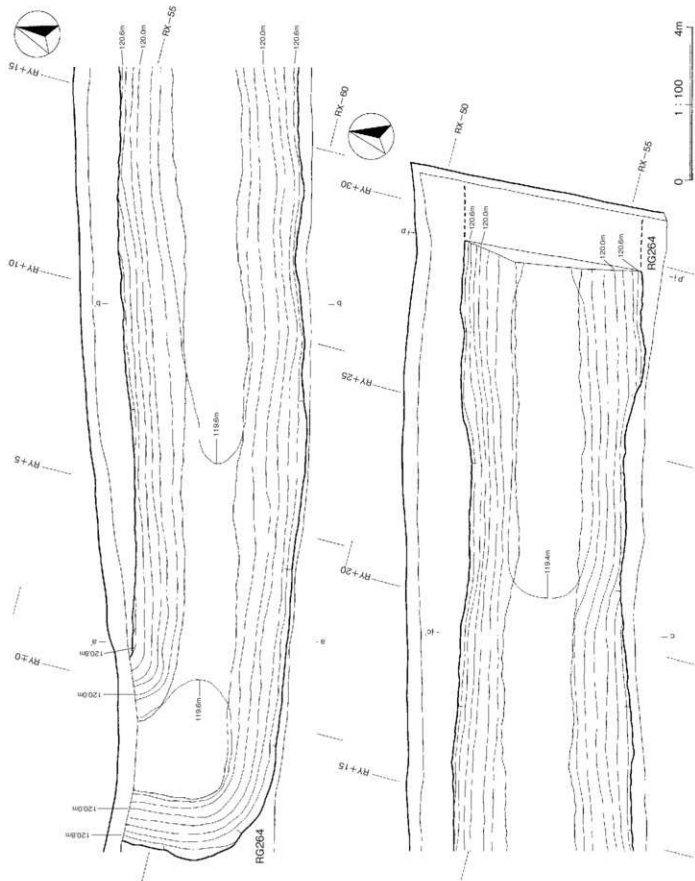
第 38 图 台太郎遺跡第 63 次調査 RA630 竪穴建物跡 (3)



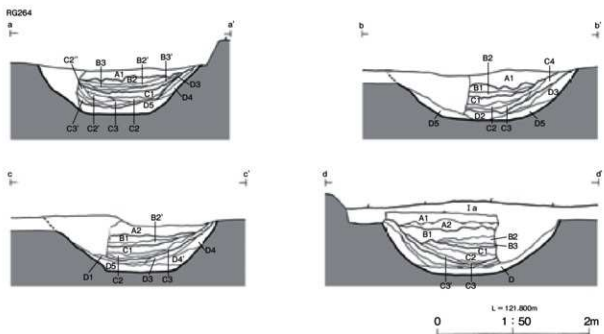
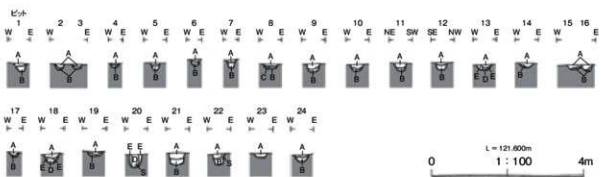
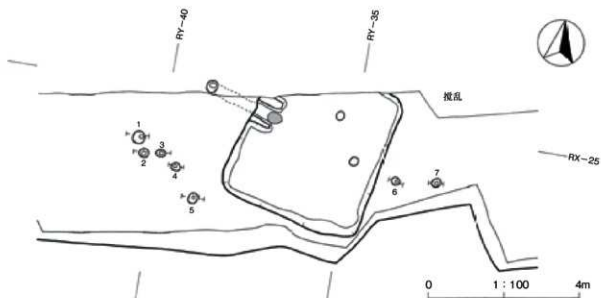
第 39 図 台太郎遺跡第 63 次調査 RA631 竪穴建物跡



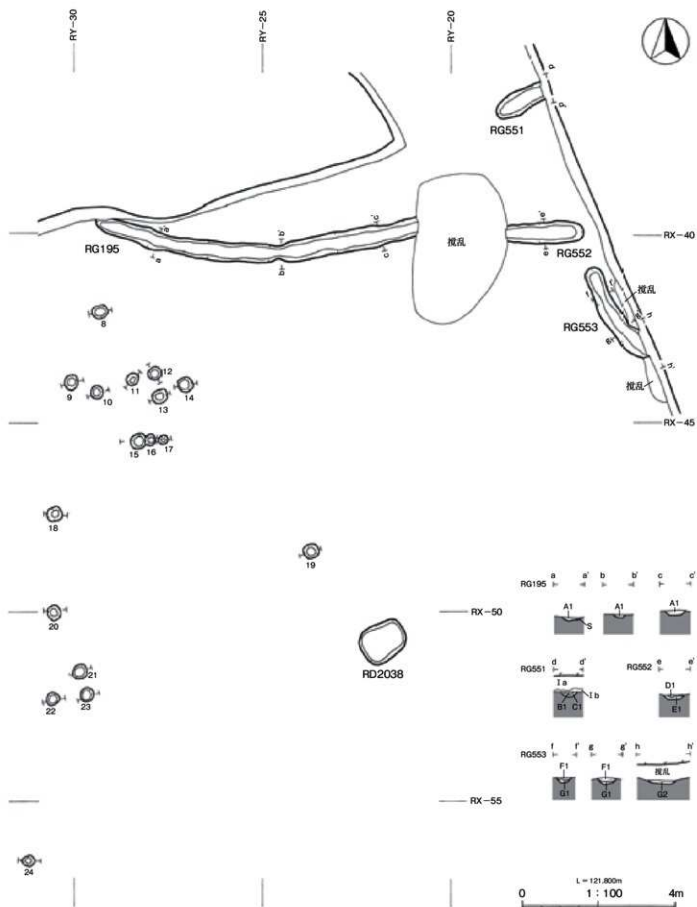
第40図 台太郎遺跡第63次調査 RE074 竪穴状遺構, RD2038 土坑, RC008 掘立柱列跡



第 41 図 台太郎遺跡第 63 次調査 RG264 溝跡



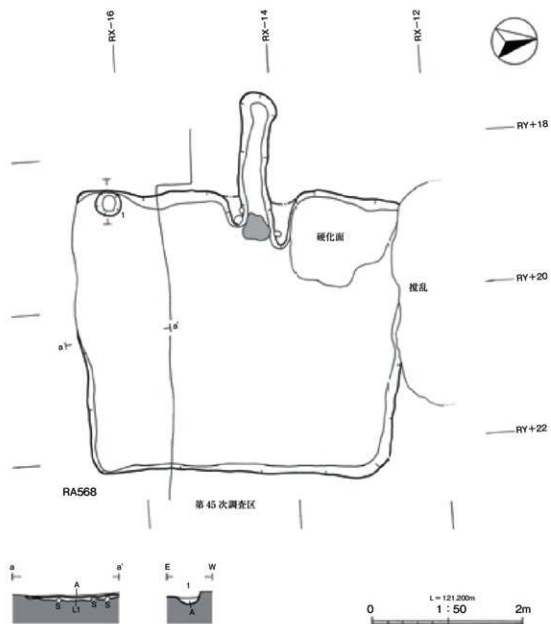
第 42 図 台太郎遺跡第 63 次調査 RG264 溝跡、ビット



第 43 図 台太郎遺跡第 63 次調査 RG195・551～553 溝跡，ビット

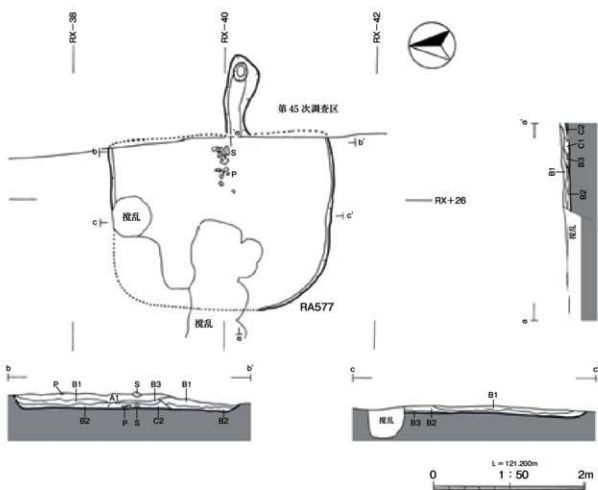
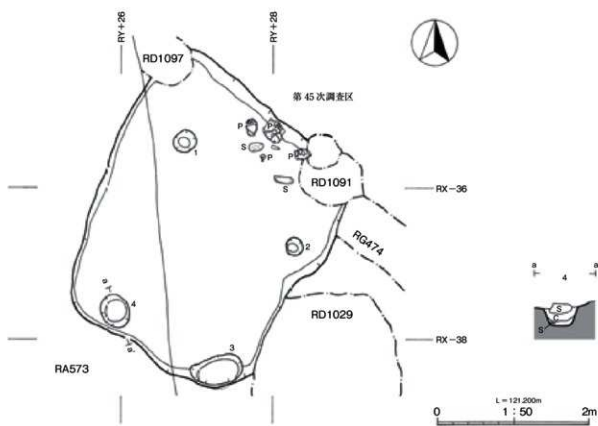


第44图 台太郎遺跡第68次調査区全体図

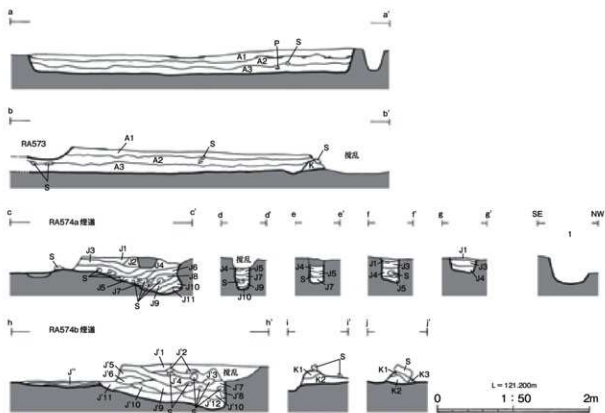
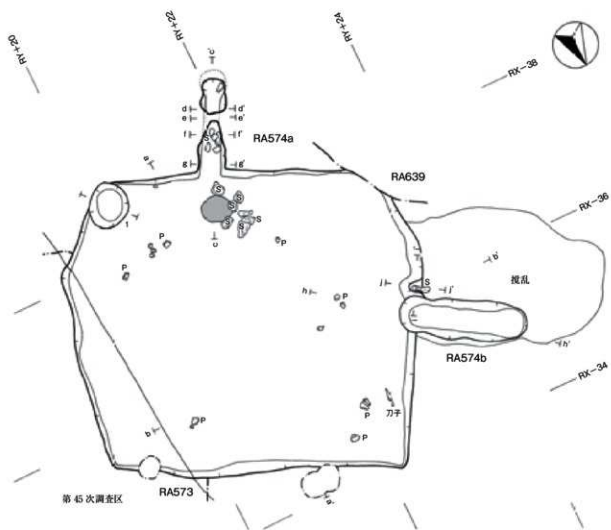


第45図 台太郎遺跡第68次調査 RA568 竪穴建物跡

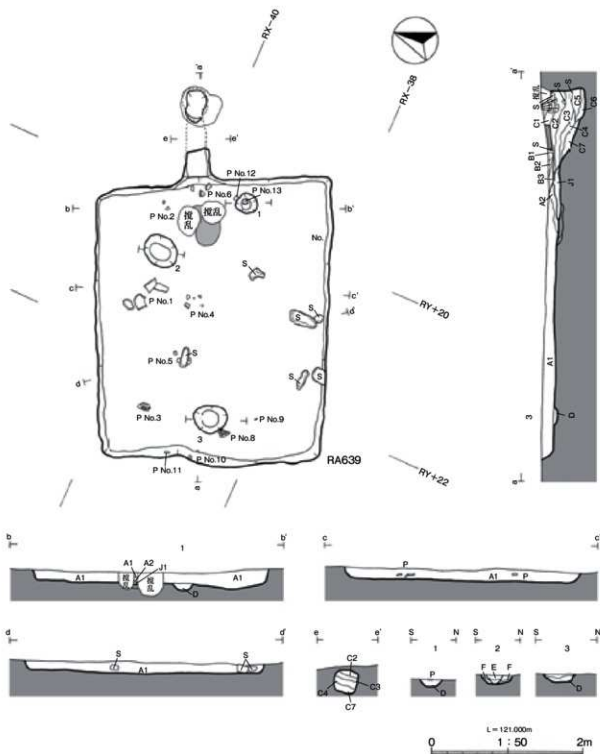




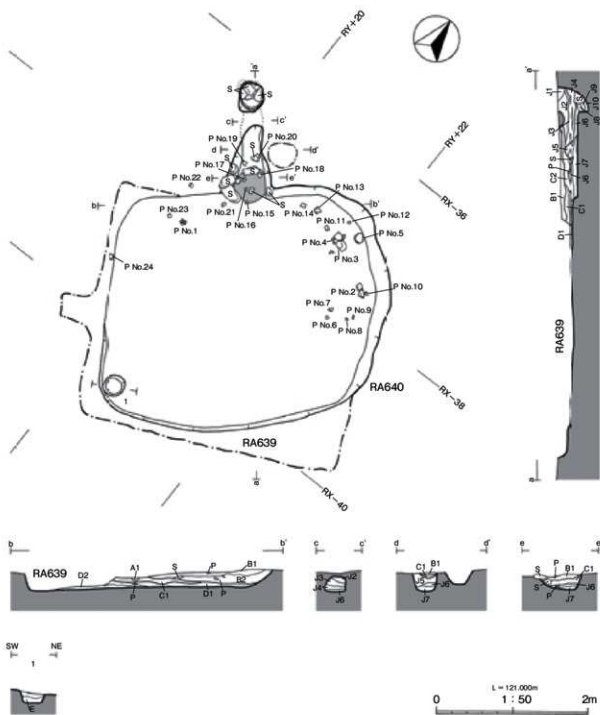
第46図 台太郎遺跡第68次調査 RA573・577 竪穴建物跡



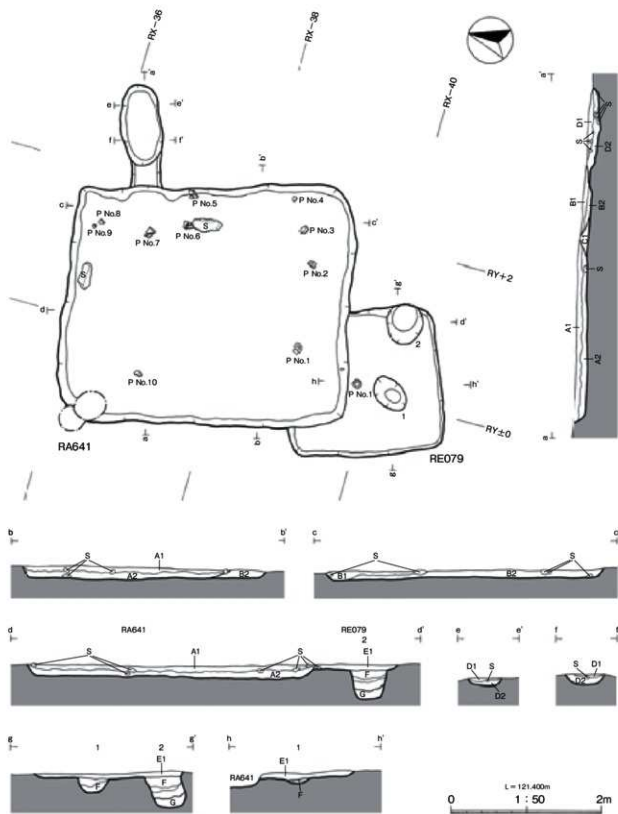
第 47 図 台太郎遺跡第 68 次調査 RA574 竪穴建物跡



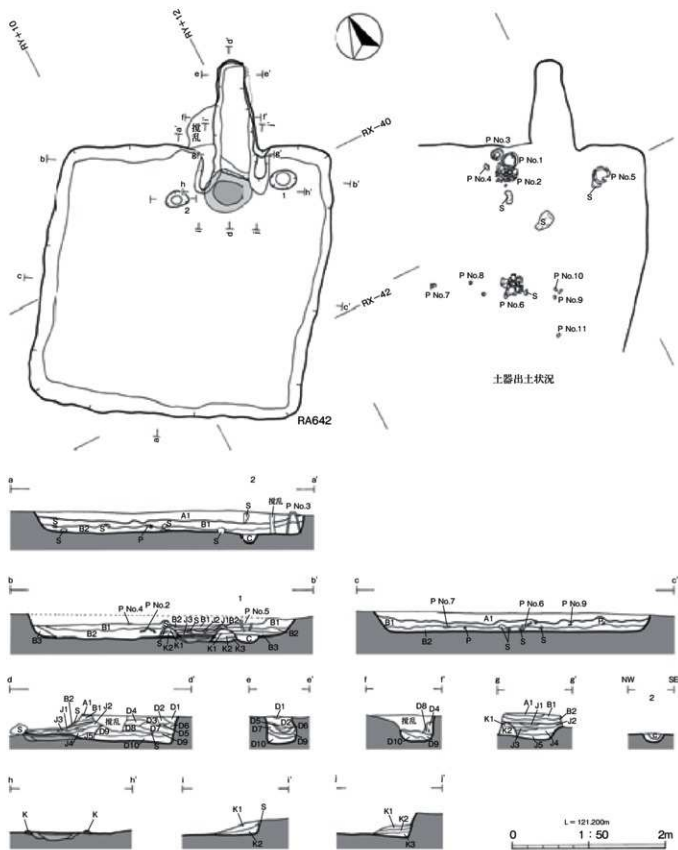
第 48 図 台太郎遺跡第 68 次調査 RA639 竪穴建物跡



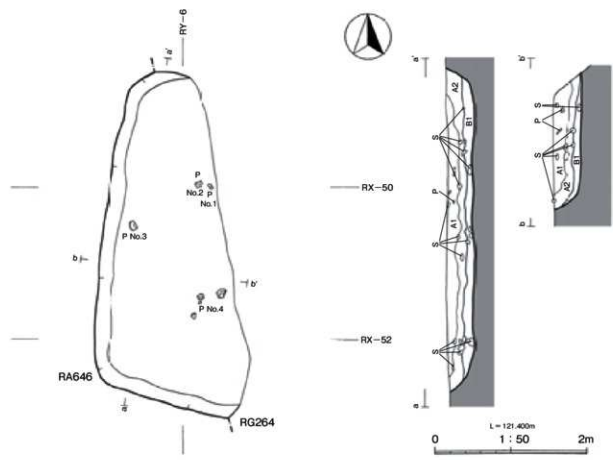
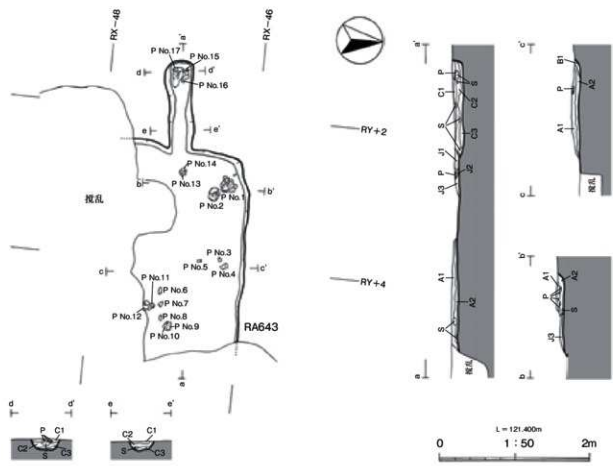
第 49 図 台太郎遺跡第 68 次調査 RA640 竪穴建物跡



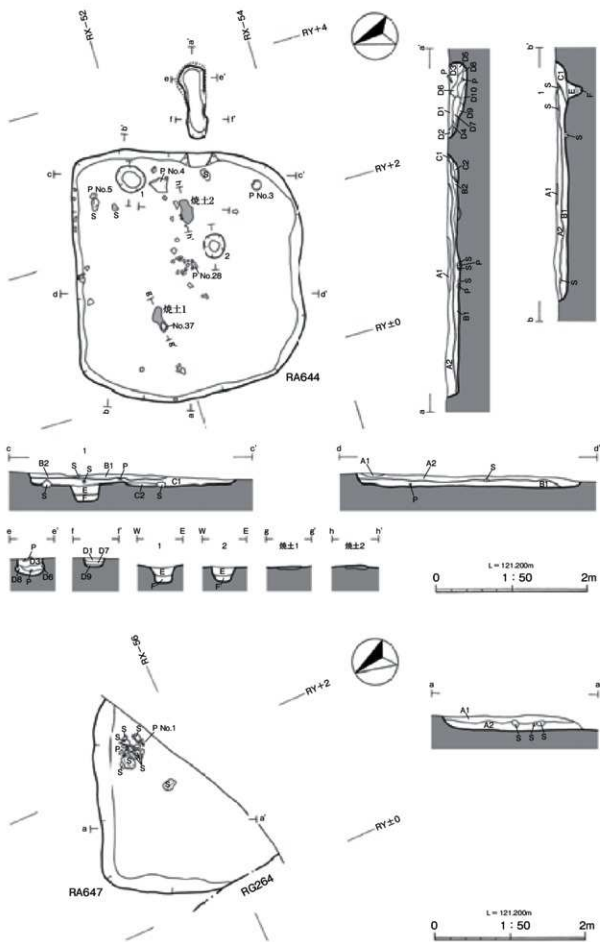
第 50 回 台太郎遺跡第 68 次調査 RA641 竪穴建物跡，RE079 竪穴状遺構



第 51 図 台太郎遺跡第 68 次調査 RA642 竪穴建物跡

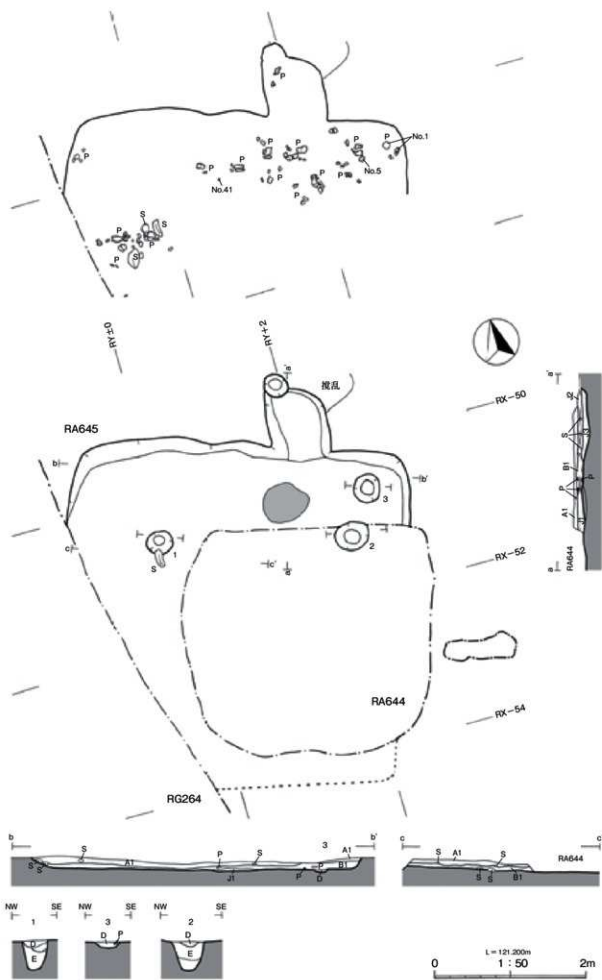


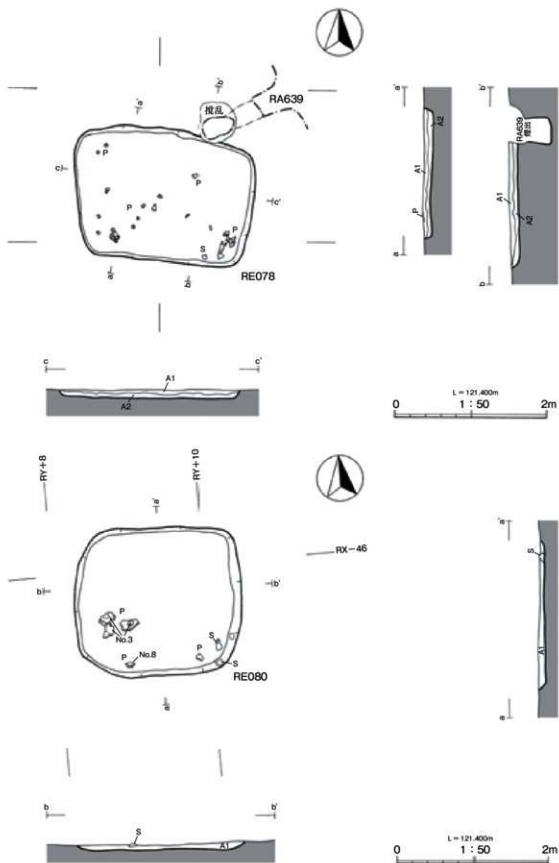
第 52 図 台太郎遺跡第 68 次調査 RA643・646 竪穴建物跡



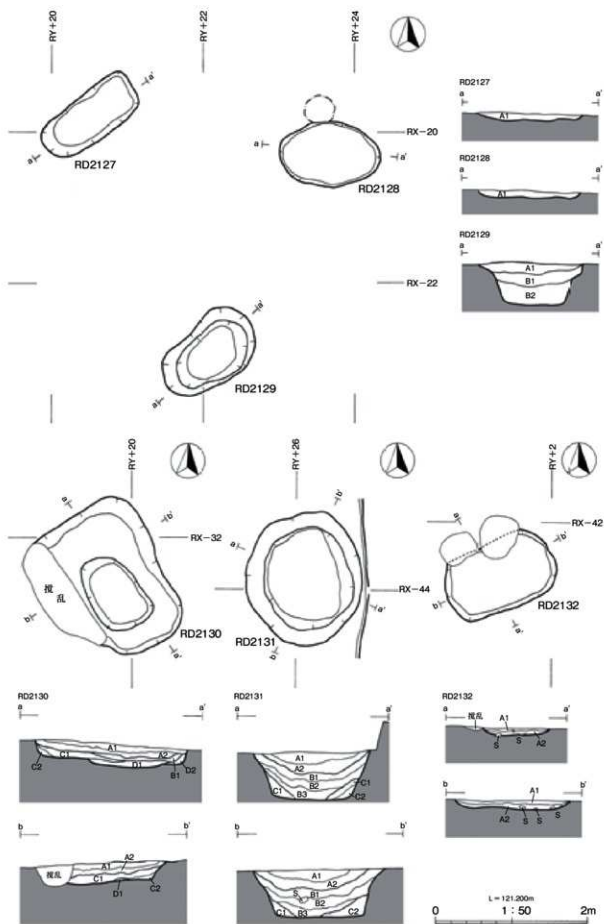
第53図 台太郎遺跡第68次調査 RA644・647 壁穴建物跡



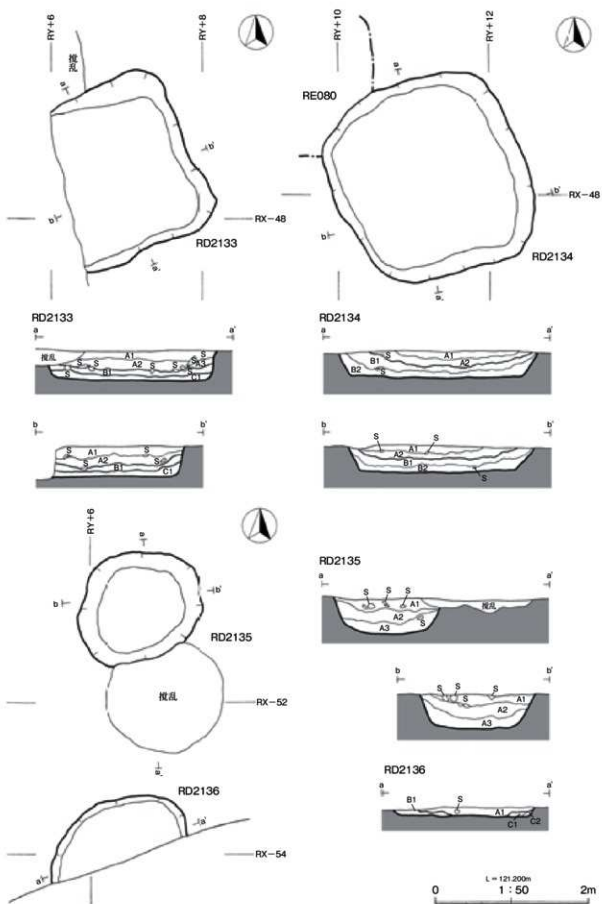




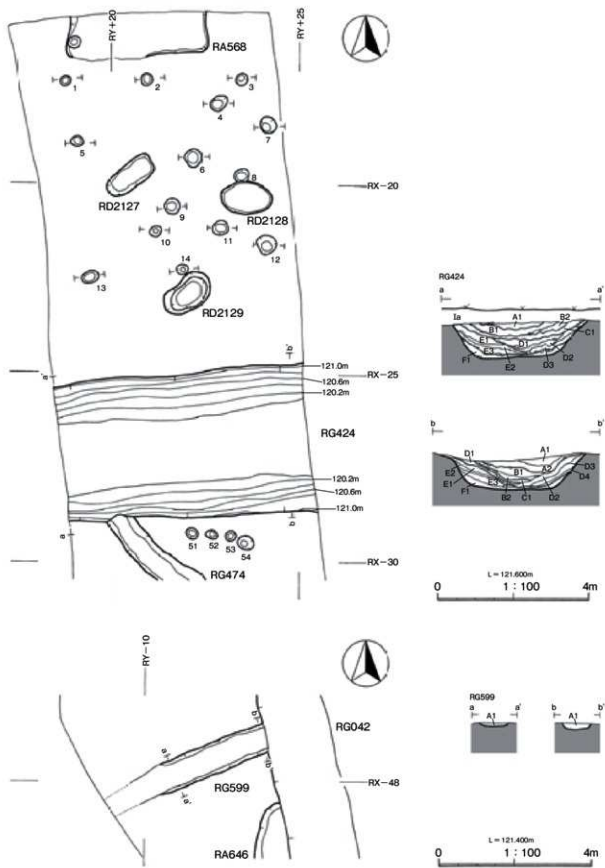
第55圖 台太郎遺跡第68次調査 RE078・080 竪穴状遺構



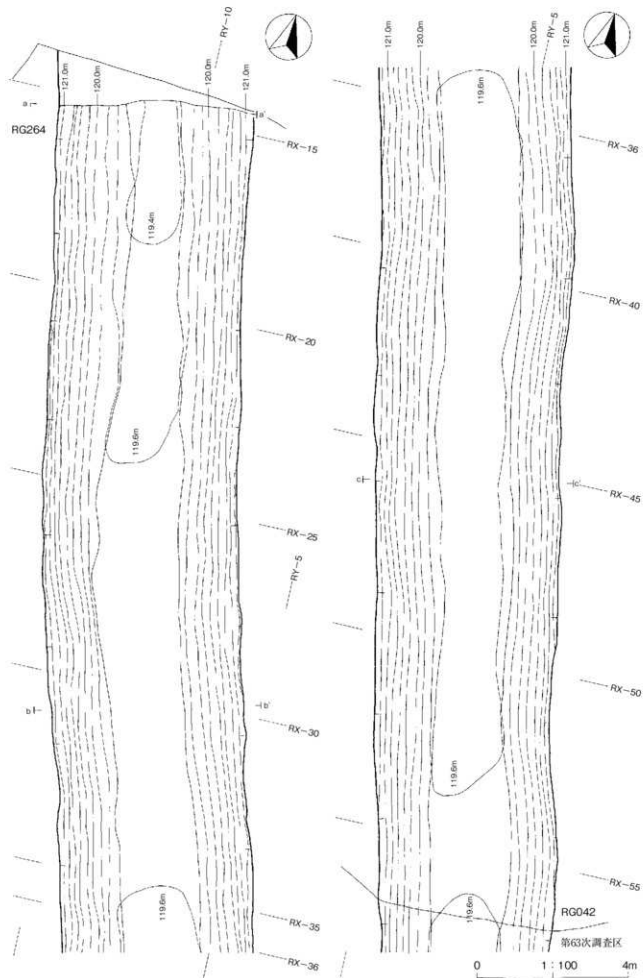
第 56 図 台太郎遺跡第 68 次調査 RD2127~2132 土坑



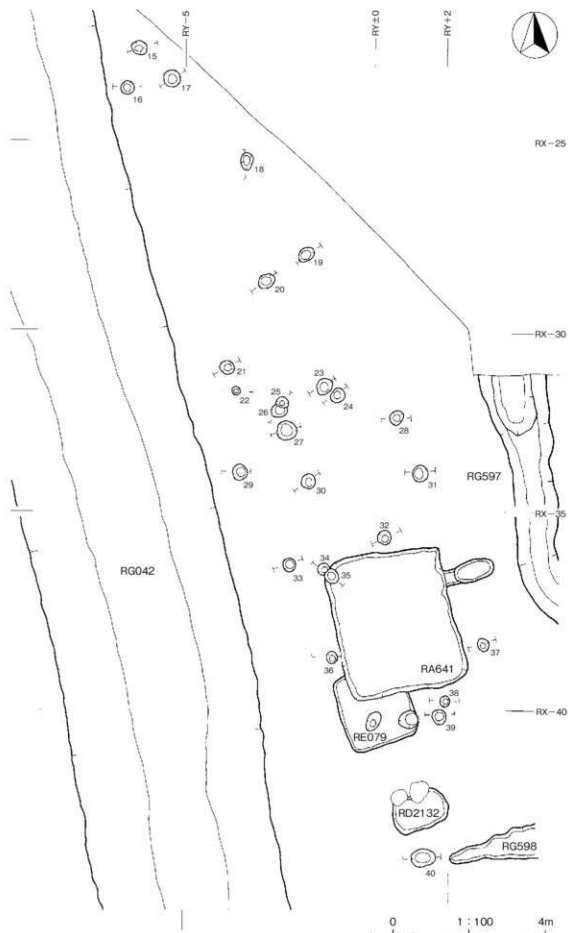
第 57 図 台太郎遺跡第 68 次調査 RD2133~2136 土坑



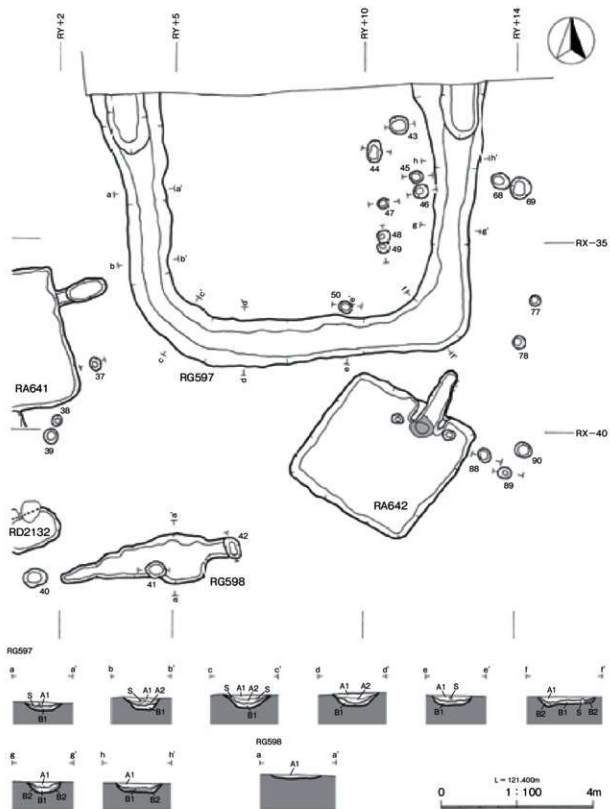
第 58 図 台太郎遺跡第 68 次調査 RG424 堀跡, RG599 溝跡, ビット



第 59 図 台太郎遺跡第 68 次調査 RG042 堀跡

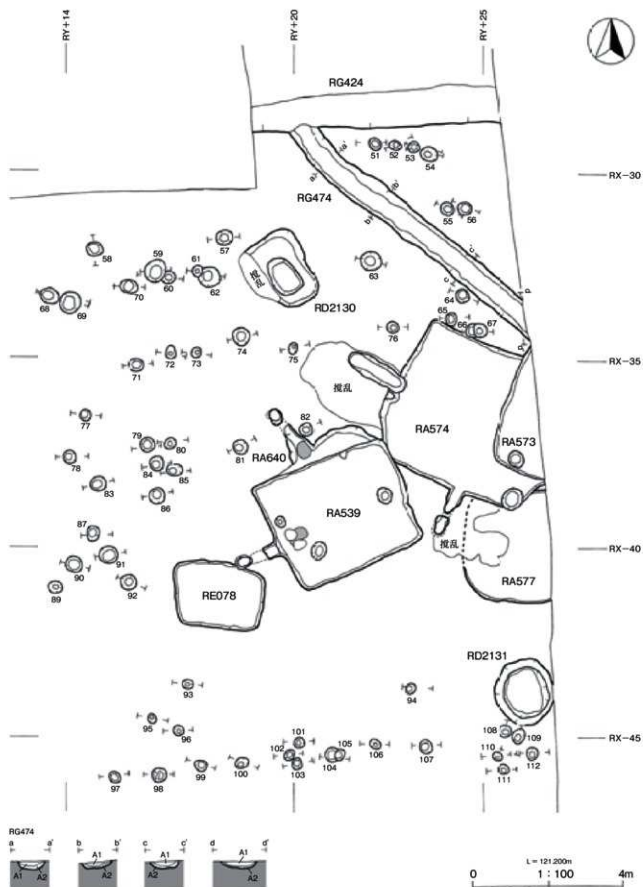


第 60 図 台太郎遺跡第 68 次調査西部ビット

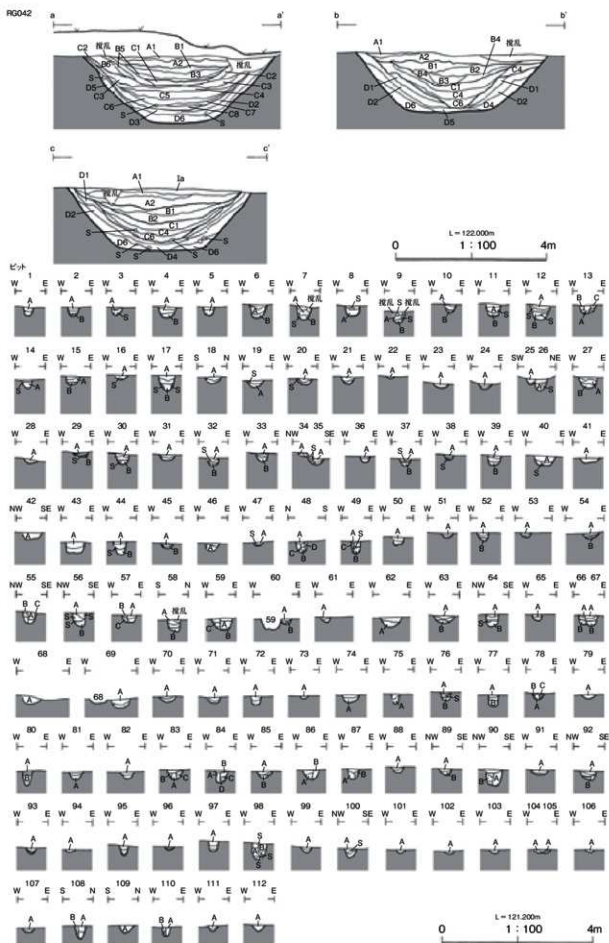


第 61 図 台太郎遺跡第 68 次調査中央部 RG597 方形周溝, RG598 溝跡, ビット

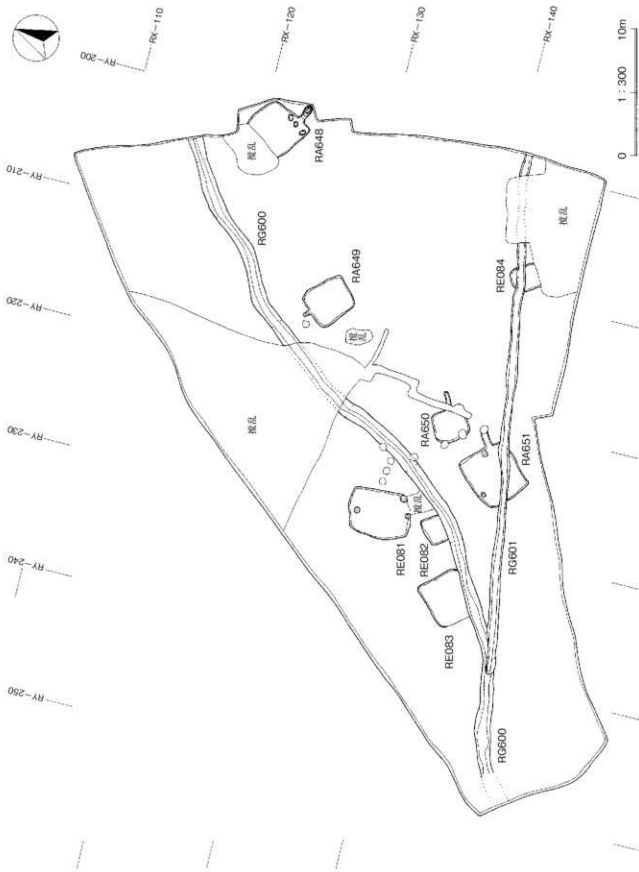




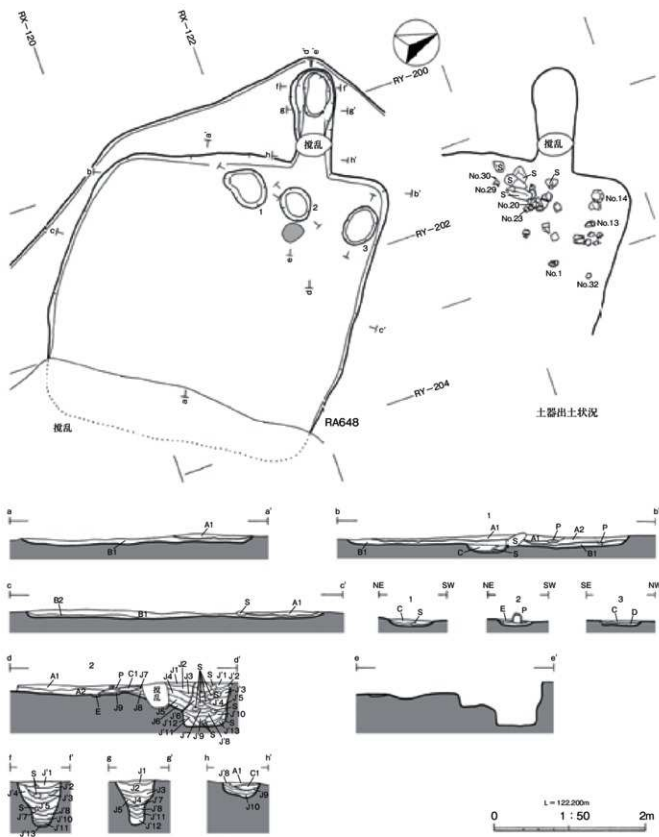
第 62 図 台太郎遺跡第 68 次調査東部 RG474 溝跡、ビット



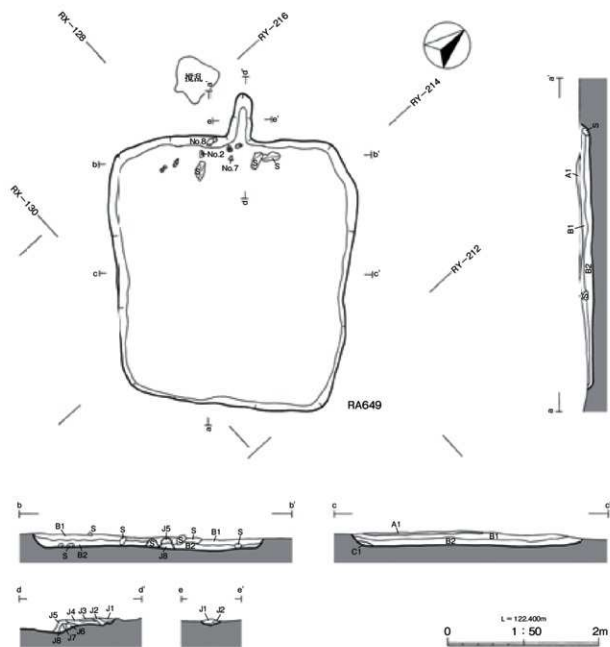
第 63 図 台太郎遺跡第 68 次調査 RG042 堀跡、ピット



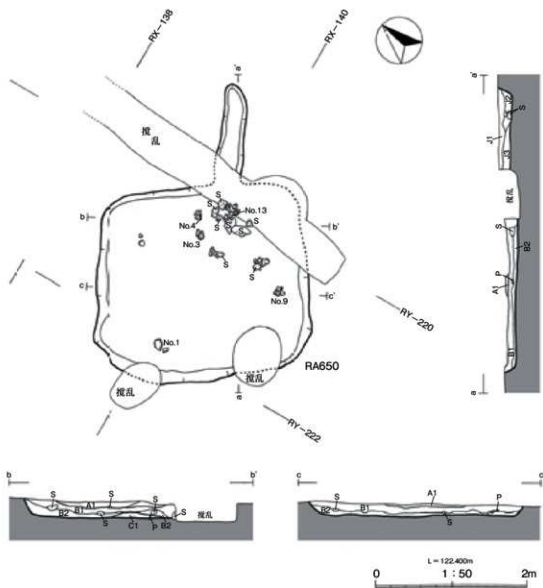
第 64 図 台太郎遺跡第 70 次調査区全体図



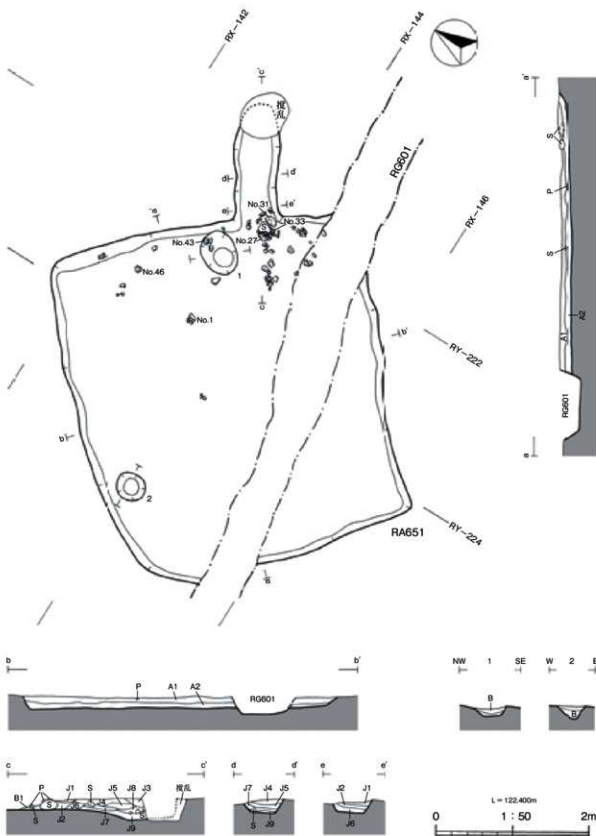
第 65 図 台太郎遺跡第 70 次調査 RA648 竪穴建物跡



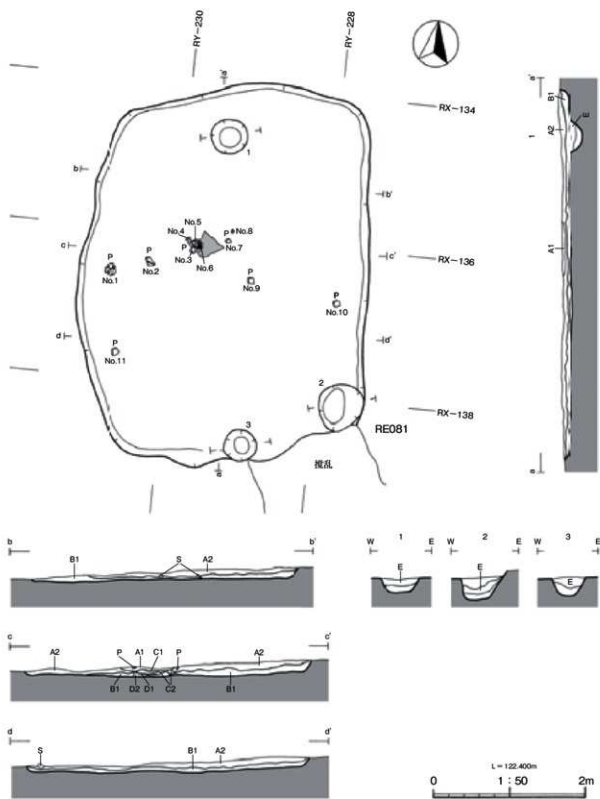
第 66 図 台太郎遺跡第 70 次調査 RA649 竪穴建物跡



第 67 図 台太郎遺跡第 70 次調査 RA650 竖穴建物跡

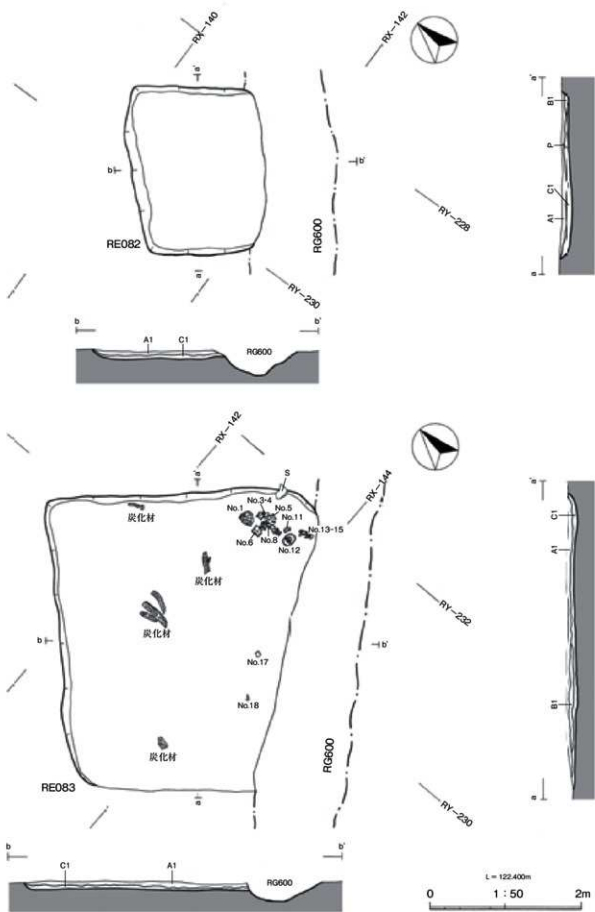


第 68 図 台太郎遺跡第 70 次調査 RA651 竪穴建物跡

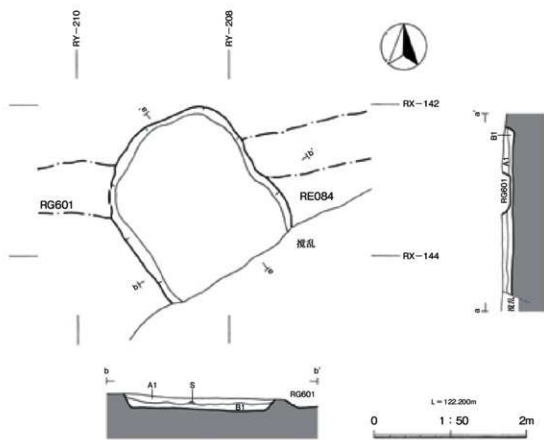


第 69 図 台太郎遺跡第 70 次調査 RE081 竪穴状遺構

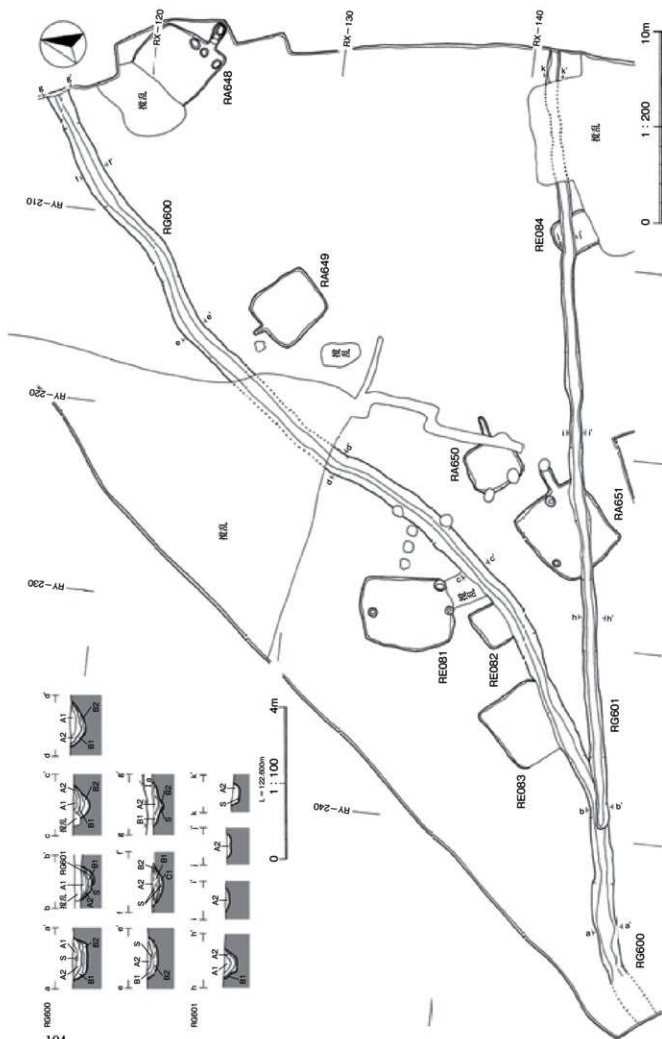




第70圖 台太郎遺跡第70次調査 RE082・083 竪穴状遺構



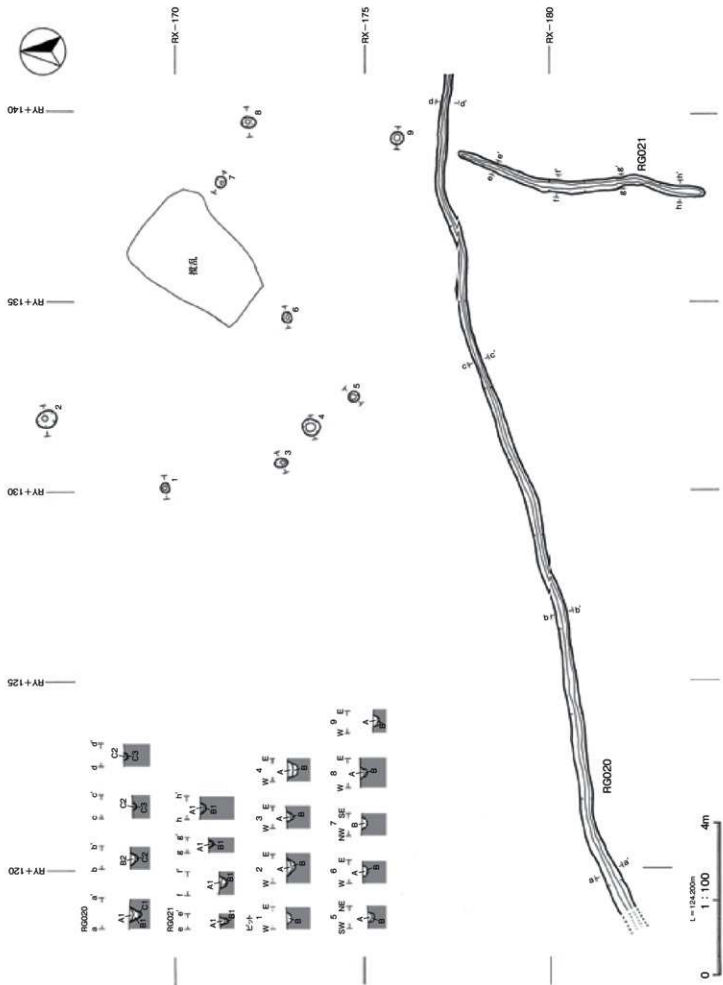
第71圖 台太郎遺跡第70次調査 RE084 竪穴状遺構



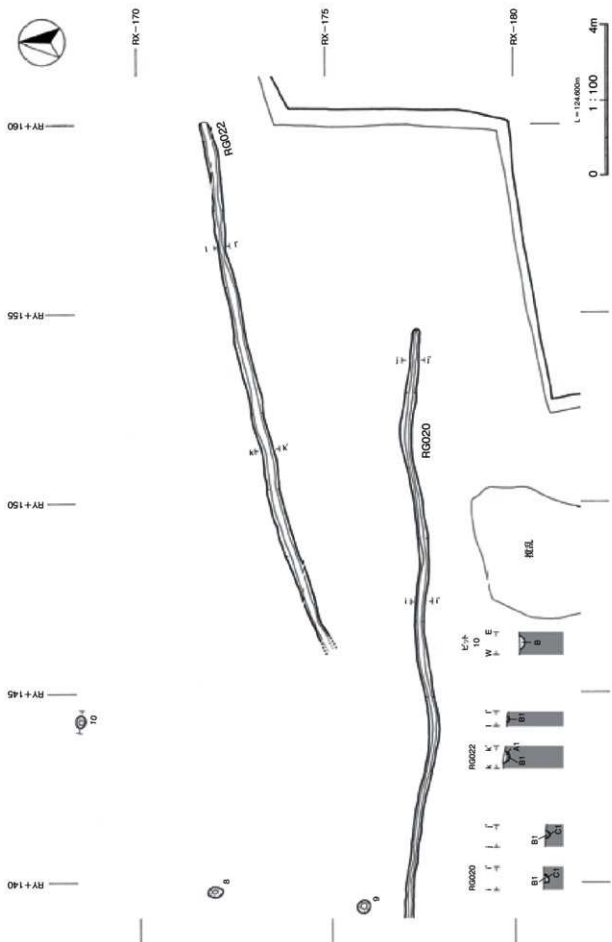
第 72 図 台太郎遺跡第 70 次調査 RG600・601 溝跡



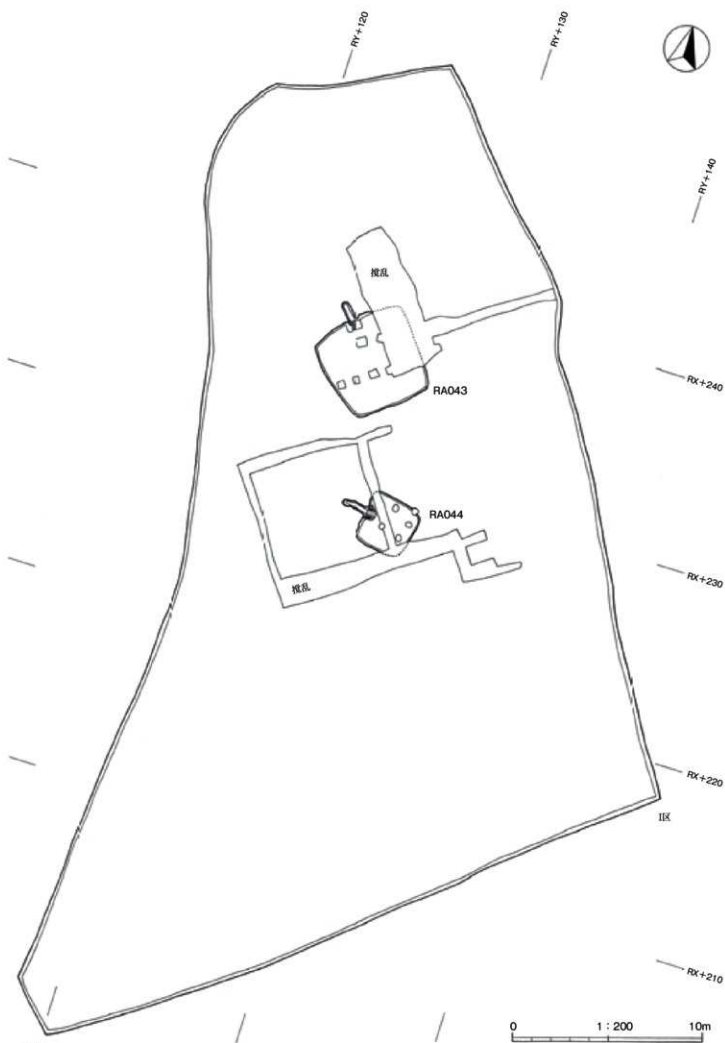
第 73 図 飯岡沢田遺跡第 12 次調査区全体図

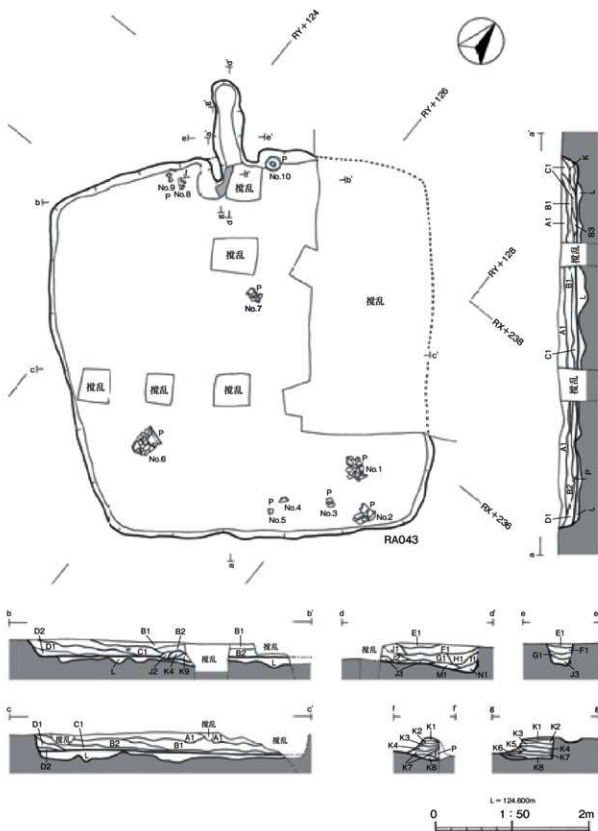


第74図 飯岡沢田遺跡第12次調査RG020・021溝跡、ビット



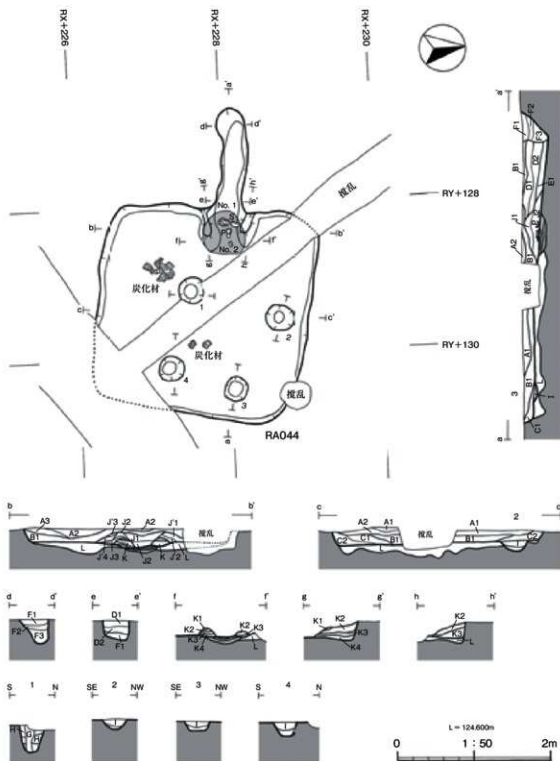
第75図 飯岡沢田遺跡第12次調査RG020・022溝跡、ピット



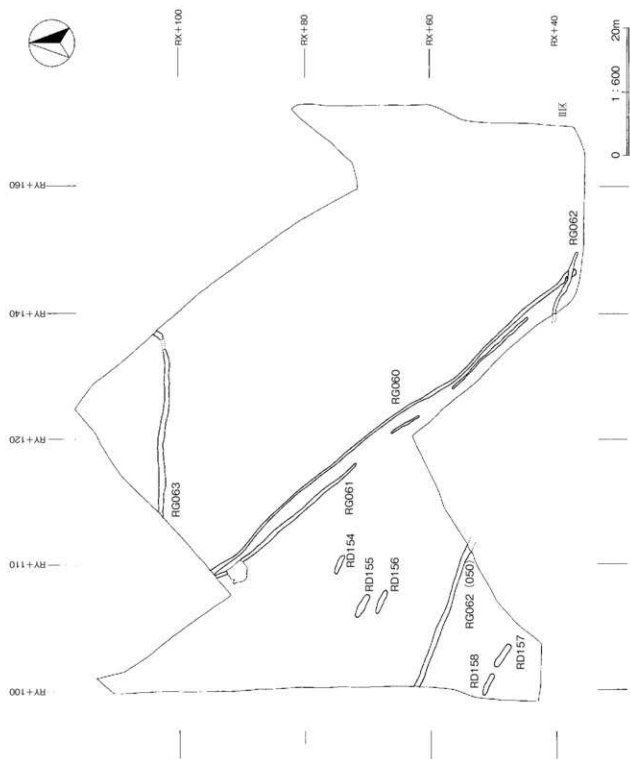


第77図 飯岡才川遺跡第14次調査I区RA043竪穴建物跡

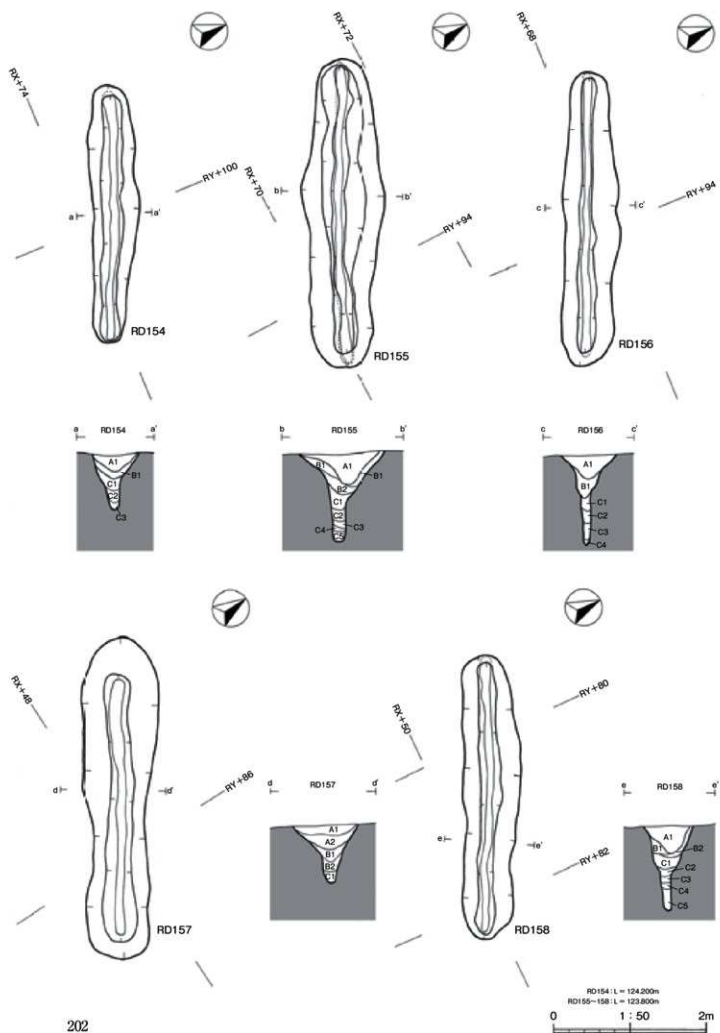




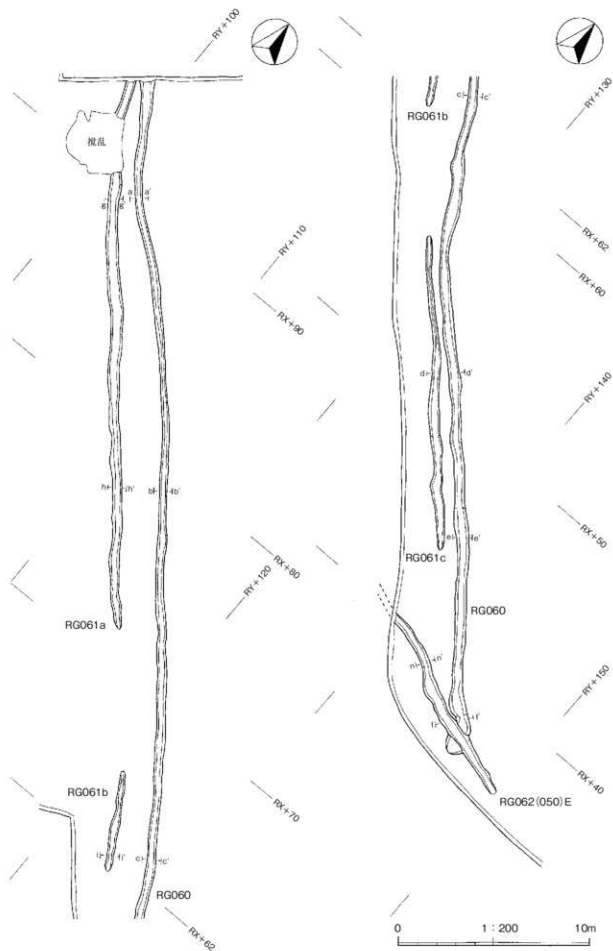
第78図 飯岡才川遺跡第14次調査1区RA044 竪穴建物跡



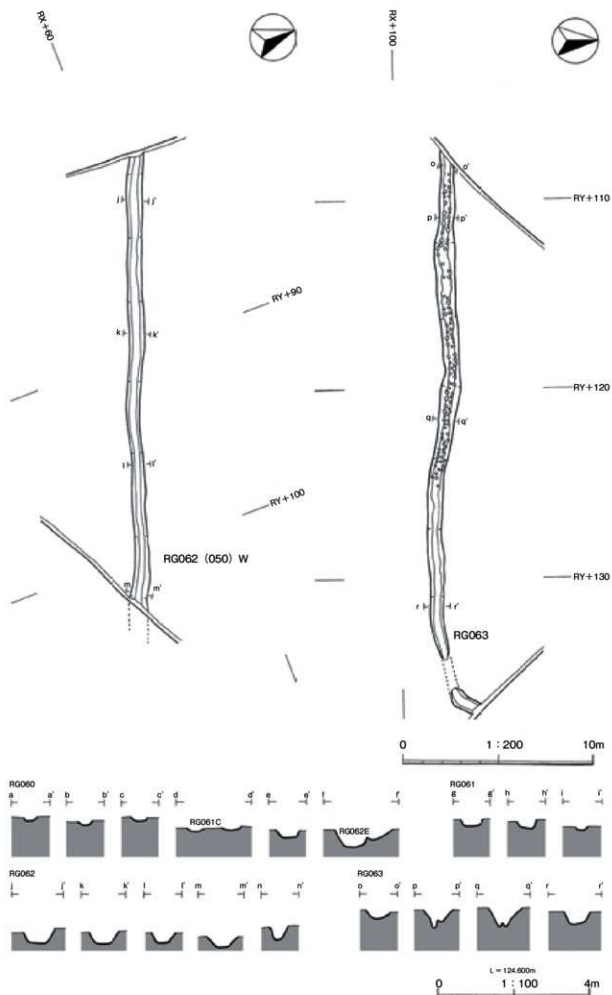
第 79 図 飯岡才川遺跡第 14 次調査Ⅱ区全体図

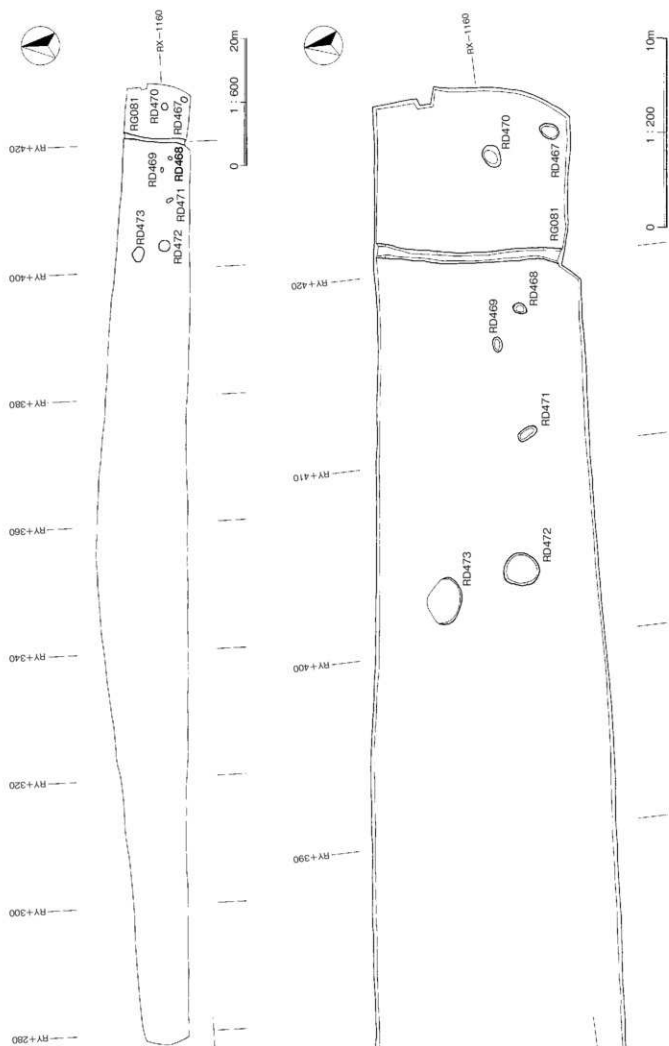


第80図 飯岡才川遺跡第14次調査Ⅱ区RD154~158 陸し穴

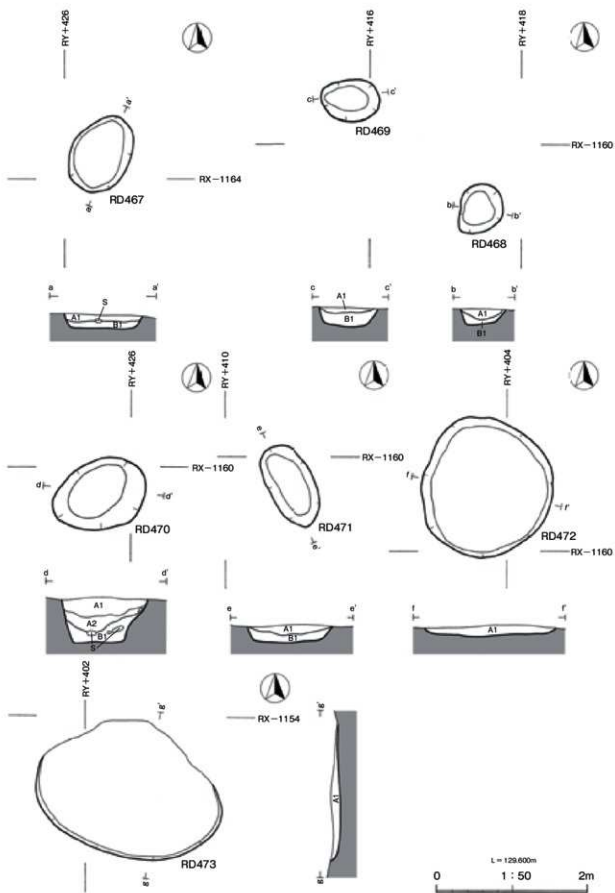


第 81 図 飯岡才川遺跡第 14 次調査Ⅱ区 RG060~062 溝跡

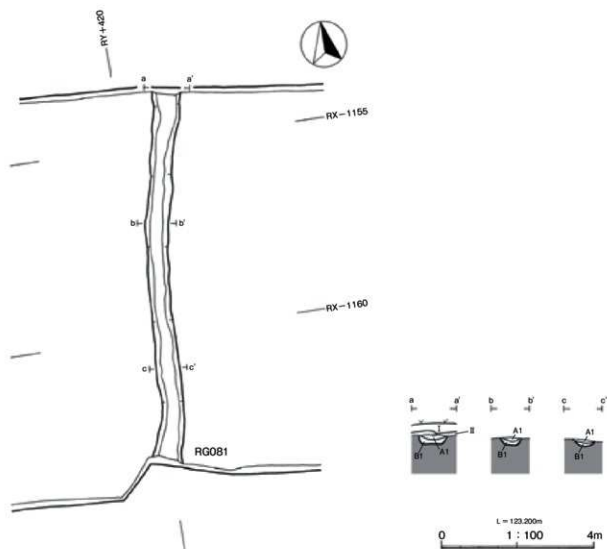




第 83 図 稲谷地遺跡第 21 次調査区全体図，調査区東部全体図

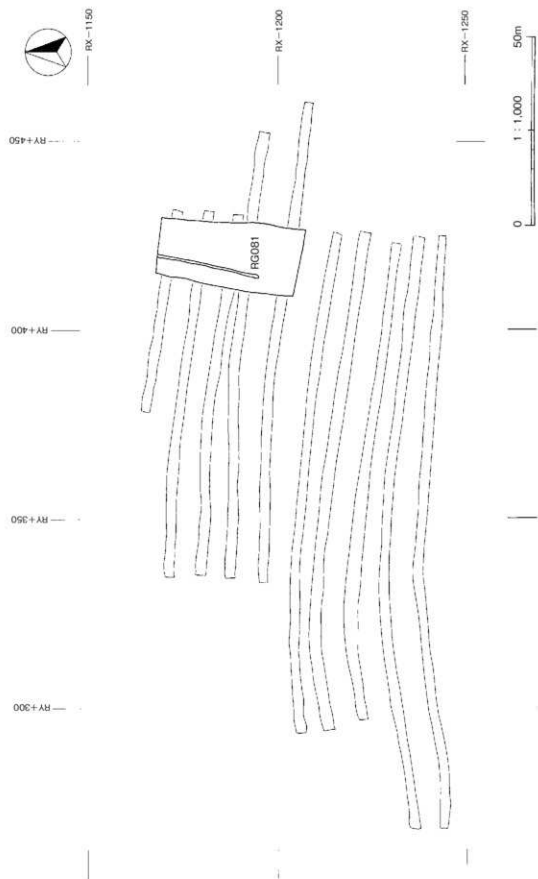


第 84 図 細谷地遺跡第 21 次調査 RD467~473 土坑

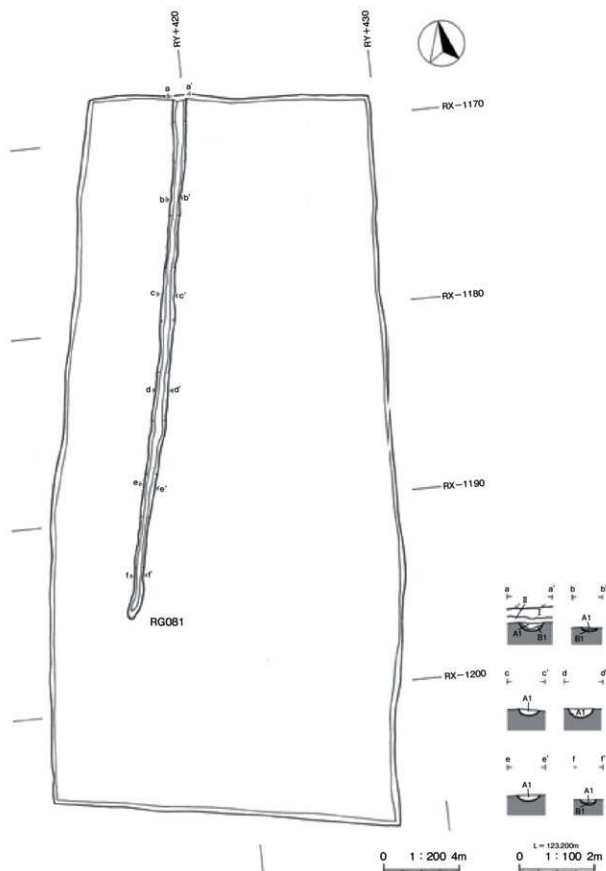


第 85 図 細谷地遺跡第 21 次調査 RG081 溝跡

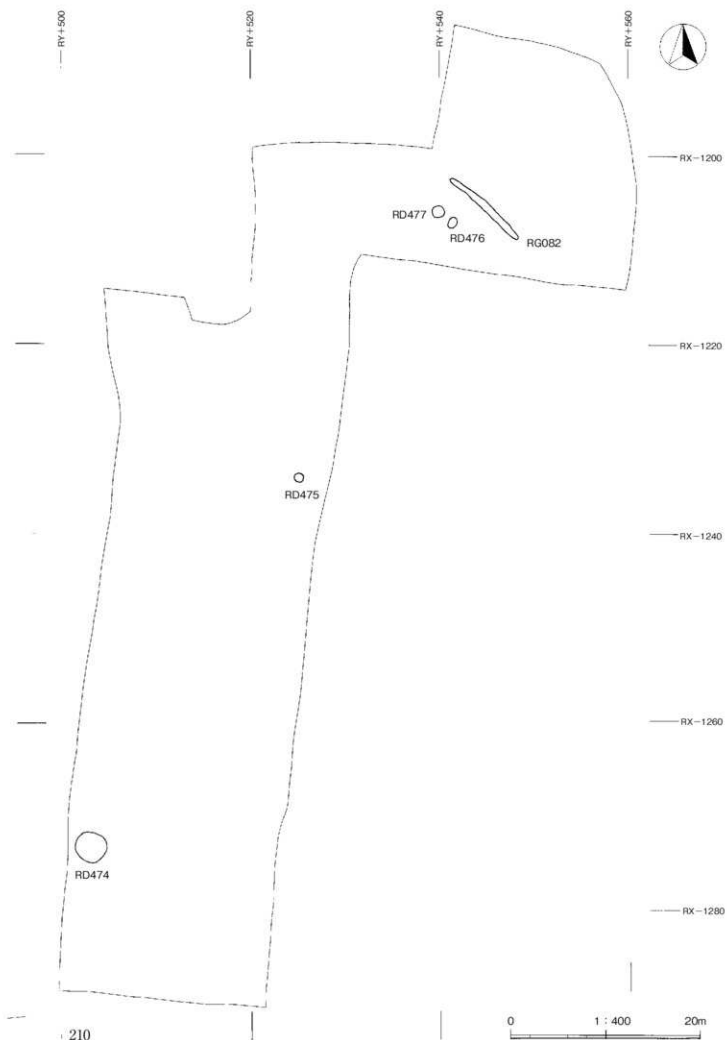




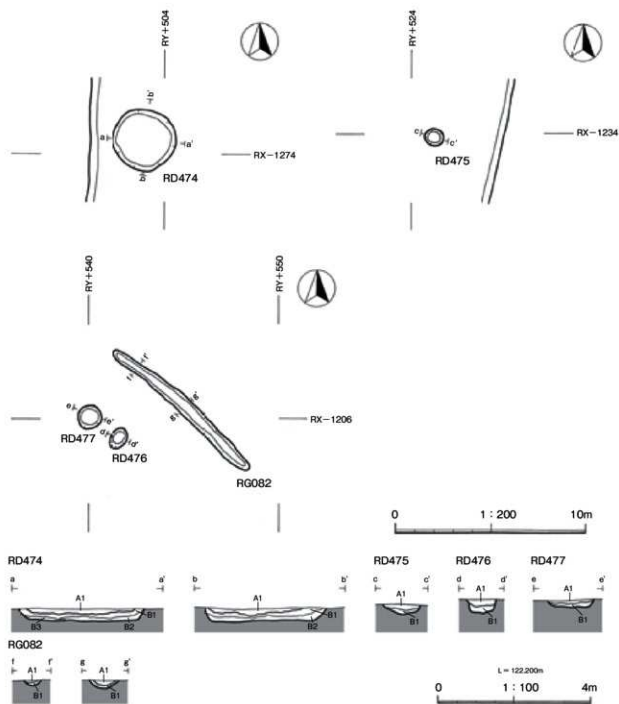
第 86 図 稲谷地道跡第 22 次調査区全体図



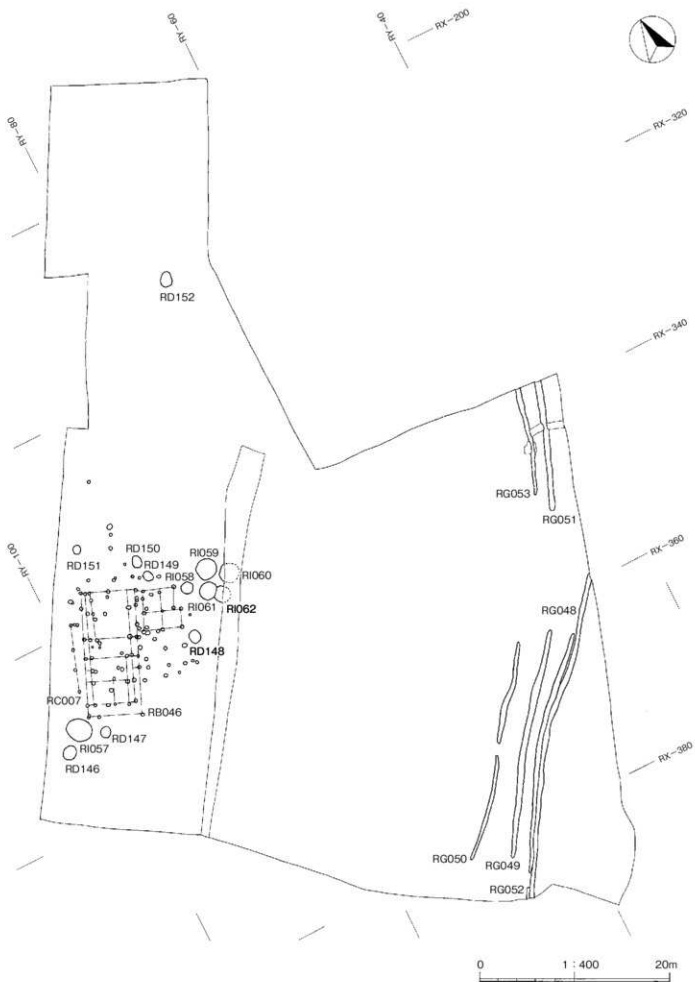
第 87 図 細谷地遺跡第 22 次調査 RG081 溝跡



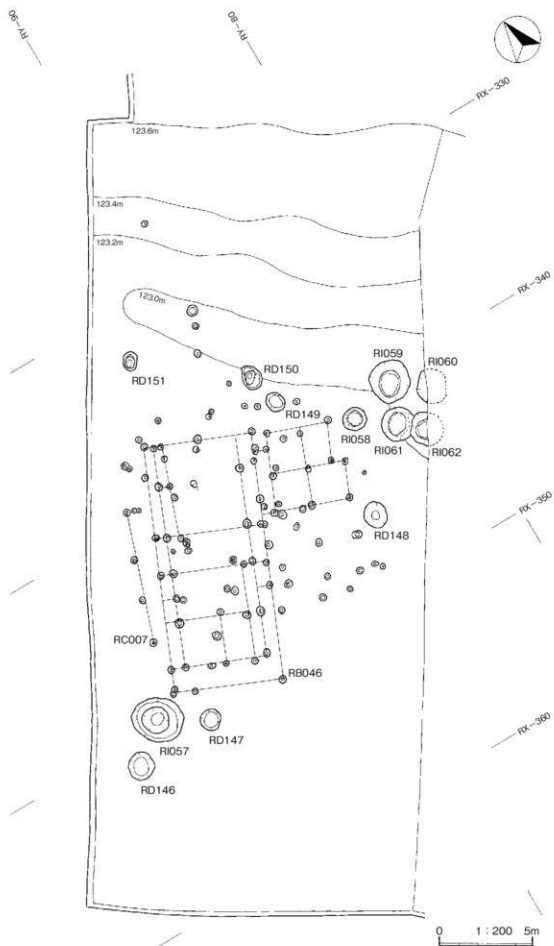
第88图 細谷地遺跡第23次調査区全体図



第 89 図 細谷地遺跡第 23 次調査 RD474~477 土坑, RG082 溝跡

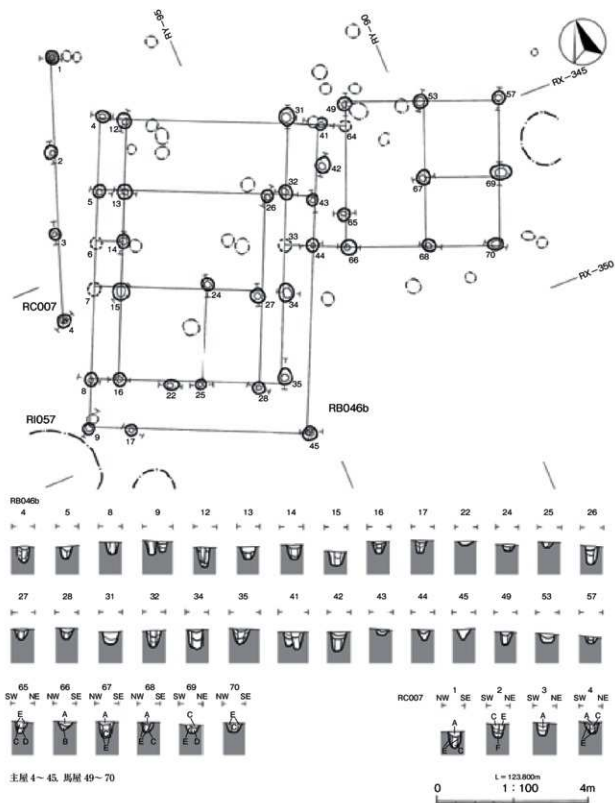


第90図 矢盛遺跡第15次調査区全体図



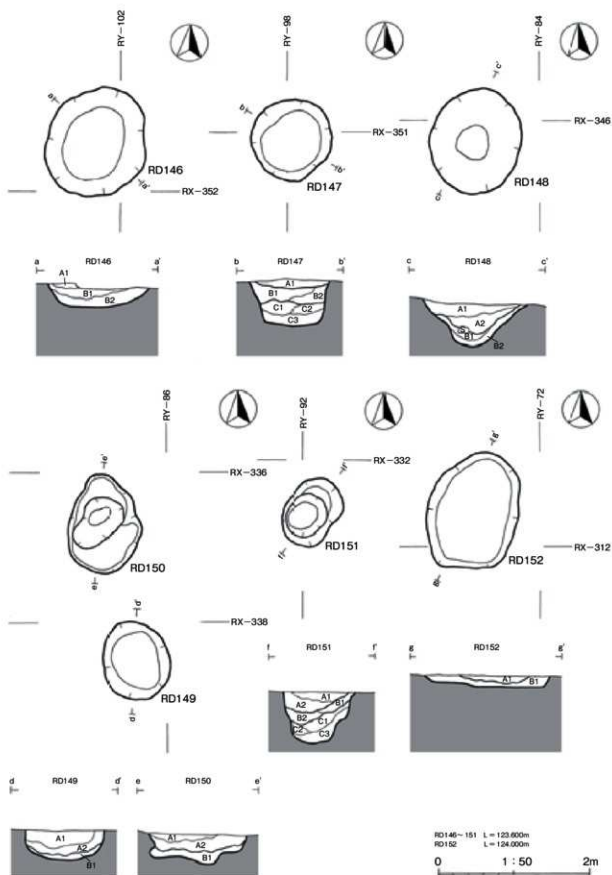
第91図 矢盛遺跡第15次調査西部全体図



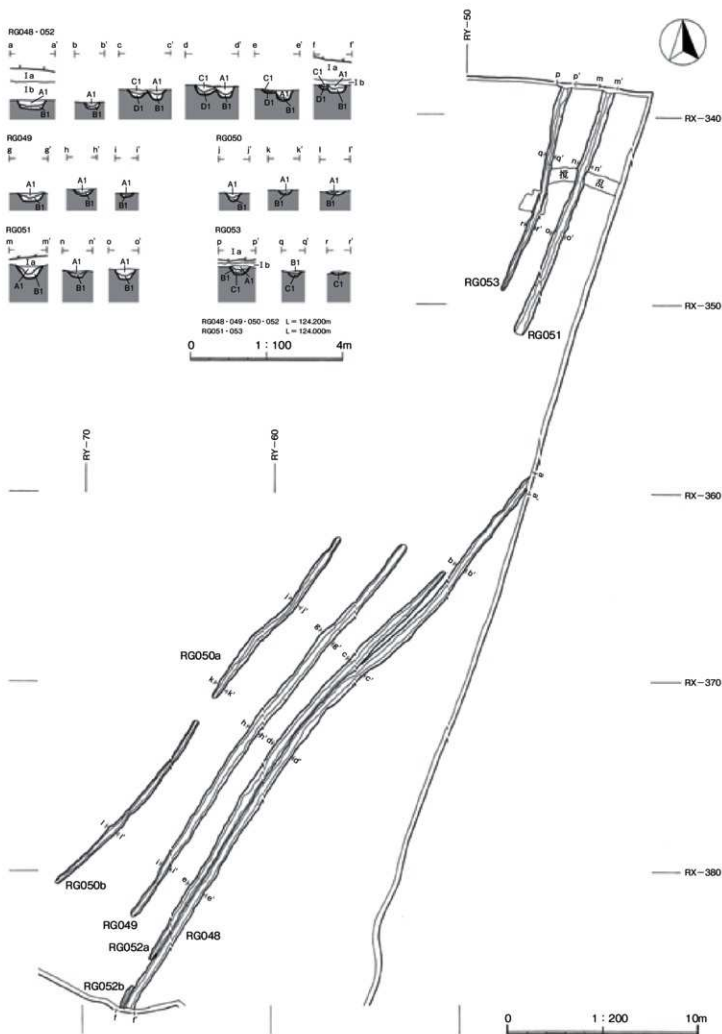
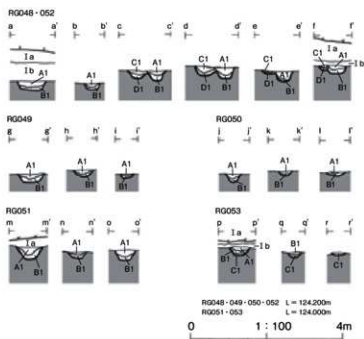


第 93 図 矢盛遺跡第 15 次調査 RB046b 掘立柱建物跡, RC007 掘立柱列跡

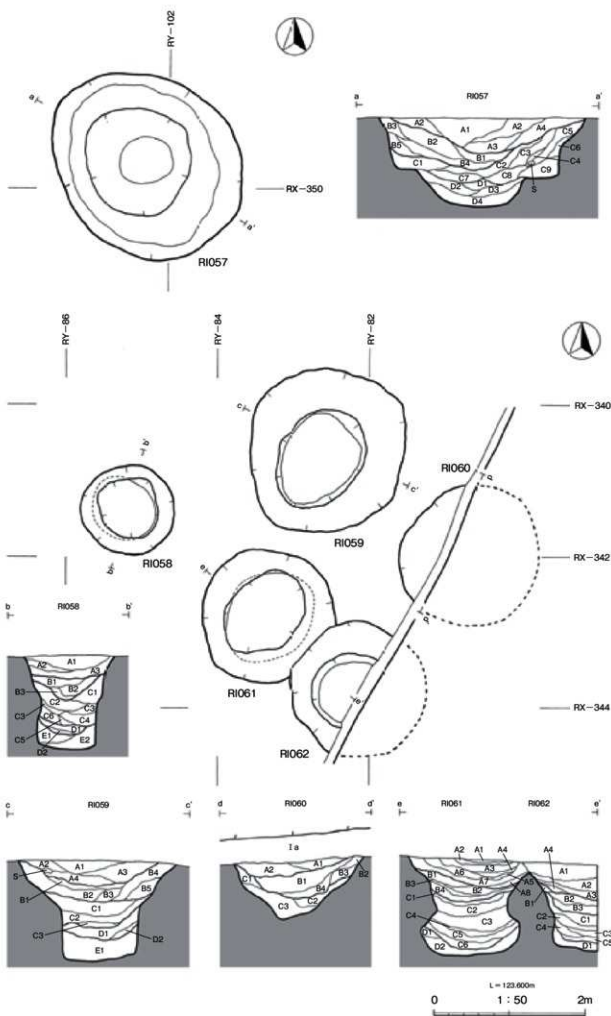


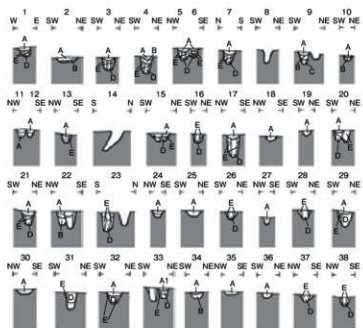


第94図 矢盛遺跡第15次調査 RD146~152土坑



第 95 図 矢盛遺跡第 15 次調査 RG048~053 溝跡





RY-90



RX-330

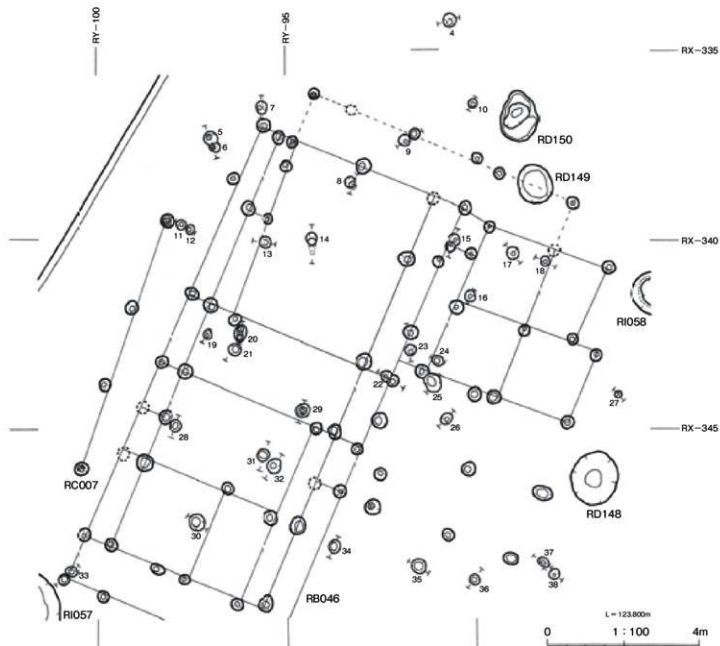


RX-335

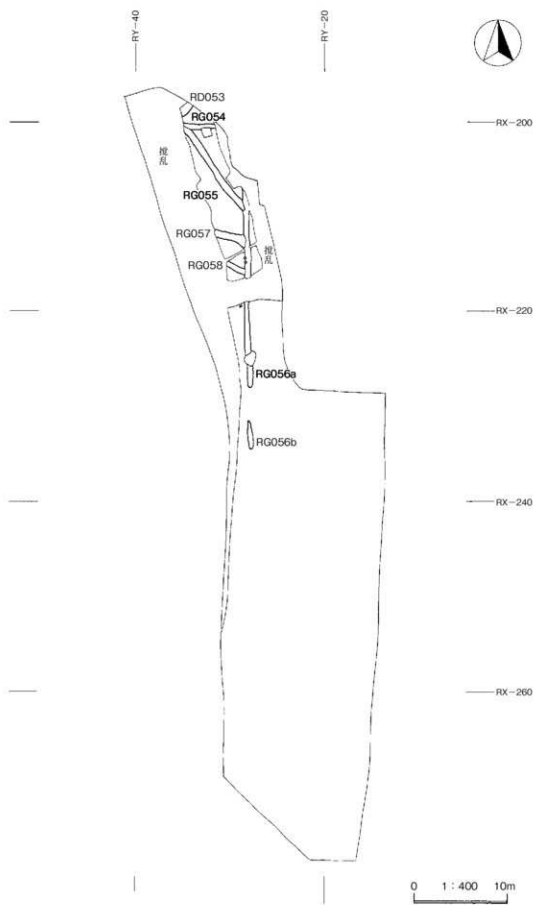


RX-340

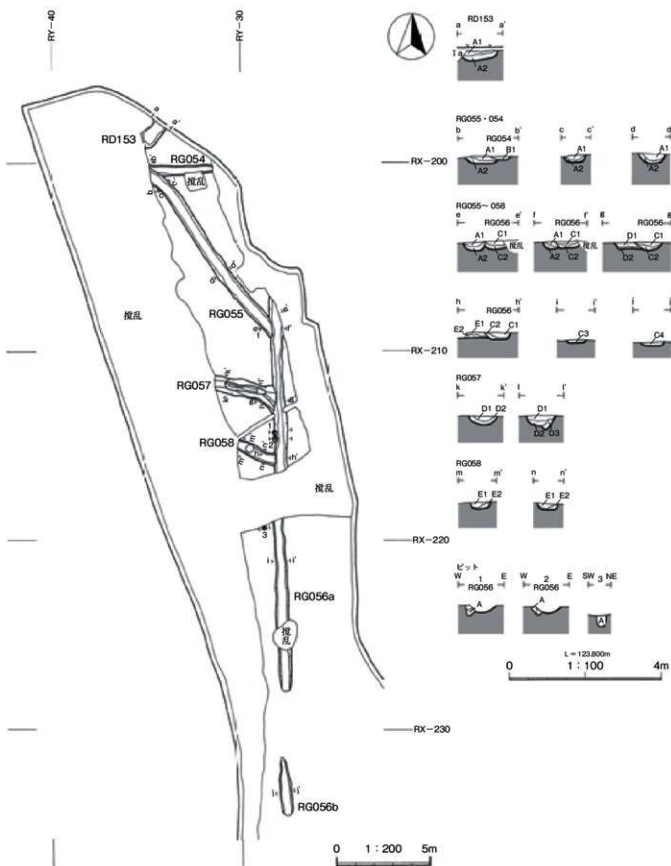
RX-345



第 97 図 矢盛遺跡第 15 次調査ビット

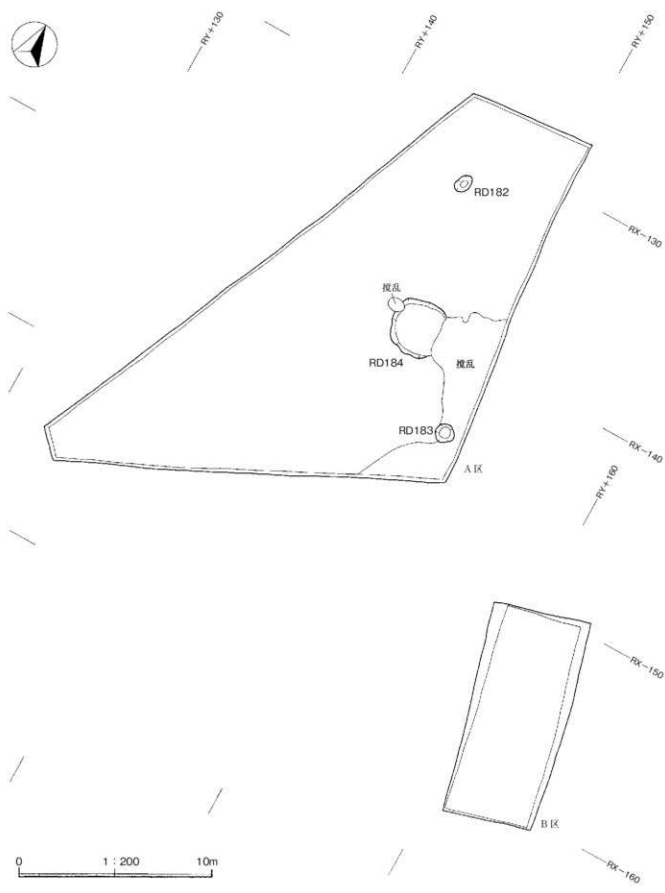


第98図 矢盛遺跡第17次調査区全体図



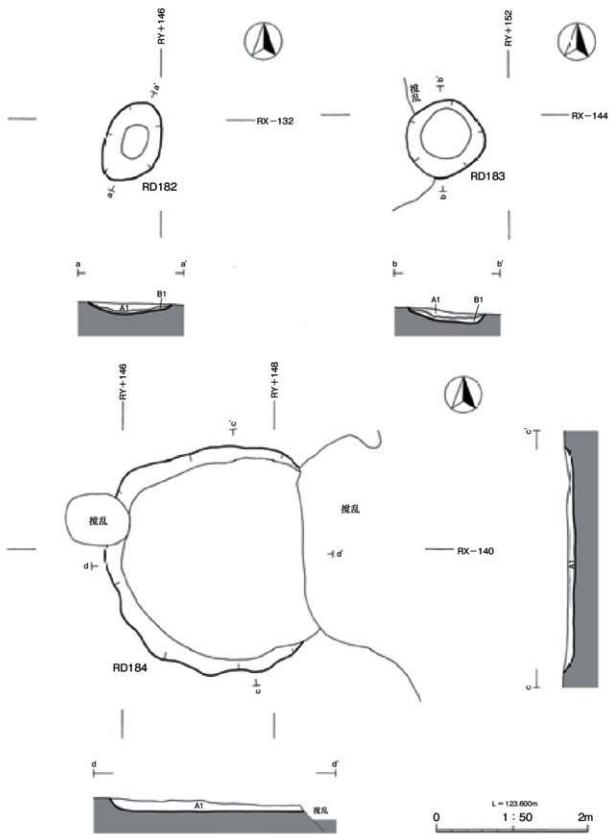
第99図 矢盛遺跡第17次調査RD153土坑, RG054~058溝跡, ピット





第 101 図 矢盛遺跡第 22 次調査区全体図

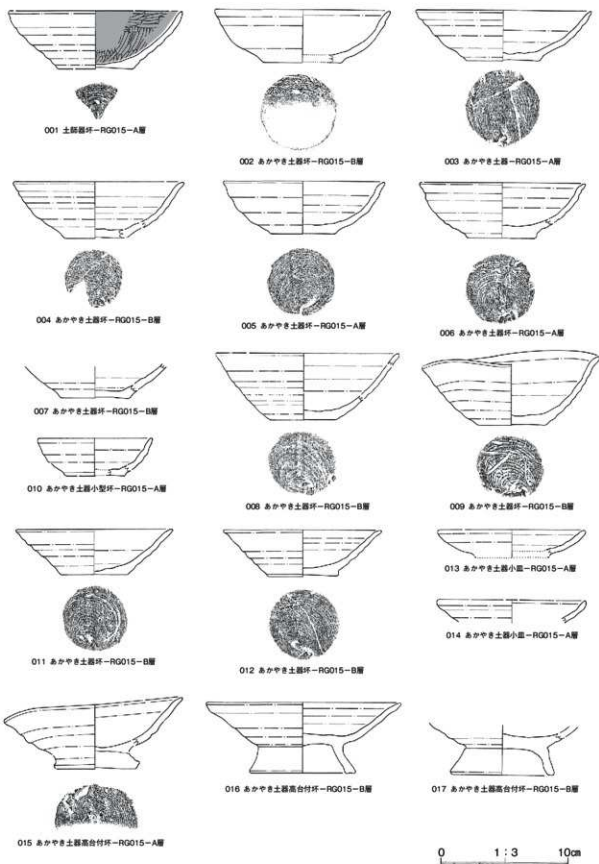




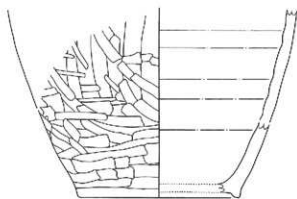
第102図 矢盛遺跡第22次調査RD182~184土坑

# 遺物 図 版





第103図 大宮北遺跡第11次調査RG015出土土器



018 須磨器盤-RG015-B層(第11次)

0 1:3 10cm

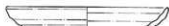


019 あかやき土器杯-RG015-B層(第13次)



020 あかやき土器高台付杯-RG015-B層(第13次)

第104図 大宮北遺跡第11・13次調査RG015出土土器



021 あかやき土器小皿-土坑検出図



022 あかやき土器杯-土坑検出図



023 あかやき土器杯-土坑検出図



024 あかやき土器杯-土坑検出図



025 あかやき土器杯-土坑検出図



026 あかやき土器高台付杯-土坑検出図



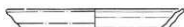
026 あかやき土器杯-土坑検出図



027 あかやき土器杯-土坑検出図



029 あかやき土器杯-トレンチ



030 あかやき土器杯-トレンチ



031 あかやき土器杯-トレンチ



032 あかやき土器高台付杯-トレンチ



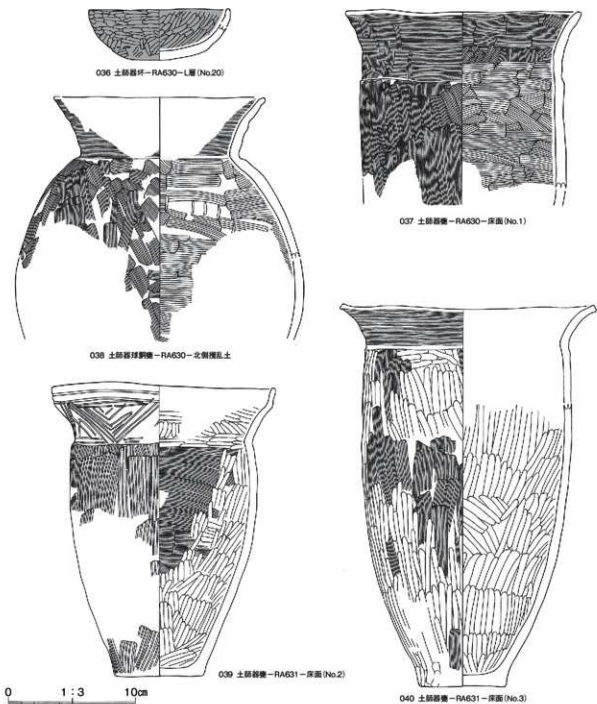
033 土器器杯-トレンチ

0 1:3 10cm

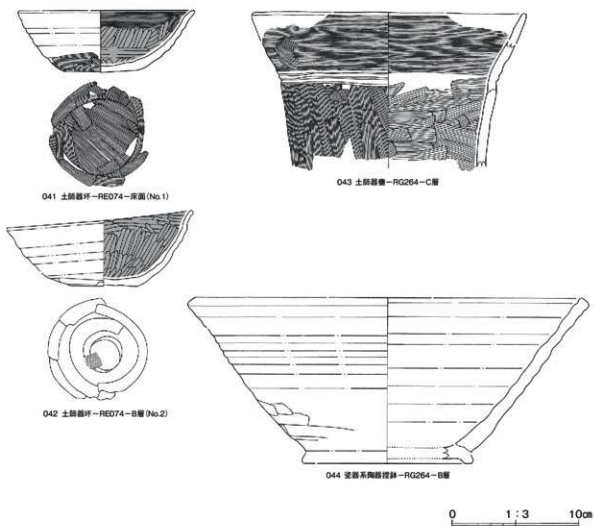
第105図 大宮北遺跡第16次調査出土土器



第106図 台太郎遺跡第59次調査出土土器・土製品



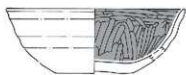
第107図 台太郎遺跡第63次調査 RA630・631出土土器



第108図 台太郎遺跡第63次調査 RE074, RG264 出土土器・中世陶器



第109図 台太郎遺跡第63次調査出土石製品



046 土師器杯-RA637-カマド右柱芯材



049 土師器杯-RA637-床面(No.3)



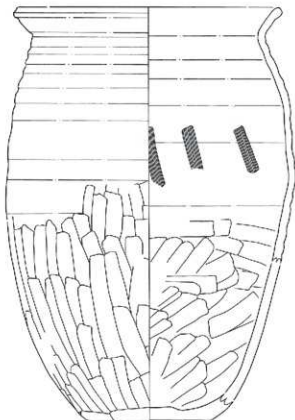
047 土師器杯-RA637-E区埋土



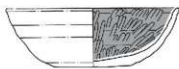
050 あかやき土器杯-RA637-床面(No.2)



051 あかやき土器杯-RA637-カマド左柱K2層



052 あかやき土器壺-RA637-床面(No.1)



053 土師器杯-RA638-PH1



054 あかやき土器杯-RA638-NW5A2層

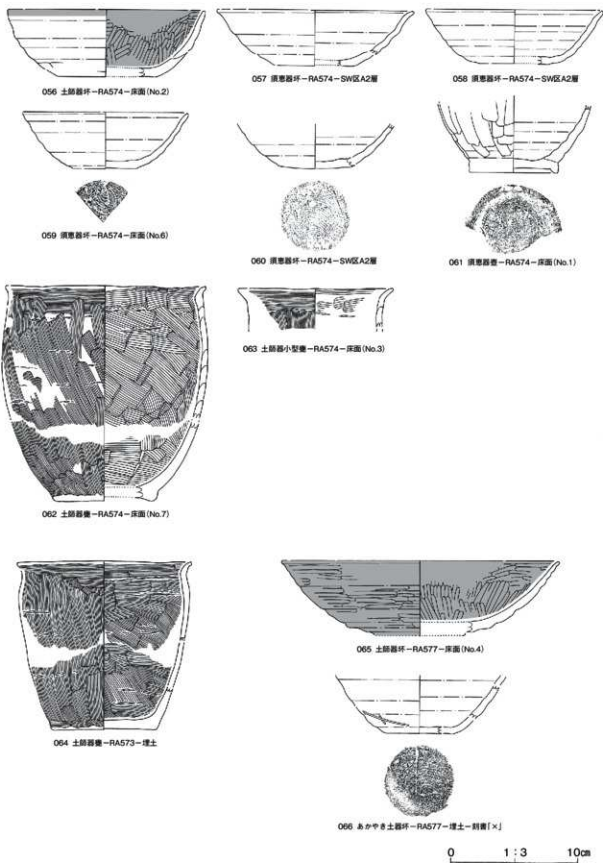


055 あかやき土器杯-RA638-埋土



第110図 台太郎遺跡第67次調査 RA637・638 出土土器





第111図 台太郎遺跡第68次調査RA573・574・577出土土器



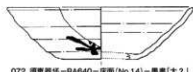
067 須磨器坪—RA639—MN区埋土



068 須磨器坪—RA639—MN区埋土



069 須磨器坪—RA639—MN区埋土—墨書「子？」



072 須磨器坪—RA640—床面(No.14)—墨書「太？」



073 須磨器坪—RA640—床面(No.3)



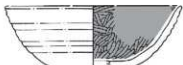
074 土師器坪—RA640—床面(No.4)



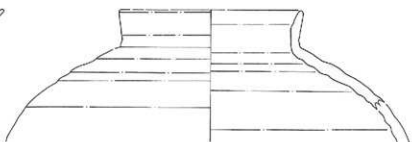
075 土師器坪—RA640—床面(No.2)



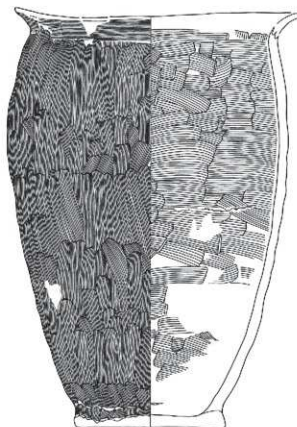
076 土師器坪—RA640—床面(No.5)



077 土師器坪—RA640—床面(No.23)



070 須磨器壺—RA639—床面(No.1)



071 土師器壺—RA639—床面(No.16)

0 1:3 10cm

第112図 台太郎遺跡第68次調査 RA639・640出土土器



078 土師器杯—RA641—床面(No.2)



079 あかやき土師器杯—RA641—床面(No.1)



080 土師器杯—RA642—床面(No.8)



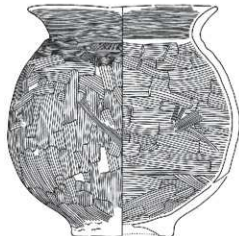
081 土師器杯—RA642—SW区B1層



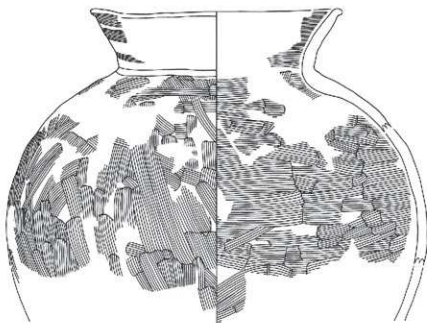
082 土師器杯—RA642—Pi2



083 土師器小型壺—RA642—NE区A2層



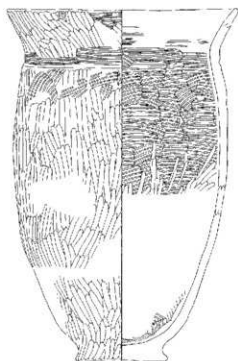
084 土師器球胴壺—RA642—床面(No.6)



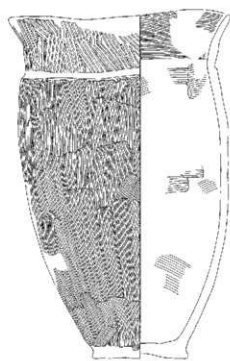
085 土師器球胴壺—RA642—SW区A1層

0 1:3 10cm

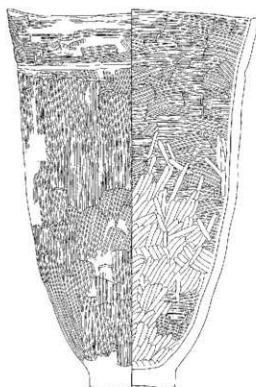
第113図 台太郎遺跡第68次調査 RA641・642 出土土器



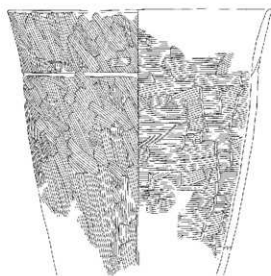
086 土器器身-RA642-床面(No.5)



087 土器器身-RA642-床面(No.2)



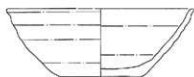
088 土器器身-RA642-床面(No.3)



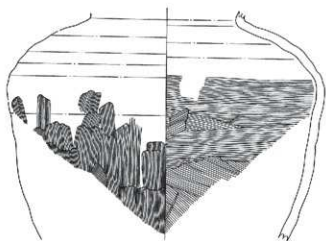
089 土器器身-RA642-床面(No.1)

0 1:3 10cm

第 114 図 台太郎遺跡第 68 次調査 RA642 出土土器



090 あかやき土器杯-RA643-床面(No.1)



091 須恵器蓋-RA643-床面(No.17)



092 土師器高台付杯(灯明皿)-RA644-床面(No.3)

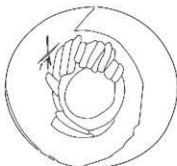
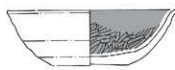


093 須恵器杯-RA644-SE区A2層



094 須恵器杯-RA644-床面(No.28)

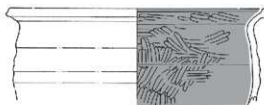
タール状炭化物



096 土師器杯-RA645-床面(No.41)



097 土師器杯-RA645-床面(No.5)

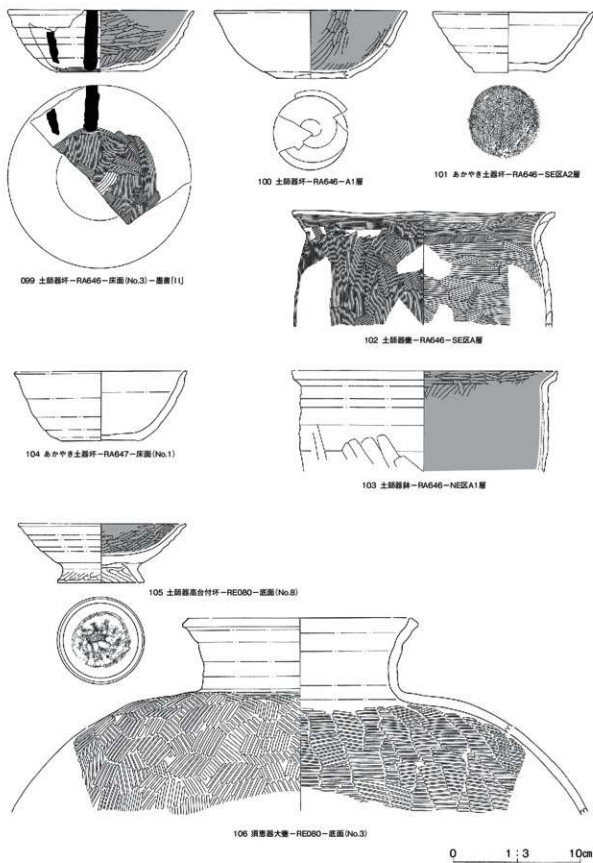


098 土師器鉢-RA645-SE区床面

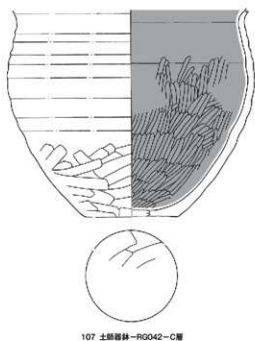
095 土師器杯(灯明皿)-RA645-床面(No.1)-割棄[×]

0 1:3 10cm

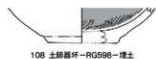
第115図 台太郎遺跡第68次調査RA643・644・645出土土器



第116図 台太郎遺跡第68次調査 RA646・647, RE080 出土土器



107 土師器鉢—RG042—C層



108 土師器杯—RG598—埋土



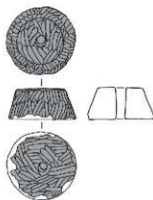
109 須恵器蓋—RG598—埋土



110 須恵器蓋—RG598—A層

0 1:3 10cm

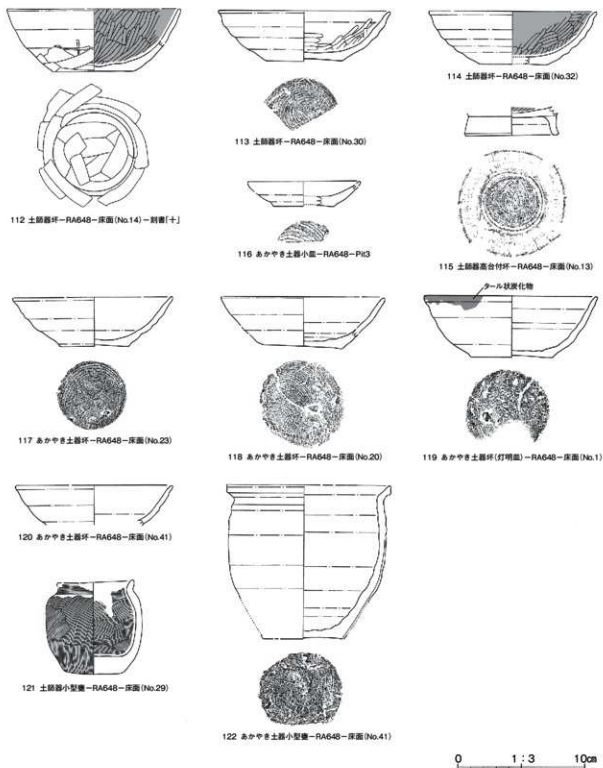
第117図 台太郎遺跡第68次調査RG042・598出土土器



111 土製紡錘車—RA642—NE区A1層

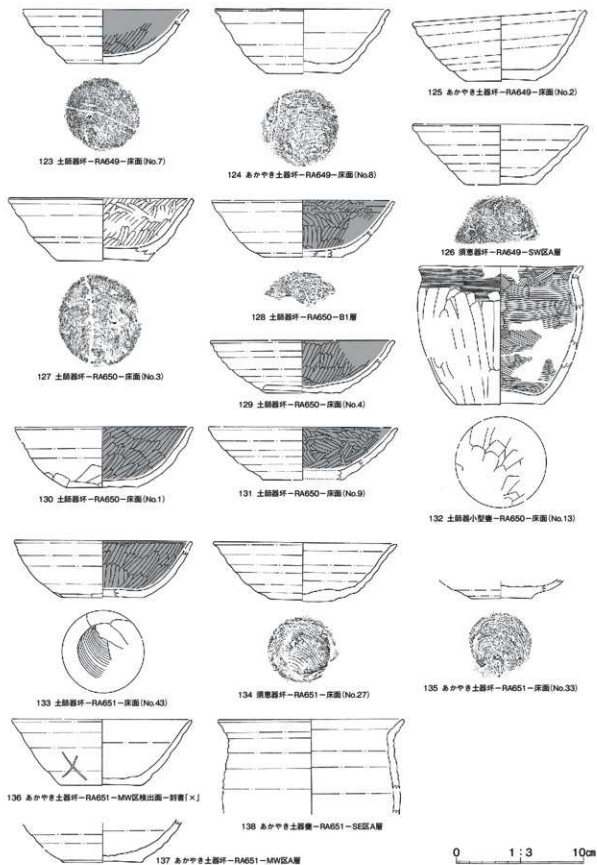
0 1:3 10cm

第118図 台太郎遺跡第68次調査出土土製品

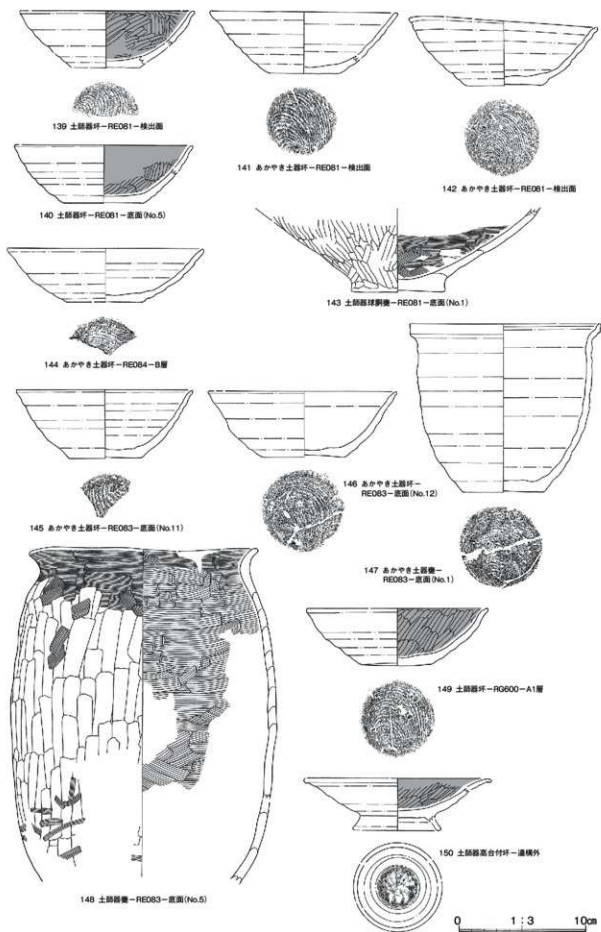


第119図 台太郎遺跡第70次調査RA648出土土器

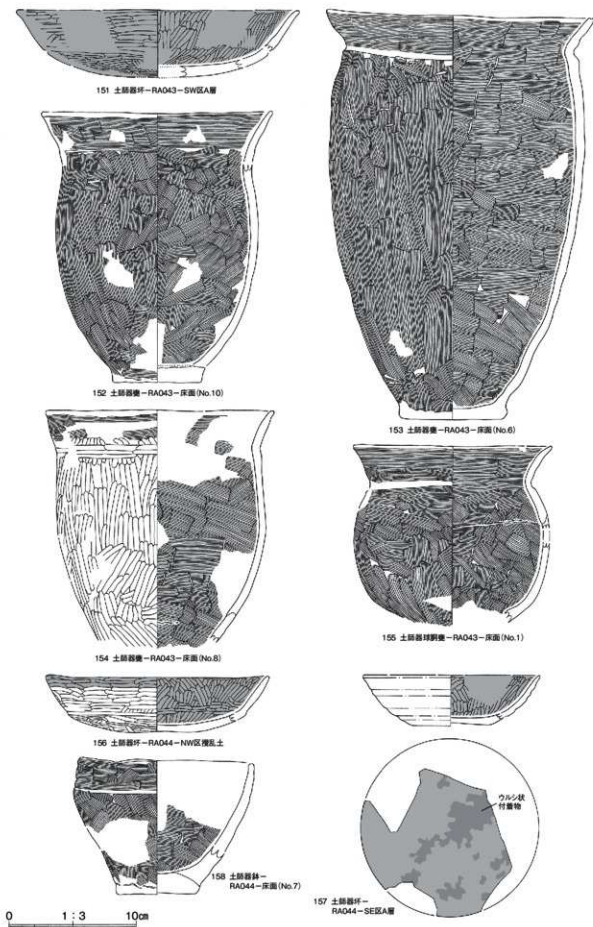




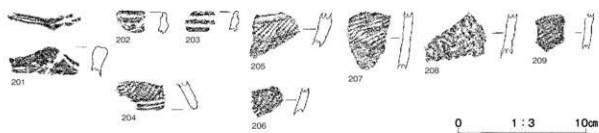
第120図 台太郎遺跡第70次調査RA649・650・651出土土器



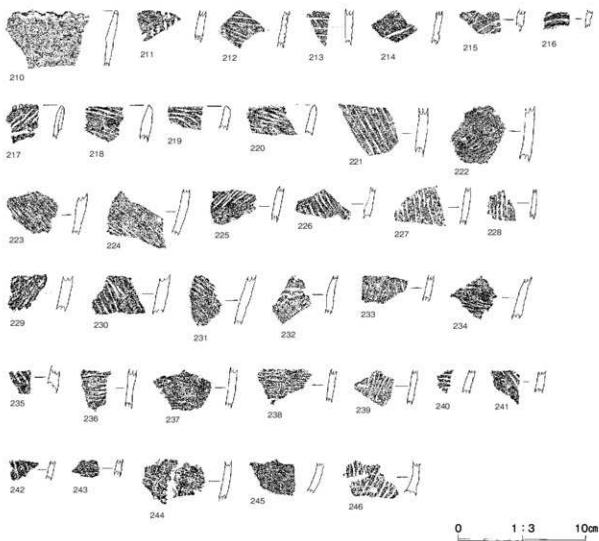
第121図 台太郎遺跡第70次調査 RE081・083・084, RG600, 遺構外出土土器



第 122 図 飯岡才川遺跡第 14 次調査 RA043・044 出土土器



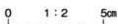
第 123 图 台太郎遺跡第 59 次調査出土弥生土器



第 124 图 台太郎遺跡第 67 次調査出土弥生土器



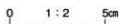
301 寛永通寶—邊境外



302 元豐通寶—ビット57



303 祥符通寶?—ビット41



第125図 台太郎遺跡第59次調査出土古銭



304 寛永通寶—RD2039



305 寛永通寶—RD2039



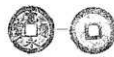
306 寛永通寶—RD2039



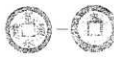
307 寛永通寶—RD2039



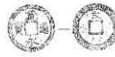
308 寛永通寶—RD2039



309 寛永通寶—RD2039



310 寛永通寶—RD2039



311 寛永通寶—RD2039



312 寛永通寶—RD2039



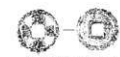
313 寛永通寶—RD2039



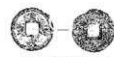
314 寛永通寶—RD2039



315 寛永通寶—RD2039



316 寛永通寶—RD2039



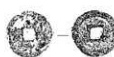
317 寛永通寶—RD2039



318 寛永通寶—RD2039



319 寛永通寶—RD2041



320 寛永通寶—RD2041



321 寛永通寶—RD2041



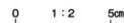
322 寛永通寶—RD2041



323 寛永通寶—RD2041



324 寛永通寶—邊境外



第127図 台太郎遺跡第63次調査出土古銭

# 写 真 图 版





第1図版 盛南開発地区航空写真（平成24年(2012)撮影，上：垂直，下：北から）





RG015 溝跡（東から）



RG015 溝跡東ベルト土層断面（東から）



RG015 溝跡西ベルト土層断面（東から）

第 2 図版 大宮北遺跡第 11 次調査

第 32 次調査区全景（東から）



第 33 次調査区全景（西から）



RG146 溝跡（南から）



第 3 図版 本宮熊堂日遺跡第 32・33 次調査



調査区全景（北西から）



調査区南部全景（東から）



RA629 竪穴建物跡（西から）



RB067 掘立柱建物跡（北から）



RB066 掘立柱建物跡（北から）

第4図版 台太郎遺跡第59次調査

調査区全景（南から）



調査区全景（北から）



RD2029 土坑（南東から）



RD2031 土坑（東から）

第 5 図版 台太郎遺跡第 60 次調査



第61次調査区全景（南から）



RD2034 土坑, 土層断面 (右)



RD2033 土坑 (南東から)



RD2035 土坑 (南東から)



RD2036 土坑 (西から)

第6図版 台太郎遺跡第61次調査

第 62 次調査区全景（西から）



第 62 次調査区全景（北から）、RD2037  
土坑



第 64 次調査区全景（西から）、RD2042  
土坑



第 7 図版 台太郎遺跡第 62・64 次調査



調査区全景（北西から）



調査区全景（西から）

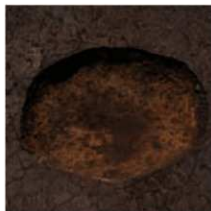
第 8 図版 台太郎遺跡第 67 次調査 (1)



RA637 竪穴建物跡（北から）、カマド・煙道（右）



RA638 竪穴建物跡（南東から）、刀子出土状況（右）



RD2125 土坑



RD2126 土坑



RG596 溝跡（北西から）





調査区全景（南東から）

第10図版 台太郎遺跡第63次調査（1）



調査区全景（西から）



調査区全景（北直）

第11図版 台太郎遺跡第63次調査(2)



RA630 竪穴建物跡（南東から）



カマド、土器・炭化材出土状況、勾玉出土状況

第12図版 台太郎遺跡第63次調査(3)



RA631 竪穴建物跡、カマド（右）



カマド支脚



石製紡錘車出土状況



カマド付近土師器甕出土状況



土師器甕（鋸歯状沈線文）出土状況

第 13 図版 台太郎遺跡第 63 次調査 (4)



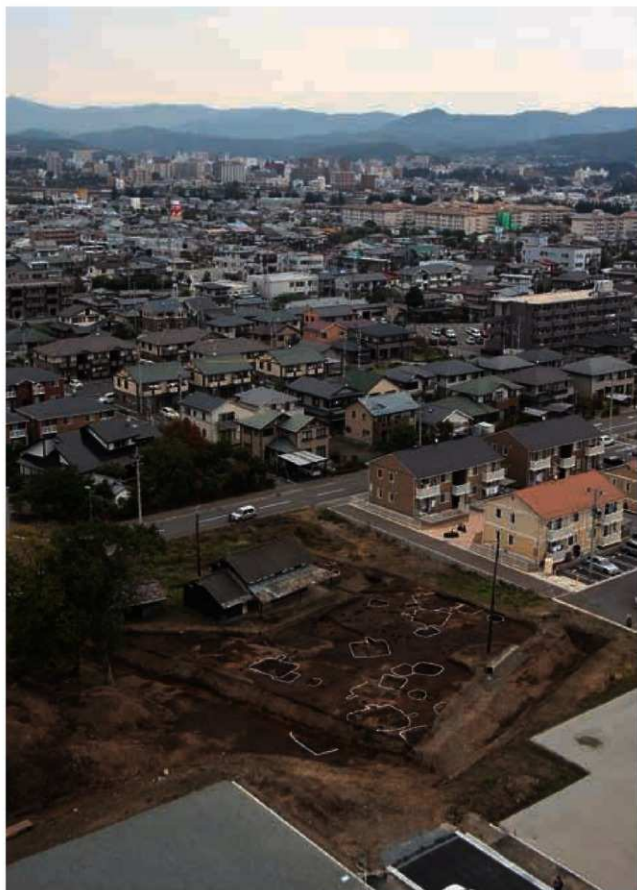
RE074 竪穴状遺構，土師器坏出土状況（上）



RG264 堀跡（東から），土層断面（右）



RD2041 土坑墓副葬品・人骨出土状況（南から）



調査区全景（南西から）

第 15 図版 台太郎遺跡第 68 次調査（1）



調査区全景（南から）



調査区全景（垂直）



RA574 竪穴建物跡（北東から）



RA639 竪穴建物跡（東から）。土器出土状況（上）



RA642 竪穴建物跡（南西から）。土器出土状況（上）



第 17 図版 台太郎遺跡第 68 次調査 (3)





RG042 堀跡（南から）、土層断面（右）



RG424 堀跡（東から）、土層断面（右）

第 18 図版 台太郎遺跡第 68 次調査 (4)



調査区全景（南東から）



調査区全景（垂直）

第 19 図版 台太郎遺跡第 70 次調査 (1)



RA648 竪穴建物跡（南東から）。カマド付近土器出土状況（上）



RA650 竪穴建物跡（南西から）。埋土上層十和田a火山灰（上）



RE083 竪穴状遺構炭化材出土状況。土器出土状況（上）



第 20 図版 台太郎遺跡第 70 次調査 (2)



調査区全景（西から）



RG020・021 溝跡（南東から）、RG020 溝跡土層断面（右）



調査区（A区）全景（南西から）



調査区（B区）全景（北から）

第 22 図版 飯岡才川遺跡第 14 次調査（1）



RA043 竪穴建物跡（南東から）



カマド



土師器甕出土状況



RA044 竪穴建物跡（東から）



カマド



炭化材出土状況



RD154 陥し穴、土層断面



RD155 陥し穴、土層断面



RD156 陥し穴、土層断面



RD157 陥し穴、土層断面



RD158 陥し穴、土層断面



FG062 溝跡 (西から)、土層断面十和田a火山灰 (左)





旧岩手県農事試験場関連遺構（明治34年～昭和38年）



〔参考〕旧岩手県農事試験場玄関・試験田（1964『岩手県史第九巻 近代篇4』より）



調査区全景（東から）



調査区全景（西から）、RG081 溝跡（南から、右）

第 27 図版 細谷地遺跡第 21 次調査



第22次調査本調査区全景（南東から）



第23次調査区北部全景（西から）



第23次調査区南部全景（南から）

第28図版 細谷地遺跡第22・23次調査



第17次調査区全景（南東から）



第15次調査区全景（南から）

第29図版 矢盛遺跡第15・17次調査（1）



第17次調査区全景（垂直）



第15次調査区全景（垂直）

第30図版 第15・17次調査（2）

RI058 井戸跡



RI059 井戸跡



RI061・062 井戸跡



第 31 図版 矢盛遺跡第 15 次調査

RG054・055 溝跡（北西から）



RG056 溝跡（北から）



RG057 溝跡（西から）



第 32 図版 矢盛遺跡第 17 次調査

第 21 次調査 RG067 溝跡 (南から)



第 22 次調査区 (A区) 全景 (北から)

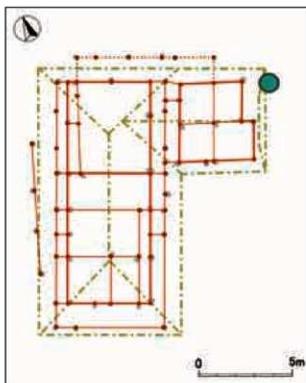


第 22 次調査 RD182~184 土坑 (東から)

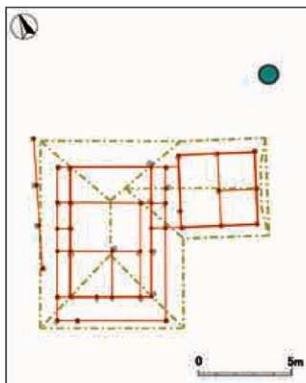


第 33 図版 矢盛遺跡第 21・22 次調査





RB046a 掘立柱建物跡平面概念図（新时期）



RB046b 掘立柱建物跡平面概念図（旧期）



RB046 掘立柱建物跡立面想定図（南から）



建物イメージ（盛岡手づくり村移築南部曲り屋）

第 34 図版 矢盛遺跡第 15 次調査掘立柱建物跡復元想定



第 11・13 次調査 RG015 出土土器



002 あかやき土器環-RG015



003 あかやき土器環-RG015



004 あかやき土器環-RG015



005 あかやき土器環-RG015



006 あかやき土器環-RG015



008 あかやき土器環-RG015



009 あかやき土器環-RG015



010 あかやき土器小型環-RG015



011 あかやき土器環-RG015

第 35 図版 大宮北遺跡出土遺物 (1)



012 あかやき土器環-RG015



013・014 あかやき土器小皿-RG015



015 あかやき土器高台付環-RG015



016 あかやき土器高台付環-RG015



017 あかやき土器高台付環-RG015



018 須恵器壺-RG015

第 11 次調査

第 13 次調査



019 あかやき土器環-RG015



020 あかやき土器高台付環-RG015

第 16 次調査



032 あかやき土器高台付環-トレンチ



第 67 次調査 RA637 出土土器



047 土師器杯-RA637



048 土師器杯-RA637



049 土師器杯-RA637



050 あかやき土器杯-RA637



051 あかやき土器杯-RA637



053 土師器杯-RA638



054 あかやき土器杯-RA638



055 あかやき土器杯-RA638

第 37 図版 台太郎遺跡出土遺物 (1)



第70次調査 RA648 出土土器



112 土師器環-RA648



115 土師器高台付環-RA648



117 あかやき土器環-RA648



118 あかやき土器環-RA648



119 あかやき土器環-RA648



124 あかやき土器環-RA649



125 あかやき土器環-RA649



127 土師器環-RA650



130 土師器環-RA650

第38図版 台太郎遺跡出土遺物(2)



134 須恵器杯-RA651



141 あかやき土器杯-RE081



142 あかやき土器杯-RE081



146 あかやき土器杯-RE083



149 土師器杯-RG600



150 土師器高台付杯-遺構外



121 土師器小型壺-RA648



122 あかやき土器小型甕-RA648



147 あかやき土器甕-RE083



148 土師器甕-RE083

第 39 図版 台太郎遺跡出土土器 (3)



036 土師器坏-RA630



041 土師器坏-RE074



042 土師器坏-RE074



039 土師器甕-RA631



040 土師器甕-RA631

第 63 次調査



第 68 次調査 RA639 出土土器

第 40 図版 台太郎遺跡出土遺物 (4)



第 68 次調査 RA640 出土土器



第 68 次調査 RA642 出土土器

第 41 図版 台太郎遺跡出土土器 (5)





056 土師器杯-RA574



057 須恵器杯-RA574



065 土師器杯-RA577



067 須恵器杯-RA639



068 須恵器杯-RA639



073 須恵器杯-RA640



074 土師器杯-RA640



075 土師器杯-RA640



076 土師器杯-RA640



080 土師器杯-RA642



081 土師器杯-RA642



082 土師器杯-RA642



090 あかやき土器杯-RA643



092 土師器高台付杯-RA644



094 須恵器杯-RA644



095 土師器杯-RA645 刻書「×」



096 土師器杯-RA645



097 土師器杯-RA645

第 42 図版 台太郎遺跡出土遺物 (6)



101 あかやき土器環-RA646



104 あかやき土器環-RA647



105 土師器高台付環-RE080



070 須恵器壺-RA639



071 土師器甕-RA639



084 土師器球胴甕-RA642



061 須恵器壺-RA574



086 土師器甕-RA642



087 土師器甕-RA642



088 土師器甕-RA642

069 墨書「子？」(須惠器坏),  
第68次調査 RA639



072 墨書「木？」(須惠器坏),  
第68次調査 RA640



099 墨書「||」(土師器坏),  
第68次調査 RA646



第44図版 台太郎遺跡出土遺物(8)

066 刻書「×」(あかやき土器杯),  
第68次調査 RA577



095 刻書「×」(土師器杯),  
第68次調査 RA645



石製品・土製品

メノウ製勾玉

(第 63 次調査 RA630, 046)

基石 (第 68 次調査 RA642)

石製紡錘車

(第 63 次調査 RA631, 045)

土錘 (第 59 次調査 RA629, 035)

土製紡錘車 (第 68 次調査 RA642, 111)



鉄関連遺物

鉄滓 (第 68 次調査 RA574)

フイゴ羽口 (第 68 次調査 RA641)



第68次調査中世陶器（13～14世紀）  
瓷器系陶器壺  
常滑控鉢  
越前甕



第59次調査近世磁器（18～19世紀）  
肥前染付湯呑・皿



第63次調査近世磁器（18～19世紀）  
肥前染付皿・碗・瓶子



第47図版 台太郎遺跡出土遺物（11）

第 68 次調査近世陶磁器  
 鉄袖小型甕・徳利  
 大塚相馬系土瓶  
 肥前染付皿（18～19 世紀）  
 瀬戸美濃播鉢



第 70 次調査近世陶磁器  
 国産灰袖瓶子  
 相馬系灰袖茶碗（18～19 世紀）  
 国産鉄袖甕（18～19 世紀）  
 瀬戸美濃系播鉢（18～19 世紀）





第 14 次調査 RA043 出土土器



第 14 次調査 RA044 出土土器

第 49 図版 飯岡才川遺跡出土遺物 (1)





156 土師器环-RA044



157 土師器环-RA044



152 土師器甕-RA043



153 土師器甕-RA043



154 土師器甕-RA043



155 土師器球胴甕-RA043



158 土師器甕-RA044

## 附 章



## 台太郎遺跡第 63 次調査における放射性炭素年代 (AMS 測定)

(株) 加速器分析研究所

### 1 測定対象試料

台太郎遺跡 (63 次調査) の測定対象試料は、RA630 の床面から出土した炭化材 2 点である (表 1)。試料 4 については、炭化材の年輪を数え、位置を確認しながら 3 箇所より測定試料を採取した (試料の採取位置を表 1 に記載)。試料 4 に属する 3 試料のうち、4-①が残存最外年輪を含む部位に当たる。

### 2 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸 (AAA : Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1 mol/l (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 ( $\text{CO}_2$ ) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1 mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

### 3 測定方法

加速器をベースとした  $^{14}\text{C}$ -AMS 専用装置 (NEC 社製) を使用し、 $^{14}\text{C}$  の計数、 $^{13}\text{C}$  濃度 ( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ )、 $^{14}\text{C}$  濃度 ( $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ ) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 ( $\text{HOx II}$ ) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

### 4 算出方法

- (1)  $\delta^{13}\text{C}$  は、試料炭素の  $^{13}\text{C}$  濃度 ( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ ) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (%) で表した値である (表 1)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2)  $^{14}\text{C}$  年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中  $^{14}\text{C}$  濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 $^{14}\text{C}$  年代は  $\delta^{13}\text{C}$  によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。 $^{14}\text{C}$  年代と誤差は、下 1 桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、 $^{14}\text{C}$  年代の誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、試料の  $^{14}\text{C}$  年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の  $^{14}\text{C}$  濃度の割合である。pMC

が小さい ( $^{14}\text{C}$  が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 ( $^{14}\text{C}$  の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も  $\delta^{13}\text{C}$  によって補正する必要があるため、補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。

- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の  $^{14}\text{C}$  濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の  $^{14}\text{C}$  濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$  年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ( $1\sigma=68.2\%$ ) あるいは 2 標準偏差 ( $2\sigma=95.4\%$ ) で表示される。グラフの縦軸が  $^{14}\text{C}$  年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$  補正を行い、下 1 桁を丸めない  $^{14}\text{C}$  年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.2 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表 2 に示した。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$  年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

## 5 測定結果

測定結果を表 1, 2 に示す。

試料 1 の  $^{14}\text{C}$  年代は  $1470 \pm 20\text{yrBP}$ 、暦年較正年代 ( $1\sigma$ ) は  $571 \sim 617\text{cal AD}$  の範囲である。

試料 4 からは、3 箇所の炭化材片が採取され、各々測定された。残存最外年輪に当たる試料 4-①の  $^{14}\text{C}$  年代は  $1490 \pm 20\text{yrBP}$ 、暦年較正年代 ( $1\sigma$ ) は  $560 \sim 600\text{cal AD}$  の範囲である。この炭化材の測定試料 4-①～③のうち、炭化材の伐採もしくは枯死年代に最も近い年代を示すのは、残存最外年輪試料 4-①である。

同じ遺構の床面から出土した試料 1 と試料 4 の最外年輪試料 4-①の  $^{14}\text{C}$  年代は誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) の範囲で一致し、較正年代も重なる範囲が少くない。

試料の炭素含有率はすべて 50% を超え、化学処理、測定上の問題は認められない。

表 1 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$  補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-131947	1	RA630 床面炭 No.1	炭化材	AaA	-26.53 ± 0.22	1,470 ± 20	83.27 ± 0.21
IAAA-131948	4-①	RA630 床面炭 No.4 (外側から 1-5 年輪を採取)	炭化材	AAA	-26.79 ± 0.16	1,490 ± 20	83.07 ± 0.20
IAAA-131949	4-②	RA630 床面炭 No.4 (外側から 16-20 年輪を採取)	炭化材	AAA	-26.32 ± 0.27	1,480 ± 20	83.15 ± 0.21
IAAA-131950	4-③	RA630 床面炭 No.4 (外側から 34-38 年輪を採取)	炭化材	AAA	-27.89 ± 0.18	1,480 ± 20	83.21 ± 0.20

[#6163]

表2 放射性炭素年代測定結果( $\delta^{13}\text{C}$ 未補正值, 暦年較正用 $^{14}\text{C}$ 年代, 較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-131947	1,500 $\pm$ 20	83.01 $\pm$ 0.20	1,470 $\pm$ 20	571calAD-617calAD (68.2%)	557calAD-640calAD (95.4%)
IAAA-131948	1,520 $\pm$ 20	82.77 $\pm$ 0.20	1,490 $\pm$ 19	560calAD-600calAD (68.2%)	542calAD-619calAD (95.4%)
IAAA-131949	1,500 $\pm$ 20	82.93 $\pm$ 0.20	1,482 $\pm$ 20	564calAD-605calAD (68.2%)	546calAD-631calAD (95.4%)
IAAA-131950	1,520 $\pm$ 20	82.72 $\pm$ 0.20	1,476 $\pm$ 19	568calAD-610calAD (68.2%)	555calAD-635calAD (95.4%)

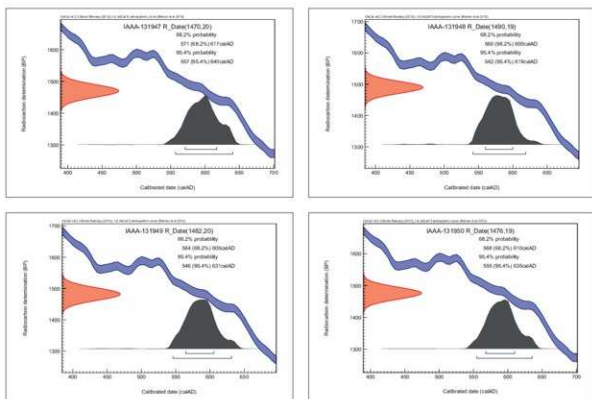
[参考値]

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51 (1), 337-360

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55 (4), 1869-1887

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, *Radiocarbon* 19 (3), 355-363



【図版】暦年較正年代グラフ(参考)



## 台太郎遺跡第70次調査における放射性炭素年代 (AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

### 1 測定対象試料

台太郎遺跡(70次調査)の測定対象試料は、RE083の床面から出土した炭化材2点である(表1)。これらの試料については、炭化材の年輪を数え、位置を確認しながら各々複数の箇所より測定試料を採取した(試料の採取位置を表1に記載)。試料10は2箇所、試料12は3箇所から炭化材片を採取し、試料10に属する10-④、試料12に属する12-⑥が残存最外年輪を含む部位に当たる。

### 2 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/l (1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

### 3 測定方法

加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、<sup>14</sup>Cの計数、<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)、<sup>14</sup>C濃度(<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

### 4 算出方法

- (1)  $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である(表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) <sup>14</sup>C年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中<sup>14</sup>C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。<sup>14</sup>C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。<sup>14</sup>C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、<sup>14</sup>C年代の誤差( $\pm 1\sigma$ )は、試料の<sup>14</sup>C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。



- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の  $^{14}\text{C}$  濃度の割合である。pMC が小さい ( $^{14}\text{C}$  が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 ( $^{14}\text{C}$  の量が標準現代炭素と同程度以上) の場合 Modern とする。この値も  $\delta^{13}\text{C}$  によって補正する必要があるため、補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の  $^{14}\text{C}$  濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の  $^{14}\text{C}$  濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$  年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ( $1\sigma=68.2\%$ ) あるいは 2 標準偏差 ( $2\sigma=95.4\%$ ) で表示される。グラフの縦軸が  $^{14}\text{C}$  年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$  補正を行い、下 1 桁を丸めない  $^{14}\text{C}$  年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース (Reimer et al. 2013) を使い、OxCalv4.2 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表 2 に示した。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$  年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

## 5 測定結果

測定結果を表 1, 2 に示す。

試料 10 からは 2 箇所、試料 12 からは 3 箇所の炭化材片が採取され、各々測定された。以下、炭化材の個体ごとに結果を検討する。

試料 10 の残存最外年輪に当たる試料 10-④の  $^{14}\text{C}$  年代は  $1150 \pm 20\text{yrBP}$ 、暦年較正年代 ( $1\sigma$ ) は 879~954cal AD の間に 2 つの範囲で示される。この炭化材の測定試料 10-④、⑤のうち、炭化材の伐採もしくは枯死年代に最も近い年代を示すのは、残存最外年輪試料 10-④である。

試料 12 の残存最外年輪に当たる試料 12-⑥の  $^{14}\text{C}$  年代は  $1430 \pm 20\text{yrBP}$ 、暦年較正年代 ( $1\sigma$ ) は 616~647cal AD の範囲である。この炭化材の測定試料 12-⑥~⑧のうち、炭化材の伐採もしくは枯死年代に最も近い年代を示すのは、残存最外年輪試料 12-⑥である。

同じ遺構の床面から出土した炭化材 2 点の年代を各々の残存最外年輪試料と比較すると、試料 10-④と試料 12-⑥の間には明瞭な年代差が認められる。古木効果、木材の転用、埋没過程での混入など、さまざまな要因について検討する必要があると考えられる。

試料の炭素含有率はすべて 60% を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表1 放射性炭素年代測定結果( $\delta^{13}\text{C}$  補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-131951	10-④	RE083 床面炭 No.4 (外側から 1-5 年輪を採取)	炭化材	AAA	-26.02 ± 0.16	1.150 ± 20	86.69 ± 0.20
IAAA-131952	10-⑤	RE083 床面炭 No.4 (外側から 16-20 年輪を採取)	炭化材	AAA	-26.90 ± 0.16	1.190 ± 20	86.18 ± 0.20
IAAA-131953	12-⑥	RE083 床面炭 No.6 (外側から 1-5 年輪を採取)	炭化材	AAA	-26.83 ± 0.19	1.430 ± 20	83.74 ± 0.22
IAAA-131954	12-⑦	RE083 床面炭 No.6 (外側から 21-25 年輪を採取)	炭化材	AAA	-23.41 ± 0.15	1.480 ± 20	83.16 ± 0.19
IAAA-131955	12-⑧	RE083 床面炭 No.6 (外側から 44-48 年輪を採取)	炭化材	AAA	-24.86 ± 0.16	1.530 ± 20	82.63 ± 0.20

[#6164]

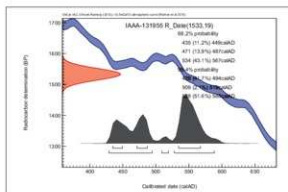
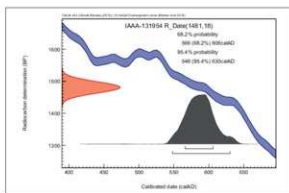
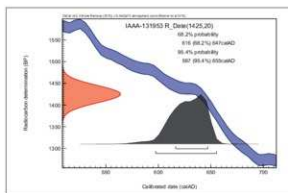
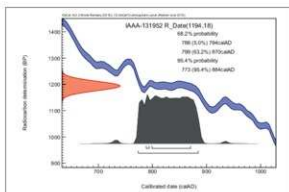
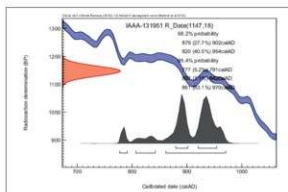
表2 放射性炭素年代測定結果( $\delta^{13}\text{C}$  未補正值, 暦年較正用  $^{14}\text{C}$  年代, 較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-131951	1.160 ± 20	86.51 ± 0.20	1.147 ± 18	879calAD-902calAD (27.7%) 920calAD-954calAD (40.5%)	777calAD-791calAD (5.2%) 807calAD-842calAD (7.1%) 861calAD-970calAD (83.1%)
IAAA-131952	1.230 ± 20	85.85 ± 0.20	1.194 ± 18	788calAD-794calAD (5.0%) 799calAD-870calAD (63.2%)	773calAD-884calAD (95.4%)
IAAA-131953	1.460 ± 20	83.43 ± 0.21	1.425 ± 20	616calAD-647calAD (68.2%)	597calAD-655calAD (95.4%)
IAAA-131954	1.450 ± 20	83.43 ± 0.19	1.481 ± 18	566calAD-606calAD (68.2%)	548calAD-630calAD (95.4%)
IAAA-131955	1.530 ± 20	82.65 ± 0.19	1.533 ± 19	435calAD-449calAD (11.2%) 471calAD-487calAD (13.9%) 534calAD-567calAD (43.1%)	429calAD-494calAD (41.7%) 509calAD-519calAD (2.1%) 528calAD-588calAD (51.6%)

[参考値]

## 文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363



【図版】暦年較正年代グラフ(参考)

## 飯岡才川遺跡第14次調査における放射性炭素年代 (AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

### 1 測定対象試料

飯岡才川遺跡(14次調査)の測定対象試料は、RA044の床面から出土した炭化材2点である(表1)。試料14については、炭化材の年輪を数え、位置を確認しながら4箇所より測定試料を採取した(試料の採取位置を表1に記載)。試料14に属する4試料のうち、14-⑨が残存最外年輪を含む部位に当たる。

### 2 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/l (1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

### 3 測定方法

加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、<sup>14</sup>Cの計数、<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)、<sup>14</sup>C濃度(<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

### 4 算出方法

- (1)  $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である(表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) <sup>14</sup>C年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中<sup>14</sup>C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。<sup>14</sup>C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。<sup>14</sup>C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、<sup>14</sup>C年代の誤差( $\pm 1\sigma$ )は、試料の14C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC(percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の<sup>14</sup>C濃度の割合である。pMC

が小さい ( $^{14}\text{C}$  が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 ( $^{14}\text{C}$  の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も  $\delta^{13}\text{C}$  によって補正する必要があるため、補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。

- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の  $^{14}\text{C}$  濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の  $^{14}\text{C}$  濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$  年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ( $1\sigma=68.2\%$ ) あるいは 2 標準偏差 ( $2\sigma=95.4\%$ ) で表示される。グラフの縦軸が  $^{14}\text{C}$  年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$  補正を行い、下 1 桁を丸めない  $^{14}\text{C}$  年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.2 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表 2 に示した。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$  年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

## 5 測定結果

測定結果を表 1、2 に示す。

試料 13 の  $^{14}\text{C}$  年代は  $1450 \pm 20\text{yrBP}$ 、暦年較正年代 ( $1\sigma$ ) は 596~638cal AD の範囲である。

試料 14 からは、4 箇所の炭化材片が採取され、各々測定された。残存最外年輪に当たる試料 14-⑨の  $^{14}\text{C}$  年代は  $1280 \pm 20\text{yrBP}$ 、暦年較正年代 ( $1\sigma$ ) は 685~765cal AD の間に 2 つの範囲で示される。この炭化材の測定試料 14-⑨~⑫のうち、炭化材の伐採もしくは枯死年代に最も近い年代を示すのは、残存最外年輪試料 14-⑨である。

同じ遺構の床面から出土した試料 13 と試料 14 の最外年輪試料 14-⑨の間には年代差が認められる。古木効果、木材の転用、埋没過程での混入など、さまざまな要因について検討する必要があると考えられる。

試料の炭素含有率はすべて 60% を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表 1 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$  補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-131956	13	RA044 床面炭①	炭化材	AAA	$-25.51 \pm 0.16$	$1,450 \pm 20$	$83.44 \pm 0.20$
IAAA-131957	14-⑨	RA044 床面炭② (外側から 1-5 年輪を採取)	炭化材	AAA	$-24.19 \pm 0.16$	$1,280 \pm 20$	$85.25 \pm 0.20$
IAAA-131958	14-⑩	RA044 床面炭② (外側から 26-30 年輪を採取)	炭化材	AAA	$-22.77 \pm 0.20$	$1,260 \pm 20$	$85.50 \pm 0.21$
IAAA-131959	14-⑪	RA044 床面炭② (外側から 51-55 年輪を採取)	炭化材	AAA	$-23.01 \pm 0.15$	$1,280 \pm 20$	$85.22 \pm 0.22$
IAAA-131960	14-⑫	RA044 床面炭② (外側から 79-83 年輪を採取)	炭化材	AAA	$-23.62 \pm 0.15$	$1,330 \pm 20$	$84.69 \pm 0.20$

[#6165]

表2 放射性炭素年代測定結果( $\delta^{13}\text{C}$ 未補正值, 暦年較正用 $^{14}\text{C}$ 年代, 較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-131956	1,460 $\pm$ 20	83.36 $\pm$ 0.20	1,454 $\pm$ 19	596calAD-638calAD (68.2%)	570calAD-645calAD (95.4%)
IAAA-131957	1,270 $\pm$ 20	85.39 $\pm$ 0.20	1,282 $\pm$ 18	685calAD-713calAD (37.4%) 744calAD-765calAD (30.8%)	671calAD-731calAD (57.8%) 736calAD-770calAD (37.6%)
IAAA-131958	1,220 $\pm$ 20	85.89 $\pm$ 0.20	1,258 $\pm$ 19	695calAD-747calAD (62.1%) 763calAD-768calAD (6.1%)	678calAD-775calAD (95.4%)
IAAA-131959	1,250 $\pm$ 20	85.57 $\pm$ 0.22	1,284 $\pm$ 20	683calAD-714calAD (39.2%) 744calAD-765calAD (29.0%)	670calAD-730calAD (58.5%) 736calAD-770calAD (36.9%)
IAAA-131960	1,310 $\pm$ 20	84.93 $\pm$ 0.19	1,334 $\pm$ 18	659calAD-678calAD (68.2%)	651calAD-692calAD (91.5%) 749calAD-762calAD (3.9%)

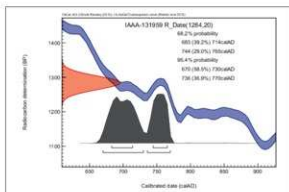
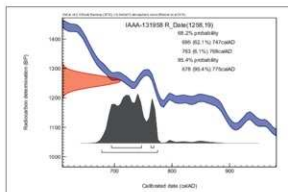
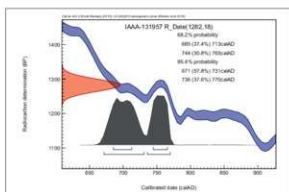
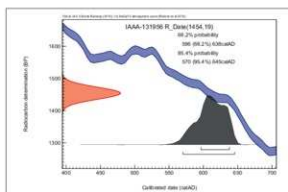
[参考値]

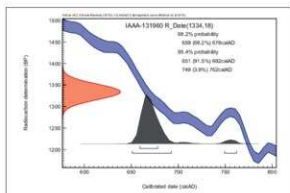
## 文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363





【図版】暦年較正年代グラフ(参考)

## 水田太郎遺跡第63次調査出土炭化材の放射性炭素年代（AMS測定）と ウィグルマッチングによる暦年代推定

（株）加速器分析研究所

### 1 測定対象試料

水田太郎遺跡（63次調査）の測定対象試料は、RA630の床面から出土した炭化材1と炭化材4の合計2点である（表2）。炭化材4については、年輪を数えてその位置を確認しながら3箇所より測定試料を採取した（試料の採取位置を表2に記載）。炭化材4に属する3点については、もう一方の炭化材1と同様に試料ごとの年代測定を行った後、さらにその3点全体の測定結果に基づいてウィグルマッチング（4 算出方法（5）参照）の手法により、炭化材最外年輪の暦年代を推定する。

以下、ウィグルマッチング対象試料について、炭化材の特徴と測定に用いる試料の採取状況を記す。

炭化材4は、4.5×3.5×1.5 cmの破片で、樹皮は残存しない。木口に近い面で年輪を観察し、残存最外年輪を含む外側から1-5年輪の部位（試料4-①）、最も内側に当たる34-38年輪の部位（試料4-③）、両者のほぼ中間に当たる16-20年輪の部位（試料4-②）より炭化材片を採取した。総年輪数38、年輪幅は約0.3～0.5 mmである。

この炭化材の特徴を表1に、試料の採取位置を最外年輪から数えた年輪数によって表2.4に示した。また、試料の写真を図4に掲げた。

表1 ウィグルマッチングを行った炭化材の特徴

	木取り	大きさ(cm)	総年輪数
炭化材4	破片、樹皮なし	4.5×3.5×1.5	38

### 2 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/l（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表2に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1 mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

### 3 測定方法

加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、<sup>14</sup>Cの計数、<sup>13</sup>C濃度（<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C）、<sup>14</sup>C濃度（<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C）の測定を行う。測定では、米回国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx II）を



標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

#### 4 算出方法

- (1)  $\delta^{13}\text{C}$  は、試料炭素の  $^{13}\text{C}$  濃度 ( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ ) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (%) で表した値である (表2)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2)  $^{14}\text{C}$  年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中  $^{14}\text{C}$  濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 $^{14}\text{C}$  年代は  $\delta^{13}\text{C}$  によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表2に、補正していない値を参考値として表3に示した。 $^{14}\text{C}$  年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 $^{14}\text{C}$  年代の誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、試料の  $^{14}\text{C}$  年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の  $^{14}\text{C}$  濃度の割合である。pMCが小さい ( $^{14}\text{C}$  が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 ( $^{14}\text{C}$  の量が標準現代炭素と同程度以上) の場合 Modern とする。この値も  $\delta^{13}\text{C}$  によって補正する必要があるため、補正した値を表2に、補正していない値を参考値として表3に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の  $^{14}\text{C}$  濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の  $^{14}\text{C}$  濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$  年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ( $1\sigma=68.2\%$ ) あるいは2標準偏差 ( $2\sigma=95.4\%$ ) で表示される。グラフの縦軸が  $^{14}\text{C}$  年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$  補正を行い、下1桁を丸めない  $^{14}\text{C}$  年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.2 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表3に示した。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$  年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。
- (5) 暦年較正を高精度に行うための方法として、ウィグルマッチングが行われる。暦年較正曲線には過去の気候や海洋中における  $^{14}\text{C}$  濃度の変動を反映した起伏が表れる。この起伏はウィグル (wiggle) と呼ばれ、 $^{14}\text{C}$  年代に対応する暦年代の絞り込みを困難にする原因の一つとなっている。このウィグルを利用して暦年代を求めるのがウィグルマッチングである。まず年輪を持つ測定対象から年輪によって相互の年代差を確認できるように複数の試料を採取し、各々の  $^{14}\text{C}$  年代を求める。次に試料間の年代差と  $^{14}\text{C}$  年代値の変動パターンを較正曲線に重ね合わせ、最外年輪の暦年代を算出する。こうすることで、単独の試料の  $^{14}\text{C}$  年代に対して算出される暦年代よりも範囲を絞り込むことが可能となる場合がある。ウィグルマッチングの計算に用いる  $^{14}\text{C}$  年代値は、暦年較正の場合と同様  $\delta^{13}\text{C}$  補正を行い、下1桁を丸めない  $^{14}\text{C}$  年代値で、算出される最外年輪の暦年代は1標準偏差 ( $1\sigma=68.2\%$ ) あるいは2標準偏差 ( $2\sigma=95.4\%$ ) の範囲で表示される。ウィグルマッチングの結果を表すグラフは、縦軸が  $^{14}\text{C}$  年代、横軸が最外年輪の暦年代を表す (図2)。なお、ウィグルマッチングの結果は、1測定試料に含まれる年輪数、試料の間隔の取り方など、試料の状況によって異なる可能性がある。また測定結果の重ね合わせに用いる

較正曲線や較正プログラムの種類によっても結果が異なってくる可能性がある。このため、年代値の利用に当たっては試料採取の状況、使用した較正曲線とプログラムの種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、試料採取の状況について「1 測定対象試料」と表2、4に記載した。ウイグルマッチングの計算にはIntCal13データベース(Reimer et al. 2013)、OxCalv4.2較正プログラム(Bronk Ramsey et al. 2001, Bronk Ramsey 2009)を使用し、結果を表4に示した。ウイグルマッチングによる最外年輪の暦年代は較正された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」)という単位で表される(表4)。

## 5 測定結果

2点の炭化材から採取された計4試料の個別の $^{14}\text{C}$ 年代測定結果を表2に、暦年較正の結果を表3と図1に、炭化材4全体のウイグルマッチングの結果を表4と図2、3に示す。

炭化材1の $^{14}\text{C}$ 年代は $1470 \pm 20\text{yrBP}$ 、暦年較正年代(1 $\sigma$ )は571~617cal ADの範囲である。

炭化材4の $^{14}\text{C}$ 年代は、残存最外年輪部の4-①が $1490 \pm 20\text{yrBP}$ 、中間の4-②と最も内側の4-③が $1480 \pm 20\text{yrBP}$ である。最外年輪部試料4-①の暦年較正年代(1 $\sigma$ )は、560~600cal ADの範囲で示される。

この炭化材に属する3点の年代値を利用してウイグルマッチングを行うと、最外年輪の暦年代は、1 $\sigma$ で590~613cal ADの範囲、2 $\sigma$ で579~626cal ADの範囲となる。

最外年輪の暦年代範囲の中で確率分布の最も高い602cal AD頃に最外年輪を合わせた場合のマッチングを図3に示す。較正曲線が緩やかに右に下がる範囲で、その中でも特に傾斜が緩い箇所当たる。マッチングに問題はなく、最外年輪部試料単独の測定に比べて暦年代範囲を半分近く狭められている。

同じ遺構の床面から出土した炭化材1と炭化材4の最外年輪の較正年代は重なる範囲が少なくない。ただし、これらの炭化材には樹皮が残存しないため、本来の伐採・枯死年代は今回の測定によって示された年代よりも新しいと考えられる。

試料の炭素含有率はすべて50%を超え、化学処理、測定上の問題は認められない。

## 文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360  
 Bronk Ramsey, C. et al. 2001 'Wiggle matching' radiocarbon dates, *Radiocarbon* 43(2A), 381-389  
 Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887  
 Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

表2 放射性炭素年代測定結果( $\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-131947	1	RA630 床面炭 No.1	炭化材	AaA	$-26.53 \pm 0.22$	$1.470 \pm 20$	$83.27 \pm 0.21$
IAAA-131948	4-①	RA630 床面炭 No.4 (外側から1-5年輪を採取)	炭化材	AAA	$-26.79 \pm 0.16$	$1.490 \pm 20$	$83.07 \pm 0.20$
IAAA-131949	4-②	RA630 床面炭 No.4 (外側から16-20年輪を採取)	炭化材	AAA	$-26.32 \pm 0.27$	$1.480 \pm 20$	$83.15 \pm 0.21$
IAAA-131950	4-③	RA630 床面炭 No.4 (外側から34-38年輪を採取)	炭化材	AAA	$-27.89 \pm 0.18$	$1.480 \pm 20$	$83.21 \pm 0.20$

[#6163]

表3 放射性炭素年代測定結果( $\delta^{13}\text{C}$ 未補正值, 暦年較正用 $^{14}\text{C}$ 年代, 較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-131947	1,500 $\pm$ 20	83.01 $\pm$ 0.20	1,470 $\pm$ 20	571calAD-617calAD (68.2%)	557calAD-640calAD (95.4%)
IAAA-131948	1,520 $\pm$ 20	82.77 $\pm$ 0.20	1,490 $\pm$ 19	560calAD-600calAD (68.2%)	542calAD-619calAD (95.4%)
IAAA-131949	1,500 $\pm$ 20	82.93 $\pm$ 0.20	1,482 $\pm$ 20	564calAD-605calAD (68.2%)	546calAD-631calAD (95.4%)
IAAA-131950	1,520 $\pm$ 20	82.72 $\pm$ 0.20	1,476 $\pm$ 19	568calAD-610calAD (68.2%)	555calAD-635calAD (95.4%)

[参考値]

表4 放射性炭素年代に基づくウィグルマッピング結果

測定番号	採取位置 (最外年輪から)	暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
IAAA-131948	1~5年輪	1,490 $\pm$ 19	588calAD-611calAD (68.2%)	577calAD-624calAD (95.4%)
IAAA-131949	16~20年輪	1,482 $\pm$ 20	573calAD-596calAD (68.2%)	562calAD-609calAD (95.4%)
IAAA-131950	34~38年輪	1,476 $\pm$ 19	555calAD-578calAD (68.2%)	544calAD-591calAD (95.4%)
炭化材4の最外年輪年代			590calAD-613calAD (68.2%)	579calAD-626calAD (95.4%)

[参考値]

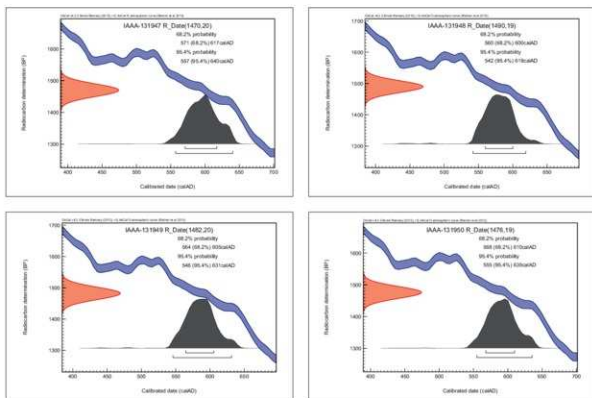
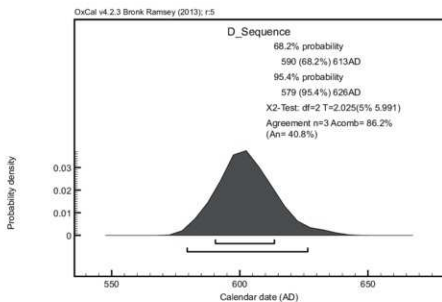
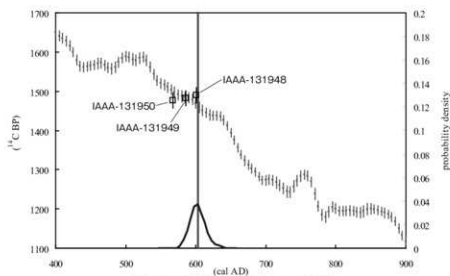


図1 暦年較正年代グラフ



炭化材4

図2 ウィグルマッチングによる炭化材最末年輪の暦年較正年代グラフ



炭化材4(最末年輪:602cal AD頃)

図3 炭化材試料のウィグルマッチング(図2のグラフに表れたピークを最末年輪と見なした場合)



炭化材4(RA630床面炭No.4)

図4 ウィグルマッチング試料写真



## 台太郎遺跡第70次調査出土炭化材の放射性炭素年代（AMS測定）と ウィグルマッチングによる暦年代推定

（株）加速器分析研究所

### 1 測定対象試料

台太郎遺跡（70次調査）の測定対象試料は、RE083の床面から出土した炭化材10と炭化材12の合計2点である（表2）。これらの炭化材について、年輪を数えて位置を確認しながら、炭化材10は2箇所、炭化材12は3箇所より測定試料を採取した（試料の採取位置を表2に記載）。これら合計5点の試料に対して、まず試料ごとの年代測定を行った後、さらに各炭化材に属する試料全体の測定結果に基づいてウィグルマッチング（4 算出方法（5）参照）の手法により、炭化材最外年輪の暦年代を推定する。

以下、ウィグルマッチングを行う炭化材の特徴と測定に用いる試料の採取状況を記す。

炭化材10は、木口面があり、全周の1/4~1/3が残存するみかん割り状の分割材である。樹皮はなく、芯も明確でないが、芯に近い部分まで残っている。大きさは3×1.5×5.5cmで、1.5cmが木材の半径に近く、みかん割り材としての高さが5.5cmである。木口面で年輪を観察し、残存最外年輪を含む外側から1~5年輪の部位（試料10-④）と、最も内側当たる16~20年輪の部位（試料10-⑤）より炭化材片を採取した。総年輪数20、年輪幅は約0.3~1mmである。

炭化材12は、6×4×2cm程度の破片で、樹皮は残存しない。試料採取等の作業中に割れ、全体の大きさを正確には計測できなかった。横断面が見える面で年輪を観察し、残存最外年輪を含む外側から1~5年輪の部位（試料12-⑥）、最も内側当たる44~48年輪の部位（試料12-⑧）、両者のほぼ中間に当たる21~25年輪の部位（試料12-⑦）より炭化材片を採取した。総年輪数48、年輪幅は約0.5~1mmである。

これらの炭化材の特徴を表1に、試料の採取位置を最外年輪から数えた年輪数によって表2、4に示した。また、試料の写真を図4に掲げた。

表1 ウィグルマッチングを行った炭化材の特徴

	木取り	大きさ(cm)	総年輪数
炭化材10	みかん割り状の分割材、樹皮なし	3×1.5×5.5(木材の半径約1.5、高さ5.5)	20
炭化材12	破片、樹皮なし	約6×4×2	48

### 2 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/l（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表2に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。

- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1 mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

### 3 測定方法

加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置 (NEC社製) を使用し、<sup>14</sup>Cの計数、<sup>13</sup>C濃度 (<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)、<sup>14</sup>C濃度 (<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

### 4 算出方法

- (1)  $\delta^{13}\text{C}$  は、試料炭素の<sup>13</sup>C濃度 (<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (%) で表した値である (表2)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) <sup>14</sup>C年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中<sup>14</sup>C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。<sup>14</sup>C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表2に、補正していない値を参考値として表3に示した。<sup>14</sup>C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、<sup>14</sup>C年代の誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、試料の<sup>14</sup>C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の<sup>14</sup>C濃度の割合である。pMCが小さい (<sup>14</sup>Cが少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (<sup>14</sup>Cの量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表2に、補正していない値を参考値として表3に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の<sup>14</sup>C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の<sup>14</sup>C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、<sup>14</sup>C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ( $1\sigma=68.2\%$ ) あるいは2標準偏差 ( $2\sigma=95.4\%$ ) で表示される。グラフの縦軸が<sup>14</sup>C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない<sup>14</sup>C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.2較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表3に示した。暦年較正年代は、<sup>14</sup>C年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。
- (5) 暦年較正を高精度に行うための方法として、ウィグルマッチングが行われる。暦年較正曲線には過去の気候や海洋中における<sup>14</sup>C濃度の変動を反映した起伏が表れる。この起伏はウィグル (wiggle) と呼ばれ、<sup>14</sup>C年代に対応する暦年代の絞り込みを困難にする原因の一つとなっている。このウィグルを利用して暦年代を求めるのがウィグルマッチングである。まず年輪を持つ測定対象から年輪によって相互の年代差を確認できるように複数の試料を採取し、各々の<sup>14</sup>C年代を求める。次に試料間の年代差と<sup>14</sup>C年代

値の変動パターンを校正曲線に重ね合わせ、最外年輪の暦年代を算出する。こうすることで、単独の試料の<sup>14</sup>C年代に対して算出される暦年代よりも範囲を絞り込むことが可能となる場合がある。ウィグルマッチングの計算に用いる<sup>14</sup>C年代値は、暦年校正の場合と同様 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない<sup>14</sup>C年代値で、算出される最外年輪の暦年代は1標準偏差 ( $1\sigma=68.2\%$ ) あるいは2標準偏差 ( $2\sigma=95.4\%$ ) の範囲で表示される。ウィグルマッチングの結果を表すグラフは、縦軸が<sup>14</sup>C年代、横軸が最外年輪の暦年代を表す(図2)。なお、ウィグルマッチングの結果は、1測定試料に含まれる年輪数、試料の間隔の取り方など、試料の状況によって異なる可能性がある。また測定結果の重ね合わせに用いる校正曲線や校正プログラムの種類によっても結果が異なってくる可能性がある。このため、年代値の利用に当たっては試料採取の状況、使用した校正曲線とプログラムの種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、試料採取の状況について「1 測定対象試料」と表2、4に記載した。ウィグルマッチングの計算にはIntCal13データベース(Reimer et al. 2013)、OxCalv4.2校正プログラム(Bronk Ramsey et al. 2001, Bronk Ramsey 2009)を使用し、結果を表4に示した。ウィグルマッチングによる最外年輪の暦年代は校正された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」)という単位で表される(表4)。

## 5 測定結果

2点の炭化材から採取された計5試料の個別の<sup>14</sup>C年代測定結果を表2に、暦年校正の結果を表3と図1に、炭化材全体のウィグルマッチングの結果を表4と図2、3に示す。

炭化材10の<sup>14</sup>C年代は、残存最外年輪部の10-④が $1150 \pm 20\text{yrBP}$ 、最も内側の10-⑤が $1190 \pm 20\text{yrBP}$ である。最外年輪部試料10-④の暦年校正年代 ( $1\sigma$ ) は、879~954cal ADの間に2つの範囲で示される。

この炭化材に属する2点の年代値を利用してウィグルマッチングを行うと、最外年輪の暦年代は、 $1\sigma$ で833~839cal ADと870~904cal ADの範囲、 $2\sigma$ で788~795cal ADと804~906cal ADの範囲で示される。

最外年輪の暦年代範囲の中で確率分布の最も高い892cal AD頃に最外年輪を合わせた場合のマッチング図を図3に示す。校正曲線が平坦な部分から右下がりに移る部分に当たり、校正曲線の傾斜によく合致する。ただし、平坦な部分にも年代の候補が認められるため、全体のマッチングは若干甘くなる。最外年輪部試料単独の場合とウィグルマッチングの結果を比較すると、どちらも校正年代の幅がかなり広がっているため、単純な評価はできないが、単独の場合に確率の高い範囲が複数見られたのに対し、ウィグルマッチングによって9世紀後葉前後の範囲だけが明瞭に高い確率で示されたことは注目に値する。

炭化材12の<sup>14</sup>C年代は、残存最外年輪部の12-⑥が $1430 \pm 20\text{yrBP}$ 、中間の12-⑦が $1480 \pm 20\text{yrBP}$ 、最も内側の12-⑧が $1530 \pm 20\text{yrBP}$ である。最外年輪部試料12-⑥の暦年校正年代 ( $1\sigma$ ) は、616~647cal ADの範囲で示される。

この炭化材に属する3点の年代値を利用してウィグルマッチングを行うと、最外年輪の暦年代は、 $1\sigma$ で600~624cal ADの範囲、 $2\sigma$ で587~637cal ADの範囲で示される。

最外年輪の暦年代範囲の中で確率分布の最も高い610cal AD頃に最外年輪を合わせた場合のマッチング図を図3に示す。校正曲線が右下がりに推移する範囲で、試料3点の配置は校正曲線の傾斜におおむね合っており、マッチングに問題はない。この炭化材では、最外年輪部試料単独の測定でも校正年代の範囲が比較的狭いが、ウィグルマッチングによってさらに暦年代範囲を狭められている。

同じ遺構の床面から出土した炭化材2点の最外年輪年代を比較すると、両者の間には200~300年程度の



明瞭な年代差が認められる。ただし、これらの炭化材には樹皮が残存しないため、本来の伐採・枯死年代は今回の測定によって示された年代よりも新しいと考えられる。また、炭化材の年代差については、木材の転用、埋没過程での混入など、さまざまな要因についても検討する必要がある。

試料の炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

#### 文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

Bronk Ramsey, C. et al. 2001 'Wiggle matching' radiocarbon dates, *Radiocarbon* 43(2A), 381-389

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

表2 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$  補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-131951	10-④	RE083 床面炭 No.4 (外側から 1-5 年輪を採取)	炭化材	AAA	-26.02 ± 0.16	1,150 ± 20	86.69 ± 0.20
IAAA-131952	10-⑤	RE083 床面炭 No.4 (外側から 16-20 年輪を採取)	炭化材	AAA	-26.90 ± 0.16	1,190 ± 20	86.18 ± 0.20
IAAA-131953	12-⑥	RE083 床面炭 No.6 (外側から 1-5 年輪を採取)	炭化材	AAA	-26.83 ± 0.19	1,430 ± 20	83.74 ± 0.22
IAAA-131954	12-⑦	RE083 床面炭 No.6 (外側から 21-25 年輪を採取)	炭化材	AAA	-23.41 ± 0.15	1,480 ± 20	83.16 ± 0.19
IAAA-131955	12-⑧	RE083 床面炭 No.6 (外側から 44-48 年輪を採取)	炭化材	AAA	-24.86 ± 0.16	1,530 ± 20	82.63 ± 0.20

[#6164]

表3 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$  未補正值, 暦年較正用  $^{14}\text{C}$  年代, 較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-131951	1,160 $\pm$ 20	86.51 $\pm$ 0.20	1,147 $\pm$ 18	879calAD-902calAD (27.7%) 920calAD-954calAD (40.5%)	777calAD-791calAD (5.2%) 807calAD-842calAD (7.1%) 861calAD-970calAD (83.1%)
IAAA-131952	1,230 $\pm$ 20	85.85 $\pm$ 0.20	1,194 $\pm$ 18	788calAD-794calAD (5.0%) 799calAD-870calAD (63.2%)	773calAD-884calAD (95.4%)
IAAA-131953	1,460 $\pm$ 20	83.43 $\pm$ 0.21	1,425 $\pm$ 20	616calAD-647calAD (68.2%)	597calAD-655calAD (95.4%)
IAAA-131954	1,450 $\pm$ 20	83.43 $\pm$ 0.19	1,481 $\pm$ 18	566calAD-606calAD (68.2%)	548calAD-630calAD (95.4%)
IAAA-131955	1,530 $\pm$ 20	82.65 $\pm$ 0.19	1,533 $\pm$ 19	435calAD-449calAD (11.2%) 471calAD-487calAD (13.9%) 534calAD-567calAD (43.1%)	429calAD-494calAD (41.7%) 509calAD-519calAD (2.1%) 528calAD-588calAD (51.6%)

[参考値]

表4 放射性炭素年代に基づくウィグルマッチング結果

測定番号	採取位置 (最外年輪から)	暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
IAAA-131951	1~5 年輪	1,147 $\pm$ 18	831calAD-837calAD (3.3%) 868calAD-902calAD (64.9%)	786calAD-793calAD (1.9%) 802calAD-904calAD (93.5%)
IAAA-131952	16~20 年輪	1,194 $\pm$ 18	816calAD-822calAD (3.3%) 853calAD-887calAD (64.9%)	771calAD-778calAD (1.9%) 787calAD-889calAD (93.5%)
炭化材 10 の最外年輪年代			833calAD-839calAD (3.3%) 870calAD-904calAD (64.9%)	788calAD-795calAD (1.9%) 804calAD-906calAD (93.5%)
IAAA-131953	1~5 年輪	1,425 $\pm$ 20	598calAD-622calAD (68.2%)	585calAD-635calAD (95.4%)
IAAA-131954	21~25 年輪	1,481 $\pm$ 18	578calAD-602calAD (68.2%)	565calAD-615calAD (95.4%)
IAAA-131955	44~48 年輪	1,533 $\pm$ 19	555calAD-579calAD (68.2%)	542calAD-592calAD (95.4%)
炭化材 12 の最外年輪年代			600calAD-624calAD (68.2%)	587calAD-637calAD (95.4%)

[参考値]

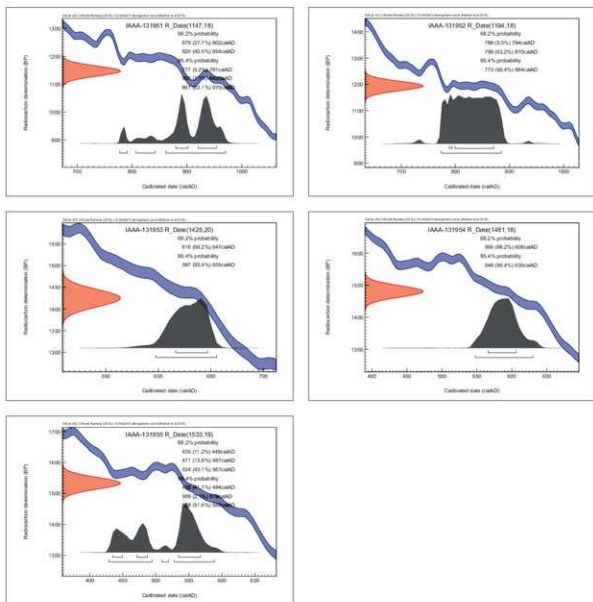


図1 暦年校正年代グラフ

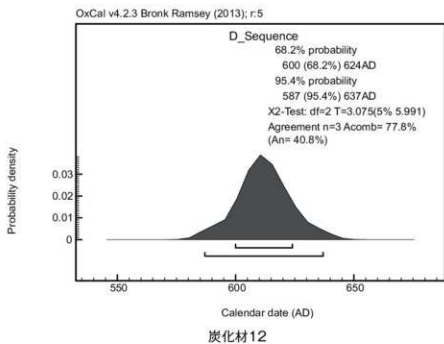
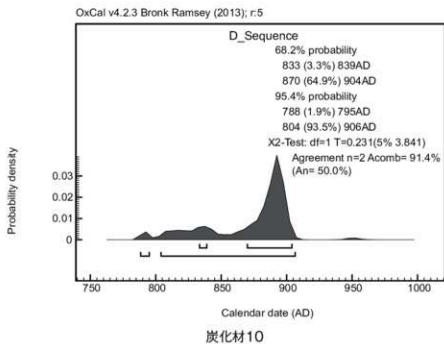


図2 ウィグルマッチングによる炭化材最外年輪の暦年較正年代グラフ

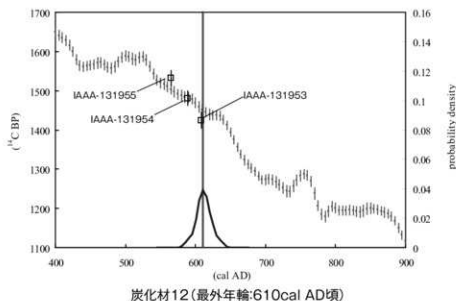
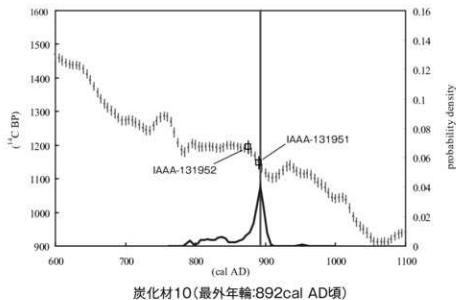


図3 炭化材試料のウィグルマッチング(図2のグラフに表れたピークを最外年輪と見なした場合)



炭化材10 (RE083床面炭Mp.4)



炭化材12 (RE083床面炭Mp.6)

図4 ウィグルマッチング試料写真

## 飯岡才川遺跡第14次調査出土炭化材の放射性炭素年代（AMS測定）と ウィグルマッチングによる暦年代推定

（株）加速器分析研究所

### 1 測定対象試料

飯岡才川遺跡（14次調査）の測定対象試料は、RA044の床面から出土した炭化材13と炭化材14の合計2点である（表2）。炭化材14については、年輪を数えてその位置を確認しながら4箇所より測定試料を採取した（試料の採取位置を表2に記載）。炭化材14に属する4点については、もう一方の炭化材13と同様に試料ごとの年代測定を行った後、さらにその4点全体の測定結果に基づいてウィグルマッチング（4算出方法（5）参照）の手法により、炭化材最外年輪の暦年代を推定する。

以下、ウィグルマッチング対象試料について、炭化材の特徴と測定に用いる試料の採取状況を記す。

炭化材14は、5×5×4 cmの破片で、枝分かれする部位に当たる。枝側と見られる方には樹皮が残存し、幹側と見られる方には残存しない。幹側の横断面に近い面で年輪を観察し、残存最外年輪を含む外側から1-5年輪の部位（試料14-⑨）、最も内側に当たる79-83年輪の部位（試料14-⑩）、両者の間に当たる26-30年輪の部位（試料14-⑪）、51-55年輪の部位（試料14-⑫）より炭化材片を採取した。総年輪数83、年輪幅は約0.2-0.3 mmである。採取試料の残存最外年輪は、枝側との関係から判断して、本来の最外年輪に近いと考えられる。枝分かれする部位に当たるため、年輪を読み取りにくい部分がある。

この炭化材の特徴を表1に、試料の採取位置を最外年輪から数えた年輪数によって表2.4に示した。また、試料の写真を図4に掲げた。

表1 ウィグルマッチングを行った炭化材の特徴

	木取り	大きさ(cm)	総年輪数
炭化材14	破片、樹皮あり (枝分かれする部位)	5×5×4	83

### 2 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/l（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表2に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

### 3 測定方法

加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、<sup>14</sup>Cの計数、<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)、<sup>14</sup>C濃度(<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOXII)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

### 4 算出方法

- (1)  $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である(表2)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) <sup>14</sup>C年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中<sup>14</sup>C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。<sup>14</sup>C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表2に、補正していない値を参考値として表3に示した。<sup>14</sup>C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、<sup>14</sup>C年代の誤差( $\pm 1\sigma$ )は、試料の14C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC(percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の<sup>14</sup>C濃度の割合である。pMCが小さい(<sup>14</sup>Cが少ない)ほど古い年代を示し、pMCが100以上(<sup>14</sup>Cの量が標準現代炭素と同等以上)の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表2に、補正していない値を参考値として表3に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の<sup>14</sup>C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の<sup>14</sup>C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、<sup>14</sup>C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差( $1\sigma=68.2\%$ )あるいは2標準偏差( $2\sigma=95.4\%$ )で表示される。グラフの縦軸が<sup>14</sup>C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない<sup>14</sup>C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース(Reimer et al. 2013)を用い、OxCalv4.2較正プログラム(Bronk Ramsey 2009)を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表3に示した。暦年較正年代は、<sup>14</sup>C年代に基づいて較正(calibrate)された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」)という単位で表される。
- (5) 暦年較正を高精度に行うための方法として、ウィグルマッチングが行われる。暦年較正曲線には過去の大气や海洋中における<sup>14</sup>C濃度の変動を反映した起伏が表れる。この起伏はウィグル(wiggle)と呼ばれ、<sup>14</sup>C年代に対応する暦年代の絞り込みを困難にする原因の一つとなっている。このウィグルを利用して暦年代を求めのがウィグルマッチングである。まず年輪を持つ測定対象から年輪によって相互の年代差を確認できるように複数の試料を採取し、各々の<sup>14</sup>C年代を求め、次に試料間の年代差と<sup>14</sup>C年代値の変動パターンを較正曲線に重ね合わせ、最外年輪の暦年代を算出する。こうすることで、単独の試料の<sup>14</sup>C年代に対して算出される暦年代よりも範囲を絞り込むことが可能となる場合がある。ウィグルマッチングの計算に用いる<sup>14</sup>C年代値は、暦年較正の場合と同様 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない<sup>14</sup>C年代値で、算出される最外年輪の暦年代は1標準偏差( $1\sigma=68.2\%$ )あるいは2標準偏差( $2\sigma=$

95.4%)の範囲で表示される。ウィグルマッチングの結果を表すグラフは、縦軸が<sup>14</sup>C年代、横軸が最外年輪の暦年代を表す(図2)。なお、ウィグルマッチングの結果は、1測定試料に含まれる年輪数、試料の間隔の取り方など、試料の状況によって異なる可能性がある。また測定結果の重ね合わせに用いる較正曲線や較正プログラムの種類によっても結果が異なってくる可能性がある。このため、年代値の利用に当たっては試料採取の状況、使用した較正曲線とプログラムの種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、試料採取の状況について「1 測定対象試料」と表2, 4に記載した。ウィグルマッチングの計算にはIntCal13データベース(Reimer et al. 2013)、OxCalv4.2較正プログラム(Bronk Ramsey et al. 2001, Bronk Ramsey 2009)を使用し、結果を表4に示した。ウィグルマッチングによる最外年輪の暦年代は較正された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」)という単位で表される(表4)。

## 5 測定結果

2点の炭化材から採取された計4試料の個別の<sup>14</sup>C年代測定結果を表2に、暦年較正の結果を表3と図1に、炭化材4全体のウィグルマッチングの結果を表4と図2, 3に示す。

炭化材13の<sup>14</sup>C年代は $1450 \pm 20\text{yrBP}$ 、暦年較正年代(1 $\sigma$ )は596~638cal ADの範囲である。

炭化材14の<sup>14</sup>C年代は、残存最外年輪部の14-⑨が $1280 \pm 20\text{yrBP}$ 、中間の14-⑩が $1260 \pm 20\text{yrBP}$ 、14-⑪が $1280 \pm 20\text{yrBP}$ 、最も内側の14-⑫が $1330 \pm 20\text{yrBP}$ である。最外年輪部試料14-⑨の暦年較正年代(1 $\sigma$ )は、685~765cal ADの間に2つの範囲で示される。

この炭化材に属する4点の年代値を利用してウィグルマッチングを行うと、最外年輪の暦年代は、1 $\sigma$ で743~758cal ADの範囲、2 $\sigma$ で738~768cal ADの範囲となる。

最外年輪の暦年代範囲の中で確率分布の最も高い747cal AD頃に最外年輪を合わせた場合のマッチング図を図3に示す。較正曲線が全体的に緩やかに右に下がっていく中で、特徴的なピークが見られ、その右下がりから転じてピークに向かって上がる部分に試料4点が整然と並ぶ。マッチングは非常に良好で、最外年輪部試料単独の測定結果には大きく2つの暦年代範囲が見られ、年代幅が広いのに対し、ウィグルマッチングによって8世紀中葉頃の狭い範囲に絞られている。

同じ遺構の床面から出土した炭化材13と炭化材14の最外年輪の較正年代の間には、100~150年程度の明瞭な年代差が認められる。炭化材14は樹皮に近い部位の試料が測定されたことが確かめられており、本来の伐採・枯死年代に近い年代が示されていると判断される。これに対し、炭化材13には樹皮が残存しないため、本来の伐採・枯死年代は今回の測定によって示された年代よりも新しいと考えられる。さらに、炭化材の年代差については、木材の転用、埋没過程での混入など、さまざまな要因についても検討する必要がある。

試料の炭素含有率はすべて60%を超え、化学処理、測定上の問題は認められない。

## 文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360  
Bronk Ramsey, C. et al. 2001 'Wiggle matching' radiocarbon dates, *Radiocarbon* 43(2A), 381-389  
Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887  
Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of <sup>14</sup>C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363



表2 放射性炭素年代測定結果( $\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC(%)
I AAA-131956	13	RA04 床面炭①	炭化材	AAA	-25.51 ± 0.16	1,450 ± 20	83.44 ± 0.20
I AAA-131957	14-⑨	RA04 床面炭② (外側から1-5年輪を採取)	炭化材	AAA	-24.19 ± 0.16	1,280 ± 20	85.25 ± 0.20
I AAA-131958	14-⑩	RA04 床面炭② (外側から26-30年輪を採取)	炭化材	AAA	-22.77 ± 0.20	1,260 ± 20	85.50 ± 0.21
I AAA-131959	14-⑪	RA04 床面炭② (外側から51-55年輪を採取)	炭化材	AAA	-23.01 ± 0.15	1,280 ± 20	85.22 ± 0.22
I AAA-131960	14-⑫	RA04 床面炭② (外側から79-83年輪を採取)	炭化材	AAA	-23.62 ± 0.15	1,330 ± 20	84.69 ± 0.20

[#6165]

表3 放射性炭素年代測定結果( $\delta^{13}\text{C}$ 未補正值, 暦年較正用 $^{14}\text{C}$ 年代, 較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC(%)			
I AAA-131956	1,460 ± 20	83.36 ± 0.20	1,454 ± 19	596calAD-638calAD(68.2%)	570calAD-645calAD(95.4%)
I AAA-131957	1,270 ± 20	85.39 ± 0.20	1,282 ± 18	688calAD-713calAD(37.4%) 744calAD-765calAD(30.8%)	671calAD-731calAD(57.8%) 736calAD-770calAD(37.6%)
I AAA-131958	1,220 ± 20	85.89 ± 0.20	1,258 ± 19	695calAD-747calAD(62.1%) 763calAD-768calAD(6.1%)	678calAD-775calAD(95.4%)
I AAA-131959	1,250 ± 20	85.57 ± 0.22	1,284 ± 20	683calAD-714calAD(39.2%) 744calAD-765calAD(29.0%)	670calAD-730calAD(58.5%) 736calAD-770calAD(36.9%)
I AAA-131960	1,310 ± 20	84.93 ± 0.19	1,334 ± 18	659calAD-678calAD(68.2%)	651calAD-692calAD(91.5%) 749calAD-762calAD(3.9%)

[参考値]

表4 放射性炭素年代に基づくウィグルマッチング結果

測定番号	採取位置 (最外年輪から)	暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
I AAA-131957	1-5年輪	1,282 ± 18	741calAD-756calAD(68.2%)	736calAD-766calAD(95.4%)
I AAA-131958	26-30年輪	1,258 ± 19	716calAD-731calAD(68.2%)	711calAD-741calAD(95.4%)
I AAA-131959	51-55年輪	1,284 ± 20	691calAD-706calAD(68.2%)	686calAD-716calAD(95.4%)
I AAA-131960	79-83年輪	1,334 ± 18	663calAD-678calAD(68.2%)	658calAD-688calAD(95.4%)
炭化材14の最外年輪年代			743calAD-758calAD(68.2%)	738calAD-768calAD(95.4%)

[参考値]

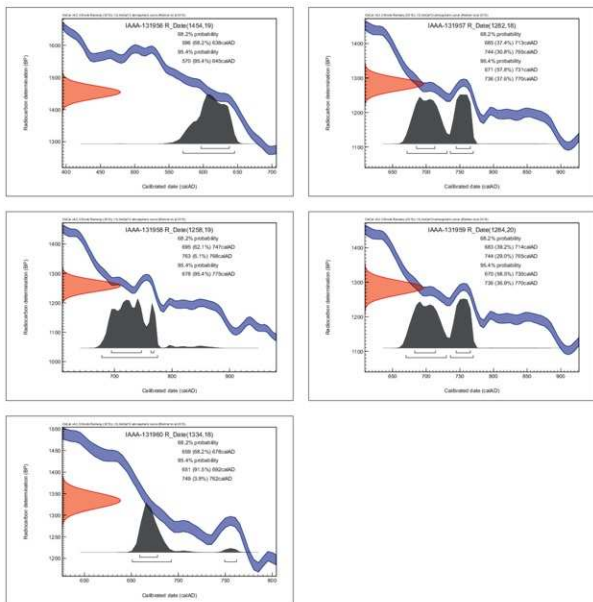


図1 暦年較正年代グラフ

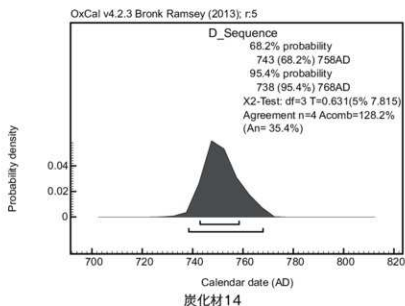


図2 ウィグルマッチングによる炭化材最外年輪の暦年較正年代グラフ

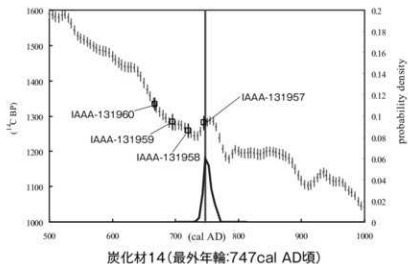


図3 炭化材試料のウィグルマッチング(図2のグラフに表れたピークを最外年輪と見なした場合)



炭化材14 (RA044床面炭②)

図4 ウィグルマッチング試料写真

# 報告書抄録

ふりがな	せいなんちくいせきでんはつちようさほうこくしょ7							
書名	盛岡地区道跡群発掘調査報告書							
副書名	盛岡南新都市開発整備事業関連道路平成19～21年度発掘調査 大宮北道路・小幡道路・宮沢道路・本宮熊堂B道路・台北道路・飯岡沢田道路・飯岡才川道路・巖谷地道路・夕雲道路・夕雲遺跡							
編者名	津崎知弘							
編集機関	盛岡市道路の学び館(発行:独立行政法人都市再生機構・盛岡市・盛岡市教育委員会)							
所在地	〒030-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地1 電話 019-635-6000							
発行年月日	2015年3月20日							
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因	
所収道路名(略号)	所在地	市町村	道路番号	(世界測地系)				
大宮北道路(OOK)	岩手県盛岡市本宮字大宮、本宮6丁目	03201	LE16-2036	39°40'59"	141°07'10"	11次:2007.4.11~4.24 12次:2007.5.24 13次:2007.5.28 14次:2007.7.17 16次:2009.5.19	1,009 213 16 126 244	土地区画整理事業等
小幡道路(OKH)	岩手県盛岡市本宮6丁目	03201	LE16-2009	39°41'06"	141°07'31"	23次:2008.5.26	403	
宮沢道路(OMZ)	岩手県盛岡市本宮6丁目	03201	LE16-2101	39°41'03"	141°07'40"	13次:2007.9.12	147	
本宮熊堂B道路(OKO)	岩手県盛岡市本宮4・6・7丁目、向中野3丁目	03201	LE16-2118	39°21'30"	140°45'40"	32次:2007.4.24~4.28 33次:2009.5.7~5.31	484 648	
台北道路(ODT)	岩手県盛岡市向中野1・2・5丁目	03201	LE16-2296	39°40'57"	141°08'25"	59次:2007.7.5~9.26 60次:2007.8.1~9.6 61次:2007.10.26~11.16 62次:2008.6.18~7.9 63次:2008.7.3~10.31 64次:2008.11.19~12.12 65次:2009.4.17 67次:2009.5.7~7.28 68次:2009.7.1~11.6 69次:2009.10.1 70次:2009.10.21~12.24	1,830 791 610 862 1,412 621 330 856 1,234 76 1,914	
飯岡沢田(ISD)	岩手県盛岡市向中野3丁目、北飯岡1丁目	03201	LE16-2169	39°40'42"	141°8'13"	12次:2008.6.3~6.16	1,242	
飯岡才川(ISW)	岩手県盛岡市向中野5丁目、北飯岡1丁目	03201	LE16-2291	39°40'44"	141°8'0"	14次:2007.4.24~6.18	6,451	
巖谷地(OHY)	岩手県盛岡市向中野5・7丁目、向中野子巖谷地	03201	LE26-0214	39°40'42"	141°8'19"	21次:2008.4.22~5.19 22次:2008.11.14~11.30 23次:2008.11.5~12.12	6,759 22,084 1,784	
夕雲(IYM)	岩手県盛岡市北飯岡1・2丁目、向中野7丁目	03201	LE26-0139	39°40'27"	141°8'5"	15次:2007.10.22~12.14 16次:2007.11.1~11.22 17次:2007.11.9~11.27 21次:2008.6.16~6.20 22次:2008.7.28~8.1	5,704 160 1,114 160 1,720	
夕雲(IYK)	岩手県盛岡市北飯岡3・4丁目、飯岡新田5地割	03201		39°40'8"	141°8'12"	1次:1995.10.4~10.6 2次:1996.11.18~11.19 3次:2008.10.23 4次:2008.11.28~09.11.5 5次:2009.7.29 6次:2009.9.3~9.7	1,947 3,767 1,063 264 3,453 10,977	
所収道路名	種別	主な時代	主な道種	主な遺物		特記事項		
大宮北11次	集落	古代	溝跡1	あかやき土器、土師器、須恵器				
大宮北12次	集落		なし			試掘確認調査		
大宮北13次	集落	古代	溝跡1	あかやき土器、土師器、須恵器				
大宮北14次	集落		なし			試掘確認調査		
大宮北16次	集落	古代	孤立柱建物跡、土坑、溝跡	あかやき土器、土師器		試掘確認調査(保存)		
小幡23次	集落		なし					
宮沢13次	集落		なし					
本宮熊堂B32次	集落	古代以降	溝跡1	なし				
本宮熊堂B33次	集落	古代以降	溝跡1	なし				

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
台太郎 59 次	集落	弥生時代 古代 古代以降	竪穴建物跡 2 竪穴建物跡 2、竪立柱列跡 3、 土坑 2、溝跡 12、ピット	弥生後期土器(赤穴六) 土師器、須恵器、あかやき土器、土師 寛水通寶(四文銭)	
台太郎 60 次	集落	古代以降	土坑 4、ピット	土師器	
台太郎 61 次	集落	古代 古代以降	竪穴建物跡 1 土坑 4、ピット	土師器、あかやき土器	
台太郎 62 次	集落	中世以降	土坑 1、ピット	北宋銭	
台太郎 63 次	集落	古代  中世 近世	竪穴建物跡 2、竪穴伏遺構 1  竪立柱列跡 1、堀跡 1、溝跡 4 土坑墓 3、土坑 1、ピット	土師器、須恵器、あかやき土器、石製 紡錘車 変器系陶器  寛永通寶、肥前発行	
台太郎 64 次	集落	古代以降	土坑 1	土師器	
台太郎 65 次	集落		なし		
台太郎 67 次	集落	弥生時代 古代 古代以降	竪穴建物跡 2、土坑 2、溝跡 1 ピット	弥生後期土器(赤穴六) 土師器、須恵器、あかやき土器	
台太郎 68 次	集落	古代  中世 近世	竪穴建物跡 13、竪穴伏遺構 3、 土坑 10、方形環溝 1、溝跡 3  堀跡 2、ピット	土師器、須恵器、あかやき土器 土製紡錘車、刺書土器「×」 刺書土器「子」「木」「1」 変器系陶器 瀬戸美濃漆器、肥前発行	
台太郎 69 次	集落		なし		
台太郎 70 次	集落	古代  近世	竪穴建物跡 4、竪穴伏遺構 4、 溝跡 2	土師器、須恵器、あかやき土器  相馬戻船、瀬戸美濃漆器、鉄輪巻	
飯岡沢田 12 次	集落	古代以降	溝跡 3、ピット	なし	
飯岡才川 14 次	集落	縄文時代 古代 古代以降	陥し穴 5 竪穴建物跡 2 溝跡 4	土師器	
細谷地 21 次	集落	古代以降	土坑 7、溝跡 1、ピット	なし	
細谷地 22 次	集落	古代以降	溝跡 1	なし	
細谷地 23 次	集落	古代以降	土坑 4、溝跡 1	なし	
矢倉 15 次	集落	近世以降	竪立柱建物跡 1、竪立柱列跡 1、土坑 7、溝跡 6、井戸跡 6、 ピット	なし	曲り屋
矢倉 16 次	集落		なし		
矢倉 17 次	集落	古代以降	土坑 1、溝跡 3、ピット	なし	
矢倉 21 次	集落	近世以降	溝跡 2、ピット	なし	
矢倉 22 次	集落	近世以降	土坑 3	なし	
夕霞 1 次	集落		なし		
夕霞 2 次	集落		なし		
夕霞 3 次	集落		なし		
夕霞 4 次	集落		なし		
夕霞 5 次	集落		なし		
夕霞 6 次	集落		なし		
要約	<p>島南地区遺跡群は、平安時代初期の延暦 22 年(803)に郡の律令政府が造営した古代城郭「志波城」の南東方に位置し、7 世紀より続く一大勢力「志波エミシ」が 10 世紀まで拠点とした古代集落群が主に確認されている。本書掲載のうち、大宮北遺跡では溝跡より調査例が少ない 10 世紀中頃の土器群がまとまって出土し、集落の区画施設であると考えられた。島南地区遺跡群で最大の古代集落である台太郎遺跡では、23 棟の竪穴建物跡(住居)を精査し、多くの遺物の出土しており、特に遺跡中西部の集落の様相を明らかにすることができた。また、不整五角形に幅が明かな中世の居館跡の南西部を精査し、堀跡の南西向きを確認することができた。飯岡才川遺跡では、遺跡の北東部に 8 世紀中葉の竪穴建物跡(住居)2 棟が確認され、出土土器の年代層と出土土坑の放射性炭素年代測定から推定された暦年代がほぼ一致する結果となった。矢倉遺跡では、近世の「曲り屋」と考えられる竪立柱建物跡が、遺跡の西部部に単独で確認された。</p>				

## 盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅶ

—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡平成19～21年度発掘調査—  
大宮北遺跡・小幡遺跡・宮沢遺跡・本宮熊堂B遺跡・  
台太郎遺跡・飯岡沢田遺跡・飯岡才川遺跡・  
細谷地遺跡・矢盛遺跡・夕覚遺跡

平成27年3月20日

編集 盛岡市遺跡の学び館  
〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13-1  
電話 019-635-6600 ファクス 019-635-6605  
E-mail iseki@city.morioka.iwate.jp  
URL <http://www.city.morioka.iwate.jp/>

発行 独立行政法人都市再生機構  
盛岡市・盛岡市教育委員会

印刷 山口北州印刷株式会社  
〒020-0184 岩手県盛岡市青山4丁目10-5

〈表紙の色〉

浅緑（あさみどり）：奈良・平安時代の律令国家では、儀式において官人は位階に応じた色の袍（ほう：ロングジャケットのようなもの）を着用しました。浅緑は、七位の色でした（延喜式等）。



